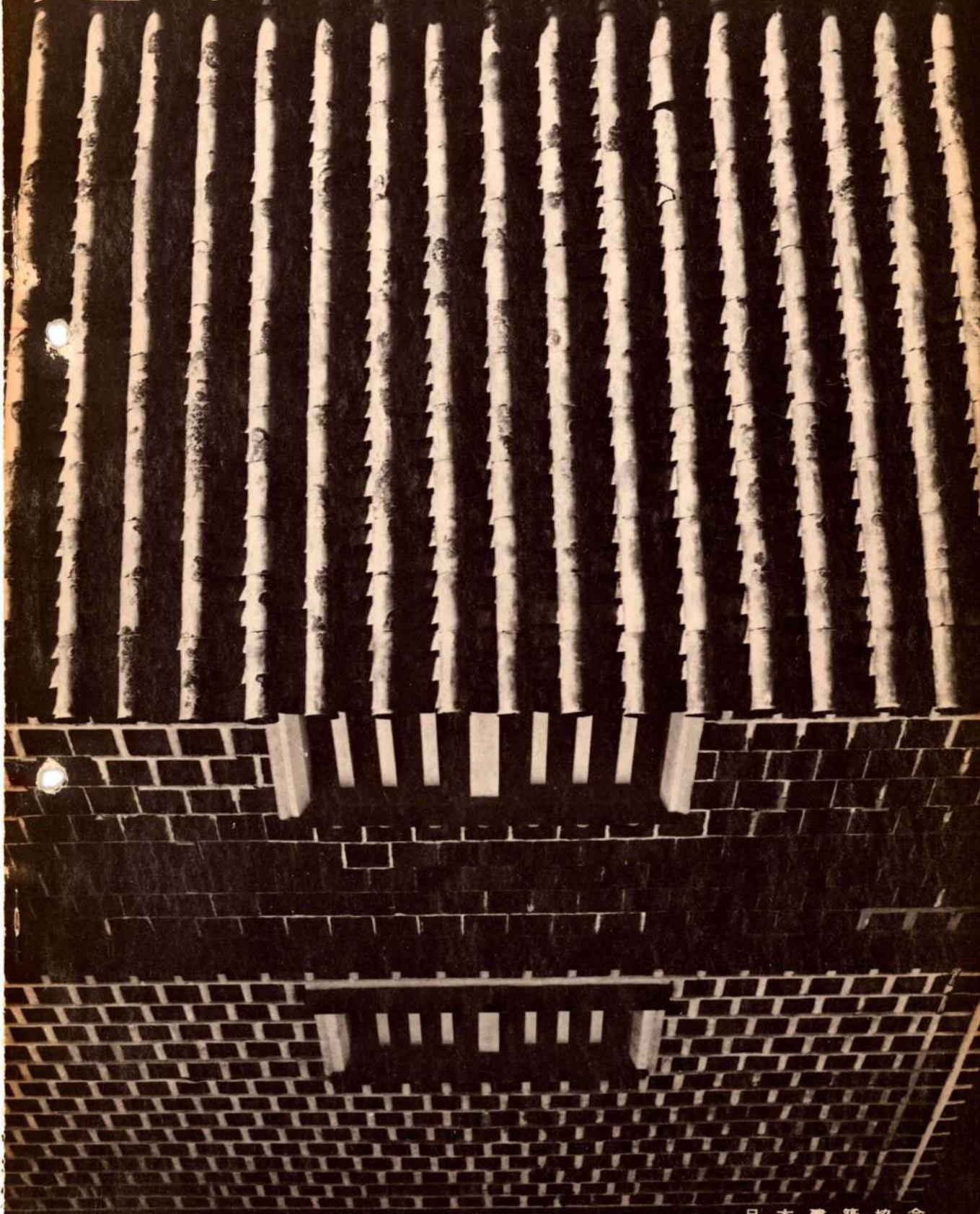
昭和24年3月19日　第3種郵便物認可　昭和38年1月20日印刷　昭和38年1月25日発行　第44輯第1号〔毎月1回25日発行〕

建築と社会

1 '63
建築教育



日本建築協会

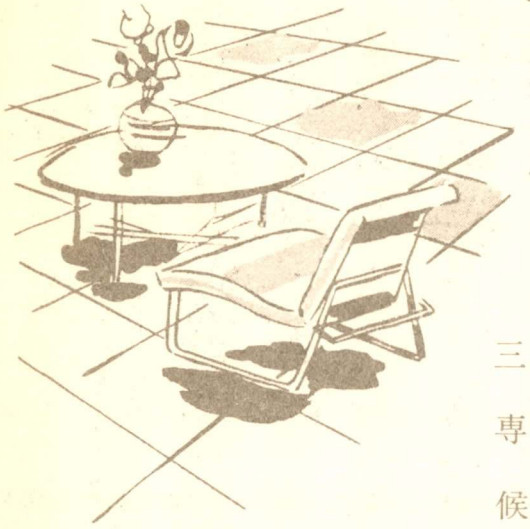
明るい床材

三星プラスタイル

三星アスファルトタイル

三星Pタイル（2粍厚）

三星マチスタイル



規格寸法　304.8㎜×304.8㎜　厚サ 3.2㎜

価格　3.3平方米　2,300円 ～ 4,800円（材工共）

三星の弾性床タイルは何れも製法の専売特許品で、日本の多湿多雨の気候でも優れた性能をもつ、舶来品の追随を許さない製品です。

●屋外には使用出来ません

●各製品毎のカタログ見本技術報告書を御請求下さい

◆特　徴

施工後故障が少い・工期が早い
価格が手ごろである・手入掃除が簡単
色彩が自由に選沢出来る・永持ちする

三星ルーフイングの

田島応用化工株式会社

工場小台営業所　東京都足立区小台町633　TEL (911) 1181(代)
本社神田営業所　東京都千代田区神田岩本町13　TEL (866) 6101(代)
大阪出張所　大阪市西区京町堀1の74　TEL (441) 5951(代)
夜間管理人室用　TEL (441) 9910(代)

日東紡の建築材料……

ファイロン
米国との技術提携による本格的FRP採光材料

ニットータイル
美しい色調で伸縮性のない塩化ビニール床タイル

ミネラトーン
絶対不燃で、独特の美しいパターンの天井吸音板

スプレーテックス
凡ゆる材質にも施行可能な吹付方式のロックウール新製品

ロックウール
保温・保冷・吸音にすばらしい性能の断熱・吸音材

コンプッバンド
全ゆるタイプのジョイントに完全防水接ぎ目封緘材

カーポート
ファイロン使用の簡易組立自動車々庫

日東紡績株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－1　興銀ビル　TEL（202）1301
東京　名古屋　福岡

すまいをカラー設計する美しい床材

- 程よい弾力性
- 美しい色彩
- 工事が簡単
- 価格が手頃

ビニラート VINYLART タイル

各種製品　リノリユーム・リノタイル・Nタイル・スポンジシート

TOYO LINOLEUM MFG CO.LTD.

美しい床材をつくって40年

東洋リノリユーム株式会社

大　阪・大阪市南区順慶町通り4丁目（三和ビル）TEL 271－5051（代）
東　京・東京都中央区銀座4丁目（三和ビル）TEL 561－1701. 2564



ホテル・アパート
中小ビルの設備…



あいつぐ中小ビルの建設…それに伴うエレベータの小形化という問題を取りくんできた三菱電機がホテルアパートオフィス用として完成した標準エレベータです

- 量産化ではじめて可能になった価格と維持費の軽減
- 誰にも安全で容易に操作できる運転手なしの乗合全自動方式
- 危険防止のためドアはセーフティシュー付
- 高級エレベータに準じた優雅なデザイン

標準乗用エレベータ
三菱エレペット

三菱電機株式会社

あなたの会社の合理化は
平川～MPボイラで
製品のコストダウン　直ちにOK！

あなたの工場での蒸気単価はいくらですか？
MPボイラでは560円/TONを保証致します。

MPボイラ 500型 スーパー



株式会社 平川鐵工所

本社・工場	大阪市大淀区大仁西2の1	TEL (458) 3631～5
東京営業所	東京都中央区八重洲6の7	TEL (272) 2721(代)
九州出張所	小倉市富野545	TEL (52) 4862
滋賀工場	滋賀県野洲郡野洲町三上	TEL 野洲局405

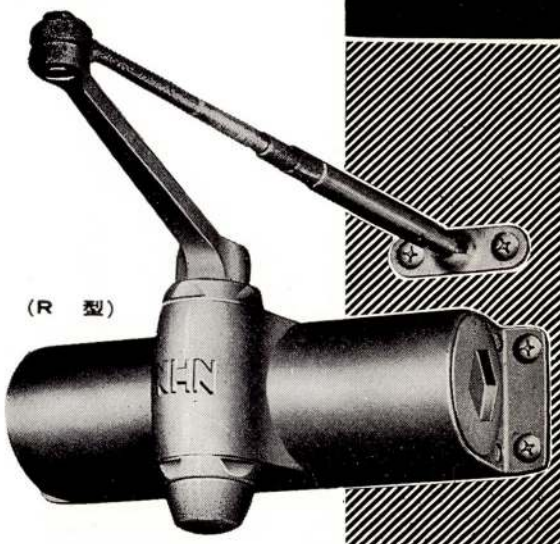
あなたの忠実な…

ドアーボーイ！

NHN

＊紫綬褒章に輝く＊

ニッカナ ドアーチエック



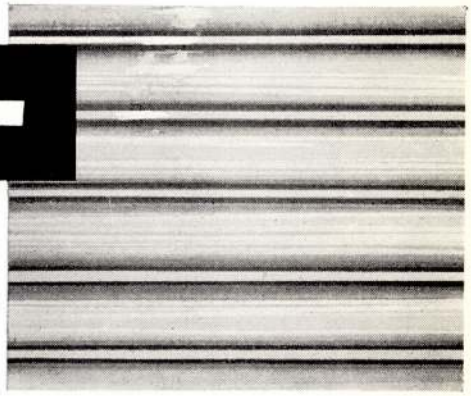
日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社

型状優美
故障絶無

亜鉛鍍金の上に塗装した

東洋シヤッター



キングスプリングシヤッター

見えない所まで心をくばった……

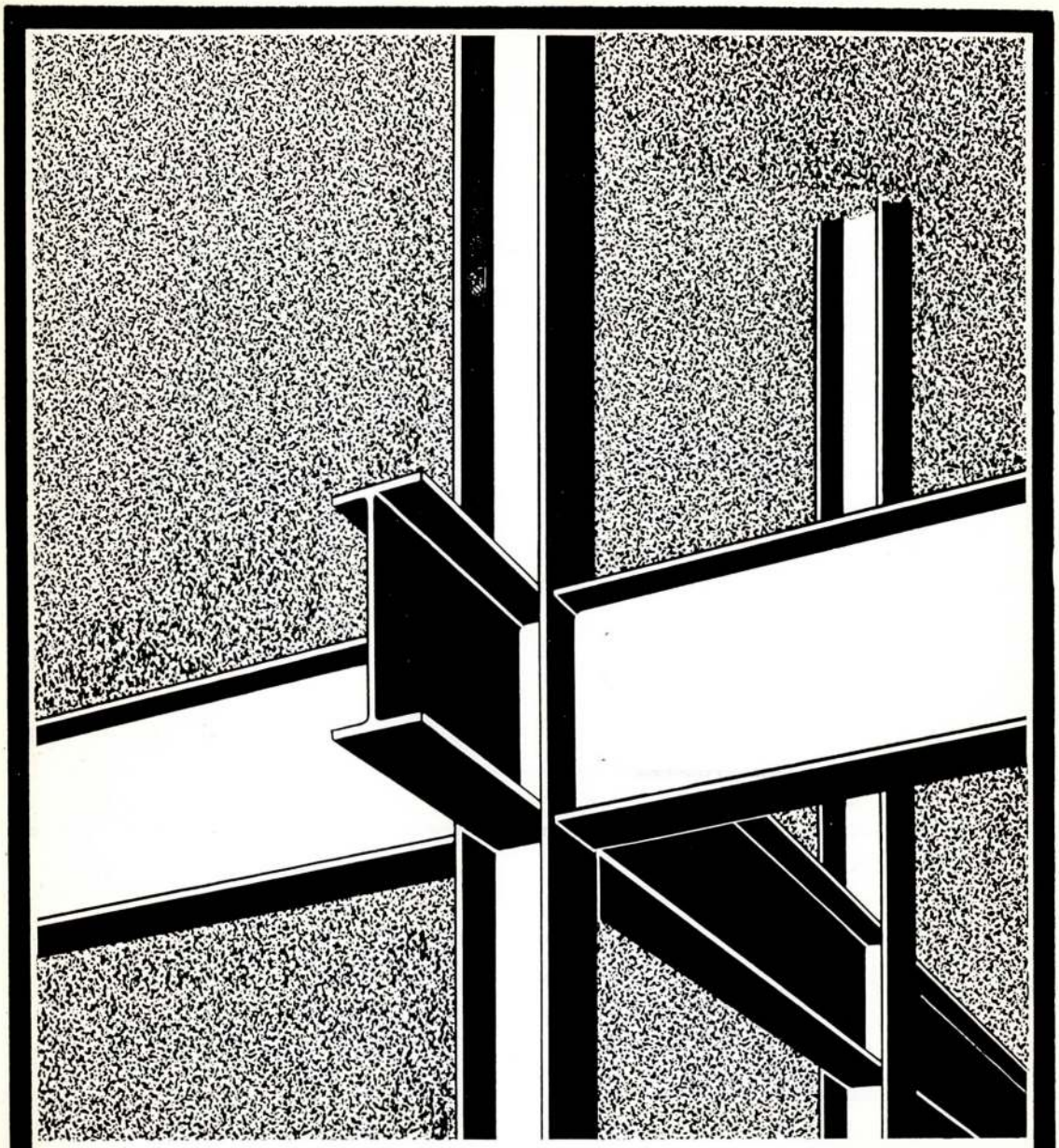
■スプリングシヤッター ■重量スプリングシヤッター

■自動シヤッター ■手動電動スチールシヤッター

東洋シャッター株式会社

本社・工場 大阪市西淀川区佃4ノ33 TEL⑪－2812～3・3116・0414
東京支店 東京都大田区新井宿5ノ547 TEL (771)－1171
名古屋支店 名古屋市中区下日置町2丁目7番地 TEL㉜ 5954・6324
出張所 岐阜、京都、神戸、横浜、津、福岡
その他出張所特約店は全国主要都市にあり

詳細カタログ呈上



これがH形鋼の魅力です

●八幡のH形鋼は、能率的なH形の断面を生かして、信頼性の高い構造物を経済的に建設いたします。

●構造用H形鋼、基礎杭用H形鋼の2種類があり、用途に最適の製品をご使用いただけます。

八幡製鐵

あなたの働きを楽しく　暮らしを豊かに　夢を育てる……鉄



驚異的低価格

性能も乗心地もトップレベル
中高層建築に最も理想的な

規格型乗客用昇降機

パブリベータ

定　員	6人用・8人用
運転条件	交流可変速度45 m／min
操作方式	セレクチブ、コレクチブ （運転手なし乗合全自動式）
位置表示	フラッシュライト式
扉	乗場、カゴ共1枚片引自動扉 （セフティーエッヂ付）
乗場寸法	760㎜×2050㎜

規格化と量産
然も総てに画期的な

特許

クマリフト ジュニアー

J－30

食堂・喫茶店向
三相・単相　100V／200V与HP
積載量　25kg　毎分速度　20m
カゴ鋼製　有効500×500×600㎜
押釦式全自動運転・各階上下引分扉付
出入口　三方向自由
全機構が壁付のため通路工事簡易

特許

クマリフト マスター



M－50

食堂・旅館向
三相交流　200 V与HP
積載量　50kg　毎分速度　30m
カゴ鋼製　有効 600×600×750㎜
押釦式全自動運転・各階上下引分扉付　出入口三方向自由

M－100

料理店・ホテル・学校給食・商店・工場向
三相交流　200V 1HP
積載量　100kg　毎分速度30m
カゴ鋼製　有効750×750×900㎜
押釦式全自動運転・各階上下引分扉付　出入口三方向自由

M－200

三相交流　200V　2HP
積載量　200kg　毎分速度　30m
カゴ鋼製　900×900×1050㎜
押釦式全自動運転・各階扉付

M－300

三相交流　200V　3HP
積載量　300kg　毎分速度　30m
カゴ鋼製　1,000×1,000×1,200㎜
押釦式全自動運転・各階扉付

クマガイ　日本エレベータ協会々員

クマガイ工業株式会社

大阪市西区京町堀二丁目三十番地
電話　441—4748・0209・7788　381—0822・2686・4527

東京支店	東京都北区岸町1—9	TEL 東京（911）4253・（919）3062
名古屋支店	名古屋市中区東陽町7—2	TEL 名古屋（24）0372
京都営業所	京都市中京区二条通西洞院西入	TEL 京都（23）9532

NS
アルミサッシ
NSスチールサッシ
NSエア・フイルタ

日本スピンドル製造株式会社
金属成型事業部

大阪営業所	大阪市東区備後町(綿業会館内)	電大阪(231) 8088・7958
茨木第一工場	大阪府茨木市太田新田60	電茨木(07262) 4741(代)
茨木第二工場	大阪府茨木市太田上野	電茨木(07262)5065・5066
本社	兵庫県尼崎市潮江(国鉄尼崎駅北)	電大阪(401) 5551(代)
東京事務所	東京都千代田区(丸ビル403号)	電東京(201) 0875・3605

完全な防水に…
レオパノールBA

- 永久に老化しない
- 伸びる（伸長率 500%）
- −30°C〜+70°Cの範囲で完全に使用し得る
- 酸、アルカリに強い

ドイツと技術提携により国産化完成
製造元　タキロン化学株式会社

防水の
コンサルタント
各種防水の設計から施工まで

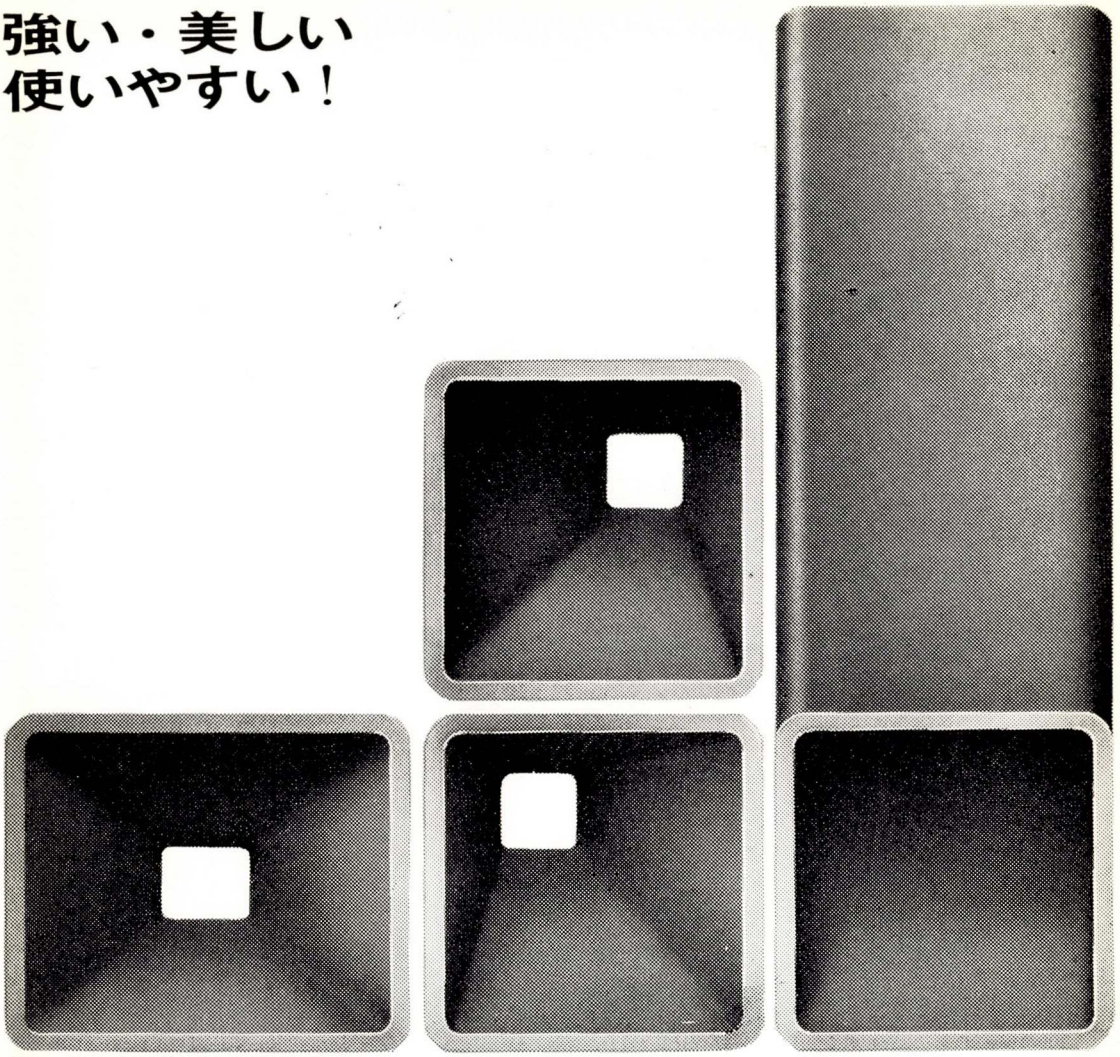
日本綜合防水株式会社
取締役社長　山崎慎二

本社　東京都千代田区神田猿楽町1の9(大半ビル2階)
電話(201)7691(代表)
大阪営業所　大阪市東区道修町1−4(橋井ビル)
電話(202)6884
工事々務所　東京都板橋区板橋町6の3356　電話(961)9089

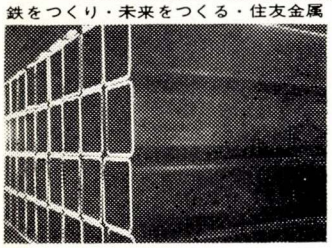
地盤の注入に…　(薬液注入工法)
特許 **ケ・ミイ・ゼクト工法**

- 地盤の固結と沈下防止
- 地下水の遮断阻止と漏洩防止
- 隧道地下室、貯水池ダム等の漏洩水防止

強い・美しい
使いやすい！



鉄をつくり・未来をつくる・住友金属



住友の 角形鋼管

住友金属

住友金属工業株式会社
本社／大阪市東区北浜5の15（新住友ビル）
支社／東京／営業所／福岡・広島・名古屋・仙台・札幌

燃えない都市づくりのため
角形鋼管が　注目をあびてきました。欧米諸国では　角形鋼管のシャープなもち味が早くから買われ　学校やビルを初め住宅などにもどしどし使われています。

■すぐれた断面性能　■パイプの強さに角形の使いやすさをプラス

■両端を閉鎖すれば　内面からの腐食度はゼロ。耐久力は抜群。

■仕上材とよく調和し加工・組立も簡単。

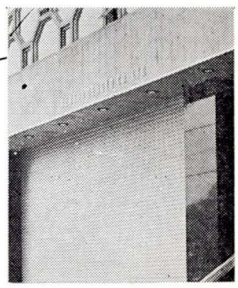
“強く　美しく　使いやすく”
現代感覚を生かすのに最適です。

三和シャッター株式会社



建物をまもり
美をつくる

近代建築の必需品



建設大臣登録
(ト)4082

甲種・乙種防火シャッター
電動式・手動式・スプリング式
其他のシャッター全般

三和シャッター

本店 尼崎市久々知字コエ23 電 代表 (401) 5341

札幌支店	札幌市琴似町琴似5.2.2 電(4)4161~3	大阪支店	尼崎市久々知字コエ23 電代表(401)5341
旭川営業所	電 5097	大阪南営業所	電 (671) 5412
東北支店	仙台市上杉1.1.2 電 (3) 3296・9618	大阪北営業所	電 (351) 2300
青森営業所	電 (2) 7102	神戸営業所	電 (22) 0189
盛岡営業所	電 (2) 7407	京都営業所	電 (22) 0900
秋田営業所	電 2783	金沢営業所	電 (6) 5481
都山営業所	電 1766	彦根営業所	電 2053
新潟営業所	電 (4) 1443	高松営業所	電 (3) 4290
平駐在所	電 3303	高知営業所	電 (2) 1576
東京支店	東京都板橋区新河岸町38 電代表 (933)7156	徳島出張所	電 (2) 0659
新宿営業所	電 (341) 2478・9678	広島営業所	電 (4) 3756
神田営業所	電 ㊀6278 ㊁3841~9	岡山営業所	電 (3) 9049
品川営業所	電 (441) 1300	九州支店	福岡市渡辺通5丁目92 電 (75) 5181・6901
横浜営業所	電 (2) 7278	小倉営業所	電 (5) 3201
高崎営業所	電 2166	熊本営業所	電 (2) 0893
宇都宮営業所	電 7722	宮崎営業所	電 2314
甲府営業所	電 2442・6292	鹿児島営業所	電 (2) 6762
水戸営業所	電 8635		
名古屋支店	名古屋市東区主税町3—6 電 (94) 2846		
静岡営業所	電 (3)2846(2)6931		
長野営業所	電 (2) 5292		

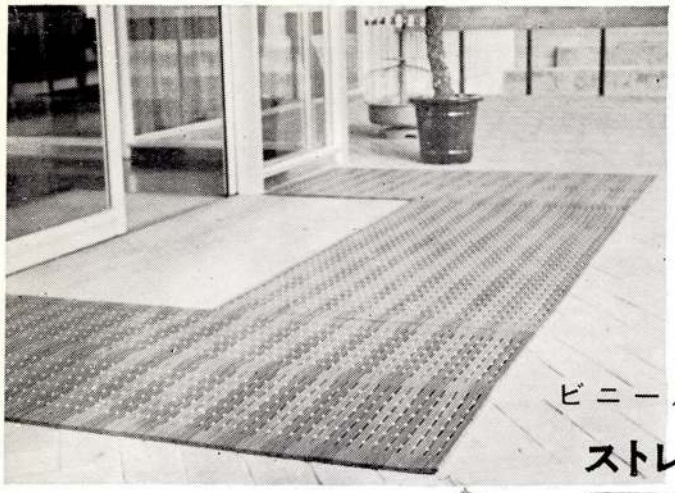
アスファルト防水は年限保證する
日本アスファルト防水工業会の仕様による
経験と技術の工業会員へ

日本アスファルト防水工業会員名簿　（イロハ順）

地区別	会社名	住所	電話
北海道地区	日本スレートKK	札幌市北三条東4—1	②3458・4426
東北地区	大和工業KK 仙台出張所	仙台市二日町1—2	③7790・②0335
関東地区	井上瀝青工業KK	東京都中央区銀座東2—13	(541)1974–5
	伊藤建材KK	東京都台東区浅草田島町77	(871)5311(841)5729
	北条瀝青工業KK	東京都中央区湊町3—7	(551)2676・4382
	YK金岡興業	東京都新宿区柏木5—1172	(361)5947・(371)1337
	高山工業KK	東京都千代田区神田小川町1—8	(251)0161–3・1301–2
	瀝青建材KK	東京都中央区銀座東3—11	(541)6945・7834
	桑原建材KK	東京都文京区新諏訪町6	(921)0448・0647
	大和工業KK	東京都荒川区南千住6—42	(891)1144–6・7155–7
	マサル瀝青工業KK	東京都台東区新坂本町61	(841)8501・(871)2851
	藤井工業KK	東京都文京区林町94	(941)0271・2582
	KK三柏商会	東京都千代田区神田同朋町3	(251)8867・7517
	KK金港商店	横浜市西区高島町1—1	㊹7846・8476–7
東海地区	中央建材工業KK	名古屋市中区南久屋町3—12	㉔0496・2066・8700
	日本建材興業KK	名古屋市西区南押切町5—12	㊺6860・2574・0415
近畿地区	日新工材KK	大阪市西区新町北通1—17	㊵3785–6・2721
	マルエス工業KK	大阪市福島区上福島南1—152	㊺2360・2030
	KK新光商店	大阪市南区塩町通2—13	㉖7195–7・4467
	高山工業KK 大阪営業所	大阪市北区老松町2—19	㊱5976–8
	清水興業KK	大阪市北区鶴野町34	㊲0251–3
中国地区	豊永建材KK	広島市南竹屋町103	④3567
	東中國防水工業YK	岡山市磨屋町22	③2211・6302
四国地区	大三工業KK	高松市内磨屋町7	②8697
	KK山本商会	松山市萱町2—95	②2717・8422
九州地区	日新興業KK	延岡市本小路74	4305
	大同工業KK	宮崎市橘通6—82	8155–6
	KK工材社	門司市大里東通10丁目	㊳1468–9
	安藤工事KK	福岡市大浜1丁目新町95	②6968・③5765
	KK北原建材商会	鹿児島市上之園町62	④0001–2

日本アスファルト防水工業会関西事務所

大阪市西区新町北通1–18　　日新工業KK大阪営業所　㊵ 5281–3

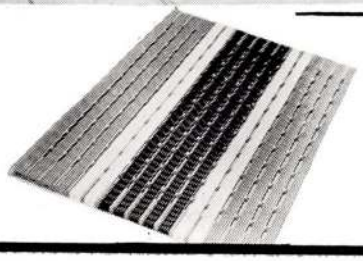


JEWELRY COLORS
IN
6

グッドセンスを
敷こう
ストレートで
行こう

ビニール
ストレート ライン マット

WAKE A GOOD SENSE
PAT. PENDING



ミヅシマ
株式会社 水島商店
MIZUSHIMA CO. LTD.
大 阪・大阪市西区北堀江上通一丁目
京 都・京都市中京区蛸薬師烏丸西入
福 岡・福岡市下対馬小路一二八

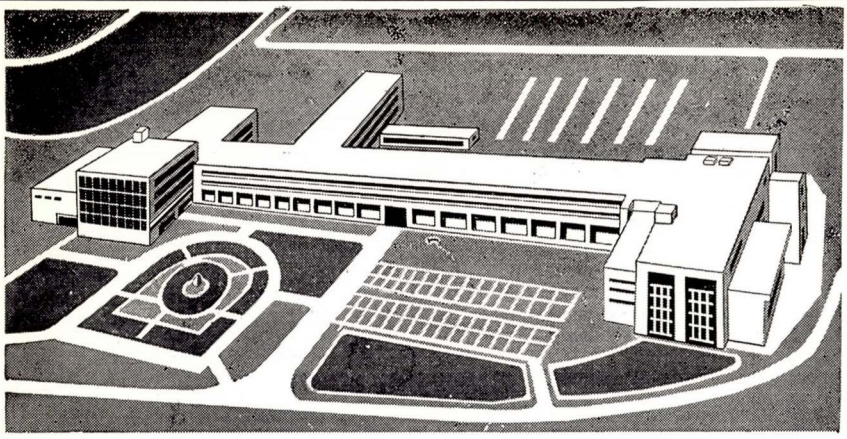
新
アルミパールタイル
ヤハズラス
木毛セメント板
カラーベストス
ボード
建
スロール
ビニール加工板
メラミン加工板
材
ビニ床タイル
プリント合板

四ツ橋 もモト
生きる近代建築に
魂ある文化材

30メーカー代理店

モデルハウスと展示
すまいの用材店
西区立花通2電(531)2843

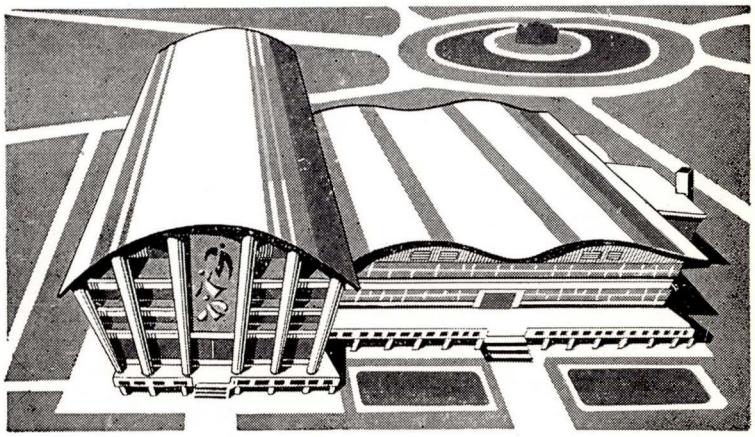
大阪・四ツ橋
株式会社 山本建材社
TEL (541) 1861~5・2131・2233・7060・7161



軽量、緩勾配屋根に
軽快な近代建築材

日泝スーパーアルソイド
日泝ゴールデンルーフイング

伸縮目地材　エキスパンタイト
　　セロタイト
コーギング材　シールセメント



日泝化学工業株式会社

本　　社　東京都中央区八重洲1—3
　　TEL (271) 7000・5463～5
営業所及東京工場　東京都荒川区尾久町6—101
　　TEL (807) 代表 0161～5

大阪営業所及大阪工場
大阪市東淀川区堀上通り3—39
TEL (391) 0924～5・2045・2079

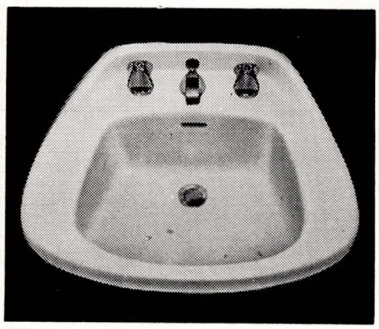
あなたのセンスがそのまゝ生きる！

伝統と技術にはぐくまれた美しい3つのデザイン



●ダイナミックタッチ

ジュピター　L１３０５――――
陶器・金具セット――――――
1級・￥15,400　並級　￥13,900



●やわらかい甘いムード

ヴィナス　L１２２３――――
陶器・金具セット――――――
1級　￥15,000　並級　￥13,560



●端正な感触・・・・

アポロ　L１３０６――――
陶器・金具セット――――――
1級　￥14,200　並級　￥12,700

Toyotoki 東洋陶器株式会社

本社／小倉　工場／小倉、茅ヶ崎、滋賀
大阪営業所／大阪市東区高麗橋Tel (231) 4518～9
1424

強さを！
プラス！

新製品
ロンタイルH

床が一段と強く　美しくなりました　技術の川口ゴムが完成した〈ロンタイルH〉!
○傷がつきにくい……
○すぐれた耐摩耗性……
○規準12色のソフトな色彩
○施工が簡単です……
川口ゴムの〈ロンタイルH〉は　安心して使える一番新しい床材です!!
寸法＝30.3×30.3糎×２糎：色＝12色

川口ゴム
工業株式会社

本社：東京都葛飾区本田四ツ木町54
電話：東京（697）代表６１４１
東京営業所：東京都千代田区神田松永町13
電話：東京（291）代表4941〈川口ビル〉
大阪営業所：大阪市南区北炭屋町33
電話：大阪（271）４３５８→４３５９

会員の頁へどしどしお便りを！

昭和38年正月号より，この「建築と社会」誌に新らしく「会員の頁」欄を設けまして，会員の皆さんの声をのせております。
協会に対する注文，掲載文に対する感想，ご意見，建築界のいろいろな問題に対するご感想，その他何でもよいですから，どしどしお便りをおよせ下さい。「会員の頁」欄に集録していきます。字数はハガキに書ける程度でよいと思います。このハガキをご利用下されば幸いです。

日本建築協会編集委員会

郵便はがき

5円切手をお貼り下さい

大阪市東区北浜三―三七

日本建築協会
「建築と社会」会員の頁欄 行

会員の頁原稿

住所

役職　　氏名

会員の頁へどしどしお便りを！

このハガキをご利用下さい。

1.字　数　600字以内（原則として）長くなる場合は別に手紙でお送り下さい。

1.期　日　自由。とりあえず2月号としては，来る1月15日までにねがいます。
それ以後到着分は，3月号以降にのせます。

1.内　容　内容も自由です。

1.掲　載　掲載号を一冊呈上いたします。

1.とく名　とく名の場合はその旨明記のこと。

会　告

新年午餐会

新年午餐会開催通知

新年午餐会を下記により開催いたします。恒例により昨年11月に国家褒章を受けられました東畑副会長外の会員の方々をお招きしてお慶びを申し上げるとともに左藤大阪府知事殿のご臨席を得て府政に関し種々参考となるお話を伺うことにいたしております。何卒多数お誘い合せの上ご出席下さいますようお願い申します。

記

1. とき　1月16日（水）11時半――1時半
1. ところ　大阪建設会館6階（東区天神橋南詰）
1. 会費　¥800
1. 申込　1月14日まで事務局宛お申込み下さい。

区書出版

「建築基準法及び関係法令早見一覧表」発刊

先年来待望されておりました掲題図書は，その後基準法並に関係法令の改正のため延び延びとなっておりましたが，このたびいよいよ発刊の運びとなりました。特殊建築物の設計に当って，関連法規を一つ一つ探し出す苦労については，会員諸君もご経験済みのことと存じますが，本書はこの悩みを解消するのに充分役立つものと信じます。なお大阪府，京都府，兵庫県の関係条令，細則も対照してありますので，関係者にとって絶好な便利な参考書となることと期待いたしております。

1. 型式　B5版　　1. 頁数　約80頁
1. 内容　特殊建築物について建築基準法及び関係法令の規定を各項目毎に条文概要をまとめて対照記載。
1. 定価　¥350　〒¥50　　1. 会員特価　¥300　〒¥50

工高生デザインコンクール入選者

第8回 工高生デザインコンクール入選者発表

設計課題　湖畔に建つ学生のためのボートハウス

応募作品　24校　94点

審査会　昭和37年10月8日午後2時――6時　於本会4階集会室

審査委員長　清水　和弥

委員　足立　孝，上田光雄，海上静一，田村克弘，鳥田家弘，長沢徹夫，彦谷邦一，吉岡吉雄

入選者

・新潟県立高田工業高等学校（3点入選）

〔最優秀賞〕
- 3年 高島 忠夫　2年 馬場忠一郎 / 2年 斎藤 康夫　2年 石川 千里（共同製作）
- 3年 風間 秀公　2年 丸山 逸男 / 2年 筆山 武　2年 岡沢 保彦（共同製作）
- 3年 風間 秀公　2年 田中 健蔵 / 2年 村山 陽子（共同製作）

・早稲田大学工業高等学校（入選1点）
- 3年 木下 二郎　3年 菊川 武志 / 3年 酒井 輝行　3年 青木 敏次 / 3年 平根一二三（共同製作）

・名古屋市立工芸高等学校（入選3点）
- 3年 宮島和彦　3年 村瀬 正　3年 児島 誓

・神奈川県立神奈川工業高等学校（入選1点）　3年 矢島英臣

・大阪市立都島第二工業高等学校（入選1点）　4年 逢 昭浩

・三重県立伊勢工業高等学校（入選1点）　3年 内田順三

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

青盛繁男
広島市鉄砲町108
青盛建材株式会社　取締役社長

安藤芳雄
大日本土木株式会社　専務取締役

赤松修
㈱赤松菅野建築設計事務所代表取締役
自宅　豊中市千里園2—186

浅井貞治
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所　次長

浅海正雄
自宅　宝塚市切畑字長尾山2—161

浅野重太郎
大阪市北区富田町30
第一工業株式会社大阪支店　支店長

井上福蔵
自宅　枚岡市石切山荘

五十嵐芳雄
株式会社　大林組

伊丹久吉
大阪市東区両替町1—13
株式会社　藤木工務店　専務取締役

伊東正也
大阪市浪速区幸町2—6
伊東建築設計事務所　所長

伊藤鑛一
日建設計工務株式会社　取締役社長

猪飼幸次郎
大阪市生野区勝山通9—72
江東電気工業株式会社　取締役社長

飯田精次郎
大阪市北区富田町9
共同設計株式会社　取締役社長

池田宮彦
自宅　堺市上野芝向ケ丘町4丁

石川良興
大阪市西区土佐堀通1—16
日本冷熱工産株式会社　代表取締役

石川寛三
大阪市天王寺区茶臼山町111
石川建築事務所長

一円俊郎
名古屋市中区南大津通4—1
社団法人　日本建築協会東海支部長

今村騰
大阪市北区梅ケ枝町25
中央電気工業株式会社　取締役社長

岩佐直則
尼崎市西本町7—268
有限会社　岩佐建築設計事務所
自宅　西宮市上甲子園2—115

岩崎甚太郎
大阪市東区京橋3—75
株式会社　大林組工務監督

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

浦辺鎮太郎
倉敷建築研究所

小津利一
内外木材工業株式会社　専務取締役

尾亀清四郎
株式会社　三晃商会　専務取締役

尾崎久助
日建設計工務株式会社　取締役会長

尾崎博一
大阪市北区茶屋町38
旭化工板製造株式会社　取締役社長

置塩章
置塩光
置塩建築事務所

大井弘治郎
大阪市北区宗是町44　第一ビル2階
㈱大井建築設計事務所　代表取締役
電話大阪㈱4220・(443)1966

大木末次
大木建設株式会社大阪支店
常務取締役支店長

大阪生コンクリート株式会社
大阪市北区堂島浜通1—25

大澤幸平
大阪市東区今橋5—2
大幸建設株式会社　取締役社長

大林芳郎
大阪市東区京橋3—75
株式会社　大林組　取締役社長

岡三郎
株式会社　岡　組　取締役社長

岡本美男
株式会社　巴商会　常務取締役

岡本行善
大阪市西区阿波座南通2—58
株式会社昭和建築設計事務所　社長

奥村太平
大阪市阿倍野区松崎町1—51
株式会社　奥村組　取締役社長

海上静一
大阪市南区鰻谷仲之町62(市川ビル)
株式会社　海上静一建築事務所

笠原梯治郎
大阪市西区京町堀1—74
田島応用化工株式会社大阪出張所

柏岡十三介
大阪市東淀川区十三西之町1—175　電話㈹0231—5
阪急電気工事株式会社　専務取締役

梶本秀尾
大阪市東区森之宮東之町392
八千代電設工業株式会社取締役社長

金光五郎
万年スレート株式会社

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

川口哲雄
兵庫県尼崎市南竹谷町2—89
田中工業株式会社大阪出張所長

河井覚弘
河井建築設計事務所
大阪市北区兎我野町15

河津喜之助
大阪市北区堂島上1—24
河津装飾株式会社　社長

木下國男
株式会社内外写真　取締役社長
大阪市北区堂島北町16　電話(36)9058

木下光雄
大阪市西区江戸堀5—5
株式会社　木下謹三商店

木戸口信義
大阪市天王寺区北河堀町54
大洋建設工業株式会社　取締役社長

城戸七太郎
大阪市西区土佐堀通2—2
清水建設㈱大阪支店　常務取締役大阪支店長

小林得志
大阪市北区堂島北町20
小林得志建築事務所所長

小松次郎
池田市建石町180

鴻池藤一
大阪市此花区伝法町北3—67
株式会社　鴻池組　取締役社長

駒敬三
駒日出男
大阪市天王寺区椎寺町46　電話(77)4419
駒一級建築士事務所

佐藤重夫
広島市千田町3丁目　電話④1161
広島大学工学部建築学科教授　工学博士
自宅　広島市富士見町富士見住宅41　電話④6429

佐藤辰夫
内外木材工業株式会社　専務取締役

佐藤太
大阪市北区南扇町11
近畿電気工事株式会社　取締役会長

佐野正一
株式会社　安井建築設計事務所
大阪市東区淡路町2—34

雑賀孝夫
和歌山市小松原通5—1
㈱雑賀建築設計事務所　代表取締役

斉藤光夫
大阪市北区富田町16
株式会社　三晃商会　取締役社長

坂内幾男
大阪市西淀川区御幣島中1—2　電話(47)0763
株式会社　坂内建築設計事務所

榊弘美
大阪市東区横堀2—48
東西建築サービス株式会社　副社長

貞永直義
貞永建築士事務所所長
兵庫県川西市加茂字柚木谷5番地の1

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

設楽貞三
大阪市東区伏見町2—22　青山ビル
設楽建築事務所

渋谷幸雄
建築金物製作卸
渋谷金属産業株式会社

島村佐次郎
和歌山市四番丁　電話②3338
島村建築事務所

白杉嘉明三
自宅　神戸市東灘区本山町野寄19—1

庄野勝
大阪市南区鰻谷仲之町57
不動建設株式会社　取締役社長

須賀豊治郎
大阪市西区土佐堀通1—14
須賀工業株式会社　取締役社長
自宅　西宮市殿山町98

菅谷三郎
大阪市西区江戸堀1—60
㈱大阪電気商会　大阪暖房商会　取締役社長

杉本裕
大阪市北区堂島上3—10　電話㈹3468
㈱松田平田設計事務所大阪出張所長

鈴木清市
大阪市東淀川区新高南通1—14
株式会社　ケントク　取締役社長

銭高輝之
大阪市西区阿波座上通3—2
株式会社　銭高組　取締役社長

仙田四郎
大阪市住吉区万代東6—3
関西暖房工業株式会社　取締役社長
自宅　堺市東上野芝町2丁174

田中政二
大阪市城東区野江東之町4—104
大島応用化学工業㈱　取締役社長

田辺信
西日本建設業保証株式会社　社長

高木幹祐
大阪市西区靱本町1—77(八幡製鉄ビル3階)
八幡エコンスチール㈱大阪営業所　技術課長

高須洪一郎
大阪市北区中之島4—39
株式会社朝日工業社代表取締役社長

高橋慶夫
大阪市西区京町堀2—75
株式会社大阪建築事務所取締役社長
自宅　大阪市東淀川区相川中通2—2—4

竹腰健造
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所　所長

竹中錬一
大阪市北区堂島中2—30
株式会社　竹中工務店　取締役社長

千原大五郎
東京都港区赤坂溜池町30(溜池東急ビル)　電話㈹8160
㈱大阪建築事務所東京支所　取締役所長

知見義夫
大阪市西区土佐堀通1—1大同ビル内
株式会社斎藤省三商店　大阪支店長

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

地頭政人
大阪市北区若松町30　電話(06)9004・9016・4825
株式会社　小俣製作所大阪支店　取締役支店長

塚本猛次
大阪市東区横堀2—38
日建設計工務株式会社取締役副社長

戸田賢一
大阪市南区順慶町通4—25
東洋リノリューム㈱　常務取締役

東畑謙三
大阪市東区伏見町5—19　電話(20)0391
株式会社　東畑建築事務所　所長

伴野龍太
大阪市北区芝田町65—1　梅田商工中金ビル
本田工業株式会社　常務取締役

奈良俊平
大阪市住吉区粉浜本町2—46
株式会社　土寅商店　代表取締役

内藤資忠
京都市左京区田中大堰町13
株式会社内藤建築事務所代表取締役

中原茂
建設省　近畿地方建設局　営繕部長

長尾正大
大阪市大淀区天神橋筋6—5(天六阪急ビル)
日本エレベーター工業株式会社

西島修吉
協同金属工業株式会社　取締役社長
自宅　大阪市住吉区万代東2—37

西嶋徳太郎
大阪市西区京町堀2—75
株式会社大阪建築事務所常務取締役

西田義郎
大阪府岸和田市加守町626—1
株式会社　西田工務店　取締役社長

伴秀雄
大阪市大淀区中津南通4—44
株式会社　西原衛生工業所大阪店

日景一郎
大阪市北区梅田8(新阪急ビル)
高砂熱学工業㈱大阪支店　取締役大阪支店長

彦谷邦一
大阪市東区備後町4(神戸銀行大阪ビル)
彦谷建築設計事務所

平田作太郎
株式会社　平田タイル副社長
大阪市西区阿波座中1—5

平山京平
大阪市西区江戸堀2—2
平山工業株式会社　取締役社長

廣田實
大阪市旭区大宮町9—27
京阪興業株式会社　取締役社長

福田朝生
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所　次長

福永薫
株式会社福永建築設計事務所　代表取締役

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

藤木正一
大阪市東区両替町1—13
株式会社　藤木工務店　取締役社長

藤原巧
大阪市東区今橋1—14　電話(20)3264—5
㈱増岡組大阪支店　取締役支店長

藤村清一
大阪市北区永楽町8（日産ビル）
㈱日新建築設計事務所　代表取締役

宝来佐市郎
大阪市東区京橋3—75
株式会社　大林組

星廣文
平和建設株式会社　常務取締役

本田史郎
大阪市北区芝田町65の1（梅田中金ビル）
本田工業株式会社　取締役社長

町田信治
大阪市南区順慶町通4—25（順慶町三和ビル）
東洋リノリューム㈱　取締役社長

松田昌平
松田順吉
福岡市下西町2（明治屋ビル）
株式会社松田設計事務所
東京出張所　東京都渋谷区穏田1—9

松村雄吉
株式会社　松村組　取締役社長

松本幸夫
大阪市北区老松町1—3
松本建設株式会社

松本大平
大阪市西区京町堀1—74
田島応用化工株式会社　大阪出張所

三宅昭栄
大阪市東区本町1—15
三宅電気株式会社

光井福松
大阪市西淀川区柏里町1—55
ヒーロー化学工業所　代表取締役

水本稔
株式会社竹中工務店
自宅　宝塚市小林字白砂里32

南寛一
和歌山市北町28(本町4丁目)
南電設株式会社　代表取締役

村石秋吉
大阪市浪速区幸町通3—20
浪速合板株式会社　代表取締役

村島良雄
大阪市北区堂島中2—38
㈱藤田組大阪支店　常務取締役大阪支店長

室谷山水
株式会社　室谷商店　社長

望田忠夫
大阪市東区平野町2—40
富家建築設計事務所

森川喜代之助
池田市中之島町1—1電話0727⑥8149
森川一級建築士事務所

謹賀新年　昭和38年元旦　(50音順)

八十島健二
西宮市甲子園2—24

山本竜太郎
大阪市北区西堀川町15
株式会社ヤマト電気商会取締役社長
自宅　大阪市住吉区帝塚山西4—21

株式会社　矢橋大理石商店　大阪出張所
大阪市東区高麗橋2—9(野村ビル)　電話㈫4257・4258

和田村太郎
浪速建材工業株式会社　取締役社長

山本潔
山本窯業化工株式会社　取締役社長

若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2—6
二葉屋装備工業株式会社

山本義樹
株式会社　銭高組

鷲尾健三
大阪大学工学部構築工学教室
自宅　京都市左京区一乗寺出口町43
電話京都㉘4656

謹賀新年　昭和38年元旦　(追加分・順不同)

稲垣皎三
株式会社　大林組

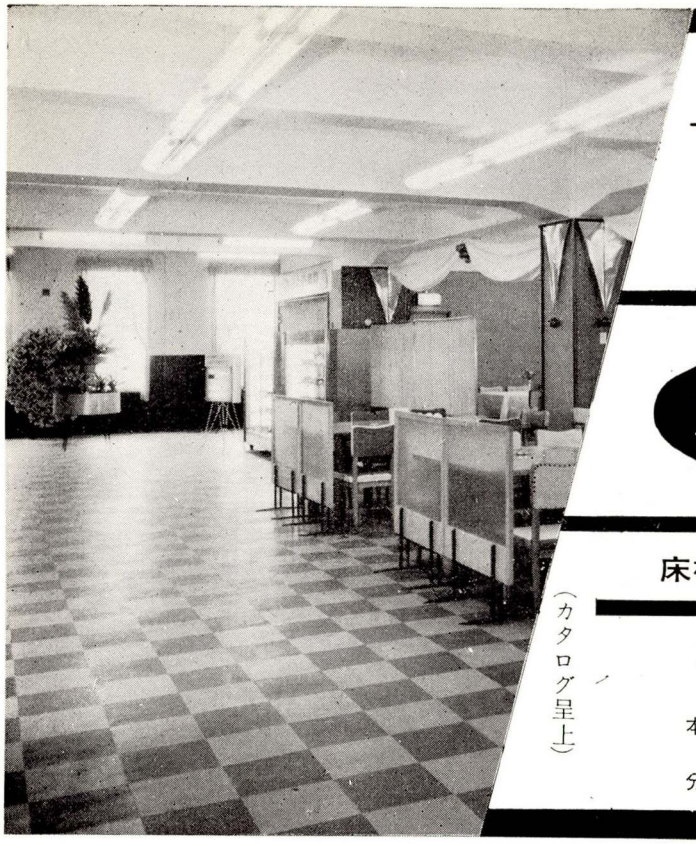
田村史郎
大阪市西区京町堀1—170
社団法人　日本建材協会　常務理事

坂倉準三建築研究所
大阪市西区京町堀2—122
電話㈱0022・2269・3414

向井保晴
東洋リノリューム株式会社

本庄弘樹
株式会社　三晃商会
自宅　箕面市桜ケ丘375

松尾陽三雄
内外アスベスト㈱大阪支店　取締役支店長
大阪市都島区都島北通1—14



美しい床……

しかも永い間耐える事が特長です。優れた製品として皆様に御満足願える様、最高の施工技術を持って弊社で責任施工を致しております。

桂のビニールタイル

床材料の販売・工事（責任施工）

（カタログ呈上）

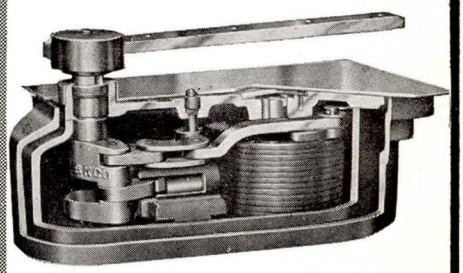
株式会社 桂 商会

本社 大阪市大淀区国分寺町1丁目1番地
電話 (351) 6625・7778－9
分室 大阪市大淀区天満橋筋六丁目12

S.K 東洋金物

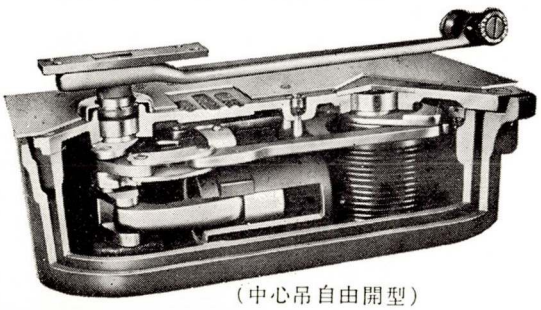
近代人の感覚にマッチする

ユートピア印



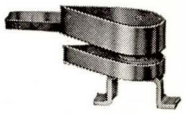
（片開持出吊り型）

フロアーヒンヂ　ピポットヒンヂ



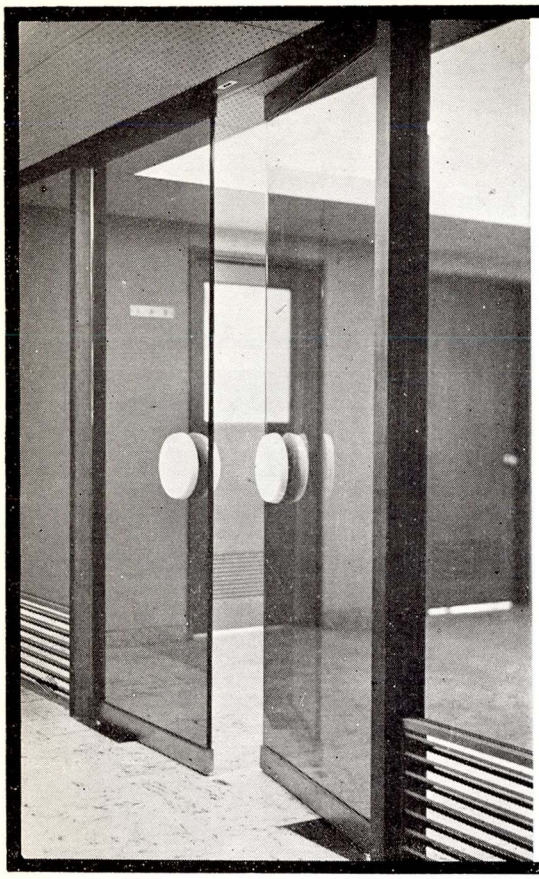
（中心吊自由開型）





上枠・上扉　　下枠・下扉
（ピポット・ヒンヂ持出し吊り型）
（カタログ御入用の節は御申込下さい）

製造元
敷島金物株式会社
大阪府布施市横沼町1の46　電話布施　(721) 7713～4
東京都千代田区神田三崎町2の26　電話東京 (332)5310 (301)0403



●美しい色とムードのあふれるアクリドアーはフレーム・ヒンヂ・ハンドルも組み合せたセット品となり一層お使い易くなりました

●御予算に応じて普及品と標準品が……

●お部屋の雰囲気にマッチした美しい色も多数取揃えてあります

●新しい建築には新しいセンスのドアーをお選び下さい

新建築の名演出家（ディレクター）

三菱レイヨンの

アクリドアー

アクリライトをつくって25年

三菱レイヨン株式会社

鋼管構造建築
重量型鋼建築
軽量型鋼建築

広瀬式組立建築
インスタントハウス　から本建築まで!!

最新の設備と
優秀な技術を誇る

工場
倉庫
ガレーヂ
事務所
労務宿舎
体育館
移動教室
その他

綜合建設業
建設大臣登録　(ト)第4133号
設計・製作・施工・販売

広瀬ハウス工業株式會社

本社　大阪市西区西長堀北通3丁目2の3　TEL (531) 9351代表 (541) 7721代表
東京支店　東京都中央区日本橋小舟町2の7（小舟ビル）　TEL (661) 4974. 4844
大阪工場　大阪市港区北福崎西之町8　TEL (571) 5137
玉船工場　大阪市西区九条中通4丁目400　TEL (541) 3041代表
東京工場　東京都江東区北砂町6丁目148の2　TEL (644) 7854

建築と社会

1963年・第44集・1月号・目次

©

建築教育特集 1

作品　昭和37年中に竣工した新建築（PR）……15

スケッチブック　第8回工高生デザインコンクール入選作……29
課題：湖畔に建つ学生のためのボートハウス

建築の眼　担当50音順：金本賢治・富永六郎・星野三雄・森脇久嘉……34

本文

1学校教育　工高教育の問題点……犬束徳郎……36
工高の教科内容……乾亮三……38
大学教育の問題点……鷲尾健三……42
大学における建築教育の問題点……増田友也……44
学校教育のゆくえ……佐野正一……46
大学の教科内容――近畿の六大学建築学科――……編集部……48
アンケート：学校教育に何を望むか……52
岩本博行・星　広文・光安義光・若林季雄・とくめい・
石黒次郎・谷口尚武・北垣智造

2職場教育　座談会：建築技能者教育――大工・左官・塗装工・タイル工等の
教育訓練をめぐって――……54
出席者：福岡　正・遠山春二・上田与三郎・熊谷広吉・
川岸繁夫・関　雄二・寺岡　真

3資格問題　建築関係技能検定について……板谷一夫……66
建築士の問題点――主としてその試験制度について……白石博三……69

4需給問題　学校教育と建築技術者の需給問題……益尾辰雄……71
技能労務者不足の根底に横たわるもの……山田四郎……74

5設備技術者の教育　設備技術者の教育について（教育委員会側）……相川三郎……76
設備技術者の教育について（受入側・企業側）……石田憲二……78
設備技術者の教育について（大学側）……前田敏男……80

会員の頁……82

技術の頁　1. 物を吊り上げる機械……篠田駿二……83
2. 超高層建築について……金多潔……87

職人シリーズ　職人シリーズの企画にあたって……大久保昌一……89
第1回・蒿職（桜井一雄氏）……大久保昌一……90

近代建築調査委員会報告 37
辰馬力氏　本宅……坂本勝比古……91

書評　大阪の建築ガイドブック・関西のすまい第二集……93

会報　11月分……94

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会・SMデザイングループ
表紙写真：第5回建築写真コンクール一等入選作（撮影：中筋修）

売価　1部180円・送料共

昭和38年1月20日印刷　昭和38年1月25日発行
編集人　松井昭光
発行所　社団法人日本建築協会　大阪市東区北浜3丁目37
電話大阪㊀9648・9649・9640番　振替口座大阪39975番
発行人　沖田誠一
印刷所　株式会社研文社　大阪市北区堂山町66　電話㊀2091～3番
印刷者　網野栄

あけましておめでとうございます

編集委員一同

建物クリーニングと管理の店

住宅美素工事の創始者

ビルディングの洗浄工事

木造建築洗浄・美素仕上工事

株式会社 **美素工業所**

（登録商標）

大阪市東区瓦町二丁目（三和ビル）

電話 (231)5888.4938 (771)8050 (261)0617

ビルディング清掃・一般管理

美素建物管理株式会社

大阪市東区本町二丁目五

電話 (261) 4070・4079・0617

特別広告載掲業者目次

（順不同）

昭和38年正月号

▶昭和37年中に竣工した新建築

KK竹中工務店……16
清水建設KK……17
鹿島建設KK……18
KK奥村組……19
KK戸田組……20
KK間組……21
大日本土木KK……22
矢島建設KK……23
不二建設KK……24
KK岡組……25
KK新井組……26
小林得志建築事務所……27
東海興業KK……28

玄関
事務所
間仕切に.

GOAL

近代建築には

ゴール ユニロック



部品はプレス製品で
堅牢,永遠の耐久力

新製品
ゴールのホープ
ユニ-P
簡単な取付
手頃な価格

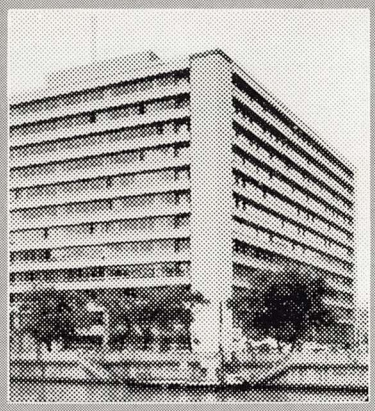
扉錠の専門メーカー

株式会社 谷山製作所

本社・工場　大阪市東淀川区三津屋北町4-44
電話(302) 代1771～5
東京営業所　東京都港区芝汐留13－5
電話(581) 7345・(431) 3742
名古屋営業所　名古屋市中区大池町3－6
電話(24) 代9281・9744



昭和３７年中に竣工した新建築PR



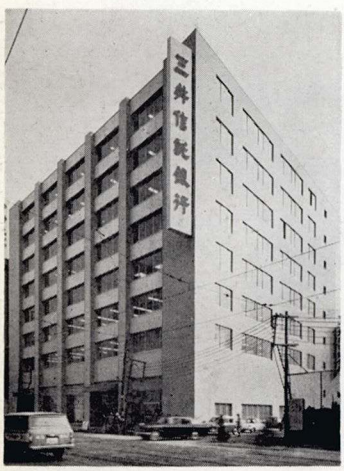


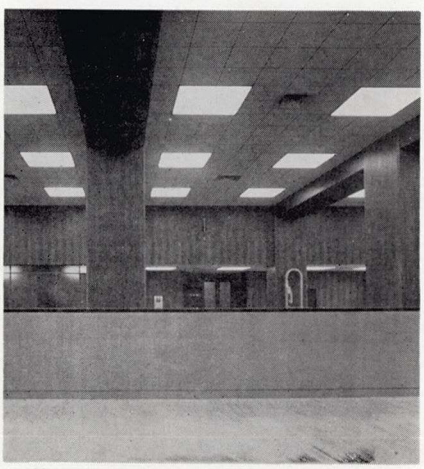
この扉の写真は左右逆であります。

三井信託ビルディング

設計　三井信託銀行本店総務部
株式会社竹中工務店設計部

施工　株式会社竹中工務店





所在地　大阪市東区北浜2丁目22番地
敷地面積　1,417.93m²（　428.92坪）
建築面積　1,257.85m²（　380.50坪）
延面積　14,226.05²m²（4,303.38坪）
構造規模　鉄骨鉄筋コンクリート造，地下3階，地上8階
竣工日　昭和37年11月16日



株式会社　大　阪　会　館

設計　岸　田　日出刀

施工　清水建設株式会社大阪支店



所在地	大阪市東区本町4丁目27
敷地面積	7,060 m²
建築面積	4,176.28 m²
延面積	13,445.2 m²
構造規模	鉄筋コンクリート造，地下1階，地上1階
竣工日	昭和37年10月30日



住友銀行事務センター

設計　日建設計工務株式会社

施工　鹿島建設株式会社大阪支店

所在地	大阪市西区江戸堀北通り3丁目1の1
敷地面積	690.416m² （ 208.85坪）
建築面積	173.85 坪
延面積	5,252.578m² （1,588.91坪）
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階 地上8階，塔屋付
竣工日	昭和37年6月30日



所在地	大阪市浪速区河原町2丁目1458の1
敷地面積	4，718 m²
建築面積	1，664 m²
延面積	6，202 m²
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階 地上5階
竣工日	昭和37年11月

日本専売公社大阪地方局事務所

設計　日建設計工務株式会社

施工　株式会社　奥村組

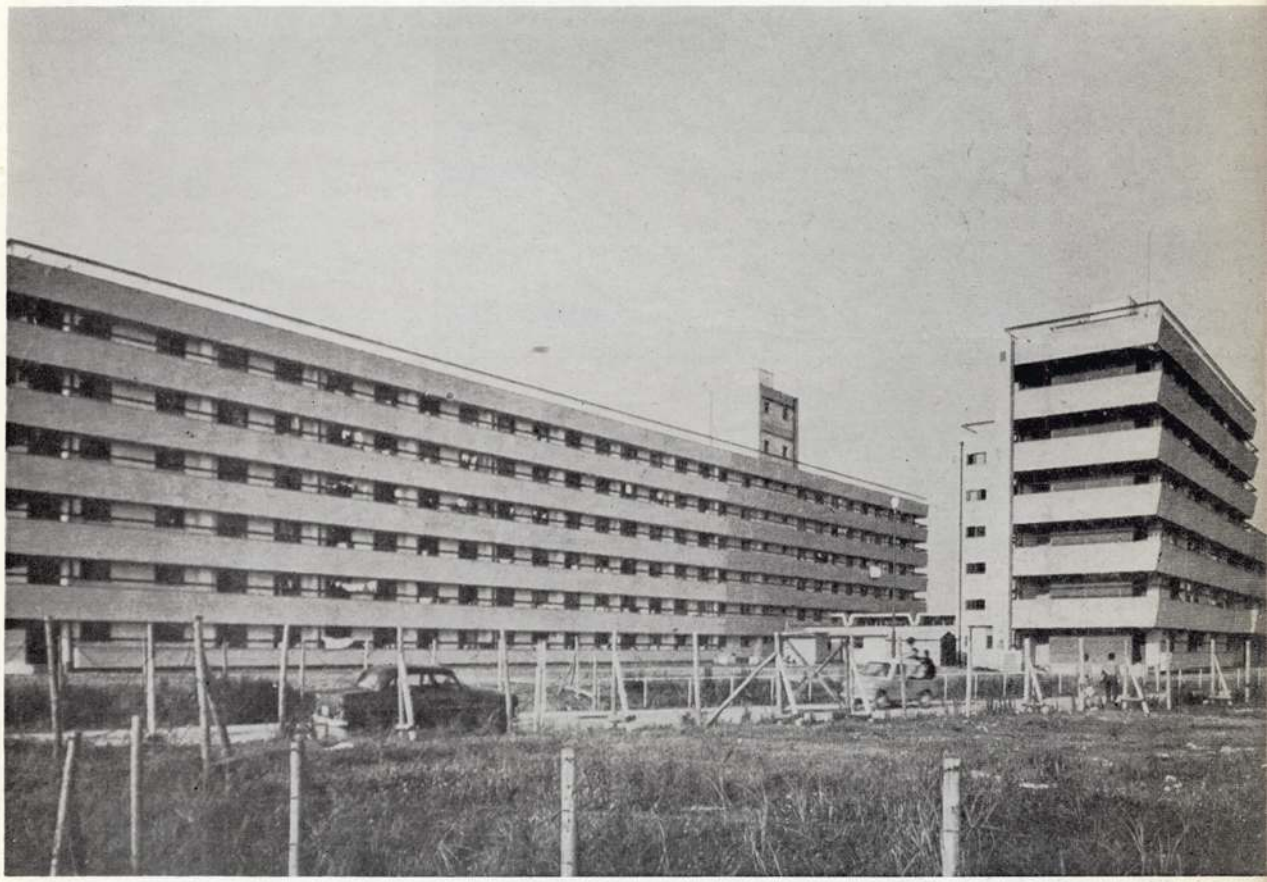


所在地	大阪市東区備後町2丁目50
敷地面積	231.46坪
建築面積	210.90坪
延面積	2,434.20坪
構造規模	鉄骨・鉄筋コンクリート造，地下3階，地上8階，塔屋4階
竣工日	昭和37年11月9日

森田ビルディング

設計　村野・森建築事務所

施工　株式会社　戸田組



八幡製鉄中百舌鳥独身寮

設計　大阪建築事務所

施工　株式会社　間　　組

所在地	堺　市　金　岡　町
敷地面積	15,000m²
建築面積	1,520m²
延面積	6,200m²
構造規模	鉄筋コンクリート造，地上6階，塔屋2階
竣工日	昭和37年4月5日



新梅ケ枝ビル

設計　村野・森建築事務所

所在地　大阪市北区梅ケ枝町
敷地面積　699.96m²
建築面積　594.0 m²
延面積　4,168.23m²
構造規模　R.C造，地下1階，地上6階，塔屋2階
竣工日　昭和37年7月

施工　大日本土木(株)大阪支店



梅田商工中金ビル

所在地　大阪市北区芝田町
敷地面積　498.223m²
建築面積　383.04 m2
延面積　3,156.772m²
構造規模　鉄骨・鉄筋コンクリート造，地下1階，地上7階
竣工日　昭和37年9月

設計施工
大日本土木(株)大阪支店

和歌山県農協会館

設計　株式会社 久米建築事務所

施工　矢島建設株式会社大阪支店

所在地	和歌山県義園町5丁目50番地
敷地面積	2，028 m²
建築面積	1，179 m²
延面積	7，299 m²
構造規模	鉄筋コンクリート造，一部鉄骨鉄筋コンクリート造，地下1階，地上5階，屋階3階
竣工日	昭和37年11月20日





所在地	大阪市北区梅ヶ枝町163
敷地面積	345.0 m²
建築面積	313.7 m²
延面積	3,456.1 m²
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下2階，地上9階
竣工日	昭和36年11月27日

近藤ビルディング　設計　彦谷建築設計事務所　施工　不二建設株式会社





所在地　大阪市北区若松町7番地
敷地面積　1,795.07 m²
建築面積　564.89 m²
延面積　2,271.82 m²
構造規模　鉄筋コンクリート造，地上4階建，一部5階建
竣工日　昭和37年10月25日

大阪府天満警察署

設計　株式会社竹内建築事務所　　施工　株式会社岡組

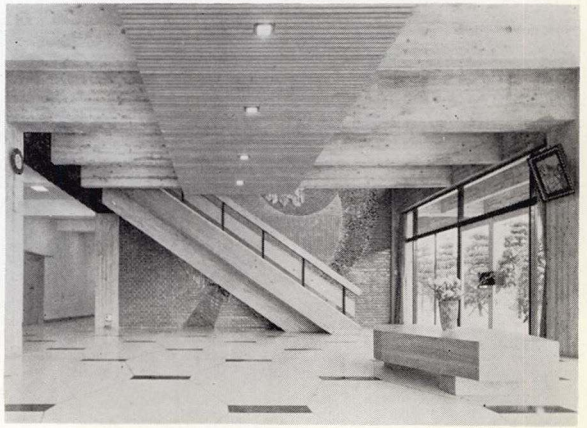


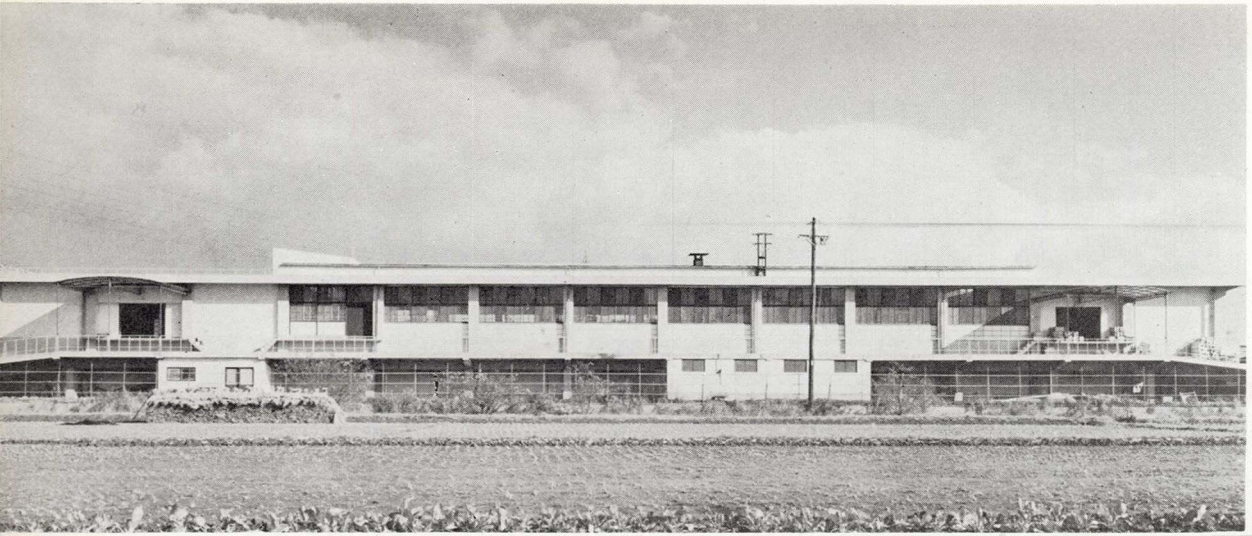
西宮市立中央公民館

設計　池亀建築設計事務所
監理者　西宮市建設部建築工事課

施工　株式会社　新　井　組

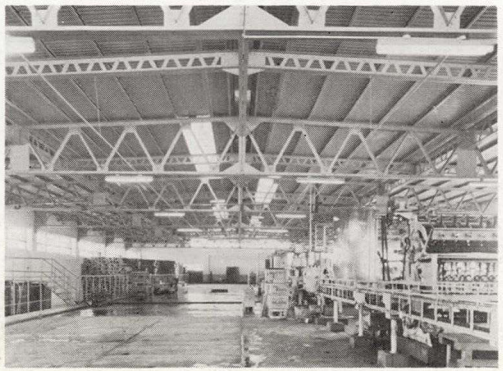
所在地　西宮市両度町61
敷地面積　1,227.00m²
建築面積　606.40m²
延面積　1,096.25m²
構造規模　R. C. 2階造
竣工日　昭和37年10月5日





松本治六郎商店壜詰工場

設　計　小林得志建築事務所
施　工　直　　営



所在地　京都市伏見区横大路下三栖
　　梶原町53番地
敷地面積　14,220.28m²(4,309.19坪)
建築面積　2,023.06m²(　611.97坪)
延面積　3,605,90m²(1,090.77坪)
構造規模　鉄筋コンクリート，1階，
　　2階，地下1階
竣工日　昭和37年7年10日





所在地	茨木市大字蔵垣内151番地
敷地面積	66,980 m²
建築面積	9,649.6 m²
延面積	18,195 m²
構造規模	鉄筋コンクリート造，地上2階，一部鉄骨造，一部地下水槽および上部屋根裏ダクトスペース
竣工日	昭和37年11月30日

住友化学工業株式会社医薬事業部茨木工場

設計　日建設計工務株式会社

施工　東海興業株式会社大阪支店

第8回 工高生デザイン コンクール 入選作

課題：湖畔に建つ学生のためのボートハウス

主催 日本建築協会



工高生デザインコンクール入選賞牌

標題コンクールも8年の歴史を有することとなり，「工業高等学校建築科生徒の設計技能の向上奨励」に資しております。一層本事業を意義あらしめるため「入選賞牌の製作」について教育委員会（委員長中原茂）で検討を重ね実施担当は工高生デザインコンクール小委員会（主査杉本裕，委員吉田勇，増田幸次郎，寺岡真，奥山清治郎，斉藤暢）で，原案の作成について杉本裕，吉田勇両委員が中心となって昨年来努力を重ねてまいりました。昭和37年4月に原案を決定し，それが製造については，大阪造幣局に委託して8月初めより原型の作成の作業に杉本，吉田両委員が立合うなど鋭意製作への努力を積み重ねてようやく10月末に完成いたしました。

賞牌の原案は，サモトラケで発見された「ニケの像」をモチーフとしたものであります。「ニケの像」は紀元前360年デメトリオス・ポリオルケテスが，勝利をあげた海戦を記念して創られたといわれ，天帝の命により飛翔する勝利の女神であって，その翼は「ニケ」の生命を象徴しております。この賞牌が学生諸君の若い意欲と創造の形成に役立つならばとの希望を込めて，製作されたものであります。今回の入選者に贈呈し，こんご毎回の入選者にお贈りいたします。

設計要件

a. 敷地および建築の面積　敷地の大きさ，地形および建築の面積は自由とする。

b. 所要室および設備
- (1) 休憩室
- (2) 脱衣室（男女を区分し，ロッカーはそれぞれ15人づつとする。）
- (3) 便所，シャワー（男女を区分すること。）
- (4) 湯沸場
- (5) その他必要と思われる室
- (6) 桟橋
- (7) 学生の宿泊設備・管理室・艇庫・倉庫は別棟にあるものとし，図面に表現する必要はない。

c. 構造および階数　自由とする。

所要図面（単位m）

a. 平面図　縮尺 100分の1

b. 立面図　縮尺 100分の1(但し2面以上)

c. 透視図　仕上は自由とする。

d. 設計概要　図面の余白に100字以内で簡明に記入すること。



審査経過：審査会は，昭和37年10月８日午後２時20分より６時にわたった。出席者は，清水和弥委員長，足立孝・上田光雄・海上静一・田村克弘・鳥田家弘・長沢徹夫・彦谷邦一・吉岡吉雄各審査員であった。審査は本会４階集会室に応募全作品（94点，24校）を提示した会場で荒選びからおこなった。荒選びで38点の作品が残り，第２次では審査員の書面投票で第３次審査対象作品を選んだ。第３次審査対象の15点の作品について審査員相互の十分な批評，討議をおこない，募集規程に抵触した３点の作品を除外第４次（最終審査）審査は書面投票をおこない得票上位10点を入選作品に選んだ。入選作品中より審査員合議で，最優秀賞（一の会賞）を決定した。

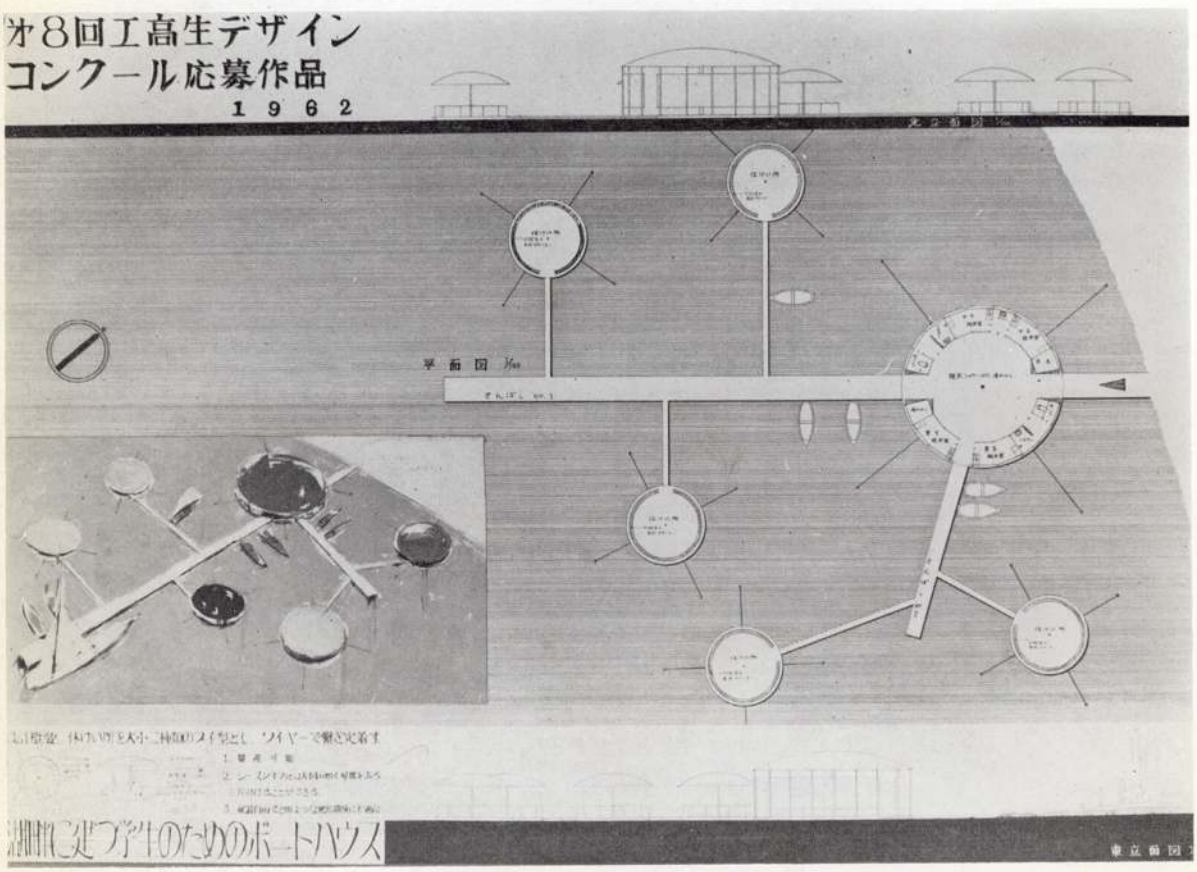
総　評：今年の課題は，学生生活の，しかも夏休みに関連のある問題であったためか，応募数が例年よりも多く，なかなか力作が多かった。アイデアのすぐれたもの，表現力のすぐれたもの，努力のあとの著しいものなど，それぞれの特長を持っていた。なかでも入選した作品を見ると，素晴しい表現力を持った作品は，アイデアの点でも，技術的な面でもすぐれていて綜合的な力量が現われているものであることがわかる。

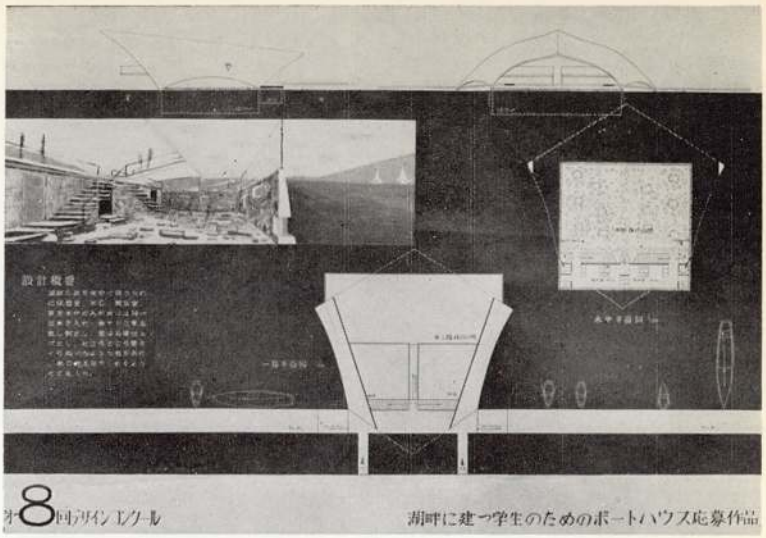
選ばれた10点については各短評によって感想を述べるが，最優秀賞の高田工高・高島忠雄君外３名協同の作品を得られたことは大きな収獲であったと思う。ただこの種のコンクールにおいては，その主旨からも，規模からいっても，協同設計による作品でなく，個人の作品として制作し発表するのが妥当ではないかと思うのである。また立派な作品で入選圏まで進みながら，募集要項の細目に合致しないために選外となったもの，例えば大分工高・後藤邦義君／東京工高・大岸文夫君・鈴木良三君(共同作)／都島工高・大野一男君／都島工高・小佐田敏和君の作品は「目印」「縮尺が異った」りしているため選外作となったもので，まことに惜しいことであった。やはりこれらのことにおいても定められたルールを守ることは大切なことである。

最優秀賞

新潟県立　高田工業高校
３年　高島　忠夫　　２年　馬場忠一郎
２年　斉藤　康夫　　２年　石川　千里

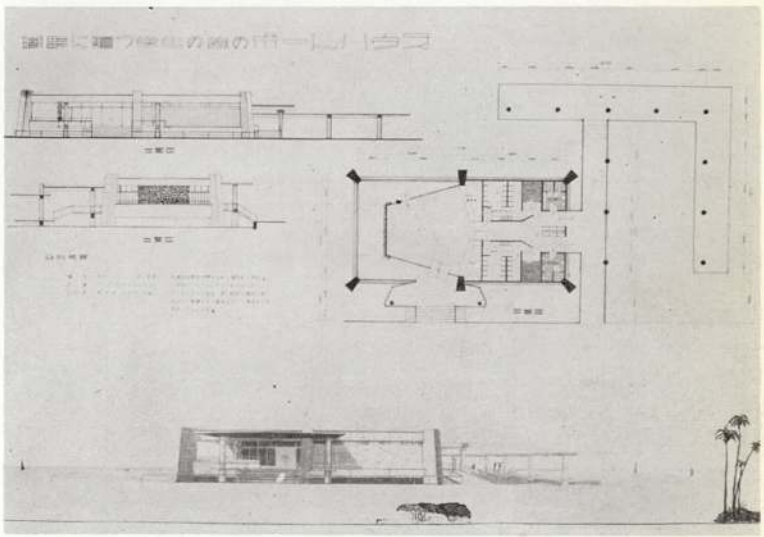
アイデアとしては抜群である。図面効果もすばらしい。少年らしいのびのびした作品で非常に好感がもてる。しかし，これを建築化すること，プラスチックドームの量産実施の方法については，また面白い問題が残されている。





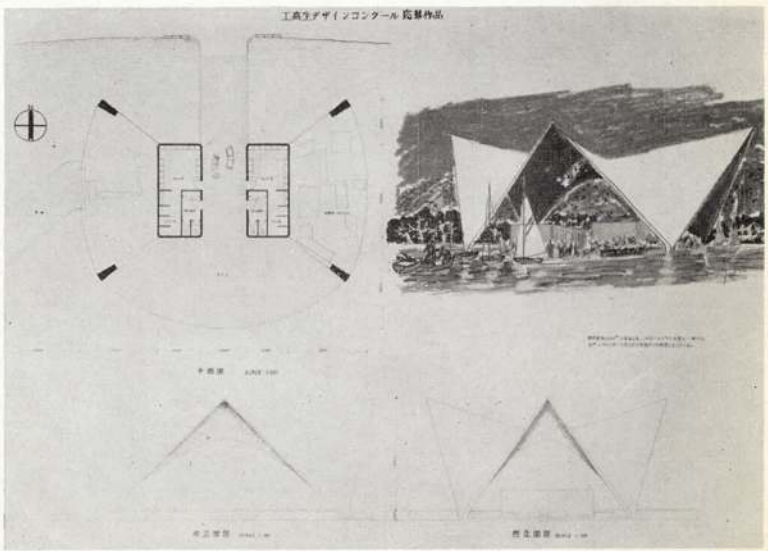
新潟県立　高田工業高校
3年　風間　秀公　　2年　田中　健蔵
2年　村山　陽子

色彩も，レイアウトも非常にすぐれている。しかし図面効果にとらわれすぎて，空間のつかみかたが足りないのではないか。また意欲的な着想は非凡であるが，構造，力学的な解決が問題である。



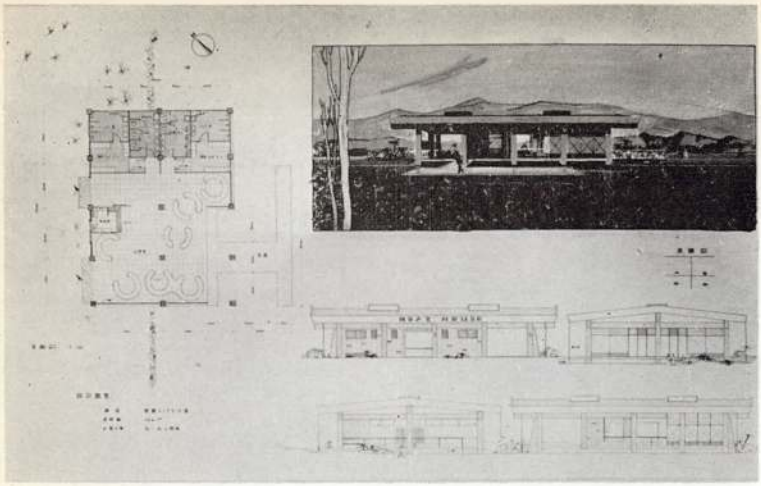
三重県立　伊勢工業高校
3年　内田　順三

面白さが少ないけれども，たいへん真面目な，努力のあとの見える作品である。表現力もその技法に今後の修練を期待したい。プランでは玄関からロビー，ベランダの扱い方に問題があろう。また湖と建物との関係，従って桟橋の計画にも夢がない。



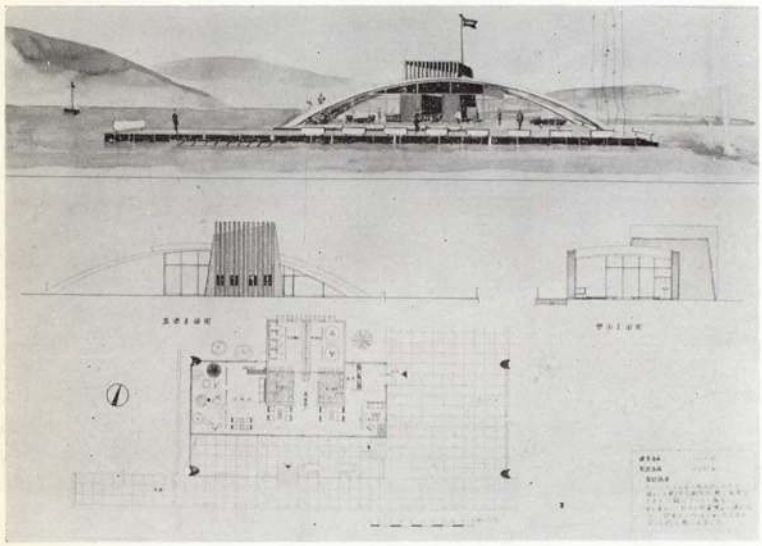
早稲田大学工業高校
3年　木下　二郎　　3年　菊川　武志
3年　酒井　輝行　　3年　青木　敏次
3年　平根一二三

着想がたいへんよろしい。単純明快な点と買う。ただこのような自由な空間をつくりながらコアの扱い方が整然としすぎていることに抵抗を感じる。水上ベンチの説明をはじめ，表現にもう一つものたりなさがある。



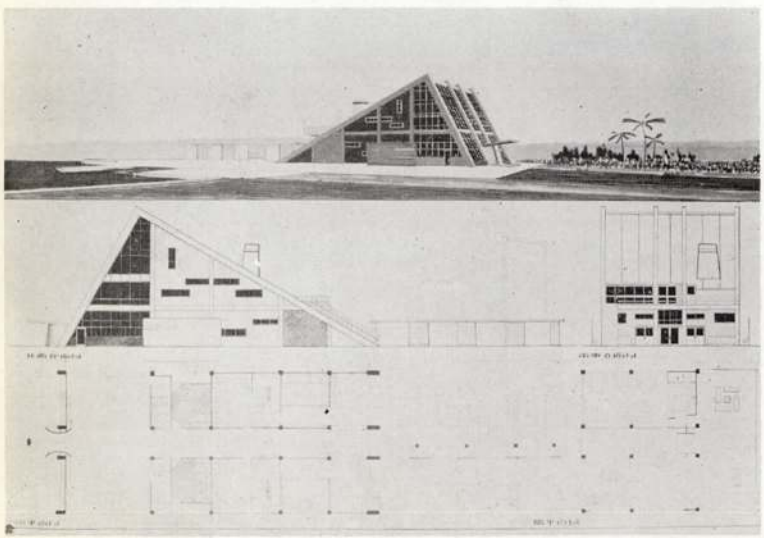
名古屋市立工芸高校
3年　宮島　和彦

非常に着実な構想で，図面のまとめ方も真面目ですぐれている。このまま実施に進めても問題のないプランであるが，それだけに学生らしい自由なのびやかさに乏しい。



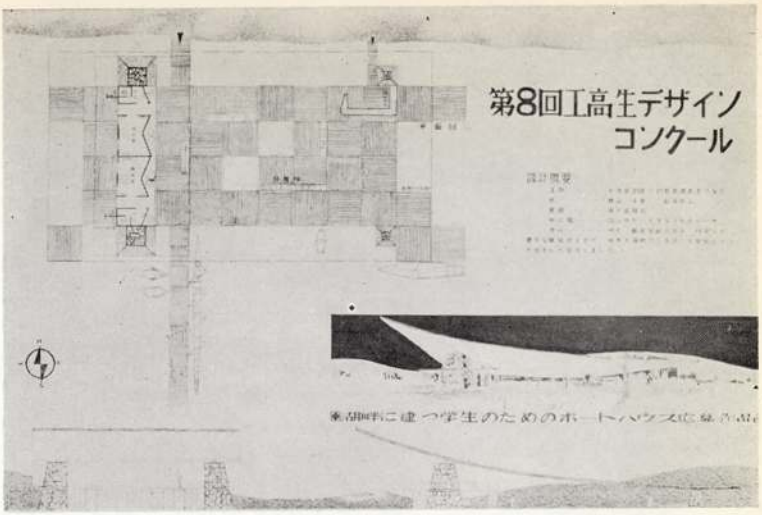
大阪市立　都島第二工業高校
4年　遠　　昭浩

ボートハウスというよりは，ヨットハウスとした方がふさわしい。よく感じの出た作品である。もう少しプランの整理をするとよい。全体的に線が弱い感じがする。図面効果について研究と修練を期待する。



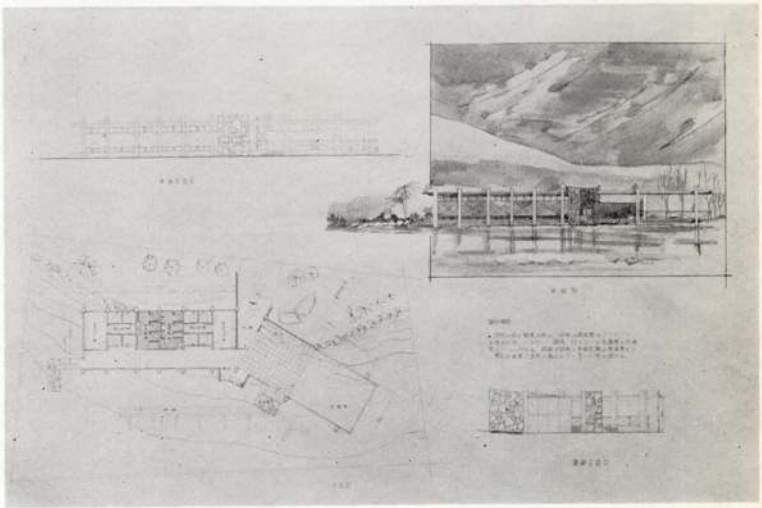
神奈川県立　神奈川工業高校
3年　矢島　英臣

努力を賞めたい。入選作品中では，大きなプランで，そのために設計要件に規定された縮尺で図面の配置をすることが苦しかったようである。製図技術も一応水準的といえるが，配置図の点景描写にももう一段の配慮がほしい。



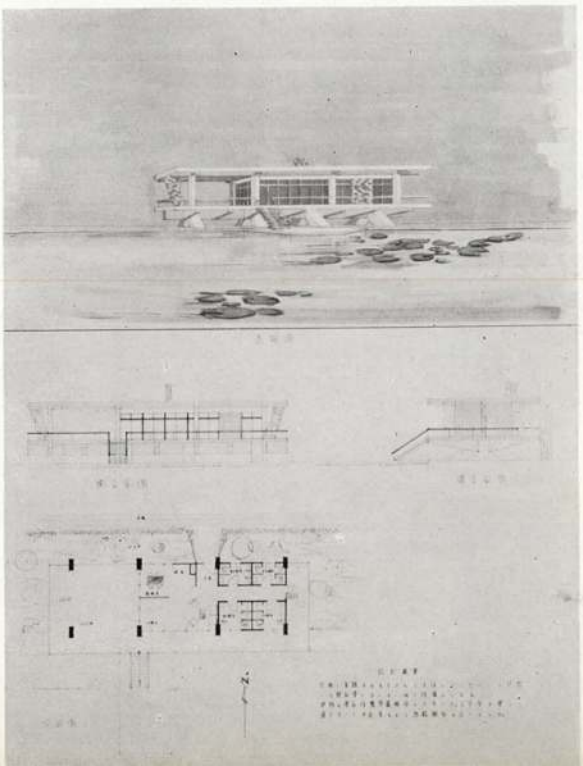
新潟県立　高田工業高校
3年　風間　秀公　　2年　丸山　逸男
2年　筆山　　武　　2年　岡沢　保彦

非常にすぐれた作品である。着想もよく，少年らしいのびのびした構想で，シンプルな解決もよろしい。ただ屋根版の構造的な検討は重要であり，またパースの表現がエレベーションの意図を忠実に示していないうらみがある。



名古屋市立工芸高校
3年　村瀬　　正

着想はたいへん着実であるが，足洗場から桟橋は未解決の感じである。図面の表現力を真面目に，時間をかけて充実させるべきである。色彩もまずい。また構造的な整理も考えてほしい。



名古屋市立工芸高校
3年　児島　　誓

たいへんまじめな作品であるが，平凡でもある。この程度に平凡なプランでゆくのなれば，柱脚の構造ももう少し検討されねばならないし，もっと素直にすべきであろう。また両妻の斜柱は意味がないのではないか。配置図は少しそまつな感じがする。



建築の眼

「担当」金本賢治・富永六郎・星野三雄・森脇久嘉

本号と次号は左記の執筆者が担当します

■ 買物と店舗

消費生活の慣れが日常生活に大分浸透してきたせいもあって，買物の「形」が大変変ってきた。デパートでの買物，名店街での買物，専門店でのおしゃれな買物など次第に色分けがはっきりして購買層の厚さを増すと同時に，メーカーの傾向が消費層への直結を望むため返品も可能とあって，商品のストック量や種類も多くて大変買いやすくなっている。しかしこうして楽しく買物できる場所は「さかり場」のあでやかさであって，細かい毎日の買物となると商店側はコストも小さくやりくりが大変とあっては店舗の見かけは二の次となってくる。明治時代からの公道にはみ出しての商売もなじみ深くて結構だが，こうしたケースが特に食品店に多いのは閉口する。店舗維持費と売上げのバランスからいって早急解決は無理かもしれないが，店舗設計にたずさわる技術者は，数からいえば大変%の高いこれらの店舗に対してこそ深い関心をもつべきで，商店側への当局の適切な指導を待ちたい。

(TR)

■ デザイン・ポリシーとしての工業化

建築産業の生産性は機械工業の約30%，農業についで低いものになっている。一方建築投資が年間を通じて国家予算に迫る大産業である。しかしそこに働く労働者の賃金・身分保障などについては日雇労務者に準じている。もちろん，それを許し，制度化したところの社会組織があることは事実だが，そのことにまったく無自覚な建築家が多く輩出したことも事実である。建築家の地位の向上を叫びながら，無自覚の故に建築業界そのものの地位の低下に協力してきたのが現状である。それどころか，工業化は建築の貧困を招くと，最近の工業化論議に反対する。貧困なのはその建築家のことであって，工業化は今日の技術的手段であり，業界の地位の向上——近代化（経営・労働・制度）にとって必須の方法である。建築のデザインは一つの作品を創るだけでなく，生産性と制度の近代化を要求してなされるべきものなのである。

(MH)

■ 総合の範囲

最近手にした雑誌に，日本破壊の共犯者，という有難くない肩書きを冠せられて，建築家の独善性，無定見性などが批判されている中に，建築家の総合感覚の欠如が問題とされていた。余人に指摘されるまでもなく，建築技術の見事な融和を誇る数少ない新建築でも，環境との連帯感まで総合造型を押し進め得たものの少ないことは事実だし，またその難しさもよく知っている。

しかし，Architecture の語源が，総合することにある以上，Shelter の内部的空間のみの総合術であってはならない。その外部空間と隣接する建物との響き，個から群の造型のリズム，換言すれば都市計画的見地からの総合造型であるべきであろう。

建築ジャーナリズムの写真にしても，一つの建物をスペース一杯に難しい足場から巧みに捉えてはいるが，より広角度からの客観視したカメラアングルを望みたい。この次元での造型が総合的に結実して始めて，ヴァレリーのいう歌う建築にお目にかかれるのではなかろうか。

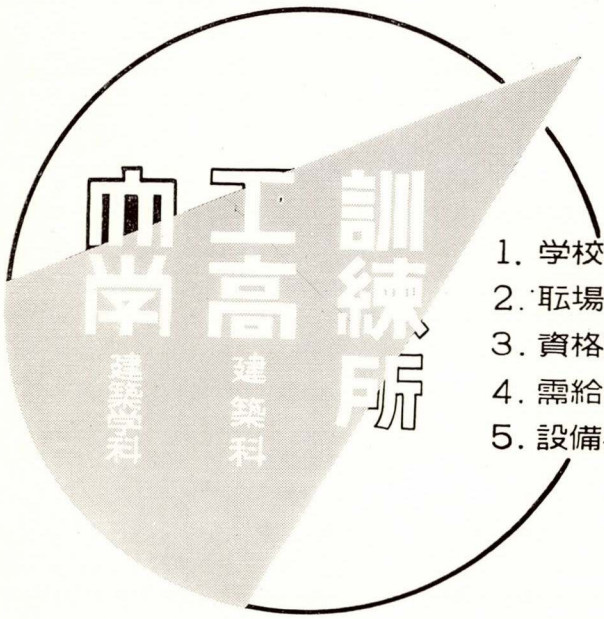
(KK)

■ 風土から生まれるもの

最近再び建築デザインの類型化に対して風土に密着した建築を，という声が聞かれる。建築というものが土地環境を離れて存在し得ぬことは当然なのだが，多くの建築家が地方の文化風土と無縁に建てられているとすると改めて建築家の設計態度は何か，と考えさせられる。それは設計前における気候，風土，敷地条件の分析，とその建物の性格の把握から平面および立体的機能の満足，さらに将来への発展のため弾力性（設備，構造面等の）といった諸条件を最も単純明確に造形的に素直に表現することだ。それにしても個々のディテールの遊びにとりつかれた建物のなんと多いことか。多角的な空間表現の追求なくしてつまらぬ技巧にとらわれては風土に立脚した建築は生まれないのだから，一つ雑誌など今年一杯は見ないで土地と環境にとりくんでみたら，むしろ個性的で優れた建築がもっと多くできると思うのだが，どんなものだろうか。

(HM)

特集　建築教育



1. 学校教育
2. 転場教育
3. 資格問題
4. 需給問題
5. 設備技術者の教育

1 学校教育

工高教育の問題点

兵庫県立尼崎工高教頭
犬束徳郎

1

工高における建築教育の問題点を拾いあげようといろいろ考えてみて気がついたことは，戦後の学制として工高ができた頃に論議された問題が，十数年後の今日までなお問題点として残されていることである。

例えば，「工高と大学の卒業者の技術的な差異はどんなものであるか」という教育目標の問題，「工高において最低線をどこに置けばよいのか」という学習内容の問題，「戦前は5年制，戦後は3年制，これで専門教育ができるのか」という修業年限の問題等々，さらに施設・設備の充実の問題など，十年一日のごとくくり言をいい続けている感じがする。

それぞれの問題が，いっこう解決されないままに残されてきたのか，解決するのには余りにも大き過ぎる問題であるのか，また，時勢の変遷につれて違つた形でくり返し問題が提起されているのかよく解らないが，問題点を述べるたびに，これらが何時になつたら解決されるのかと考えさせられる。

2

工高における建築教育の目標を把握するため，卒業後将来生徒が担当する職務を具体的に知る必要があり，学会その他の機関によって，卒業生の実態調査がなされている。その結果から考えると，請負業関係の現場管理に進む者が約半数，設計事務所や営繕方面に進んでも工事監理関係が多く，製図を担当していても小規模建築の設計か，ドラフトマンとしての製図が大部分である。

このことから，工高教育では工事監理のための教育—施工面の教育が必要だといえよう。

「学校教育において施工教育は，果して可能であろうか」という疑問も出ているが，本誌の昭昭31年3月号の拙文で述べたように，施工技術と経営管理法の科学化・標準化が進み，その基礎的知識・技能が明確にされることによって，学校教育の内容として取り入れることが可能になるであろうし，現に，従来の「建築施工」という科目も「建築工法」と「建築経営」という2科目に分かれるところまできている。今後，この面の開拓・進展が望まれるわけである。

施工教育を進めてゆくうえで，もう一つ問題となることは，教員の問題である。実務経験のある者が少ないこと，実務経験があるとしても10年ほど前の経験であったりして，最近のめざましい施工技術や，経営管理に触れたことがない教員が多いのが実情である。そこで，できるだけ実務経験のある人達を教員として迎えたいが，現場から教員を迎えるさいに，最も大きい障害となっているのは給与の差があり過ぎることである。この待遇の問題は，現場から経験豊かな先生を迎えるときにも問題となるが，また有能な教員が業界の方へ流れ出る原因ともなっているので，技術教育にたずさわる教員の待遇は，業界の技術者のそれと差がないようにする必要がある。

さて，学校へ新らしい経験豊かな人を迎え入れても，やがては業界の進歩から離れてゆく結果になってしまうから，一方では現場から教員を迎えるとともに，他方で業界とたえず連けいをとって，技術や経営管理法についての研修できるようにすることがたいせつである。

3

建築教育の内容または方法の問題で一応考えられることに，実験・実習をどうするかということがある。

昭和38年度から実施予定の改訂学習指導要領によると，建築実習の内容として，（1）施工，（2）材料，（3）構造，（4）測量，（5）設備，（6）その他が掲げられて，施工実習として，木工実習，各工事別の施工実習，工事用機械器具の実習などをあげ，従来の指導要領よりも巾広い実験・実習を示している。

しかし，現場の学校では，木工実習，木工事実習，材料実習，測量実習ぐらいしかできないのが普通で，構造実習とか設備実習については，内容も標準化されていないし，装置や設備も普及していないので，整備された学校で研究的に試みられている程度であるというのが現状である。

実験のあり方として，考えている2～3の点をあげてみると，材料実習についても，力学的な実験に終始せずに，鑑別的実験，機能や耐久性に対する性能実験なども併せ考えるべきであろう。また，計画・設備面の実験を多く取り入れて，実感的・体験的に建築環境のデーターを把握させることがたいせつである。このためには，従来高度であると考えられている実験については，基本的なものを抽出したり，測定具や操作方法の簡易化をくふうして，やり易い実験としてゆく必要があろう。

4

実験・実習を考えてゆくと当然施設・設備の問題につき当る。

実験実習用の施設・設備は，産業教育振興法が制定され，国の補助によって，産振法の基準に基づいて充実されてきた。また，特別設備としてそれ以上の設備の充実も行なわれて，一部では設備過剰であるとさえいわれるぐらいになった。もっとも，設備過剰というのは，現状での施設，教員，運営経費を基としていっているのであって，びっこのように設備面のみ急速に整備されたというだけのことである。

よく見ると，この産振法の基準には，予算獲得のための配慮から相当きり詰められた内容となっていること，基準作成に当って当時の教育内容を基礎としてその改善とか将来の見通しの配慮が殆どなされなかったこと，短期間の間にまとめたのでじゅうぶんな調査をする余裕がなかったこと，基準として掲げる品目の範囲の検討が乏しく消耗的器材まで含めていることなど，相当数多くの問題がある。

さらに，国として70%まで補助するという操作上のめやすがそのまま設備充実の目標になってしまったり，国の補助を受けた品物については，10年たった後でも更新ができないということが起っている。

このような実情では，せっかくの産振法も，運用上の実態から見ると，功罪ともにあるといわなければならない。

5

教育目標から教育内容を考え，必要な教材を組織してゆくと，教科・科目とその授業時数の配当ということになってくる。技術の進歩に即応しうるよう，教科・科目を編成してゆくと，結論的に修業年限が不足になってくる。

修業年限の不足の問題は，高校に切り替えの当初からの問題であったが，その解決方法の一つとして，昭和37年度から高等専門学校が設置されるようになった。

高等専門学校の卒業生が業界からどのように受け入れられるかは，実際に卒業生が出てみないと解らないが，修業年限が2年多いこと，数学・外国語・専門科目の授業時数が工高の2倍に相当するだけ計画されていることなどから考えて，相当充実した技術教育ができるであろうと思われる。ただ，高専の計画が大学に近い人達で行なわれていること，教授陣の資格や編成の状況などから考えて，低学年の学生がどれだけ理解できるかちょっと心配になるが，杞憂にすぎないことを祈っている。

6

従来，大学——高校という2段の体系であったのが，大学——高専——工高という3段の体系となってくると工高生の業界での受け入れられ方が少し変ってくるのではないかと考えられる。

工高の生徒の進路に関しては，高専の出現による変化の問題よりも，もっと以前からの，もっと深刻な問題がある。

それは，中学校から工高建築科に入ってくる生徒を見ると，果して建築に対し理解や興味を持って，または将来の進路としての自覚を持って入学してきているのだろうかと思うほど，建築を知らないで漫然と入ってくる生徒が多く，しかも，同じ工高の中でも頭のよいのは機械や電気を志願し，頭が悪いからというか学力が低いのが建築を志願するという傾向が多く見られるのである。

これでは，中学校の先生が建築を知らないで，適切な指導をしていないとも考えられるが，よく父兄の内実の要望を見ると，建築に対する理解ということを超えた，社会全般のしくみと関連して生じている現象であることが解る。それは，一つには工高に入れば同じ系統の工学関係の大学にすら進学が困難であること，もう一つには工高を出ただけでは学歴偏重という壁につき当って昇進がはばまれることなど，冷厳な事実があることからきている。父兄はこの事実をよく知っているからこそ，大学に入ることに努力し，やむを得ずそれ相応のところに進学させているのである。

池田首相の「人づくり論」とも関連して，経済審議会の人的能力開発委員会では，技術革新に即応しうる有能な技術者を引き出す方法として，実力主義による雇傭に切り替えるべきであると指摘している。定年制の雇傭と学閥主義とが基底となっている現状を打破することは，そうたやすく実現できないことであろう。その実現がなされない限り，理想的な進路指導が行なわれることを望めないであろう。（37.11.14）

工高の教科内容

大阪府立今宮工高建築科長
乾　　亮三

工業高校における建築科の教育については，許された範囲内において各校ごとに特色のある教育が行なわれているので，一概にこれを説明することはなかなかむつかしい。したがってここでは，直接のより処とする学習指導要領を参照して説明することとし，主としてすでに事実上移行しつつあり，38年度から学年進行をもって実施されるものに準拠して述べる。

1．工業高校における建築科の教育目標

工業に関するおもな学科は建築科を含めて17学科があり，それぞれの特色をもつものであるが，建築科では次のような目標に対して教育が行なわれている。

「建築に関する知識と技術を習得させ，建築技術関係の分野において，建築物の設計，監理，施工，行政などの業務に従事する建築技術者を養成する」

業務の内容としては次のようなものを想定して，上の目標を定めている。すなわち，①設計業務（敷地や地盤の調査，測量各種の設計図面，構造計算，設備設計，仕様，積算，申請手続など），②監理業務（工程・工法の監理，工事検査，査定など），③施工業務（積算見積，施工計画，現場管理など），④行政的業務（建築行政関係），⑤財産管理業務（施設管理）であって，具体的には，建築の文化的社会的意義を理解せしめ，建築技術者の地位と使命を理解せしめるとともに建築工業発展への意欲を高揚させるため，科学的，技術的な学習を行なわせるとともに建築技術者となるに必要な態度，習慣，情操，品性を養うものである。

2．教育課程の編成と学習量

高等学校においては，その地域や学校の実態を考慮し生徒の能力，適性，進路に応じて適切な教育を行なうように，教科，特別教育活動および学校行事などを適当に組合せた教育課程を編成しているが，これらは教育基本法，学校教育法をよりどころとし，学校教育法施行規則，高等学校通信教育規定，高等学校学習指導要領，教育委員会規則などに従って計画されたものである。俗に教課，学科などと呼ばれているのは上の教科を指していることが多い。

高等学校を卒業するために必要な教科の学習は85単位以上を修得させなければならないが，実際には工業高校（全日制）は，特別教育活動（ホームルーム，生徒会活動）3～6単位を含んで合計105～111単位くらいに定めているのが普通である。また，すべての高等学校（普通科，職業教育を主とする学科，音楽に関する学科，美術に関する学科）において必修させなければならないのは，一般に普通教科と称せられるもののうち，国語（現代国語と古典甲または乙Ⅰ），社会（倫理・社会と政治・経済を含め4科目），数学（数学Ⅰ），理科（2科目），保健体育（保健と体育），外国語（1科目）の6教科とその科目であって，職業を主とする学科（建築科はこれに当る）においては以上の教科，科目（科目とは上記のカッコの中に示したもの）のほかの科目および芸術（音楽Ⅰ，美術Ⅰ，工芸Ⅰ，書道Ⅰのうち1科目）を含めて合計44単位以上，女子に関してはさらに家庭（家庭一般）をなるべく履習させることになっており，いわゆる専門科目としては工業のうちから35単位を最低とし，なるべく40単位以上となっているが，工業高校（全日制）においては大たい102～108単位くらいで普通教科と専門教科の比はほぼ半々の状態が普通である。

単位というのは1単位時間を50分とし，1個学年35単位時間の授業を1単位とするもので，年間授業時間約35週であるから普通は時間割表における1単位時間のものを1単位とみてよいことになる。また1週の授業時数はホームルームを含み，34単位時間を標準とし，原則としては38単位時間をこえないように指示されている。工業高校においては大体35～37単位時間くらいであって，37単位時間を採用している学校が多いようである。

3．建築科の教育課程

建築科の具体的な目標を達成するために必要な科目は教科としての工業のうちから選択して編成されているが大たい各校に共通しているものは，建築実習，建築設計製図，建築材料，建築構造，建築構造力学，建築構造計

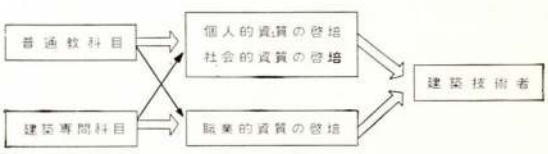


図　　1

表1　一般向き教育課程の一例

教科	科目	学年				
		計	Ⅰ(Ⅰ)	Ⅱ(Ⅱ)	Ⅲ(Ⅲ)	(Ⅳ)
国語	現代国語	7 (7)	3 (3)	2 (2)	2 (2)	
	古典(甲)	2 (2)		1 (1)	1 (1)	
社会	倫理・社会	2 (2)		2	(2)	
	政治・経済	2 (2)			2	(2)
	日本史					
	世界史A	3 (3)		3 (3)		
	地理A	2 (2)	2 (2)			
数学	数学Ⅰ	5 (5)	5 (5)			
	応用数学	6 (6)		3 (2)	3 (2)	(2)
理科	物理A	3 (3)	3 (3)			
	化学A	3 (3)		3 (3)		
保健体育	体育	7 (7)	2 (1)	2 (2)	3 (2)	(2)
	保健	2 (2)	1 (1)	1 (1)		
芸術	音・美・工・書	1 (1)	1 (1)			
外国語	英語	9 (6)	3 (3)	3 (3)	3	
小計		54 (51)	20 (19)	20 (17)	14 (9)	(6)
工業	建築実習	6	2	2	2	(7)
	建築設計製図	15 (17)	4 (2)	4 (2)	7 (6)	
	造形	2	2			
	建築材料	2 (2)	2	(2)		
	建築構造	4 (4)	2 (2)	2 (2)		
	建築構造力学	4 (3)	2	2	3	
	建築構造計算	3 (2)			3	(2)
	建築史	2 (1)			2	(1)
	建築計画	4 (3)	2	2	(3)	
	建築設備	2 (2)			2	(2)
	建築測量	2 (2)		2	(2)	
	建築工法	3 (2)			3	(2)
	建築経営	2 (2)			2	(2)
	建築法規	1 (1)			1	(1)
	電気・機械	2	2			
小計		54 (41)	18 (4)	14 (6)	22 (14)	(17)
特別教育活動		3 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	(1)
総計		111 (96)	37 (24)	37 (24)	37 (24)	(24)

備考　表中の数値は単位数，（　）は定時制の場合を示す。

算，建築史，建築計画，建築設備，建築測量，建築工法，建築経営，建築法規，造形の14科目のほか必要に応じ測量（土木で扱うような広範な測量のこと），造形・意匠（あらゆるデザインに応用できることを目標とするもので，上の造形とは異る），機械一般，電気一般，土木一般，自動車一般などの一二の科目が選ばれている。したがってそれぞれの学校においては必ずしも同一ではなく，個々の科目の単位数，履習学年も異る場合があり，それぞれの学校における特色をもつものである。

これらの専門科目は，図1に示すように普通科目の教育と相まって所期の目的を達成するものである。

以上のようにして編成され運用される教育課程は，諸種の条件によって自ら特色を持つようになる。これを大別すると，①一般建築技術者向き，②設計業務向き，③施工または設備業務向きの三種となるが，実際にはいろいろの制約を受けるので②③は①に比べ，わずかに重点を示す程度のものになっているのが普通であって，一般には各種の需要に応じうるよう，①またはこれに近い形をとる結果になるのが普通である。

一般向きの場合について標準的なものと思われるものの一例を示すと表1のようになる。表中の（　）は定時制の場合を示すものである。

4．建築専門科目の内容

建築専門科目の主なものについてその内容を示すと以下のようになるが，各校とも必ずしもこれらの全般にわたって実施するのではなく，状況に応じ取捨選択し，重点的に教育

効果の上るよう運用されているものであるからこの点からも若干の特色がつくものである。

4.1 建築実習　建築に関するすべての科目の学習を基礎として，建築施工に関する技術や態度を実験的・体験的かつ総合的に学習させるもので，その内容は，施工，材料，構造，測量，設備などである。なおこの科目は夏期休業期間などを利用した現場実習を計画的に行なわせるのが望ましく，さらに建築設計製図と融合させて総合的な実習を行ない，一段と効果をあげるようくふうすることもできる。

4.2 建築設計製図　建築設計に関する諸科目を基礎として，建築設計製図の実技に習熟させるとともに建築設計に関する技術を総合的に学習させるもので，その内容は，建築製図法，木造建築に関する設計製図，鉄筋コンクリート造建築に関する設計製図，鉄骨造建築に関する設計製図，特殊コンクリート造・組積造建築に関する設計製図などであって建築実習，造形を融合させるなどのくふうもできる。

4.3 建築材料　建築工業に使用されるおもな材料の組成・製法・性質・用途・試験法・規格などを理解させ，使用目的に応じて材料を正しく選択し，合理的，経済的に活用できる能力を養うもので，その内容は，建築材料の概要，各種建築材料，材料試験などである。

4.4 建築構造　建築物の構造法を理解させ，建築物の構造を科学的，合理的，経済的に計画し，設計するための基礎的能力を養うもので，その内容は，建築構造の概要，基礎構造，木構造，鉄骨構造，鉄筋コンクリート構造，特殊コンクリート構造，組積構造，防災要項などである。

4.5 建築構造力学　建築構造物を力学的に考察判断する能力をつちかい，あわせて構造計算の基礎能力を養うもので，その内容は，力と構造物，静定構造物，材料の力学，不静定構造などで，場合によっては建築構造計算と融合して学習させることができる。

4.6 建築構造計算　各種建築物の構造を合理的に計画し，構造各部を算定する能力を養うもので，その内容は，建築構造計算の概要，木構造計算，鉄骨構造計算，鉄筋コンクリート構造計算，特殊コンクリート構造計算などで，場合によっては建築構造力学と融合して学習させることができる。

4.7 建築史　建築発生の素因を理解させ，過去の建築の様式と技術および歴史的な建築にあらわれた努力を知らせることによって，新しい建築創造の意欲を養うもので，その内容は，建築の発生，日本建築史，西洋建築史，近代建築史などである。

4.8 建築計画　建築計画の諸要素を理解させ，建築物を科学的，合理的，意匠的に計画し，設計するために必要な基礎的知識と能力を養うもので，その内容は，建築計画の概要，計画原論，各種建築の計画，都市計画の概要などである。

4.9 建築設備　建築物の諸設備に使用する資材・機器類について理解させ，その設計と管理の能力および科学的に考究する態度を養うもので，その内容は，建築設備の概要，衛生，給排水，消火設備，暖冷房，空気調和設備，電気設備，搬送設備，雑設備である。

4.10 建築測量　建築設計および施工に必要な測量の基礎知識・方法を理解させ，測量および計測ができる能力を養うもので，その内容は，測量の概要，距離測量，平板測量，水準測量，トランシット測量，建築測量および測設などである。

4.11 建築工法　各建築工事の技術的方法を理解させ，監理者および施工者として監督指導する能力と態度を養うもので，その内容は，建築工法の概要，敷地および地盤調査，仮設工事，主体工事，仕上げ工事，工事用機械などで，場合によっては建築経営と融合して学習させることができる。

4.12 建築経営　建築工業の特性，経営管理について理解させ，経営に伴う諸業務を理解し，処理する能力と態度を養うもので，その内容は，建築経営の概況，設計業務の概要，施工業務の概要，積算，見積もりなどで場合によっては建築工法と融合して学習させることができる。

4.13 建築法規　建築関係の諸法令の意義とその内容を正しく理解させ，関係法規についての知識と応用能

力を養うもので，その内容は，建築法規の概要，建築基準法，建築士法，建築業法，その他の法令である。

4.14 造形　平面・立体の調和的構成を習得させ，あわせて作品の原形，模型を製作するのに必要な能力を養うもので，その内容は，造形概説，平面構成，立体構成，彫塑，原型，模型などである。

4.15 電気一般　電気関係以外の学科において，電気の基礎理論と電気に関する施設・設備・機器などの構造・特性などの概要を理解させ，電気施設・機器などの簡単な取扱いができる能力を養うもので，電気理論，電気計測，電気機器，電力施設設備，電気応用，電子工学などである。

4.16 機械一般　機械関係以外の学科において，機械に関する広い知識と基礎的な技術を習得させ，機械技術の文化的・生産的価値を理解させ，これを通して近代の機械技術に対する認識を深めるもので，その内容は，機械工業，機械材料，機械の要素の設計，機械工作，原動機，各種の機械設備などである。

5. 施設と設備

学校教育において教育効果を十分なものにするために必要にして欠くことのできないものは所要の施設・設備と教員の充足ならびに十分な予算措置などである。後二者については今日なお諸種の複雑な事情を含んでいるのでここでは施設・設備の概要を述べることにする。

施設とは校舎や実習場などの土地や建造物，設備とは教材，教具，備品など主として可動的なものを指し，以上に述べた目標に到達するためには必ず充実させなければならない。

産業教育振興法施行令，同施行規則に定められた施設設備の基準（27.4）によると**表2**に示すようになるが，これに要する費用は他学科に比べ低額であり，従来各方面であらゆる努力が払われているにもかかわらず，これを充実している学校は，まず皆無に等しいと考えても過言ではないのが実情のようである。ここにまず教育の実施面における困難な問題を含んでいるわけである。

昭和38年度を期して，新しい学習指導要領が実施されることは須知のとおりであり，小，中学校ではすでに全面的に実施されている。したがってこれを具体的な実行に移すためには当然，施設・設備の基準も改訂されなければならないはずで，文部省では種々研究の結果，**表3**のような案を発表（36．10）されたが，風説によると相当量の削減が予想されることと，決定までにはなお相当の時日を要する見込みのようである。とはいいながら今日なお休むことなくあらゆる努力を傾注して不足を補いながら教育が続けられているのが現状である。

表2　施設・設備の基準

所要室名	施設の面積	設備の所要額
製図室	65坪	998,300円
施工実習室	110坪	1,144,700円
木工機械室	60坪	957,500円
材料試験室	40坪	1,664,100円
デッサン室	40坪	141,600円
測量機械器具室	10坪	424,500円
模型標本室	40坪	675,000円
合計	365坪	6,005,700円

表3　施設・設備の基準改訂案

（1学年1～2学級の学校について）

所要室名	施設の面積	設備の所要額
製図室	330m²	5,071,500円
設計実習室	264m²	4,578,000円
木造実習室	198m²	1,947,500円
施工実習室	495m²	9,652,100円
木工機械室	165m²	7,455,000円
材料実験室	264m²	18,200,000円
構造実験室	132m²	4,521,500円
造形実習室	198m²	2,406,800円
測量実習室	132m²	3,251,000円
計画実習室	264m²	7,433,400円
設備実習室	198m²	8,607,500円
模型標本展示室	264m²	8,893,000円
合計	2,904m²	82,017,300円

大学教育の問題点

工博・阪大教授
鷲尾健三

1. 大学教育の任務

大学は社会自身の教育作用の1表現である。

大学教育の目的とか，任務など，大学がどうあるべきかということは，論じつくされているといってよい。また，形式的にいうと，大学令その他の法律でも規定されている。したがって，このようなことについて，今更，何もいうことはない。にもかかわらず，忘れてはならない，大切なことを，ツイ，ウッカリしているのではないかと，反省してみるだけの必要はある。

いうまでもなく，「学校」は，人間社会が，自分の次代の社会を構成すべき人達を育てるために造っている，社会自身の，自身のための機関である。これは，人間が，人間以外の動物に比べて，生後，いろいろな多くの訓練の結果，やっと，一人前のものになるという，絶対的といってよい特徴に基いている。大学は，その機関の一つである。この，大学は，本来，人間社会が要求する教育作用を分担するものの一つであるという，明白な事実を，われわれは，忘れていないであろうか。

大学卒業者は，主に人間社会の指導層として社会に貢献する。したがって，その時代よりも，はるかに将来を見通す能力が必要であるなどといわれる。しかし，その将来への見通しは，その大学を造った社会のためのものでなければならない。いくら新しいことといっても，世の中とは切り離せない。したがって，大学教育は，何でもよい，未解決のことに取り組み，それを解決して行く能力をもつ人間さえ造ればよいなどと，簡単にはいえない。それを，われわれの社会が要求しているかどうか問題である。今の社会の，今の要求というように，それを狭く考えたくはないが，逆に，今に自分達のいうようになるから，お前達の頭を切りかえろといった態度で，大学を造った社会の方に，シャニムニ自分等の考えを押しつけるだけというのは，正しくはない。それは，お前の生活様式を，わしの設計した住宅にあわせろというに等しい。これが依頼を受けて設計する建築家にふさわしくないことは，いうまでもない。

大学では，学術のウンノウをきわめる所であるともいわれる。ただそれだけを，社会が要求するのならよいがでなければ，それは，行き過ぎではなかろうか。研究はそれを本務として造られている研究所ですべきもの，大学における研究は，研究のための研究でなく，教育のための研究でなければならないと考える。もちろん，研究者は，それでないと教育はできないが。いろいろな仕事の分化が未発達であった昔と，巾広くややこしくなった今の時代とは，同じとは考えられないからである。

2. 大学の教官

教官は，教育という仕事の従事者である。

大学でも，教官第一義の任務は，教育であると考える。附置研究所があったりして，ややこしいが，研究所では，当然，研究が任務で，両方に，同じ「教授」などという職名を使うから，コトがややこしくなる。

教官の任務が教育であるとすると，教官の値打ちは，その教育した卒業生の社会での活動の結果で測られる。教官自身による研究成果は，つけたし，景品みたいなものではなかろうか。しかし，大学のように，社会の指導層を養成すべき所では，その効果は，長年月経たないと判らないし，たとえ，卒業生が立派な活動をしていてもそれが大学での教育の結果なのか，あるいは，むしろ，大学以前に身につけた，その人自身に由来するものではないかと考えられるところに，問題の難しさがある。

大学は，研究者をも教育・養成し，また，社会の指導層として，未知の難問と取組んで，それをさばいて行く人達をも造り上げなければならない。したがって，広い意味での研究ということを教えておく必要もある。これが，ナカナカ教えられない。「教育」自身がそうであるように，教えられようとしない人達に教えることは，不可能であるといってよい。しかも，何をどう取上げることになるのかわからない将来に備えて，研究ということを教えるのは，全く難しい。眼の前で，研究している姿を見せ，あるいは，一緒に手をとりあって研究している間に，自分で勝手に悟って貰うより外に，仕方がないらしい。教官にとっては，「研究」を教えるよりは，むしろ，その「研究」をやらせてもらう方が，どれだけ楽かわからない。

教育という仕事に従事し，卒業生達が，ホントに世の中でお役に立っていてくれるかどうかに注意していると自分達の教育がどうあるべきかというようなことに，ある程度の関心と意見を持つようになるのは自然であり，社会の指導層の卵を送り出すべき大学の教官が，世の中の将来を憂え，われわれの社会の教育がどうあるべきか

について発言するようになるのも，無理からぬ所はある。しかし，大学教育を依託している社会に対し，依託されている側の教官が，その意見を述べ，資料を提供するまではよいが，万一，自分達だけが知っているかのように考えたり，発言するようになれば，それはあまりにも一人よがりであり，行き過ぎではなかろうか。まして自分がお世話した卒業生の活動振りから帰納して，真に社会の指導層として将来に貢献する人達の，教育・養成はいかにあるべきかということについて，一見識を持つことができるようになるのには，近頃の伸びた人間の平均寿命をもってしても，到底おっつきそうにないからである。したがって，大学教官も謙虚でいてほしいが，世の中の方でも，大学教官をあまやかし過ぎないで，むしろ，自分等の次代のための教育問題を，まず自分自身で考えてほしいものである。

3．大学の卒業生

卒業生は，社会が教育を依託してできた結果である。

極端ではあるが，学校は加工々場，卒業生はその製品と割り切って考えた方が，万事わかりやすそうである。大学教育の効果は，卒業生の，社会での指導的な活躍振りから帰納されるが，ただ，大学教育で，どれだけつけ加えられたものなのかよくわからない所に問題がある。大学教官が，その卒業生に誇をもつのはよいが，その誇が自分からきているかどうかなど，厳しく自省したいものである。卒業生を批判し，甚しくは，非難したりなどする権利がはたして，自分にあるだろうかなどと。

大学教育の効果が，世の中での卒業生の活動から帰納されるとすると，その効果の測定・反省には，卒業生一人一人を，ズッと追跡していくより外に方法がない。これは，大学の側としても，必要なことではあるが，実は大変な仕事であり負担である。教育を依託した主人公である世の中の方で，その効果を測定して貰えれば，至極能率はよくなるのだが。

駅弁大学などと悪口される大学は，大戦終了後，社会の方が造ったので大学が造ったのではないはずある。それらが，それぞれの地方で特色をもち，存在意義を主張し得るかどうかは，その卒業生の迎えられ方できまる。もし，それが不満足なら，望む卒業生が得られるようにすればよいのだが，それは，その大学だけの力でできることではないし，また，その大学だけの仕事でもない。むしろ，周囲の社会の力の方が大きく，また，その造った側である社会の責任でもある。

あの大学の卒業生は，どこが拙いとか，何を専攻する卒業生を，どの地方で，どれ位ほしいとかなどということは，教育を依託した社会の方で考え，結論を出し，対策に乗り出すべきことと考える。大学の教官だけが，そんなことを，ワイワイいわなければならないようでは悲しい。大学教官が社会から，それほど信用され，まかされているということは，大学教官にとって光栄至極ではあろうが，話の筋道としてはおかしいし，まして，教育を依託した側の社会が，それらのことを，何も考えなくてよいはずはない。自分達自身の問題なのだから，大学教官に面と向ってはご機嫌をとったりなどしないで，強く要求し，積極的に，要求が実現されるようにもっていってほしいものである。それは，教育作用の主人公は，世の中の方だからである。しかし，大学卒業生を製品と割切ってみても，社会に出てからもドンドン成長するから，その点，普通の製品とは異なる。受け入れ方が悪いために，その能力を発揮できない場合があるだけでなく，職場で悪い癖をつけて，ダイナシにしてしまうことさえある。教育作用の主人公である社会の方でも，大学卒業生は，ドンドン成長する生きた人間であり，自分達次代の構成員，したがって，自己の延長であり，将来への希望であることを忘れないで，卒業生を大事に，そして，上手に迎えてほしいものである。

最後に，つけ加えたいことが一つある。昨今，大学卒業生はヒツパリダコで，悦に入っているらしいが，何もそんなに得意になってソリかえることはないと思う。このような需給関係からくる現象は，単に，数字の上だけのことであり，その人間，その人格が迎えられていないうたがいがある。いいかえると，単なる製品，品物とみられている面が，強調されているためであると考えられないこともない。深く自省して，社会に出てからも努力・勉強して，自分の仕事振りやその内容が，社会にとって貴重なかけがえのないものになるようにしなければ世の中において，真に自分の存在を主張することができるようにはなれないのではなかろうか。それでは，何のための大学卒業生だといわれても，返答に困ることになりはしないだろうかと，きびしく反省してみてほしい。

大学における建築教育の問題点

工博・京大教授
増田友也

1. Image について

われわれは，何ものかをつくろうとする場合，まず，つくられるものの Image をもつことから始めなければならない——建築をつくる場合も，都市計画を行なう場合も，あるいは，建築家をつくる場合にも，われわれは，それらのものの Image をもたなければならぬのである。

この Image は，いうまでもなく，初めには漠然たるものでもあろうし，またそれは，つくりながら次第に固定されてくる，ということもあろうが，とにかく，つくろうとする何ものかが，何であるかという明らかな思念なしには，ものの制作はあり得ない。

いま Architectをつくろうという場合その Architect とは何であろうか。学校教育の全課程ののちに，卒業生たちのうちに形成される Architect とは，一体何なのであろうか——そのことから考えてみたい。

われわれは過去に，非常に多くの Architecture をもっている。なかんづく，現代建築以降の建築観念の多様さは，まるでそれが観念そのものの混乱であるかのようにみえるほども多様である，といっていいだろう。してみれば，同じように，Architect 像もまた多様であると考えられる——古典主義的傾向の Architect もあろうし，また浪漫主義的傾向の Architect もあるであろうし，建築という固定観念に保守的な人達もあろうし，懐疑的な group もあり得るであろう。けれども，これらのすべての陣営に属する Architect のつくるものに共通なことがらは，それらはいづれも，何らかの意味での，生活の場を具体的に実現している，ということであろう。

もしこの通りであるとすれば，生活の場をつくる，というそのことに Architect 像を求めるのが，一番本源的であり，それだけに，もっとも広い態度であろうといえよう。

ところで，生活の場をつくる，ということは，そこで行なわれるさまざまな生活，あるいはその生活を通じて人間を洞察し，理解し，またその人間とその生活の場との交渉のし方を識り，その場の空間的構成の技法や，その工学的，技術的解決をした上で，実際的にそれを施工していくことにほかならぬ。Architect は，Architect として立っていくためには，これらの能力をもっていなければならぬのであるが，それはすこぶる広く，かつ多様であって，今日，これだけの能力を一人の身にもつということは，ほとんど絶望的に近いとまでも考えられもするのである。そういうことから，Architect そのものの存在の可能性を疑ったり，または，Architect の分化を指摘することもしばしばであろう。けれども，少くとも，これらの広さと多様さに，眼と心とを配るものがいないかぎり，これらの個々の能力が，充分に発揮され，一つの有機的な全体に組織されることはあり得ないのである。

Architect は，これらの分析的な，同時に，総合的な能力をもつのみならず，そこに具体的に実現しようとする生活の場の事物的形成の一切を，作図し指示して，それを誤りなく worker 達に伝えなければならぬのである。

われわれのもつ Architect 像とは，このようなものであり，このような Image を実現するための Curriculum が，Architect の教育課程として課せられなくてはならぬと思う。

現行の大学における建築教育の問題点も，すべてこのことに関わるのはいうまでもない。

2. Curriculum について

われわれが，何ものかをつくりうるためには，そのつくるものの Image をもたなければならぬ，ということから，われわれの教育しようとする Architect の Image を検討してきたのである——しかしながら，もしもその Image が一定のものであるとしたら，つくられてくるものは，その一定の Image どおりに，類型化され，標準化されることになりはしないであろうか。今日しばしばいわれる教育の Mass-production 化のおそれも，ここに在ることになりはしないであろうか。このおそれとは，いうまでもなく，Mass-production そのことに在るのではなく，類型化，標準化の意味する無力化，非主体化についてのおそれである—— 一定の Image と Curriculum とにしたがって，Architect を育てつつ，しかもその無力化を避けるには，どうすればいいのであろうか。

まずわれわれは Image そのものの漠然性を挙げていきたい——一定の Image とここでいうのであるが，例えば，われわれは三角形の Image をもち，その Image にしたがって，三角形を図示することができる。そうし

て図示されたことによって，はじめてわれわれのImageはそこに固定されたことになる。しかしながら，そこに図示され，固定された三角形は，われわれの Image での無数の三角形のうち，ただ一つにしかすぎないのである。任意に図示された三角形とは，Image において，あやふやな，無数の三角形のなかから，偶然にえらび出された一つの図形にすぎないのである。Architect についてもつわれわれの Image というものも，それが実現されたとき，それはやはり一回きりのものにしかすぎないことを指摘しておきたい。

しかもこの一回性は，個々の学生のもつ才能や傾向によって，一層強調されることになるであろう。そこでいいふるされたことではあるが，教育とは，そのような個々の能力を，個々の学生から抽き出すことにほかならぬ，ということをいい添えておきたい。そうしてそのためには，やはりいいふるされたことではある，われわれ教師と学生との個人的接触というものが重要になってくるであろう。なかんづく Architect の場合，その創作力，つまり主体的態度が要請されるのであるから，このことは，類型的教育の中で絶対的に不可欠であるといっていいであろう。ここに建築教育における教師対学生比の量的限界を見出すのである。

建築教育における類型化を避ける第三の道は Curriculumの編成にある。

前記のように，広く多様な能力についての要請と，個々の学生のもつ才能や傾向とから，Curriculum はできるだけ広く，多様なものであって，そこに選択の自由さができるだけ多くのこされることが望ましいと考える。この点，建築教育が綜合大学の中で行なわれる現行制度を，われわれは高く評価したい。

問題はその Curriculum の内容にある——初めにいったように，われわれは実に多様の Architecture をもっている。Architecture という既成の観念にしたがったとしても，われわれは，例えば，実体と美との関りあいを古典建築に，技術と空間との輝かしい結合をGothic建築に，機能における科学的裏づけや，新しい形式における新しい意味の発見を現代建築にみることができるのである。これらの美や空間や機能や新らしい意味や，さらに過去や現代の，実体や技術や科学や形式やを，そのほかのすべての必要なことがらとともに，学生達に，過不足なく理解させなければならぬのである。その上，自らの Image なり Idea を固定化し，伝達するための技法を訓練しなければならぬ，かぎられた一定の時間の中で，である。

こういうことからみれば，大学における建築教育というものは，確認された一定の Image にしたがって，一定の Curriculum を編成する，ということにつきる，といっても誇張にはなるまい。そこで問題は，与えられている現行制度の修学年限に集約されてくることになろう。

3. 修学年限について

大学における建築の専門教育課程の修学年限についての批判は，すでにして，現行制度の発足当時から，さまざまな立場から，さまざまの形で，繰りかえし行なわれてきた。しかしながら，この修学年限の長短は，育成すべき Architect についての Image と，それにしたがって編成される Curiculum と不可分の関係をもつ。

Ecole des Beaux-Art の建築科修学年限は7年であり，その他，外国の各大学では，専門課程5年が普通のようである。des Beaux-Art の伝統的な教育方式を，われわれは，必ずしも至上のものとは思わないのであるが，最近 Curriculum の編成替えが行なわれはじめた米国で，やはり5年制度を維持しているらしいことは参考となるであろう。

綿密な検討ののちでなければ，確言はできぬが，われわれは，わが国の大学での建築専門課程として，やはり5年制をとるべきものと考える。今われわれが，仮りに試みている，学部，大学院両 Course の一体的Curriculumの実施は，5年制の妥当性を示唆するものである——すなわち，専門課程4年目にして，学生達のあるものが，はじめて，前記のような意味での Architect 的発想を示しはじめるのであるが，なおその思考の細部に，なにがしかの欠如があるもののようにみうけられるからである。

最大の問題点は，しかし，この仮りの試みこそ，現行の教育制度そのものを破壊するものであるという事実にある。われわれは，学部における専門教育修学年限を5ケ年とし，大学院に Architect の訓練課程をおかぬ案を検討すべきであろうと考える。

学校教育のゆくえ

安井建築設計事務所長
佐野正一

学校をでて実務についてみると，万事予想と違って大いにまごつくのは誰もが経験することだ。案外，思っていたよりすらすら仕事が片付いて，実務なんか気楽なもんだと一寸得意になっていると，これが大へんな思い違いで，全部やり直しになったりする。学生時代にもう少し勉強しておけばよかったと今更くやんでもはじまらぬし，つくづく学生生活と社会生活の断層を感ずるというか，巨大な社会機構の壁のまえでひどく自分の学力の乏しさを味わう，そんな気持になる。毎日ぶつかる仕事はことごとく新らしく，ことごとく重荷になる。学生時代は次第に追憶のかげへ消えてゆく，これが第一。

第二の時期は5年くらい経ってからだ。仕事はひととおり処理できるようになり，部門の責任者として判断もできるし企画もたてる。そうなると慾がでて少しは変ったこともやってみたい，それにはもう一度仕事のやり方を基本から眺め直して改善しなければならないが，自分も勉強するとして他にも相談をもちかけようと考えるようになる。相談の相手といえば同僚先輩についで学校となる。こうして学校は追憶のかなたから身近かな現実へふたび結びつけられるのだ。仕事の主題によって，またその取扱いかたの如何によって結びつく学校は必ずしも自分の出身校には限らない。自分の頭で考え，その判断で必要な刺激を外からとり入れる行動なのだから，選択が自分本位になるのは当りまえで，結びつきは多様に長期にわたって展開する性質をもつ。この時期に達してはじめて学生時代に受けた基本教育というものの効用を実感するのではないだろうか。と同時に学校という組織のもつ指導能力，研究能力を認識するのもこの時期に達してからであろうと思う。

第三期というのは当らないかもしれないが，もう一つの学校との交渉は責任のある地位になって就職や人事を考えるとき，自分なり自分の職場なり，あるいは自分の属する大きな職域への人材の充足をどうするかの問題をめぐって行なわれる。この交渉での学校は養成機関としてわれわれの前にたつ。いかなる能力をもつ人をそのなかから採り出せるかは，結局養成の方法はいかにあるべきかの基本問題にまでたどらなければならないだろう。

一人の人を中心にして学校というものとのかかわり合いをおよそ三つの時期に区切って整理してみたのが以上の通りである。職場は学校をつぎつぎに巣立ってきた大ぜいの人の集団だから，ひとりひとりがもっている三つの時期に示される三様のかかわり合いは職場全体としてみる時にいつも不断に学校との間に起っている三様の課題だと考えてよいわけであろう。すなわち，第一に学校教育での実務訓練はいかにすべきか，第二に学校における基本教育と技術開発の使命，第三に人材養成の方策である。

これらの問題はいづれも重要な，いいかえればすこぶる解決困難な長い間の懸案ではある。便宜上第一，二をまとめて教育課目の問題として眺めてみると，現在の大学および工業高校での専門課程は全時間の2分の1をすこしでる程度しか与えられていないのだから，このわずかな時間をどう割当ててみても実務訓練にはじめから期待する方が無理なことははっきりしているのであるまいか。学生生活の1年は実数8ヶ月位に当るから専門過程の実時間は大学で18ヶ月，工業高校で13ヶ月位がせいぜいである。技術畑の教科科目は概して事実を基礎に組立てられているのだが建築意匠や建築力学のように事実をもとにしながら理論の展開の幅の広いものと実務関係の科目のように事実を積上げただけであまり発展のないものとがあって，前者には速効的な妙味はないが聴く人の努力次第で技術者を大きく成長させるには欠くことのできない原動的な力を与えるが，後者には1時間教えれば1時間，10日間教えれば10日分の力にはなるものの，それだけで応用展開の効果は期待しがたい。どちらもやめるわけにゆかないだろうが，短い時間を有効に使っての教育ならば私はむしろ前者にウエイトをかけて学生が巣立ってからの長い将来に強い基本を与えるような考え方をして進めてもらう方が有難いと思う。実務については生半(なまはん)かを承知の訓練を学校でやるよりは社会にでて職場で職場に合ったやり方にまかせてもらった方がいいのではあるまいか。仮に現状で実務教育が専門課程のうち大学で3分の1，工業高校で2分の1位だとみると，実時間では6乃至7ヶ月程度にすぎないのである。具体性のある職場でやれば同じことを覚えるのに3ヶ月もかかれば片付いてしまうだろう。

われわれ職場にある方からいえば，浅くてもよいから広範な知識にささえられた偏よらない判断力と積極的な姿勢を学生生活を通じてしっかり身につけさせることが最も大切なことだと思うのである。それにしても大学教

育が4年で，そのうち一般教育が約2年，専門過程が約2年という現行制度では，私の意見のように専門過程からさらに実務訓練的のものの割合を減ずるとしても，大学で基本教育はがっちり終了したといいきれるだけの効果がはたしてあがるものなのか。このころは大学を出てからさらに修士コースで専門過程をふむ人が増加しているので，大学コースでの勉強不足はひとまず解決したかのように見えるが，このコースは専攻科目をきめての履修だから履修者の専攻部門での能力向上と大学のもつ指導的・研究的能力は上がるけれども，私の希望する専門過程全般での広い教養を引上げるにはさしたる効果は期待できないのではないか。まして一般教養関係は依然として2年で変らない結果である。この点は何も建築学のみのことでなく各方面の長い目でみた上での批判と合せて慎重に検討をしたいものである。

建築につながる問題としてはむしろ，大学の教育と工業高校の教育との関係に注目すべきだと思う。何れもが技術者として完成する教育を行なおうとする学校当時者の気持には敬意を払うけれども，工業高校の科目をやや高目にしたのが大学で，本質的にはあまり差のないやり方をしているのはどうも感心しない。昔の大学と高工との間にはかなりの教育上の考え方の相違があって，各々独自の発展をしていたように思うのだが，どういう理由からか戦後にははっきりしたけじめがなくなってしまった。社会の方にも両者の出身者を年令的に差をつけるだけで，区分した取扱いをしない向きが多くなっている風潮もあるようだ。私はこれを一種の悪平等，教育普及の悪現象とみるのだがいかが。

教育の普及によっていろんなことが起る。上の例とは少しくニュアンスが違うが，しっかりした教養を身につけることが目的でなく，学校を卒業することだけが社会人の通行証として目当てになるような困った風潮もそこから出ている。小規模で地味なメーカーや研究所につとめることが嫌われ，日の当るホワイトカラーの職場で通行証を片手に気楽に出世をねらう。それは生長した社会でありがちなことではあるが，人間の叡智を引上げようとする悲願には無縁のものであることも確実だ。教育の普及も結構だけれど，それが安易につこうとする人間の弱さと結びついて，額に汗する労働を軽視する方向のあることは大いに警戒しなければならない。学校卒業者に優遇が与えられるならば，それと同様に有職者に技能を認めた優遇を与える機構と，その補充養成のための技能養成機関を整備してゆかねばならない。今日の社会にはいろいろな分野で仕事をする独自の教育課程を通ってきた人が必要なのである。それらの人々がその独自の技能をもって社会に貢献しつづけうるためには，待遇と独自の教育を必ず用意しなければならないのである。いろいろなタイプの教育が存在しなければならぬことはここからいえるのである。大学と工業高校にもそれぞれ独自の教育タイプがあっていいという私の主張もそこからでている。

要はこれらのいろいろなタイプの教育が社会の要請に応じて，決して惰性でなくてしかもいつも長い判断からみて効果的な運用をしてほしいことなのである。誰もかれも大学教育のレベルに引き上げよというのではない。それはかえって反作用を社会に及ぼす。大事なことは教育の秩序をしっかりと作りあげ守ってゆくことなのだ。

先年私はしばらく外国をみて短い体験だけれど，建築業務にかぎらず技術的な業務を遂行するのに厳重な資格制限を布いているところが多いのに驚き，顧みて日本の場合ほとんど素人に近いものが相当な高度の技術を要するものまで無資格のまま処理している実情をいぶかしく思ったものである。外国の場合それができるには技術者相互の技術保全の自衛意識の高いことと，有職の人びとにはそれ相応の社会の評価を高くして安定させていることの背景があるが，日本の場合にはそうした大事な背景をつくり上げるよりは，かえって反対に教育レベルのアップと平等の名にかくれて，次第につぶしてゆく傾きのあることは憂慮にたえないのである。

建築教育の問題はかくして建築だけの問題にとどまらず，日本の教育政策につながり，日本の社会の将来のあり方の問題につながってゆく。簡単な解決をはかれることではないだろうが，忙しいときは借りもので間に合せ，ひまになると口をつぐんでしまうような態度で進んでいる限り，建築分野での人づくりは早晩行きづまってしまうのではあるまいか。学校教育の姿について，職能教育の姿について，職場での教育について関係の方々で虚心に語り合って方向を見出してゆきたいものである。

大学の教科内容

近畿の六大学の教科内容

■大学の建築学科の教科内容はどういうものであるかは，大学関係者や卒業者は大なり小なり知っている事柄であるが，一方，社会人からみれば，どうも何を教えているのかわからない。どういう科目をどれだけ教えているのか，その内容の充実さはどの程度のものであるのか……等々を知りたいことだろうと思う。こういった意味で，大学の教科内容を収録しようという企画をもった。

■ところが，この大学の建築学科の教科内容は，各大学によって違うしそれをまとまったもの（一覧表）にすることなどは，短期日ではとうていできない。はじめ，この原稿依頼を建築学会近畿支部教育委員会に頼んだが，現在調査検討中で，発表するとしても相当日時（おそらく1年以上）を要することでもあるという理由で辞退された。そこで，編集として，とりあえず近畿の六大学の建築教室主任を通じて，教科内容を送ってもらい，それを各大学別に適当にアレンヂしてみることにして，一応の責をふせぐことにした。したがって，決してまとまったものでないことをおことわりしておきたい。

■ここに収録した六大学は，京都工芸繊維大学，京都大学，大阪工業大学，大阪市立大学，大阪大学，神戸大学である。　（掲載順不同）

京都工芸繊維大学建築工芸学科

講座名	講座担当者	学科目	担当者	必修（○印）	単位数	時間数 前	時間数 後
建築工芸学 第1	相川助教授	日本建築史 I	中村助教授	○	2		2
		同上 II	同上	○	2	2	
		西洋建築史 I	相川助教授	○	2		2
		同上 II	同上	○	2	2	
		近代建築	白石教授		2	2	
		建築意匠	元良講師		2		2
		建築論	向井講師		2		2
		建築史演習	中村助教授		2	4	
同上 第2	白石教授	建築概説	高原教授	○	4	2	2
		建築計画概論	白石教授	○	2	2	
		住宅論	同上	○	2		2
		建築計画各論 I	1，2，3講座全員	○	2	2	
		同上 II	同上	○	2		2
		同上 III	同上	○	2	2	
		都市計画	絹谷講師		2		2
		計画演習	全員		2	2	2
同上 第3	石原教授	環境調整 I	石原教授	○	2	2	
		同上 II	同上	○	2		2
		環境調整特論	石黒講師		2		2
		建築設備 A	石原教授	○	2		2
		同上 B	三村講師		2	2	
		建築材料	藤本講師	○	2	2	
		建築施工	寺沢講師		4	2	2
		建築法規	岸本講師		2	2	
		設備演習	石原，石黒		2	4	
同上 第4	高原教授	建築力学 I	山肩助教授	○	4	4	
		同上 II	高原助教授	○	2		2
		同上 III	山肩助教授		2		2
		鉄筋コンクリート構造	松岡助教授	○	2	2	
		鉄骨構造	高原教授	○	2	2	
		構造特論 I	松岡助教授		2	2	
		同上 II	同上		2		2
		構造演習 I	高原，山肩	○	2		4
		同上 II	高原，松岡		2	4	
		設計実習 I	1，2，3講座全員	○	5	6	9
		同上 II	同上	○	7	10	11
		同上 III*1	同上	○	9	12	15
		同上 IV*2	同上	○	6	18	
		卒業設計	全員	○	7		21
		学外実習*3		○	0		
講座外		測量学及実習	森講師		3	2＋3	
		絵画実習 A	川端講師	○	2	3	3
		同上 B	同上	○	2	3	3

*1　設計実習 I，II の単位既得を要する。

*2　同　上III の単位既得を要する

*3　3回生以降の休暇中に実施。

京都大学工学部建築学科

科目	担当教官	必修(○印)	単位	毎週時間数 3学年 前期	3学年 後期	4学年	
建築概論	増田助教授	○	1	2			
構造力学第一	成岡教授	○	2	4			
建築力学	横尾教授	○	2		4		
建築一般構造	(工研)山本教授	○	2	3			
建築計画	西山教授	○	1	2			
住宅	〃	○	1	2			
建築衛生第一	前田(敏)教授	○	2	2	1		
〃 第二	松浦助教授	○	2	1	2		
建築設備	前田(敏)教授	○	1		2		
鉄筋コンクリート構造	横尾教授	○	2		3		
鉄骨構造	棚橋教授	○	2		3		
日本建築史	福山教授	○	2	1	2		
西洋建築史	川上助教授	○	2	2	1		
構造材料概論及実験	六車助教授 森田講師	○	2	1 2			
設計演習第一	西山教授 増田助教授	○	1		3		
〃 第二	川上助教授	○	2	6			
〃 第三	(教)前川助教授 川崎講師	○	3		9		
構造学演習第一	棚橋教授 (防研)小堀助教授 若林助教授 六車助教授 森田講師	○	1		3		
工業数学B 第一	国井教授		2	4			
〃 第二	〃		1		2		
工業力学B 第一	山田教授		1	2			
〃 第二	〃		1		2		
構造力学第二	小西教授		2		4		
地域計画	西山教授		1		2		
木構造	(防研)金多助教授		1		2		
土質力学	赤井教授		2	3			
測量学概論及実習	末石助教授 西林助教授		2	2 3			
絵画実習	桑田講師		2	3	3		
彫塑	山本講師		2	3	3		
建築施工	棚橋教授	○	1				2
建築設計法	増田助教授 東畑講師	○	2			3	
設計演習第四	西山教授	○	3			9	
設計演習第五	増田助教授 川崎講師	○	1				3
建築衛生及設備演習	前田(敏)教授 松浦助教授	○	1			3	
構造学演習第二	棚橋教授 (防研)小堀助教授 若林助教授 六車助教授 森田講師	○	2			3	3
建築学演習	全員	○	3			3	6
版構造概論	横尾教授 松岡講師		1			2	
鉄骨鉄筋コンクリート構造	若林助教授		1			2	
建築基礎工学	山肩講師		1				2
プレストレストコンクリート構造	六車助教授		1				2
耐震構造概論	(防研)小堀助教授 (防研)金多助教授		2			2	1
防災工学	(防研)石崎教授 若園助教授		1				2
都市計画	米谷教授		1			2	
施工機械及企画	政岡講師		1			2	
近代建築史	川上助教授		1			2	
建築行政	吉田講師		1			2	
建築材料	山根講師		1				2
空気調整工学	守安講師		2				2
美学	(文)井島教授		2			2	2
美術史	(文)蓮実教授		2			2	2
庭園	(農)岡崎教授		1				2

〔右段下へ〕

大阪工業大学 建築学科

学科目	担当教官	必修(○印)	単位	毎週時間数 2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後
図学及同演習		○	4	2 1年	2 1年				
測量学及同演習			4	6	6				
一般建築構造		○	4	2	2				
建築材料		○	4	2	2				
構造力学Ⅰ及同演習		○	6	6	6				
施工法		○	4			2	2		
材料実験			2			4	2		
木構造及同実習			4			2	2		
鉄骨構造及同演習		○	6			4	4		
鉄筋コンクリート構造		○	4			2	2		
鉄筋コンクリート構造演習 Ⅰ		○	2				6		
〃 Ⅱ			2					6	
構造力学			4					2	2
鉄筋コンクリート特論			4					2	2
構造特論			4					2	2
構造計画			4					2	2
地盤工学			2					2	
防災工学			2					2	
計画総論		○	4			2	2		
計画各論		○	4			2	4		
工場建築			2						2
室内環境計画			4					2	2
建築設備		○	4			2	2		
設備特論			2					2	
意匠論			4					2	2
庭園学			2					2	
日本建築史			4	2	2				
西洋建築史			4	2	2				
近世建築史			2			2			
建築史特論			2					2	
都市計画			4					2	2
建築法規		○	2			2			
住宅問題			2				2		
設計製図 Ⅰ		○	6	10	10				
〃 Ⅱ		○	6			10	10		
〃 Ⅲ			4					12	
絵画演習			2	4	4				
造形演習			2			2	2		
電気工学大意			2					2	
機械工学大意			2						2
職業指導			4			2	2		
産業概況			2			2			
商業概説			2				2		

〔左段下より〕

土木工学概論	米谷教授 岡田教授			2				2	1
機械工学概論	遠藤教授 大東教授			2				2	2
電気工学概論	大谷教授			2				2	2
◎学外学習 特別研究		○		5					○

注) 専門科目は教養部の基礎科目をあわせて合計84単位以上（内必修49単位）になるよう本表中のものから修得しなければならない。

大阪市立大学工学部建築学科

学科名	担当教官	必修(○印)	単位	学年 2年	3年	4年
設計演習 I	山田	○	1	○		
建築力学 I	川村	○	2	○		
建築構造一般	林野	○	2	○		
測量学			2	○		
測量学演習			1	○		
設計演習 II		○	3		○	
〃 III		○	3		○	
建築史 I	浅野	○	4		○	
〃 II	〃	○	4		○	
建築計画 I	上田	○	2		○	
〃 II	栗原	○	2		○	
〃 III	上田	○	2		○	
〃 IV	栗原	○	2		○	
都市計画 I	川名	○	4		○	
建築衛生 I	田中	○	4		○	
〃 II	伊藤	○	4		○	
建築材料 I	下鳥	○	2		○	
〃 II	〃	○	2		○	
建築力学 I	日置	○	4		○	
〃 II	〃	○	2		○	
建築力学演習 I	川村	○	1		○	
建築構造一般	林野	○	2		○	
鉄筋コンクリート構造 I	鬼武	○	4		○	
鉄骨構造	日置	○	4		○	
絵画実習	小松		2		○	
建築行政及法規	恒岡	準必修△	2		○	
庭園学	関口		2		○	
建築衛生実習	田中，伊藤		1		○	
建築力学演習 II	鬼武		1		○	
(土木地学)			2		○	
(工業数学)	小松		4		○	
設計演習 IV		○	4			○
〃 V		○	0.5			○
建築構造演習	鬼武，日置	○	1.5			○
建築史 III	鳥田		2			○
築建論	向井		1			○
建築計画 V	上田		2			○
〃 IV	栗原		2			○
都市計画 II	斉藤		3			○
〃 III	三輪		3			○
都市防災	〃		2			○
建築設備	田中		2			○
建築設備特論	三村		1			○
建築材料実験	下鳥		1			○
鉄筋コンクリート構造 II	〃		2			○
木構造	日置		1			○
防災構造論	川村		2			○
建築構造特論			3			○
地盤工学	三笠		1			○
仕様積算及施工法	政岡		3			○
(溶接工木)	渡辺		4			○
(音響学)	北村		4			○
建築学演習		○	4			○
卒業設計		○	6			○

備考　卒業資格としては，必修科目の全単位と選択科目の取得単位との合計が100単位以上でなければならない。この資格に欠ける場合は次年度以降となる。

大阪大学工学部構築工学科（建築コース）

学科目	担当教官	必修(○印)	単位数	第2学年 第2学期	第3学年 第1学期	第3学年 第2学期	第4学年 第1学期	第4学年 第2学期
数学解析	城教授		8	4	4			
構造力学 第1部	小阪助教授	○	4	4				
〃 第2部	鷲尾 教授	○	4		4			
〃 第3部	馬場助教授	○	4			4		
構造力学演習 第1部	小阪助教授	○	1	2				
〃 第2部	鳥海 講師	○	1		2			
構築材料学	奥島 教授	○	4	4				
構築材料学実験	〃	○	1		3			
鉄筋コンクリート構造学 第1部	〃	○	4		2	2		
建築一般構造	岡田助教授	○	2	2				
木構造学	小阪助教授	○	2	2				
鋼構造学	鷲尾 教授	○	4		2	2		
建築計画学	足立 教授	○	4		2	2		
建築計画学演習 第1部	岡田助教授	○	2	6				
〃 第2部	足立 教授	○	5		14			
〃 第3部	〃	○	5			15		
建築構造演習 第1部	鷲尾 教授 馬場助教授	○	3			6		
特別研究	全教授	○	8				8	16
小計			66	24	33	31	8	16
測量学 第1部	波田 講師		3					3
測量学演習 第1部	〃		2					6
建築計画学演習 第4部	(東畑講師)		5				15	
〃 第5部	足立 教授		4					12
建築構造演習 第2部	鷲尾 教授 馬場助教授		3				6	
都市計画及地方計画	(米谷講師)		2				2	
振動工学	鳥海 講師		2			2		
建築衛生工学	(前田講師)		4		2	2		
地盤工学	馬場助教授		4		4			
建築一般材料学	楢崎 講師		2	2				
建築技術史	(川上講師)		4	4				
建築施工学	(菅田講師)		2				2	
建築生産学	足立 教授		2			2		
建築設備学	(前田講師)		2				2	
建築法規	(恒岡講師)		2				2	
構造計画学	鷲尾 教授		2			2		
教育学	(田花講師)		4				2	2
小計			49	6	6	8	31	23
計			115	30	39	39	39	39

備考　(卒業資格)　専門科目のうち　必修66単位　選択36単位以上　計102単位以上

講座	学科目	担当教官	必修(○印)	単位	毎週時間数 2年後	3年前	3年後	4年前	4年後
講座外共通	応用数学 第1	笠原 久保	○	2	2				
	〃 第2	〃		2		2			
	応用物理学 第1	田 永		2	2				
	〃 第2	塙		2		2			
	工業経済 第1	野 水		2			2		
	〃 第2	葉 稲		2				2	
	電気工学概論 第1	沢 野		2	2				
	〃 第2	川 小		2		2			
	機械工学概論 第1	竜 鳥		2	2				
	〃 第2	石 中西,		2		2			
	土木工学概論	井 桜		2					2
	工業化学概論 第1	上 井		2	2				
	溶接工学	田 井上		2				2	
	測量学及び演習	野 岡		4			6		
1	応用力学 第1	伴	○	4	4				
	〃 第2	〃	○	2		2			
	架構力学 I	〃	○	2			2		
	〃 II	〃	○	2				2	
	鉄骨構造 I	棕 〃 代	○	2		2			
	〃 II	〃 伴	○	2			2		
	構造学特論 I	〃		2				2	
	構造力学演習 I	棕 〃 代	○	1	2				
	〃 II	〃		1		2			
	〃 III	〃	○	2			4		
	〃 IV	堯天, 棕代	○	2				4	
	施工法 I	山田 岩 下津	○	2				2	
	建設地学 I	岩 〃	○	2		2			
	〃 II	〃	○	2			2		
2	応用力学 第3	堯 天	○	2	2				
	架版力学 I	〃 〃	○	2		2			
	〃 II	〃	○	2			2		
	鉄筋コンクリート構造 I	山 田	○	2		2			
	〃 II	〃 〃	○	2			2		
	構造学特論 II	〃 〃		2				2	
	〃 III	堯 〃 天		2			2		
	〃 IV	〃		2				2	
	構造材料学	山 田	○	2	2				
	セメント概論	高田田	○	2	2				
	材料実験 第1	山 田	○	1		3			
3	環境調整 第1	前 川	○	2	2				
	〃 第2	〃	○	2		2			
	〃 第3	〃	○	2			2		
	環境調整演習 第1	〃 〃		2		2			
	〃 第2	〃		2			2		
	暖房及冷房	西 上		2			2		
	建築設備	木 鈴		2		2			
4	日本建築史論 I	地 野	○	2	2				
	〃 II	〃	○	2		2			
	西洋建築史論 I	〃 〃	○	2			2		
	〃 II	〃	○	2				2	
	建築史特論	〃		2				2	
	絵画演習 第1	本 久	○	1	4				
	〃 第2	〃		2		3	3		
5	建築意匠	田 島	○	2				2	
	住宅論	〃	○	2	2				
	計画各論 I	島田, 島田 光安	○	1		1			
	〃 II	〃	○	1			1		
	〃 III	〃	○	1				1	
	一般構造	田 島	○	3	3				
	建築材料	〃		2	2				
	建築法規	田名 鳥	○	2		2			
	都市計画	本 川	○	2				2	
	設計監理	塚 藤		2			2	2	
講座3・4・5	設計演習 第1	全教官	○	3	9				
	〃 第2	〃	○	3		9			
	〃 第3	〃	○	3			9		
	〃 第4	〃	○	3				9	
各講座	特別研究	〃	○	4				4	4
	卒業研究	〃	○	10					40

アンケート：学校教育に何を望むか

■建築計画における判断力を！

大学の4年課程の期間中に建築に関するすべての分野を十分に掘り下げることは不可能であろうし，また技術的な面については基礎的な教育が果されていれば，実社会でこれを磨き上げることは十分可能である。

われわれが日常の業務のうちから痛感していることは，建築は社会全体に対し，その環境整備の面で果すべき大きい責任を負っているが，これの成否を決める要素のうち最も大きいものは，設計，施工以前の建物がいかなる形で，いかにあるべきかを判断する建築計画に関するものであろう。これは技術的な分野と異なり，大きい自由度があり，また創造的な面も認められる。この建築計画に関する適切な判断力の養成は，それぞれがいかなる職場に向かおうとも大学教育に期待されている最大のものの一つであろう。

KK竹中工務店設計部長　岩本　博行

▽△▽

■生きた製図の指導を！

企業者の立場から，とくに『製図』の指導について一言。大学，工高を問わず製図，とくに一般製図の指導者に日常専門業務に携っている経験者，例えば設計事務所，施工業者の設計部にいられる方々の協力を得て実際の経験をいかした生きた教育をしてほしいものである。これは『施工』の科目でもいいうることです。

適任者は大阪でもたくさんおります。よろこんで協力して下さると思います。

平和建設KK常務取締役　星　　広文

▽△▽

■都市生活の考究を！

学生時代，都市生活構造についてもっと深い考究を教授しておくべきである。それと，建築と心理学の関連性について，教育する必要がある。機械化され，合理化されていくことと，人間性の失墜が裏はらに行なわれていることに悲しみを覚える一人である。

兵庫県綜合庁舎建設工事事務所長
光安　義光

▽△▽

■基礎教育と実用教育

大学教育は基礎理論教育に終始しても，実社会において，その基礎理論から実際面を判断し処理することが可能である。

これに対し，高工教育は実際面の現象を採り挙げてそれに関連する基礎理論を説き，判断力，実行処理力を養成するという大学教育と逆の行き方の教育方針が望ましい。

鹿島建設KK大阪支店建築部次長
若林　季雄

▽△▽

■適性を認識させよ

自分が何に向いているかということを一日も早く認識させる（意匠，構造，設備あるいは設計，監理，請負の代人，官公署向きかどうか）こと，とくに設計事務所などを希望する人は，意匠が多いようだが，使用者あるいは先輩からみると，どうも意匠向でない人が多いのに希望しているのが多い。本人のためにも全く不幸なことと思う。

それと，自分は構造をやるから設備や意匠のことはあまり熱を入れないとか，意匠をやるから設備は設備に委すとかが多いように見えるが，むしろ自分の専攻したい方向以外のことを勉強しておくよう指導された方がよいと思う。専攻以外はなかなか実社会に出て，勉強する暇がないので，あえて申し上げる。

とく　めい

▽△▽

■設備教育を

建築設備・専門教育
および建築設備・常識教育。
以上二点を徹底して頂きたい。

KK竹中工務店設備部長　石黒　次郎

▽△▽

■基本事項をみっちりと！

戦前の学校教育にくらべ，高校，大学（前期2年は教養課程と考え）ともに専門教育の期間が非常にみぢかくなっていますので，高校を例にとっても昔の5年制の工業学校卒業者に比し，専門知識がかなり劣るように思われます。この意味で新しくつくられる専門学校に期待しています。

高校は短い期間を将来有効に生かす意味において，あまりあれこれつめこまず，基本事項をみっちりたたきこんでいただいて，社会に出てから正しい応用ができるようにしてもらえればと思います。

KK大林組　谷口　尚武

標記アンケートを，設計，現場，設備の部門別，綜合業社，事務所，官公庁の事業別に選んだ適当な30人にお願いしたが，とくに中小企業以下の人の解答がほとんどなかつたことは残念である。

1961年5月2日、ベルリン滞在中でのことである。

私が建築家であることを知ったその少年は「ハンザ地区のインターバウを見て呉れたか？　有名な建築家の設計になる多くのアパートがある。近くにコングレスホールもあるのでぜひ見に行ってほしい」と話しかけてきた。私は既に見学済みであることを話すと、今度はさらにそれらの建物の感想を熱心に問うてくるのであった。義理にもいい見形とは思えない母親に連れられたその十才位の少年の印象が鮮かに私の心をとらえて離れないのである。それはベルリン市電の中でのことであった。

ホテル・サボイで私は次のように誌している。『遠く祖国を離れ、異郷万里、骨をかむ郷愁が全身をかむ。私は、だが、釈然としえない或る一つの壁の前で立ち止っている。それはあの少年ともどかしく話している私の耳に響いたアルトーとかサリネンという言葉である。創造する者と支える者の密接不離な「融合」の力を感じたが為であろうか。あの少年をして「建築」を認識し把握させようとする大きな「力」は何であろうか。建築のもちつゞけた文明の「象徴性」と「社会性」を的確に少年にまで考えさせることの出来た背景の「力」をしみじみと感じるのである。』

建築家個人にしても、「文化」の裏打ちが全然なされず、いきなり「建築」をやっても、それは所詮猿真似でしかありえないであろう。思想のない建築は随分見あきて了っている。

「建築以前の問題」は何か？　その辺のことをよく勉強して基礎を固めておかないとどんだことになりそうである。

大阪市建築局営繕部主査　北　垣　智　造

2 職場教育



福岡　正氏



遠山春二氏



上田与三郎氏



川岸繁夫氏



熊谷広吉氏



関　雄二氏



寺岡　真氏

座談会

建築技能者教育

大工・左官・塗装工・タイル工などの
教育訓練をめぐって

（順不同・敬称略）

司会　福岡　正
（大阪府労働部訓練課長）

大工関係　遠山春二
（大阪建設共同職業訓練所所長）

左官関係　上田与三郎
（大阪府左官工事業協同組合事務局長
大阪府左官従業員組合長）

塗装工関係　熊谷広吉
（理博・大阪府塗装工業協同組合技能訓練所主事）

タイル工関係　川岸繁夫
（大阪タイル衛生陶器商工業協同組合組合長）

建設業関係　関　雄二
（建設労務研究会委員長）

官庁関係　寺岡　真
（大阪府建築部設計監理業係長）

とき：昭和37年10月17日・ところ：本会会議室

司会　専門家のみなさんを前にはなはだ僭越ではございますが，ご指名をうけましたので司会をお引きうけさせていただきます。建築技能者の教育ということにつきましては，建築のみにとどまらず，私どもの取り扱っている部門，あらゆる技能者の教育，訓練にもつながり，産業発展のために重要であることは申すまでもないことでございます。ご承知のとおり全国的な技能者の不足は，昭和37年2月の調査によりますと，165万人，大阪府においては16万人という数字が出ており，建築部門は不足率21.4%と最高を占め，その深刻さを物語っているわけでございます。むろん私どもといたしましてもその充足に最善の努力をはらってはおりますが，なおかつ業界のご期待に添うにはむずかしい問題も多々考えられるわけでございます。すなわち，現在弱年労働者，新卒者の就職希望，労働に対する考え方としては一般的にホワイトカラーへの執着が非常に強いこと，それに関連して学校の先生の教育指導の在り方や親たちの考え方の問題もあろうと思いますが，また一方建築業界としても，その受け入れについて改善を要する点などいろいろ取り上げられるわけで，現実のさしあたりの問題としては，教育訓練もさることながら，まず労働力の確保，これが先決要件ではなかろうか。それで人集めについての実地のご苦心を承り，ついで教育訓練にお話を進めていただきたいとかように考えております。

人集めの苦心

大阪府の統計からみましても，中小企業における建築大工の人の集まり方は非常に低く，37年2月の調査では28.7%と不足率の高いことを示しております。そこで実際に業界において，まず人を集めるのについてのご苦心の点，人を集めるについての隘路と申しますか。また今後どういうふうにすれば人が集まるかについて，実際面にあたっていられるみなさんのお話を伺いたいと思います。

——左　　官——

上田　私の方は左官の見習いでございます。毎年安定所に頼んで集団的に中卒者を集めていますが，とても書類だけではすまされず，PRに回るわけで昨年は鹿児島，宮崎，両県下へ出かけました。近く熊本，高知，徳島の三県へまいります。このごろの若い人には左官というものにはまったく魅力がありません。そこで採用条件をうんと掘り下げ学校の成績はよくなくてもよろしい。両親もそろわなくともよろしい。ただ健康でさえあればよろしいと呼びかけております。交通の不便な山の中や海のほとりから割合い多くまいります。左官見習いとしての魅力は早く高率の賃金を得られ，また資本を要さずコテ一丁で独立できるからですが，それでも毎年だいたい申込み数の1/10くらいの充足率で，なかにはせっかくきてくれても途中でやめてしまうというのも出ています。旅費も大阪府の指示通り先渡しをしてやっていますが，この現状は2年や3年ではとても改善は望めそうもありませんね。

司会　建築に左官はつきものだということはわかりますが，いま申しました，若い人の考え方，そこに問題がありますね。

上田　田舎の子供はせいぜい2階建くらいしか塗っているのを知らないでしょう。9階，10階というと，びっくりしてしまって，中にはこんな高いところへ上って仕事をようせんといいだすんです。そういう点をよくPRしたいと思っても，直接学校を訪問すればいやがられるし，忙しい中学の担任先生を集めるのが困難だし，人を集めるにも機会は少なく，したがって安定所ばかりを回るということになるわけです。元来左官というものは，ほかの職種に一度ついた人や，転々として動いた人は就職しても長続きしません。よほどの辛抱と根気が必要なんです。いわば中途からはいった人には全然向かない仕事ですから，われわれとしましても，やはり中学新卒者を採用してミッチリと仕込んでいきたいと思うわけであります。昨年度から組合にて事業内職業訓練所を設け見習生の養成に努めております。将来は高校卒をとらないと左官の就職者はなくなるのではないかと思いますね。しかし，はたして高校卒が左官を希望するか，どうか，そこには問題がありますが。

司会　ほかの職種はいかがですか。

——タ イ ル 工——

川岸　私の方はタイルでございまして，左官さんと似てはいますが，現場のパーセンテージは左官さんの1/10くらいなものでございます。徒弟の募集については，いままでの実績では縁故採用という形で，親方や職人さんの手を経てくることで充足もされておりますし，勤続も長く，一般募集の方では大阪府の方にご厄介になり，過去十何年引き続いてトータルにすれば何百人というものがお世話になっております。しかし，それでは需要量の1割にも満たんというので各自の手を経てまいっております。比較的早く高率の賃金が得られるというので，その方には魅力はあるんですが，左官さんと同じく親方や職

人さんと徒弟の関係です。われわれもやってきたんだ。お前も半年や1年くらいはなんでもやらなきゃいかん。中学出の人はタイル張りになるんだから，はじめからタイルを張らせてほしい。セメントや砂運びはやりたくない。先輩との対立ですね。そこに両者の歩み寄りの必要があります。最初からの両者の認識の問題ですね。やはり私の考えとしましては3ヵ月や半年はなんでもやってもらって，5年せねば一人前というのではなく，だいたい1年もすればぼつぼつ張ってもらって，勤労意欲を盛り立てるというふうにすれば，割合いに定着もしますし，希望も出てくるわけでございます。われわれ組合としましては，中学の教育に職業的に加味したものを取り上げていただき，生徒の能力によって君はこうしたらいいだろうという調査を中学3年くらいでやっていただかんと，現在ではタイル全般の技能者は学科のできないものが，とにかくそういう方へいくんだという思想が多分にあります。成績がわるいからせめて職人さんにでもというんでは教育に時間もかかり，結果もわるいからその点の考慮も必要と思います。

司会　ただいまの中学校での職業教育ということもなるほど必要ですね。塗装さんの方も同様でございますか。人を集めるということについて非常にお困りの点は。

——塗　装　工——

熊谷　私はいま学科の方をもっておりますので，まだこちらにご厄介になって日も浅いので，人集めの困難は承ってはおりますが，具体的にどういう点で困るとか，あるいはどういう条件などはあまりくわしくはアタマにははいってはおりません。みなさんのお話を承って参考にしたいと思っております。

——大　　工——

司会　建築さんの方はいかがですか。非常に努力をしていられるそうですが。

遠山　うちの方は大工が主でございます。それに関連しまして左官，板金工もきますけれども，さきほどいわれたよりも中学出で募集成績はちょっとマシですね。今年はご多聞にもれずわるかったが，昨年度まではだいたい50%程度くらいはいっております。歩どまりの点も，安定所の人はこのくらい出さねばいかんとか，いや待遇がどうのというので，いろいろ意見の相違もでるのですが，安定所の人が心配をなさるほどのこともないですね。つぎつぎ代っていく人の多いなかに，うちの大工なんかの場合は，歩どまりはだいたいによろしいといえますね。それからいまいわれたと同じように，私ら子供の時分は学校の成績がわるいから，大工にでもなれといってはいたもんですが，しかし，この道にはいって苦労をしてみますと，なかなかどうして勉強ができないから大工じゃ具合がわるいんですね。うちの方としては集団求人をするときのいろいろな条件といいますか，そういうものの中では少なくとも数学の3以上の人が望ましいとしております。そうでないと，どうも訓練所にはいれた場合でもできがわるいです。

司会　まあいまお話のように，やはり親たちの考え方に，学校できないから職人にするんだというようなことが非常に強いわけですね。学校さえできればせめて子供を高校なり，大学を出したいという親心ですね。これはむろんよくわかります。けれどもやはりその子供の適性というものをよくみて卒業なり，進学なりを決めるべきだと思います。学校で勉強の方のできがわるいから職人にするんだといったような考え方はこれから改めるべきでしょうね。

それから私ばっかりしゃべるようになりますが，私が職業訓練課長になりまして，はじめて大林芳郎さんにお会いしてお話をしましたが，建築関係に人の集まらないということは，技能者の福利厚生の面が多少わるいんじゃないか。もうすこし福利厚生と申しますか，共済制度というか，そういうような面を充実したらいいんじゃないかということを申し上げて，なるほどそうだと賛成を得たのでございますが，そういう福利厚生というか，その将来の問題についてですね。業界のみなさんはどうお考えになっているか，その点なにかお話をいただきたいと思います。

福利厚生施設・共済制度

——宿舎・退職金問題——

関　建設業では親会社のみで実際に働く技能労務者は下請に雇用されるわけで，直接雇用しているものは建設業では小さい業者が一部しておりますだけで，中以上業者はほとんど下請形態をとっております。その下請形態は完全外注かというと，そういう下請形態でもない。専属した下請形態で外注のような，直営のような下請形態をとっているんですね。そうして一応は労務管理の面なんかは自主的に外注と同じような取り扱いをさそうという向きもあって，そのためにハッキリとした指導もできないし，またその下請の行なっている労務にもなお不便な面もかなりあるわけでございます。それならいつそ

のことその下請形態を改めるということになると，そこにはまた非常に大きな問題があって容易にはそれもできない。それではどういうふうな援助をしていくかというようなことで，いま取り上げておりますのは宿舎ですね。現場の宿舎なんかは，できるだけ元請の方で建設して，そうして従来のような，ああいうバラック建のものはできるだけやめて，移動式，組立式のものに代えていこうと考えております。それから退職金の問題についても退職金規定などというものは，土工，鳶，大工さんにはほとんどないし，またすぐ作れといっても早急には間にはあわない。それで建設業協会としては，退職金共済協同組合を作ろうじゃないかということで現在設立の準備中で案文の検討をしております。ところでそういう建設業に従事している労務者という大きな範囲になりますと，下請の事業主からみた場合は⅓たらずが恒常的な労務者で，⅔というものは流動労務者であるというわけです。だがこれを建設業とした場合には，7割くらいが恒常労務者であって，あとの3割程度が季節労務者というふうなことになっております。建設業全体としては，そういう季節労働者以外のものは全部包含しようじゃないか。そういうものにも退職金が出せるように案を考えよう。非常に範囲が広いものですから具体案はまだ出てはおりませんが，いま検討の段階にははいっているわけでございます。それと軀体協同組合というのがこんど大阪にできまして，それには大工，鳶，斫，左官さんもはいっていると思いますが，そういうものができまして協同組合のなかに，また分科会みたいなようなもので業種別にそういう団体ができました。これはできたばかりで，まだなにも機動力はないわけですけれどもこれをまあ育成してですね，その部門，部門に今後は援助を与えていくというふうにしたら，親会社の方で直接なにもかもに手を出すよりは，かえってすべてが丸くいくんじゃないかと思います。現在のようにたとえば職業訓練所にしても千葉，愛知にああいう大きなものをこしらえても人が集まらない。守口の訓練所にしろ，そう人はたやすくは集まらないし，うけたものの斡旋もあまり活潑味はない，というような状態では，金を注ぎこむわりに効果は上がってはいないわけです。だからそういうようなことも現在考慮の段階にきているわけです。

司会　守口の訓練所でもですね。いまいわれましたようにタイル張り工にしろ，左官にしろですね。人が集まらないのでせめて大工さんでもと，大林さんにご無理を申し上げて46名の寄宿舎を寄付していただいたわけです。その結果，おかげさんで今年は定員をオーバーしたということで，まあ面目をもたせてもらったわけですが，いまお話の共済制度というものは是非必要じゃないかと思うわけです。何年かこの会社または親方に勤めたというときには，ある程度の退職金がもらえるということにならないと末の楽しみがないのじゃないかと思うわけです。しかし，いまおっしゃるように全建設労務者を対象としては，なかなかむつかしい問題だと考えますが，是非いずれか実現してほしいと思いますね。

関　運営をうまくやればいけるんじゃないかといわれますが，最近，土工の大きな下請では工業高校を出た土木技術者を雇っていられるところが，どんどん出てきております。この方面では退職金規程を設けて退職金をつけておられるので長続きしています。まあある程度は新しいものからでもこれを行なっていくという方法をとれば下請の形態も変ってもきましょう。具体的にどうということにはまだなってはいませんけれども。

司会　寺岡さん，いま建築関係で特にご指導を願っているわけでございますが，いまお話がございましたような人集めの問題，福利厚生なり共済制度の問題などについて，どういうふうにお考えになっていられますか。

――官庁側からの指導――

寺岡　私は，今日はみなさんから技能者の育成についてのお話を聞かしてもらうつもりであり，とくに話題の持合せもありませんが，だいぶん前のことでした。私が当協会のことで建設業協会の相沢さんと会合で一緒になったときのことです。当時でも技能者が不足し，また技能者になり手がなくだんだん減ってゆく傾向があるので，この対策として，建設業関係の大手筋が共同で技能者の訓練施設を設け，技能者の育成をしたらと話合ったことがあります。だが，諸般の事情でできなかったようです。その後職業訓練法の制定となり，各事業所で訓練所が設けられた。大阪建設労組においても昭和33年に訓練所が設けられ，今年で第2回の修了者を出しております。私も当初から講師として関係しております。私もやりがいのある仕事だと思っております。

訓練生は入所式の当時は大勢いたのですが，雇主または諸事情により，また修業年限が3ヵ年という，期間の長いせいかだんだんと受講者が減って，3ヵ年修了時にはその数が約半分となります。理由として，先に司会者のお話のあったように福利厚生施設または共済制度がないこと，または修了後の資格などに問題があるのではないかと思います。たとえば訓練所を修了した者に2級技能士の資格を与えるとか，共済制度を設けてやるとか，これらについて，労働省，建設省においてもっと本腰を入れ真剣に考えてもらいたいと思います。業者や事業所まかせでは，技能者の育成または確保することは望めな

いのではないかと思います。私はこの席をお借りして司会者（府訓練課長）にお願いしてぜひ労働省，建設省または文部省に呼びかけてもらって，各中学校または高等学校などの学校教育のなかに，各種技能者に関する知識および関心をもつようＰＲをしてもらうようお願いします。また建設業関係の各職種の技能者の訓練教育にしても時代に即応した教育方法が必要だと思います。たとえば大工技能者について申しますと，現在でも堂宮建築，町家建築またはコンクリートの仮枠の建込などなんでもやらなければ一人前の職人（技能者）でないように考えている。それはまことに結構なことと思いますが，専門技能者を大量に要求されている現今，その上新しい建築材料がつぎからつぎへと変って生産されその工法もずいぶん進んでいる。前に申しましたようになんでもということの考え方を改めて，現代建設工事に即した各部門に対する専門技能者を育成しなければ，この技能者の不足に対処することができないと思います。

それから，技能者養成には必ずこれに対する裏ずけは当然考えてやらねばならないと思います。ただいま，共済制度のお話がありましたが，建設業関係の技能者は若いうちはどんどん働けるし，人も歓迎してくれるし，それに賃金の高いのが魅力で，この門に職を求めるのであります。これに反して老年になれば身体も衰えていくし働けなくなる。これに対する社会保障もなんにもない，これではいまの若い人は集まってこないのは当然です。現今のような状態では逆に学校を卒業すると会社，事業所などの保障制度のあるところへどんどんいってしまうだろう。技能者の確保の先決問題は，まづ老後の社会保障，生活の保障ではなかろうかと思います。

――タイル工の場合――

川岸　タイル工の場合は，現在働いている年令が60才はごくわずかです。足場の上にあがる。遠くが相当みえなければいかん。それに仕事の能率が落ちるというのでだいたい50才くらいでやめてしまいます。戦前は１日と16日を引くと，１ヵ月30日中28日，それも実際は仕事がなくて正味20日～25日働いていました。ところが終戦後は移動工程と仕事の増加で高賃金，いくらでももうかるというので，逆にわれわれの考えと反対に週休にしてもらわねばと月に４～５回休む。月25日としても正味18～20日くらいしか働きません。それで足らないときは賃金を上げてカバーしています。せめて３日でも４日でも多く働けば確実に残るのに，要るだけあればそれでよいとの考え方です。年令的にもそういうものが50％以上を占め，人はふえても稼動は結局減っているのが現状です。

――オペレーターの場合――

関　直接雇用しているのはオペレーター（重機工）だけで，重機工のような職種を取り上げてみても，定年まで健康を保持しながら働くというより若いうちに稼げるだけとろう。技能があれば年令は少なくともいい賃金がほしい。時間外は一般労務者と反対に，逆にどんどんさせてほしい。働ける間にうんと稼ぐ。オペレーターは40才まで，50才になればオペレーターとしての仕事は無理であとは機械かなにかに代ります。働けるうちにうんと働く。大工さんもそれと同じではないか。サラリーマン的な生き方の人もなかにはありますが，技能者の働く人にはそういうのはいないですね。働ける間にというので，たとえ退職金規定があってもより高い賃金の方へ走ります。そうしてある一定の年令になると逆に定年までおいてほしいというんです。働き盛りはよそへいきたがってしょうがないのですが。

司会　働けるだけ働くとか，金のいるだけ働くとか，貯蓄をしない方が多いとかいうことは多少反省の要があるといわれましたが，本当ですね。組合とか親方さんの方で老令でやめられた人には慰労のお金を出すということはないんでしょうか。

川岸　私の組合としてはありません。組合員のなかにも。

――共済基金積立など――

司会　そうですか。この間欧州旅行を一緒にしました東京都建築業組合連合会長の月橋さんのお話では，左官でも大工でも組合にはいっている人で，もし不幸にして亡くなったらその日に100万円を包んで香典としてもっていって家族が生活に困らないようにして上げるのだといっておられました。それには平素から使用者，労働者の双方から出資してお互いの共済基金を積立てておく。そのためにみんな安心してよろこんで働いているということですがね。その点本当に実現しているとすれば立派な制度だと思っておりますがね。

関　そういうアメリカ式の行き方に似たようなものがあればいいですね。資本家も援助をするでしょうしね。

司会　達者なときはよろしいが，病気や不幸があれば家族は路頭に迷う。遺族年金などがよそではあるが，この業界ではないとすれば，それに代るものが必要ですね。

上田　左官組合は35年度から組合の別途会計で実施しています。団体生命保険と退職共済積立金規程を中小企業退職金共済事業団の制度に準じて作り，団体生命保険料は親方負担，１ヵ月60円かけ捨て，不幸にして亡くな

れば契約金10万円支払い，積立金は1ヵ月200円，本人または親方負担，やめた年数にもよりますが10年で約5万円支払います。事業主からも別個にだしています。その支出するまでの金は融資したりしてふやすことを計っています。いまのところ希望者だけですが，全員加入するよう機会ある毎に極力勧誘しています。

司会　大阪の大手筋の会社が音頭をとって，全建築関係の人たちを組合員にした共済組合という，そういうものはできないんでしょうか。全建設業者であると同時に大工さん個人も全部組合に加入して，なんぼかずつの金をとって共済の実を上げるようにしてはどうでしょうかね。

関　いま考えているのは非常に大きい。全建設業者が費用を負担して，はいるのは労働者だけ。労働者は1円も不要。

司会　その1円も不要ということじゃなしに，使用者も労働者も出しあってゆくことが大切なことではないでしょうか。

――建設業労務者の退職金制度――

関　稼動回数に応じて積立金を納めて，就労手帳だけは労務者に渡す。労務者はその資本主から就労手帳に張ってもらった印紙の枚数によって計算した退職金を共済組合からもらう。基金は親会社である総合建設業者が支払い下請は関係はない。出すのは建設業者，もらうのは労務者。そういうことを考えていましたが，あまり金額が大きくなるのでいま再検討をしています。

司会　労務者もある程度出すべきじゃないですか。

関　労務者も出すということには，いささか異議がありますね。下請が介在していますからややこしくなる。下請に半分もたすかという案もあったが，それも結局は一緒じゃないか。やるならば全部もとうじゃないかその範囲は全労務者とすると，その全労務者はちょっと大きい。年間に100億くらい要る。それはちょっと多いじゃないか。労務者の範囲をもう少し縮めようということになっています。

司会　職種によって違いますか。

関　それは決まってはいません。いま考えているのは日雇，季節労務者は除く。そのほかは全部ということです。また技能者の解釈が非常にむずかしいわけです。土工といえども技能者であり，同じ大工でも技能工と技能工でないのとがあります。鉄筋なんかの運搬をしているのは技能工じゃないという解釈もありますが，実際は鉄筋をおぼえるためには運搬からやらなければならない。そうするとやはり技能工じゃないか。技能工にはいる段階じゃないかという解釈もありまして，解釈の不統一をきたしたらなんの意味もない。まあそんなことでどのように制限するかということは現在のところまとまってはおりません。取扱いをするということは決まってはおりますが，範囲は中小企業の共済組合に準じたものにするかどうか，その辺は未定です。労働者からとるということはありませんね。

川岸　労務者からもとればより大きな金額になるということは確実ですけれども，いまお話の案をみせていただいたが，あまりにも長い年限を働いて，その割りにいただく金額は少ない。これで建設業の労務者をつかむことができるか疑問もあります。福利厚生施設はいまや急速になんらかの手を打たねばならんことは，元請はもとよりわれわれも痛切に感じています。できることからまずやっていただこうということにはわれわれも賛成しています。内容的にみますれば30年勤めていくらということでは金額が少ないが，ないよりはある方がいいと思いますが，100億ですか。

関　30年で100万円の退職金を支給することとしますと，100億円。年間ですよ。10年目からもらうことになるので1,000億円たまることになります。

――雇傭の近代化――

司会　共済制度が確実にできれば非常によろしいが，同時に卑近な例として，この業界は徒弟制度のような名残りが非常に多いのと違いますか。現代の若い人達の考え方からいって雇傭の近代化が必要ではないでしょうか。

関　大手業者には，たとえば訓練所でやっています作業は木工事ですからあまり関係がない。出てきてもやらすのは型枠ですからね。自然乗り気ではないんです。竹中工務店は鉄筋関係では直接訓練をやっています。あれを広げて大工なら大工，土工なら土工は直営で踏み切ればよろしいが，下請の関係などで，現状でやろうとするからそこにむずかしい問題がわいてくる。

司会　大林組ならいこう，4～5人のところはいやだという傾向がありますね。

関　私の方もそのとおり。直営の営繕大工などは人集めには苦労はしません。オペレーターもふえています。

司会　大林さんのいっておられたことですが，直傭大工にしない理由は若いうちはいいが，年をとると大工の仕事をやらず事務をとりたがる。それなら学校出の技術者がいいということになる。それで直傭はしないのだといっておられました。

関　そうでしょう。小さいところから広げていかんとピラミット型にはなりませんから。構成がはじめから

広いと収拾がつきませんからね。それを考えながら，しだいにふやしていく。

司会　いろいろと共済や福利厚生について，業界のみなさんは熱心にお考えになっているようでございますので，いづれ近いうちに立派なものが実現して労務者が安心して働くことができるようになることでしょう。期待をいたしております。

教育訓練の在り方

――学校の職業教育のあり方――

司会　つぎに最初に申しましたように親の考え方，学校教育のあり方，国民の全体のブルーカラーに対する見方，このブルーカラー尊重ということが実現せねば，やはり建築に限らず技能者全体はふえてはこないという感じがするわけです。ドイツなどは小学校から中学，高校へ進学するものは約20%，ほとんど80%までは小学校を出れば見習工（アプレンチス）になっていろいろな職種につくという状況なんです。それであって親たちは自分の子供は工員だといっても卑下することなく，かえって相当なプライドをもって全体がブルーカラーに愛着をもち親愛を感じている現状なんです。長い歴史のうえにつちかわれたドイツと日本とは学校教育そのものにも相違があります。日本もドイツ式に工員になれとは一概にはいいませんが，さりとて日本の現下の学校教育制度をかえりみれば，やはりそこには一考を要する点があるんじゃないかと思うわけなんです。現在高校全員入学について論議されています。それの可否，教育制度の批判はいたしませんが，やはりブルーカラーに対する考え方を変え，その子供に応じた適性教育を施し技能者の養成をはかることに，教育の在り方も個人の考え方も，もっていくべきでないかと私は思うわけです。技術の高度化してゆく時代に即して学校卒の方々でも進んで技能者になって産業発展に貢献してゆくべきであると思います。

寺岡　確にそうですね。高校を出れば洋服着てカバンをもって勤めに出るという教育の考え方がおかしい。むしろ高校を出たくらいの人が，むしろ各業種の専門的な技能者になる方が望ましいのではないでしょうか。職種によってはある程度の知識も必要ですから高校出なら立派な技能者になることができるし，また必要だと思います。学校の方でも職業指導の面で国民がすべて技能者になるようにＰＲをしてもらいたいものですね。

遠山　私の方には工業高校を出た大工も大分おります。

関　それは自分から希望される方が多いんですか。

遠山　それもありますが，親が子供の時分から職につき知識の不足で苦労したから，せめては子供にはというんですね。大工をはじめいろいろな職種にはこれはあります。みなそういう意味で高校出に仕事を継がせています。

関　ということはいえますね。大工さんでも名義人とか，早く資格をもらいたいという。これは勤めるんじゃなく自分で企業を起こしたいという人にはおります。

寺岡　そうですね。私が関係している訓練所ではとくに大工になる子供も対象にして技能の指導に当っております。ところが生徒の中で資格がほしいといって，２級建築士の試験をうけるものもいます。技能士と建築士とは別個のものであることを説明しております。がどうも訓練生は技能士よりも建築士に魅力をもっているようです。だが生徒の欠席者が多いことは残念です。理由はどうも仕事の都合とか個人的な理由であるようです。この点事業主（親方）の理解と協力が望ましい。

関　さきほどお話のドイツなんかは受け入れ態勢に

宇部波型スレート　―法定不燃材料―
（平板・軟質板・フレキシブル板）
宇部コンクリートブロック（軽量・パーライト・防水・ブロック）
宇部スレート工業K.K.大阪営業所
大阪市南区鰻谷西之町25　川西ビル　大阪（271）4700・3434～5・7676～9
本社 宇部　営業所 宇部・名古屋・福岡　出張所 東京・岡山・徳山・小倉・熊本・新居浜　工場 大阪・宇部

即応した教育の仕方をしていますが，日本の場合はそれがチグハグになっています。うまくはいかんはずですね。

川岸　むしろ学校の方でも，その点考慮にいれておられないところもある。

関　半面において受け入れ側もそういう形態の整っていないということもあります。

寺岡　私の関係している大工の訓練生の一部のものの中で学力の低いものもあり，指導の面で苦労します。

司会　私の方の訓練所の側からいいますと，学校の職業指導をせられている仕方はですね，できん子ばかりを職業訓練所へ送っている。だから質もわるいということになります。私のいう学校の職業教育のあり方というのはですね。できる子であっても，強いて進学しなくても訓練所へはいるなり，また事業内の訓練所へはいって立派な技能者になっていきなさいというような指導もしてもらいたいと思うんですよ。なにも高校，大学へはいることばかりが能じゃないと思いますね。

川岸　現実はそうでしょうけれども，しかし親の身になれば。

遠山　学校へはいらんと，えらくなれんという考えもありまして……。

熊谷　職業指導を重んじなければならんといっても，ある中学では名前だけで現実には旋盤1台もなければ，オートバイの構造を知るための古い車の1台もない。命令だけで実際はこれではと先生は嘆いておりました。

司会　私の方の設備として相当力を入れており，堺に南大阪訓練所，淀川機械訓練所などを新設していますが殺到するのは自動車整備工で定員超過から機械仕上工へいってくれといってもなかなか転科しないのですよ。せめてこれらの人々が建設関係へいってくれればよいんですがね。いまいわれるように普通の中学では機械の設備はないと思いますね。今後技術教育の面にも力をそそいで少しくらいの設備も必要でしょうね。

熊谷　中学でもっと職業教育をやれという説はもっともですが，ドイツのように卒業生80%が直ちに職業につくという国柄では職業教育に重点を置くことができるでしょうが，わが国のように学歴がなくては，いわゆる出世困難なところでは高校進学希望者が多く，学校当局もこれにこたえ，職業教育よりも進学率を高めることに熱心になるのは現実の事情としてやむを得ないのではないでしょうか。一人でも多く高校にはいった方が学校の名声も上り，ひいては校長の立場もよくなり，府や市の当局もまた一般の人もそういう学校を優秀校と考えている現在です。みんながこういう考えを変えるときがこなければ中学の職業教育の充実は困難なのではないでしょうか。

司会　私たちの立場から申しますと，普通高校より工業高校を増設してほしいですね。

――受入れ側の立場として――

関　大工よりもっとひどい技能者は嵩，はじめからの希望者は全然なく，大ていは途中からのもの，ぐれたあげく一ぺんやってみようかというもので，質も落ち，これの訓練はアタマが痛いです。熟練者はほとんどいない。未熟練者が多いから事故も多いわけです。

司会　ドイツでは公共訓練に依存せず，もっぱら事業所内訓練でやっています。日本でもそれに重点をおいて小さいところでも共同しての職業訓練をやってもらえば優秀な技能者も集まり，高校を出た程度のものを教えてくれるとなれば，事業内訓練のあるところへ中学からも人を送ってくれる。国や府県の補助金を待つまでもなく業界でまず率先してやってほしいものです。

関　左官さんのように共同でやればいいんですが。職業にあった訓練もできるのですから大会社の援助も得られるんですが。しかしいまの事業形態でいこうとすればそれはむずかしい点も出てきます。

ブロックの防水塗料！
ビニール・セメント・ペイント
ブロックタイト
刷毛又はスプレ塗り　常備淡彩12色
安価・速乾・美麗
水谷ペイント

上田　ところが，最近わるい傾向で学業成績のよくないものが集まっていますので，訓練をやっても休みが多くて困るんです。なぜ休む？　なかには勉強がいやだから左官になったのだ。中学の3年間もやっと出てきた。勉強が好きなら左官にはならんというものもあります。（笑い）

関　機械工も同様で工場でとった残り，いわばビリばかり。建設業には機械工がいるのかという始末です。

司会　勉強がきらいだから左官になった。タイル工になったというようでは困りますね（笑い）。優秀な人が将来の日本産業をになってくれる立派な技能者になるようにしてほしいですね。

川岸　次代を背負う人がこれでは，情けないですね。

関　大工さんなど名義人といっても4～5名，あとはその下部でグループに分れているというのがほとんどです。その形態を是正しない限りは退職金規程を作ろうと思ってもできないですね。土工は最近直営形態になっていますが，大工さんはいまのところ全然……。

司会　1人でどこかに登録をしているんですか。

関　結局その下で人を集めて，ひとの仕事をもらうのです。元請と同様の形態をその下でやっているのです。そこにもガンがあります。

遠山　私の方の組合にはいってくる野丁場の人たちも大体何人か揃ってはいってきまして，他府県に出るときも全部揃っていってしまうのがあります。

関　何々班はみなそうです。班はだれかの名前です。

司会　そういうことになるから私の方の寒川労働部長が石川，富山など供給県を回って建築関係の人を集めようと思っても，大林組なら大林組のなんの現場とハッキリすれば人を安心して出すが，一向に所在不明では田舎ではやくざと同様にみられて安心して送り出すことはできんというのです。所属会社と連絡先がハッキリしていれば出すというのだといっておられましたが，やはりそのとおりで供出県として，また親として安心できませんからね。

関　旅から旅の仕事ですからね。

司会　それは教育訓練もむずかしいはずですね。

技能検定をめぐって

遠山　訓練所ですが，自主的にやっています。府のお世話もあり，組合としての協力もありますが，その出たあとの資格ですね。これはやはり訓練所を出たものに対し専門のなにかの高校を出たくらいの一定の資格がほしいですね。そして建築士試験，技能検定などの際になんらかの特典を与えてほしいですね。

上田　将来不況時にでもなれば検定合格者と資格のないものと区別されるでしょうが，いまは人手不足で検定をとってもとらなくてもみな同じです。大阪では仕事がうんとあるので別に検定をとらなくてもというので受験者数は至極低調です。田舎は反対に仕事が少ないから検定に力をいれていますから，受験者の数は比較的多いですね。

司会　検定をとった人には格差がほしいですね。そうしないと，いまのようでは……。

――技能検定と実際のちがい――

関　その検定については問題があるんと違いますか。技能検定をうけてもなんの役にも立たんといわれることもありますから。

遠山　私はつい先日，大工の技能検定委員として検定を行なってきたのですが，検定の有無で賃金を考えることは重大問題ですよ。いまの大工の検定の試験問題はあ

合成樹脂塗料
トルギノール
トルギスキン
Torginol トルギノール 継目のない床材
合成樹脂塗床材 壁材内装・外装用
torgiskin
トルギスキンとは特殊合成樹脂を主体とした高分子粒状塗料であります。
特徴　通気性があるため，施工下地に案外早く塗装ができ，しかも剥離することがありません。　その上乾燥も極めて早く，従って工期の短縮ができます。
トルギノールは合成樹脂の塗装式（コテ仕上）の床材で継目がなく衛生的で，圧力，磨耗に耐えて永もちのする理想的床材で保温防音にも富み踏む感じのよい適度の弾力をもっています。
★　不変色　色調自在　★　誌名記入カタログ御請求下さい
大元工業株式会社
本社工場　大阪市東淀川区三津屋北通り1の38　TEL大阪(301)2734～5
営業所　東京　TEL (561) 4678　名古屋　TEL (24) 4491

れじゃかわいそうですわ。1級棒隅，2級四方転びとわけていますが，東京，大阪あたりの都会の一人前の大工さんで，そういう仕事の経験のないものもたくさんあります。一人前の大工職人になればそれぐらいのことはしっていなければといってしまえばそれまでですが，仕事の内容が専門化された今日，現実に即して考えれば無理にそんなものまで勉強をしなくても，たとえば仮り枠をやっていられる人なればそれだけで立派に一人前でやっていける。棒隅磨きできんから無級だといって，たとえば1級技能士2,000円，無級1,000円というのでは問題ですよ。とくに技能検定の主旨としては技能者に技能士の称号をおくって，それを優遇するというなら，試験問題についてはもっと考えるべきです。

関　たとえば篤なんかは起重機の運転の実技は立派にやりますが，学科試験では通らないんです。理屈はよくわかってはいますが，紙に書けというと書けないんです。そんなのはほかにも例はあると思います。それで実地試験を先におやりなさい。それからつぎに学科試験を。そうしてその平均をとるか，なにかすればまた通るものもいくらかふえましょう。いまのは逆で学科試験に落ちるもののなかには実地試験の優秀者はたくさんあるわけです。そんな状態では免状をもっているか，いないかで賃金の区別はできません。

司会　そりゃできませんわね。機械関係でも職長さんは長い経験の持ち主です。それが学科で落ちるから1級も2級もとれない。ほかの人はみな通るのに。職長さんがこれなんとかしてほしいといわれるような例もありますからね。

熊谷　それでは統制がとれませんわね。

司会　実技はできても学科は書けない人がおられますから，そういう点はなんらか救済の方法を考えられてもよいように思いますね。

熊谷　いまは過渡期ですからね。

遠山　そりゃ資格があるんですから格差の問題もあっていいでしょうが。現在のところではまだまだ無理な事情もあります。将来は別として。

――専門分野の確立を――

寺岡　余談ですが，たまたま私が関係している建築士のことについて申し上げますと，建築士の試験も今年で12回になり，12年といえば一昔です。建築士の在り方について考える必要があるのではないかと思います。いわゆる曲り角に立った感があります。技能者と同様に技術者も不足をきたしている現在，指導的な立場にある方のよき指導をお願いしたい。技術者不足をおぎなう一策として，建築技術者は一応2級建築士になってもらい，1級建築士は専門技術者とし，建築各部門，たとえば設計計画，構造，施工，設備といった具合に専門の科目にわけてそのものについての専門建築士を作るべきじゃないかと思います。先般本局の会議の席でも話題になり，ある府県の方も，12年も経ったんだから建築士の考え方も変えてもいいんじゃないかという意見も出たくらいで，これは技能士の問題についても考えられると思います。遠山さんのお話のように，いままでのなんでもかんでも知っているという行き方自体がおかしい。自分は専門の道で生活を立てているんだからそれができれば満足ではないか。だから資格制度についても専門分野だけをパスすれば技能士の資格を与えてもいいわけです。ということは建築関係の進歩と相まって新しい材料はどんどん出てくる。その新材料のコナシ方をまず知らねばいけないのにもかかわらず昔の方法を固守していくというところに無理があるということはですね。たとえば内装仕上なんかはどんどん進歩しており，このままでいけば大企業の建築工場生産ということになり，大工も左官もタイル屋も不要のものが出現することは当然考えられる。専門的に分担すれば，建築物生産に対してはよりいいものができてムダも省けるわけですから，労働省でもこの点

寺岡　言午
小俣式防火シャッター全般
設計。製作。施工。
株式会社 小俣製作所大阪支店
大阪市北区若松町30　電話(341)9004.9016.4825
本社及工場　埼玉県与野市　東京事務所及工場　東京都北区

を考えていただいて，今後の試験テストにもなんらか盛り込んでもらったならと思っています。

司会　余談になりますけれども，検定の問題，あれは相当の権威者が作成されるんでしょうがその点いかが。

遠山　あちこちの先生に聞いてみると工業高校では全然規矩術は教えていないそうです。いま現在大阪府立の工業高校の先生方でも規矩を知っている人は少ないそうですよ。大学は別ですよ。そういう問題を出して，それでそのままで1級であるというのが現状であります。その間には丸太造のすきや普請専門の人もあれば鉄筋の仮り枠の現場作業や最近のプリント合板で内装専門の人もおります。それに対して棒隅や四方転びのキャタツのできるものだけが1級あるいは2級ということはどうもおかしいんです。それからさきほどの試験のお話に関連しますが，いままでは学校を出ても職につけば大工，左官ですわ。それはいまでは資格が与えられて結構なんですが，永年苦労して技術を身につけた年長の人は学科の点で一向にうけようとはいたしません。

関　うちの方も大工なんかは住宅と建築にわかれていて，建築はコンクリート，住宅は木造となっているのに試験の内容は住宅関係ばかり。建築士も1・2級建築士は設計施工が主体ですから私の方では設計のものはみんな通り，現場に派遣されたものはなんべんやっても通らない。そんなのはよくある例ですから全般的に考えず区分してやらんとむずかしいんじゃないかと思います。

寺岡　左官，タイル工事で塗下地はすべて大工まかせとなっていますが，アメリカでは左官の工事のなかにはいっていて，もし大工がやっても左官技能士の検査をうけなければ塗らさないというようなことになっています。というのは仕上げに非常に関係してくるからです。だから専門的になれば，その部門の技能士の指示がなければかかれない。そこまでいえる技術者になってもらいたいものです。タイルでも同じこと。それを工期をせかれるのでついどんどん張ってしまう。そうするとつい涙（セメントあく）が出てくるという非常にわるい結果がになって，せっかくのよい材料を使いながらそれを生かすことができない。お互いの技術を専門的にやるということですね。また本人自身の考え方で責任をもってやるべきじゃないかと思います。左官，タイル工事にこのような事例が非常に多い。工期に押されて仕上げにシワ寄せされて，できたものは非常にまずいというのが往々あります。

上田　左官もそれぞれ専門がありまして，モルタルと土壁とにわけなければならないのに，いまは一本でしょう。

遠山　モルタル工事のうまい人，土壁のできん人もあります。しかしモルタルだけでも一生いけるんですからね。

司会　もうすこし職種を分化していったらいいんですね。現実に即応せねばいかんと思います。

事業内訓練について

――何千万の金がいる――

川岸　私，お話が前後いたしますが，事業内訓練ですね。私の方も組合も双手をあげて賛成しています。組合員は大阪で約100軒，アウトサイダーはあっても100～200軒で，これはひとり親方です。組合の役員においても組合でそういう機関を作って，そこで1ヵ年か，2ヵ年とか，なるべく専門的なものを先生にきていただいてやるということが，一番いいという結論は出ておりますが，まず九州あたりからの中学卒業者の例をとりますと，だいたい食わせて着させてもらって5,000円くらい

軽　量　鉄　骨
設　計・施　工
新鋼建設工業株式会社
取締役社長　吉田信武
本　社　大阪市西区立売堀北通1―76(立売堀ビル)
電　話　(531)　0609・6575
工　場　神戸市東灘区本庄町青木古堂町53
電　話　神戸　⑧　61　6
広島県御調郡向島町立花3010
電　話　尾道　2868　向島西19

杭
株式会社　武智工務所
取締役社長　福留並喜
大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階
電話(202) 3233・3234

家族に送ってくれというのが希望です。京阪神では2～3,000人くらいタイル工がいるということになります。そう推定していますが，その1割充足しますとやっぱり2～300人，そうすれば仮に200人としまして1ヵ月250万円くらいのお金がいるというわけです。全然仕事をしないものに着させて送らさなけりゃならぬ。年間で3,000万円というお金は，東京にも大阪にも工員の組合もございますけれども，とてもそれだけの現実に仕事のできないものの経費も負担をするということは，できないわけです。どうしても前述のお話のように国とか府とかで，またわれわれのお得意先，営業所，またわれわれの下部組織のメーカーの方から，少なくともなんらかの形ででも経費の面の物質的援助がなければならんと思います。実際には，中学を卒業したものをそういうところへいれて教育をするということがよいという結論は出てはいるんですが，いまいうお金の面で，それはケタはずれ，25万，30万というのとは違って何千万というんですから，現実にはやりたくてもやれないという状況なんです。

司会　組合の事務所にはないんですか。そういう収容所は。……

川岸　ありましても2～30人という程度で狭いんです。どうしても300人の50%150人収容するところがなければできません。

司会　私の方からご援助をするといいましても，教材とか，講師の謝礼とか，そういうものについてある程度補助をしていますが，講師はだいたい月10,000円見当いただいて訓練しようと思うのですが，そのとき国なり府から補助があるのでしょうかね。先生に15,000，20,000円支払っているからといっても全額お渡しをするわけじゃない。10,000円程度に計算をして渡すということになっています。余計もらっているところは年間6～70万円の補助金をもらっているのではないでしょうか。

遠山　その50万円もらおうと思えば，こっちは100万円くらい使っているんですね。それでもいただければ結構ですよ。できればもっとたくさんいただければなお結構ですが，みんなが犠牲を払わなければできませんね。

関　左官業組合の2階は宿舎ですか。

川岸　あれはアパートです。宿舎はみなたいてい事業主がもっています。寮としては。

司会　働きながら勉強をされるわけですね。

川岸　そうです。半分は勉強です。半分は働く。学校卒というものには金がいりますので，その点で壁に突きあたっております。

司会　事業内訓練の共同の教室，実習場の建設費については労働省に融資のことを考えておられるので，それを利用されればいいのではないかと思います。そういう斡旋は私の方でもいたします。

川岸　またいずれ帰りまして組合などで具体的な案が出ましたら，その際はよろしくお願いいたします。

上田　課長さんにお願いがあります。（笑い）技能士養成のことなんですけれども全国に現在公立の職業訓練所で左官科をおいているのは青森県の弘前と東京都の品川，島根県の松江，岡山県の津山と倉敷，徳島県の徳島とこれだけしかありません。しかも一訓練所に20人か，30人くらいしかはいれません。もうすこし人員をふやせるようご努力を願いたいことと同時に，九州かどっかに訓練所を増設し左官科をおいてもらうようご尽力をしていただきたいと思います。大阪はもちろん訓練所はありますが，左官科がございません。ほかの地方はなんとかなると思います。

司会　全国課長会議などがございましたら，そのときは頼んでおきます。九州方面ですね。

——む　す　び——

それではまあきょうの座談会の目的は人をいかに集めるかという問題と，どういうように養成訓練をするかという問題だろうと思います。いままでに相当ご意見も出まして隘路打開の問題などについてご検討をいただきました。業界のみなさん方ならびにわれわれ——と申しましても職業安定課の問題でございますけれども——大阪府労働部あげて全国に人を集める努力もし，またみなさんにも努力をしていただき，そうして集まった人たちについては業界も一段と工夫をこらしていただいて，技能者の養成などをやっていただくようにお願いしたい。昭和38年をピークとしまして，やはり中卒でただちに労働につくという人が38年は105万と推定されております。さらに昭和45年ごろになりますと，45万というように半数以下になるというような現状がくるんじゃないか。そうしますと他の産業にはいきましても，やはり建築関係はますます人が集まりにくい。やはりできるだけ優秀な人を養成して，1人2人前働くというようなことにやっていかなければ，この業界の労働力充足ということは非常に困難な問題があると，まあこう思うわけでございます。

今後とも訓練の点で，かつまた優秀な人を集めるということについては，みなさんとともに努力をしなければならぬと，かように思うわけでございます。そういう点で一段とよろしくお願いをしたい。この程度で本日の座談会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

3 資格問題 1. 技能検定 2. 建築士試験制度

建築関係技能検定について

大阪府職業訓練課検定係長
板谷一夫

技能検定とは，技能労働者の技能習得意欲を増進することによって，技能の向上を図り，もって，その職業の安定と地位の向上に資するとともに，わが国経済の発展に寄与することを目的として，技能労働者の技能を一定の基準により格付し，これを公認しようとする国家検定制度である。

しかし，他の国家試験または検定試験と異なり，いわゆる就業制限を伴なうものではなく，また安全，公安などという特別の目的をもって行なわれるものでもなく，純粋に技能の程度を検定するものであって，技能労働者の自由な意志により受験することのできる制度である。

この技能検定制度によって，職業訓練を効果的に，また適正に実施することができると同時に，その効果を測定することができる。

技能検定を実施する職種のうち，建築関係で現在実施している職種は建築大工，左官，板金工，建具工，建築塗装工，タイル張工であり，今後実施が予定されている職種としては，ブロック工，建築工，屋根ふき工，畳工，とび工などがある。

これらの職種について，原則として毎年，受験者数の少ない職種は2年または3年に1回実施することになっている。

技能検定には，1級と2級があり1級は労働大臣が，2級は大阪府知事が実施することになっており，1級，2級技能検定の受験資格は，別表のとおりであり，新制中学を卒業した者を例にとれば，2級は，実務経験7年以上，1級は，実務経験15年以上が必要である。

その他，職業訓練所，工業高校などで検定職種に関係した科目を修めて，卒業した者はそれぞれの修業年限により，実務経験が短縮されるが昭和42年6月30日以降は，2級技能検定に合格後5年以上の実務経験がないと，1級技能検定は受験できないことになる。

この技能検定の試験方法は，1級2級とも第一次試験と第二次試験とにわけて行なっており，第一次試験は学科試験と技能要素試験を行ない，第二次試験は実技試験（作業試験）を行なう。

学科試験，技能要素試験は学校などで行なう学問的なむづかしい論文を書くという試験ではなく，通常現場で作業を行なうことにより，会得されるような事柄につき解答させる式のものであり，もちろんアチーブメント式のものである。作業試験はそれぞれの職種について必要な基礎的な知識を含んだ問題であり，これら基礎的な種々の要素を組込んだ作業試験問題が提出される。

もちろん，1級，2級で試験程度は違い，2級にあっては下級の熟練工が通常有すべき技能の程度であり1級にあっては上級の熟練工が通常有すべき，技能の程度と考えてよい。

技能検定の試験程度を職種別，級別に定めているのが，1，2級技能検定基準であり，これにより，それぞれの試験程度を示している。

この技能検定には，次の場合に限り試験の一部または全部が免除される検定職種に相当する，免許職種の職業訓練指導員試験に合格した者または，職業訓練指導員免許をうけた者は，1級，2級の技能検定のいずれを受験する場合にも，第一次試験のうち，学科試験が免除される。すなわち，建築大工の職業訓練指導員免許証をもっている者は建築大工を受験する場合のみ，一次試験のうち学科が免除されるので技能要素試験をうければよい。

なお，建築大工の場合は，1級，2級建築士免許証をうけた者は，職業訓練指導員免許証と同様の取扱いがされる。

全部免除とは，一次試験を受験した者が二次試験に不合格になった場合，または，2級試験を受験しなかった場合は，次回に実施する技能検定の一次試験は全部免除されることになっている。

以上の技能検定を合格した者については，1級合格者は，1級○○工技能士，2級合格者は2級○○工技能士と称することができる。

たとえば，建築大工の1級技能検定に合格した者は，1級建築大工技能士と称することができる。

なお，昭和35年5月2日づけで建設業法の一部改正が行なわれたが，これに伴なって，1級技能検定のうち板金工，建築大工，配管工および左官の各職種の合格者は，建設業者がその登録の要件として有しなけ

ればならない技能者に該当するものとして指定されている。

すでに技能検定を実施している職種のうち，もっとも関連のある建築大工の技能検定基準を示せば次のとおりである。

建築大工（1級）

第一次試験

一，実技（技能要素）

（1）水平についての計測器によらない判定が適確にできること。

（2）立水についての計測器によらない判定が適確にできること。

（3）建築用木材の種類が木材の実物について判別できること。

二，学科

1．建築構造

（1）建築物の種類および構造について一般的な知識を有すること。

（2）木造建築物の種類および構造について詳細な知識を有すること。

（3）神社，仏閣などの木造特殊建築物の種類，および，構造について概略の知識を有すること。

2．規矩術

（1）四方転び，木口割り，棒隅軒回り，西洋小屋，入母屋，入母屋の屋根破風などについての規矩の使用方法について，詳細な知識を有すること。

（2）反り軒屋根，ます組などについての規矩の使用方法について，一般的な知識を有すること。

3．施工法

（1）施工順序および，工程表の製作について詳細な知識を有すること。

（2）水盛り，遣形および墨出しについて詳細な知識を有すること。

（3）木工事について詳細な知識を有すること。

（4）仕様および積算について一般的な知識を有すること。

（5）仮設工事，基礎工事，仕上工事および設備工事の施行について一般的な知識を有すること。

4．材料

（1）建築用木材の種類，性質，用途，規格などについて詳細な知識を有すること。

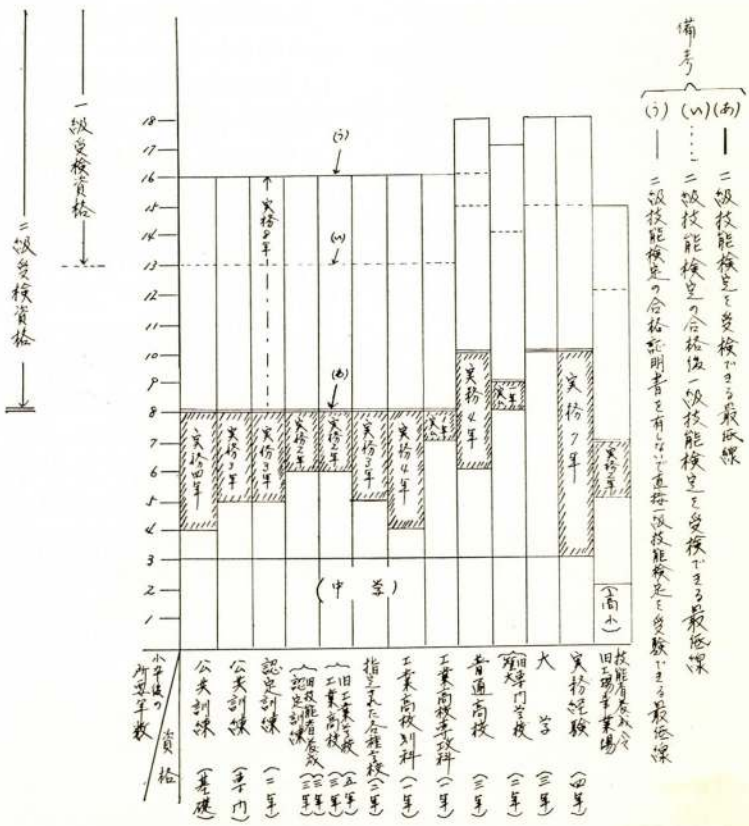
（2）木材以外の建築材料について一般的な知識を有すること。

5．材料強弱

（1）材料の引張力，圧縮力，剪断力およびねじりに対する応力，梁のたわみ，強さおよび柱の強さについて一般的な知識を有すること。

6．製図

（1）設計図の種類，製図記号につ



いて詳細な知識を有すること。
（2）一般木造建築物の平面図，立面図，断面図および詳細図の作成ができること。
7．関係法規
（1）建築基準法および労働安全衛生規則（建物に関する部分に限る）について，一般的な知識を有すること。
第二次試験
一，実技
大工作業
（1）間竿の作成ができること。
（2）墨さしの作業ができること。
（3）高度の水盛り，遣形および墨出しができること。
（4）矩計の図の作成ができること
（5）複雑な木取りおよび墨付ができること。
（6）切組み作業および仕上げができること。
（7）複雑な仕口および継手の各種工作ができること。
（8）複雑な軸組ができること。
（9）和小屋または合掌組の製作ができること。
(10) けた組，配付だる木などの取付ができること。
(11) 入母屋の屋根破風の製作ができること。
(12) 複雑な床組ができること。
(13) 外部造作，内部造作および開口周囲造作ができること。
(14) 屋内の数寄屋風の造作ができること。
(15) 設計図または仕様書により作業計画をたて大工作業および関連作業の段取ができること。

建築大工（2級）

第一次試験
一，実技
（1）水平についての計測器によらない判定が適確にできること。
（2）立水についての計測器によらない判定が適確にできること。
（3）建築用木材の種類が，木材の実物について判別ができること。
二，学科
1．建築構造
木造建築物の種類および構造について詳細な知識を有すること。
2．規矩術
（1）規矩の基本的使用方法について詳細な知識を有すること。
（2）四方転び，木口割り，棒隅軒回り，西洋小屋などについての，規矩の使用方法について一般的な知識を有すること。
3．施行法
（1）木工事について詳細な知識を有すること。
（2）施行順序および工程表の製作について，一般的な知識を有すること。
（3）水盛り遣形および墨出しについて一般的な知識を有すること。
（4）仮設工事，基礎工事，仕上工事および設備工事の施行について概略の知識を有すること。
4．材料
（1）建築用木材の種類，性質，用途，規格などについて一般的な知識を有すること。
（2）木材以外の建築材料について概略の知識を有すること。
5．材料強弱
材料の引張力，圧縮力，剪断力およびねじりに対する応力，梁のたわみおよび強さ，柱の強さについて概略の知識を有すること。
6．製図
（1）設計図の種類および製図記号について一般的な知識を有すること。
（2）簡単な木造建築物の平面図，立面図および断面図の作成ができること。
7．関係法規
建築基準法および労働安全衛生規則（建物に関する部分に限る）について，一般的な知識を有すること。
第二次試験
一，実技
大工作業
（1）間竿の作成ができること。
（2）墨さしの作成ができること。
（3）仮設工事ができること。
（4）下地木工事ができること。
（5）型わく工事ができること。
（6）水盛り，遣形および墨出しができること。
（7）木取りおよび墨付けができること。
（8）切組み作業および仕上げができること。
（9）仕口および継手の各種工作ができること。
(10) 軸組ができること。
(11) 床組ができること。
(12) 外部造作，内部造作および開口周囲造作ができること。

建築士の問題点 —主としてその試験制度について—

工博・京都工芸繊維大学教授
白 石 博 三

建築士法が施工されてから，10年以上になる。この間，昭和36年度までに1級の資格をとった人は，約39,000人あり，最近は年に2,200～2,300人くらいずつ増加している。2級の方は，現在までの合格者は約165,000人で，毎年6,000人くらいずつ増えつつあるようである。ともかく大変な数である。

この法律のできたはじめの年には試験をしないで書類選考で資格が与えられた。1級では，これで資格をもらった人が約23,000人あるから，試験に合格した人の数は16,000人ということになる。2級の方は，昭和26年度の選考で40,000人，昭和32年度の選考で68,000人が無試験で資格をえたから，現在165,000とすれば試験を受けて合格した人は57,000人ということになる。

昭和36年度の1級の全科目受験者が約6,000人で，科目受験者も約6,000人で，合計12,000人。合格者2,200人だから18％の合格率である。この2,200人という数字は，全国の大学建築科の卒業生の数と偶然ほぼ一致する。昭和37年度の1級の受験者総数は，15,000人くらいあるらしい。

かくして試験は毎年繰り返され，建築士は増加の一途を辿り，各府県建築士会は，今秋は10周年記念事業などをやり，建築士法万々才といった形だが，実際にこれでよいのだろうか。

結論から先にいえば，私は，現在のような運用の仕方では，建築士法は，ないよりましといった程度で，あまり大した意義はないと思う。しかし，もう少し問題を細かく分析してみることにし，とくに焦点を，編集部のご注文通り，試験制度に主としてしぼって考えてみることにする。

昨年度の1級試験の受験申込者について，その学歴別統計をみると，合格率は大学卒が24％，専門学校卒が40％，短大卒が18％，2級建築士からの合格者は12％となっている。大学を出たら，たいてい合格するとはいえないことが，これで判る。では，どうしてこんなに合格率が悪いのだろうか。試験が難しすぎるのかそれとも近頃の大学卒業生が勉強していないのか。

試験問題はかなり難しいと思う。そういう私だって，試験問題を作る時には，自分の専門分野を作るのだから，これ以下には程度を落せないという気がする。しかし自分の専門外の試験問題をみると，私は大分勉強しないと合格できそうにないと思う。しかし現在の合格点は，かなり低い点数なのだから，総括的に考えると，これくらいの難しさでよいかまたは若干問題を易くして，その代り合格点を上げるかであろう。1級試験は大学卒を主たる対象にしているのだから，そうやたらに易しくする訳には行くまい。つまりこの程度の難しさでよいと思う。

しかしそれにしても，大学卒業生の合格率24％とは，ずいぶん情ない話である。しかも1回で全科目パスした人は，昭和36年度の全科目受験者の18％だった。どうしてこういったことになるのだろうか。優秀な人は受験しないのか。そんな話は聞いていない。とすれば，大学卒業生の実力が，現実にはかなり低いのか。私はそうだと思う。出身大学別の統計は知らないが，察するところ，かなり高い合格率を示している大学もあれば，その逆もあるらしい。つまり卒業生の学力には，大学間に，かなりの格差があるのが事実らしい。なにしろ戦後は，やたらと大学卒業生がふえて，上述した通り全国で建築科卒業生だけで毎年2,000人もある。そして4年在学したら，ところてん式に卒業証書を渡している向きが，かなりあるらしい。

かくて，一級建築士試験は，いわば大学卒業生の実力国家検定のごとき有様となっているわけだ。大学卒業生といったところで，ピンからキリまであって信用できないから，建設省でもう一度検定しますといった結果になっているわけである。もし仮りに，文部省が大学の建築科卒業生の全員について，これを行なったら大問題となるだろう。卒業後2年たって，ほとぼりのさめたところで希望者だけが受けているのであり，試験の所管が文部省でなく，しかも各大学別の合格率統計などが発表されないから，各大学当局も父兄も，あまり神経をとがらしていないだけである。この点，2級についても同様なことがいえよう。

そこで現在では，学校を出たくせ

に，なかなか合格しない本人は発奮するがよいし，情ない実力の卒業生を出している大学は反省すべきだし「人づくり」という妙な言葉を発明して，お金はださずに卒業生の数だけふやすことを考えているどなたかも，大いに考えて頂くより外はない。建設省は，国室試験の中で，こんなに合格率の低いものは他にありませんといって，合格率を高めるように，毎年試験委員に持ちかけているようだが，私は無用なことだと思う。建築士の数は，この程度でよく，そうたくさん必要だとは思えないからである。

試験のやり方には，別な問題がある。あの○×式のやり方では，きれぎれな知識しか試験できない。問題の種類または傾向が片寄ってしまう。しかも○×式の割には問題数が少なすぎて，偶然の支配する率が高く，実力と十分比例しない，などの欠点があげられる。しかし，こんなに受験者が多くては，他のやり方では，とても採点ができないから，仕方がない。

受験者が多過ぎて，もっとも困っているのは，1級の設計製図である。昭和36年度では，この科目の受験者数が9,500人あった。これに対して試験委員は5人だか7人だか，それくらいしかない。なにしろ1級の試験委員の総数が，受験者のもっとはるかに少なかった昔と同じ30名で，それを各科目別に割当てると，こういうことになるより外ない。これでは製図の採点は，まさに重労働であり，しかもうまく行く道理がない。私は，設計製図は，他のすべての科目に合格した人でなければ，受けさせないと決めて，試験を2段階制にするより外ないと思う。もちろん試験委員の定員も増加しなければいけないと思う。

試験問題の中には，どうかと思われるものが散見される。古めかしい考えや，逆にまだ一学説の域に止まっていて学界の定説とはいいかねるものを，正解としたもの，正解は存在しないというべきものなどがある。試験委員としては精一杯の努力をしているのだが，1科目に5～6人の委員が集って短時間に審議するのでは，これ以上のことを求めることは酷である。ほんのわずかな手当をだしておいて，たびたび長時間の会合を求めることはできないというのが現状である。本当は，委員の数をもっと増し，も少し広く衆知を集め，会議の回数も増して，問題をもっとよく検討しなければいけないと思う。手当も大幅に増額して，これだけ貰ったらよい加減にはできないと思うくらいにすべきだ。

しかし全般的にいえば，今まで多くの歴代委員が作ってきた試験問題の集積は，相当大量で，その中にはよい問題がかなりあり，今後も同じ問題が相当繰り返してだされると思う。今後急に新らしい問題がふえることはあるまい。試験委員になったら，何とかして新問題を作りたい気になるものだが，なかなか新問題は作り難い。○×式で解を必ず5つ作り，その中にもっともらしい誤りをたくみに隠しておかねばならぬ，正解は1つでなければならぬというのは，骨の折れる仕事である。だから新問題には，えてして欠陥を含みやすい。

また建築士というのは，国が保証する最低資格なのだから，何も独創的能力を評価しているのではない。問題集に出ている範囲のことが，ある程度正しく理解できていたら，それでよろしいという議論が成立する。だから過去の問題集は，建築士の知識の程度を示す規準だといえる。とすれば，それと，大学教育なり工高教育なりのレベルなりとの比較が，なさるべきだと思うのだが，された話はまだ知らない。

2級建築士の試験には，もう一つ別な問題がある。それは，2級試験は，各府県知事の責任で行なわれることになっているから，原則的には各府県ごとに違った問題で試験が行なわれ，違った基準で採点されることになっていることである。実際は近年ずっと全国を8ブロックに分け同一ブロック内は同一問題で試験してきているが，合格点は各府県必ずしも同一ではない。ブロックが違えば，なおさら合格の難易が違うはずである。2級建築士といえども，その資格は全国的に通用するのだからおかしいといえばおかしいが，2級建築士の活動分野は，地域的に限定されていることが多いから，試験問題にも地域的特殊性が加味されるべきだともいえようし，また全国統一問題で試験しても，1級よりもさらに受験者の多い設計製図を，同一基準で採点できるかという問題などがあって，困るのである。

私は，試験そのものは，改良すべき点もあるが，大体よいと思う。2級建築士から1級を受けられるなどは，実力者の登竜門としてとくによいと思う。それよりも，建築士の資格そのものに問題があると思う。今のように一々確認審査するなら，建築士の資格が，本当に必要なのだろうか。実際は，1社にひとりの建築士が名儀人としておればすむのだから，私は建築士法は大したことがないといったのである。建築基準法にしても，確認申請の際の書類上の違反に厳しく，建ってしまえば，よほどの違反もそれきりである。士法にしても基準法にしても，法文そのもののみ立派で，現状では，運用は頼りないものだという気がしているのは，私ひとりだけであろうか。

4 需給問題

学校教育と建築技術者の需給問題

大阪市立都島工高教諭
益尾辰雄

まえがき

わが国の建築の仕事も，戦争で受けた深い打撃から，いつの日にか立ち直る時が来るかと思ったこともあったが，今日では戦前の最盛期であった昭和10年頃に比較して，質・量共に10倍以上に伸びてきた。一方，熟練した技術者を育てるには，学校を出てから10年以上の研鑽と経験を要すると思う。したがって，直接間接に建築にたづさわる技術者の養成については，今後起き得るいろいろな問題を念頭において深く考えてみる必要がある。

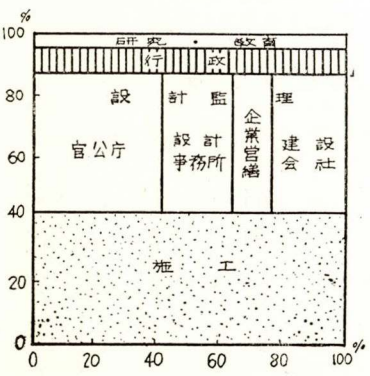
私は以上のような観点から，建築技術者の需給問題の現状と今後の問題点について考えてみたい。

1. どんな方面で建築技術者を必要とするか

建築技術者を必要とする方面は，相当広範囲にわたるが，これをを建設に直接関係のある技術者の職場と間接関係の技術者の職場に大別すると次のようになる。

（1）建設に直接関係のある技術者の職場
- 設計（企画を含む）
- 施工（部分施工を含む）
- 材料（製品と販売）

（2）間接関係の技術者の職場
- 行政
- 建物の維持管理
- 教育・研究
- 不動産・保険
- 編集
- その他



第1図　建築技術者の職種別分布

これらの職場に現在どの位の割合で建築技術者が働いているかについて，第1図のデータがある。これは昭和33年10月の建築学会の大会における巽和夫氏の研究発表中の資料によるものであるが，今日でも概数には変化はないと思う。すなわち，設計関係と施工関係の技術者が最も多く，共に40%以上を占めている。しかし，設計関係の技術者中の約40%は，官公庁で働いており，次に建設会社内で働いている設計関係の技術者が占め，設計事務所で働く設計技術者は，第3位となっている。

このデーターに表わされている施工関係の技術者は，総合請負で働いている者を意味していると思うが，今後の施工関係の技術者は，総合請負の他に，鉄骨，スチールサッシ，コンクリート，プレハブ住宅など多方面の施工に必要となることと思う。

また，このデーターにはもれている材料関係で働いている技術者については，建築材料が大資本によって大量生産される傾向にあるから，今後この方面からの技術者の求めがますます増してくるものと思う。

建設に直接関係のない職場の技術者は，量においてはわずかであるが，方面は非常に広い。また，その中には従来の営繕関係とは少し違う，ビルの管理に関係する技術者も必要となってきた。

2. 学校の配置と毎年の卒業生数

現在わが国で建築技術者を養成している学校を大別すると，大学，短大，新制工専，工高となる。このうち昭和37年4月から新しく発足した新制工専で国立のものには建築科は設けられなかったが，今後はこの制度の学校の卒業生も実社会に出て来るようになるものと思う。

学校数と毎年の卒業生について，1960年3月の建築雑誌の臨時増刊号に吉武泰水氏によって第1表，伏見三郎氏によって第2表，第3表の資料が発表されている。

これらの数字は1958年のものであるから，今春の卒業生は，これらの卒業生数より約1割増とみれば大差

第1表　建築関係学校数および学生徒数一覧

1938			1958		
学校の種類	学校数	卒業生数	学校の種類	学校数	卒業生数
大学	5	161	大学	39	1,650
専門学校	11	284	官公立	20	530
甲種実業学校	60	1,433	私立	19	1,120
乙種実業学校	7	162	短大	7	290
各種学校(A)	7	167	工高(全日制)	95	約 5,300
各種学校(B)	16	255	工高(定時制)	30	約 1,800

第2表　建築課程をおく工業高校数

設置別	全日制	全定併置	定時制	計
国立	1	0	0	1
公立	73	46	5	124
私立	8	7	2	17
計	62	53	7	142

第3表　工高建築課程毎年の卒業生数

設置別	全日制	定時制	計
国公立	約 5,700	約 1,700	約 7,400
私立	約 790	約 300	約 1,090
計	約 6,490	約 2,000	約 8,490

はない。

第1表によれば，1938年から1958年の間に増加した卒業生は，大学（甲種，旧制専門学校を含む）で約3.7倍，工高（甲種，乙種を含む）で約4.5倍である。また，伏見氏の調査（1958年）によれば，工高卒で建築関係の職場についたものが，全日制で約65%，定時制で約50%であったと発表されている。これも最近の建築ブームで，全日制では80%位まで建築関係の職場についていると思う。

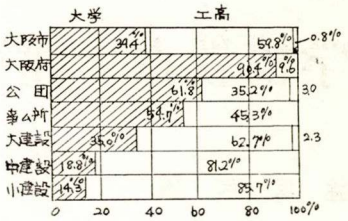
次に学校の設置場所については，筆者が昭和34年の建築学会の秋の大会に発表した第4表がある。

この数字によれば，大学の場合は東京を中心とした関東地方で過半数の卒業生が送り出され，近畿では関東の約半数が出ている。その他の地区ではごくわずかである。工高の卒業生は，地区によって多少の相違はあるが，全国各地で平均して送り出されていることがわかる。これは工高の性質上，全国各地に散在しているからである。全日制，定時制を合わせて工高卒業生は約8,500名出るが，これはわが国の人口を約9,000人とみて，人口1万人について約1名の工高建築科生が送り出されていることになる。

なお，昭和36年内に増加した建築士数は，1級で約2,300名，2級で約6,600名であったと報告されている。1級建築士数の約7～8割が大学卒（旧工専を含む），約2～3割が工高卒（旧工業を含む）であるから，昭和36年には大学卒の人が約1,800名1級建築士になったことがわかる。次に，2級建築士中の約6,000名（残り600名を経験だけで資格を得た人とみる）が工高卒と考えられるが，これは，工高卒約8,000名中の約6,000名（75%）が建築直接の技術者になったことを示し，設備や材料関係の技術者になったものを合わせると，伏見氏が調査された1958年よりも，最近では工高を出てそのまま技術者となるものが増加したことを示している。

3. 各職場における建築技術者の学歴

第2図は筆者が前記の学会に発表したときに調査した昭和34年の数字である。



第2図　学歴別の比率

注　大阪府の数字は技師補以上の人の名簿による。

これによれば官公庁，設計事務所では，建築技術者中の過半数が大学卒で，建設会社では，過半数が工高卒で占められていることがわかり，その内でも規模の小さい所ほど工高卒の率が高いことがわかる。この数字は常識的にも考えられる所である。

4. 工業高等学校の性格

以上に扱ってきた数字の上で，旧制専門学校を大学に，旧制工業学校を工高に入れてきたが，戦前の学校と戦後の教育基本法にもとづく学校の違う所も知っておく必要がある。

大学のことについては他に論じられていると思うし，工高のことについても他の方が意見をかかれていることと思うが，今後の技術者養成の問題を考えるためには，それぞれの学校の性格をよく知っておく必要があると思うからこのことにふれる。

第4表　学校の配置と毎年の卒業生数

学校別＼地区	北海道	東北(6)	関東(8)	東海(4)	北陸(2)	近畿(6)	中国(5)	四国(4)	九州(7)	計
大学 学校数	1	1	13	3	1	7	1	0	3	30
大学 卒業生数	32	32	708	141	29	281	27	0	51	1,300
短大 学校数	0	0	2	0	0	2	0	0	0	4
短大 卒業生数	0	0	77	0	0	38	0	0	0	115
全日制工高 学校数	7	14	23	14	9	17	13	6	22	125
全日制工高 卒業生数	280	640	952	557	447	962	585	266	1,050	5,739
定時制工高 学校数	5	4	17	8	2	12	5	4	6	62
定時制工高 卒業生数	200	100	568	232	50	403	115	140	112	1,920

注　地区欄の（ ）内の数字は，その地区の府県数を示す。

ややもすると工高卒は，大学卒の補助的な技術者と考えられがちである。いうまでもなく技術が高度化し，複雑になれば補助者は必要である。しかし，補助者は機械のように指導者の手先にだけなって働いておればよいということではない。やはり，補助者も意欲に燃えて仕事に協力するようなしくみに職場がなっていなければならない。

そういう意味で，旧制工業学校と今日の工高とは，一応は似ているが，よく考えてみると非常な違いがある。

工高も旧制工業も同じように中堅技術者の養成を目ざしてはいるが，制度上からいっても旧制工業は実業学校令によるものであって，他に旧制の中学校令があり，昔の軍隊に比べると，何か下士官養成所的な感じが深かった。それに比較すると現在の教育制度では，法令上でも高等学校は一本化され，高等学校の教科課程の中に工業の専門課程をおいているのが工高である。したがって，工高の卒業生は，仕事の上ではいろいろ指導を受けねばならないし，どんな仕事を与えられても喜んで行なう心構えを持つように育てているつもりではあるが，人間的には決して卑屈にならず，どんな立場の人とでも同じ人間として普通の気持で話し合える人間であるよう教育せねばならぬと念願している次第である。一口でいうと昔の工業学校より今の工高はよい意味で伸び伸びとした学校になってきたと思う。

また，そうでなければ，もし技術者の絶対数が不足していることがわかって学校を増してみても，素質のよい生徒はこないであろう。現に大阪市内では中学校の卒業生の80%以上が高校に進学するが，高校進学希望者の増した割に工業高校志願者は増していない。この現象は東京でもおきているようである。一概に都会の子供は辛棒強さにかけているというだけではすまされない大きな問題を含んでいると思う。

5. 今後の問題点

今後の問題については，工高の立場から数と質の両方面と，もう一つは受け入れる実社会が新しい卒業生をどう育て伸ばして下さるかについて述べたい。

（1）技術者の数の問題について

今日では大学も工高も戦前に比べて約5倍の技術者を実社会に送り出していることがわかったが，仕事の量の増加にともなっているかどうかの問題がある。統計によると昭和34年以後は工事量が急激に増加したようで，たとえば建築物の着工床面積は昭和33年度は，1カ月当り約300万m^2あったのが，昭和36年度には約700万m^2に達している。これに対して技術者の養成の方はおくれているようであるが，今後の仕事量の増加をみきわめて，その対策をたてる必要があろう。

次には技術者の絶対数はたりてもどこの職場も必要数が満されるかどうか問題がある。どういう風にして若い人達に将来に対する希望と魅力を与えるかは，実社会の方で真剣に考えていただきたい。

（2）質の問題について

現在の工高では建築の卒業生として送り出しているだけであって，その中に意匠，計画，構造，施工，材料，設備などいくつかのコースを設けている所はほとんどない。建築の技術が複雑かつ高度化するにつれて，教育の方ももっと細分化されねばならぬと思う。現在の学校では残念ながら，戦後急に一校当りの生徒数を増しただけであって，生徒一人一人の個性をみきわめて伸ばしてやるだけの面倒がみにくいまま今日に至っている。もちろん教育の場といえども戦前のような悠長なことはしておれないし，能率的に行なわねばならぬが，生徒数が多くても行きとどいた技術指導ができるよう，実社会の方からも学校をご後援願いたいと思う。

（3）将来への希望

いろいろ書いてきたが，学校がよくなり，素質のよい生徒を入学させ，よい卒業生を送り出すためには受け入れる側の実社会の理解と関心がなければ達成されない。また，技術者の数のことも，質のことも，たりているかいないか，質が向上しているか，低下しているかは，実社会でご覧になれば最もよくわかると思う。どうか各職場におかれても，つきあたってからやいやいいうようなことはやめて，学校と実社会が協力して，今後の対策を立て，将来の見通しを立てると共に，どうしたら若い技術者を伸ばすことができるかに努めたいと思う。

専売特許
ウカ式化学防水工事　グラウチング防水工事
グナイト工事　アスファルト防水工事
薬液注入防水工事
株式会社　大阪防水建設社
本社　大阪市天王寺区餌差町42番地
電話 (761) 2594～6
支店　名古屋市中区和泉町1丁目9番地
電話本局 (23) 5075・1048

つねなりすたじお
建築写真
大阪市東区北浜・電(231) 0141

技能労務者不足の根底に横たわるもの

建設調査会
山田四郎

建設技能労務者の不足は，景気調整政策の進展による建設工事量の低下にもかかわらず，今日なお克服されていない。とくに東京のように，オリンピックのための大規模な道路工事とこれに伴なう家屋移転があいついで進められているところでは，一般の家庭で簡単な修繕を大工にたのむことなどは，ほとんど不可能に近い状態になってきている。

労働省の調査による建設技能労務者の不足状況は次表の通りであり，不足率は37年2月現在で34.9%と全産業中最高を示している。しかしこの調査は従業員規模15人以上のみを対象としたものであるから，建設業の企業規模の零細性を考えれば実際の不足数はもっと多いとみなければなるまい。

今年度の建設白書は，このような技能労務者の不足とそれがもたらしている賃金の上昇を，わが国建設業の近代化の指標のひとつとして上げている。たしかに，ここ数年間の建設業における賃金上昇率は，産業大分類別にみると，製造業とならんでもっとも高い。

しかし，このように高い上昇率を示しながら，依然として労働力不足が緩和されない点にこそ究明しなければならない問題が横たわっているのではあるまいか。いいかえるなら労働力不足のもたらす賃金の上昇のみをもって果して建設労働が近代化したといえるのか，そして，そのことによって果して労働力不足が解決するのかということである。

第一に指摘しなければならないのは，建設業の賃金が製造業とならんでもっとも高い上昇率を示しているにもかかわらず，その水準は今日なお全産業中最下位を示めている点である。紙数の関係上，表はかかげないが，毎勤総計の年間平均の月間現金給与総額をみれば明らかである。もちろん，高い上昇によって他産業との格差は次第に縮少の方向に向っている。しかし，もとが低いためになお追いつき，追いこすことのできないのが現状といえよう。

建設技能労働者不足状況

	35年調査		36年調査		37年調査	
	不足数	不足率	不足数	不足率	不足数	不足率
	人	%	人	%	人	%
建設機械工	5,116	20.0	6,922	24.5	10,402	32.5
ブロツク建築工	652	19.5	1,514	34.3	1,540	34.3
建築大工	11,102	16.7	27,294	44.8	26,550	47.9
建設業計	69,652	16.7	155,754	34.9	137,364	34.9

注 1. 労働省調べ「技能労働力需給調査における技能労働者の不足状況について」による。
2. 調査時点は各2月1日。

しかし，そのことは賃金さえ上げればすべて問題は解決することを意味するものではない。建設労務者の賃金が職能的であると同時に，職人的，日雇い的性格をもち，一般の工場労務者にみられるような賞与あるいは一時金さらに退職金制度を欠如している点はすでに多くの人々によって指摘されてきたが，これが建設労働条件の低位性を形成する重要な要因になっている点はあらためて認識されなければならない。

もちろん，生産行程の機械化にともなって，大手総合業者の直用労務者が次第に増加をたどり，これら労務者については各種制度が適用されはじめてはきている。しかし，36年度の「特別に支払われた給与」の「きまって支給される給与」に対する割合をみると，製造業労働者の18.3%に対し，建設業労務者の場合は6.0%にとどまっており，同職員の27.5%に比較してもいちじるしく低い。しかも，この「特別に支払われた給与」のなかには，賞与以外の特別の給与がふくまれているのであるから，賞与という面から考えれば比率はより低下することになる。これは建設労務者にあっては，ほとんどの企業において賞与制度が採用されていないことを意味し，常用労働者でありながら，なお日雇い的賃金になっていることを物語るものであろう。

これは賃金の年令別比較についてみた場合，同一職種でありながら，建設業の場合は年功的性格が弱いために，35才を過ぎると他産業よりかなり低くなってゆくという賃金体系の問題ともからみあって検討するべき問題であろう。

つまり，建設技能労務者の賃金のもつ特殊性からそれを単に平均水準のみでとらえ，それが上昇したからといって近代化したということは必ずしも正しいといえないのである。今日，他産業では，賃金管理の近代化が年功序列賃金から職務給へという形で真剣にとりくまれている。建設業においては果してどうであろうか。建設業の賃金は，職種別，熟練

度別賃金であり，それ故にもっとも〝近代的〟賃金だとする主張もある。しかし，今日の日本の社会制度やさらに賃金水準から考えて一挙に年功序列型を打破することができないことはいくつかの実例が示している。大手総合業者の限られた直用労務者を除いては，家族手当，賞与，退職金などを欠いているのが支配的な建設業の賃金については単に額あげのみでなく，他産業と異った立場から検討が加えられるべきではないか。それをぬきにして需給のアンバランスが不可避的に生む賃金額の上昇を拱手傍観しているだけでは，技能労務者の不足は解決されないし，企業採算に与えるその影響も一層深刻の度を加えてくるであろう。

それはひとり賃金のみにとどまらず，労働時間，作業環境，宿泊施設など労働条件全般についてまで抜本的検討が及ばなければならないことを意味する。青少年の建設業への就業希望が年々低下する傾向は，日本のみでなく，ヨーロッパ，アメリカなどでもみられ，ILO建築土木委員会でも取り上げられていることは周知の事実である。建設調査会が昨年の秋に行なった実態調査の結果では野丁場では36.1%，町場では18.3%の転職希望者があったが「自分の子供を建設業で働かせたいと思うか」という質問には両者とも60%が「働かせたくない」と答えた。建設業における就業者数はたしかに年々増大をたどっている。しかし，それは比較的年令の高い半失業的無技能労務者の増大であり，基幹職種である技能労務者についての増加，とくに新規学年者の就業率は決して増大していない。戦前とはちがって戦後の民主々義，合理主義によって教育された青少年にとって，建設業は決して魅力のある職業として考えられていないのである。

もちろん，多くの点で賃金，労働条件の改善が進み，いわゆる〝近代化〟途上に今日の建設労働があるという主張を私はすべて否定するものではない。しかし，木をみて森をみないという諺（ことわざ）がある。つまり，それは条件，基盤のある限られた企業にのみとどまり，巨視的にみればなお古い，遅れた労働関係が支配的といわなければならないのである。

建設技能労務者不足問題の根本的解決は建設業そのものの構造的特質が究明され，その変革のための方途が提起させ実行されない限り，不可能ではないかと私は考えている。

たとえば，改善の方向をたどりつつあるとはいえ，依然として建設労働の低位性を形成しているものは，激しい企業競争が生む極端な低価入札や工期短縮にあるのではないか。工期短縮という過剰サービスをもって発註者の意にそおうとするとき，たとえ経済的な面で労働者にプラスを与えることができても，それを相殺して結果的にはマイナスをもたらすような労働強化が起らないと果して断言しえようか。とくにすでに指摘したように，建設技能労務者の特殊な賃金は，青壮年時の水準はそれほど低くないにしても，老後の生活保障という点ではいちじるしく稀薄である。さらに一般的に重労働，屋外作業であるため，労働力のまめつもまた激しい。こうした労働条件の特殊性に労働強化が加わるとき，労務者の定着度が低下することは当然といわなければならない。

最後に指摘すべき問題は，機械化施工についてである。工事量の増大が就業者数の増加をもたらし，賃金，労働条件についても，一定の改善をみつつあるにもかかわらず，依然として技能労務者の不足が緩和しない——労働条件をさらに改善する，あるいは技能者養成を拡充する，これは大切なことだ。しかし，私はより根本的には，少ない労務者をもって多い工事量を消化しうる生産，労働過程への変革がなによりも必要でありそれのみが技能労務者不足を解消する抜本的方策だと考えている。

日本の建設業には農村の豊富低廉な労働力を給源に人力依存，人海戦術をもって工事を遂行してゆくという伝統的慣習があった。とくに第一次大戦後の恐慌時に，失業者救済を公共土木工事の拡大に求め，それには機械使用を制限するという政策がとられ，これがさまざまに内容を変えながらも太平洋戦争の勃発まで受け継がれたことが建設機械化を全面的に後退させた点は，今日なお忘らるべきではない。アメリカのニューディル政策が失業者救済という消極的観点のみでなく，TVAに典型的にみられるように大規模な国土総合開発という雄大な構想をもって積極的な建設機械化の進展を伴なって遂行された点とあまりにも際だった対照である。

雇用拡大という政策のなかに機械化，生産性の向上が埋没しがちな国の政策が，技能労務者不足を生んでいるという皮肉な現実に着目することも重要ではないか。

5 設備技術者の教育

1. 教育委員会側より
2. 受入側（企業側）より
3. 大学側より

設備技術の教育者について

大阪府教育委員会事務局
府立高等学校設立準備室
相川三郎

設備といえば，附帯工事の一部であるという概念が一般的であった過去に比べて，近代建築工事における設備関係工事の比重は，近年急激に増大しつつあり，その工事費が建築工事費と比して1：1，特殊なものにおいては，むしろそれ以上のウエイトを占めるようになったが，依然として設備技術に対する世論は，設備とはごく一部のものであると考え，またそれにたづさわる技術者は下積的にめぐまれず，その養成もおろそかであり関係業界の片手間的な養成で，お茶を濁してきた状況におかれて現在に至っている。

設備の専門家は建築家の一分野であるか，または建築家以外の独立した専門家であるべきか否かは，種々の議論百出，留まるところのないようであるが，いまここでそれらの善悪を述べるつもりはない。しかしながら最近の事務所建築，工場建築などにみられるコアシステム計画などは，近代建築設備技術が建築計画全般に強い影響力をもっている表われであろう。また各種製造工場における生産管理においてもより高精度の製品を生産するに建築設備のもつ重要性はその企業の死命を制するともいわれる。

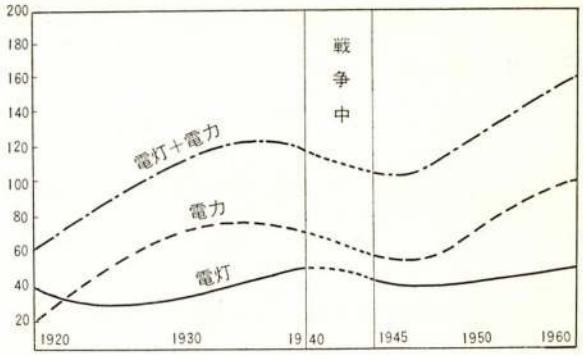
要するに建築のもつ機能をその目的に対して，完全に果すことが要求されるのである。

先にも述べたように近年建築設備の数量的増加率はA表に示すように年々増大の一途をたどり，今後なお増加することがこの数値から推察できよう。

とくに各種機器の動力源としての

A表　現代における設備発達の数量的変遷表

工事別＼年代別		1850～1900		1901～1925		1926～1945		1946～	
工事費	主体工事費	木造・煉瓦造	90～81 %	煉瓦造 鉄筋コンクリート	80～75 %	鉄骨・鉄筋 コンクリート造	74～65 %	鉄骨・鉄筋 コンクリート	64～60 %
	暖房・空調	直接暖房	5～8	直接暖房	10～12	空調(冷房) 直接暖房	12～14	空調(冷房)	15～17
	給水・排水	給排水	3～6	給排水 浄化槽	5～6	給排水 消火・給湯	6～7	給排水 消火・給湯	6～7
	電気設備	照明	2～6	照明 電力	5～7	照明 電力 電熱		照明 電力 電熱	15～16
	設備工事費計		10～19		20～25		26～35		36～40
設備面積	全床面積との％	暖房 給水	0.1～1.0	暖房 給排水 電気	1.0～2.0	空調・冷房 給排水・給湯 電気一式	2.0～4.0	空調・冷房 給排水・給湯 電気一式	4.0～6.0
衛生陶器全国産				大正6年から 国産		個数単位 噸単位	20万 2,000	個数単位 噸単位	150万 20,000
放熱器		国産 輸入	僅少	国産 m² 輸入	10,000	国産 m²	40,000	国産 m²	100,000
ボイラー（鋳鉄）		輸入		国産 ケ 輸入	250	国産 ケ	2,000	国産 ケ	5,000
使用水量		1 it/m²/d 1 it/c/d	3～6 30～60		7～10 60～90		10～12 90～110		12～15 110～150



B表　事務所建築の電力設備（年代別）　単位：ワット/坪

電力設備は急増しB表にみられるように増加度は測り知れないものがある。

建築学科の教科の中に大学，高等学校を問わず，建築設備という学科目が以前より設けられ数単位が充てられているが，建築技術者として必要な設備工学の常識的範囲を出ていない。設備技術者となるにはほど遠い状況である。建築業界，設備業界として近代建築を進展させるためにも，より専門的な技術者の養成が急務であると考え，その対策として，大学工学部の各学科において関係学科目を充実拡大を目し，工業高校においてもその単位の増加，施設設備の充足を期しつつあるが，広範囲な内容を如何に確立するかの困難さ，担当教員の不足などのために未だ充分な成果をみていないようである。

昭和25年建築士法が制定され，それ以後全国に10万余の1，2級建築士が認定され年々その数が増加されつつあるが，A表に示されるように全建築費の半数を占める設備工事の担当技術者の認定制度，またその専門の技術教育機関のないのは，まったく現状を無視した不均衡なことといわねばならない。一つの建築計画がなされる場合，当初から設備計画が重要視され，意匠計画，構造計画とともに，三者一体となって討議されなければならないであろう。

幸い昭和30年に衛生工業協会が設備士の制度を設定し，この種技術者の養成と質の向上を図り，すでに1,200名以上の設備士が生れたことはよろこばしいことである。しかし建築士に比してその数のあまりにも少ないのは今後の設備工事の増加と併せて寒心にたえない。

米国においても十数年前から3大学に設備工学科が設置され社会の要望にこたえているが，わが国では少数の大学にてごく僅少の設備技術者の養成がなされているに過ぎない。

現在関西の建築業界，設備業界では技術者養成のための専門学科の設置運動を，日本建築協会を中心として数年来活発に行なわれ，関係当局に積極的に働きかけてきた。

大阪府教育委員会として昭和38年度より始まる高校急増対策の一環として府立新設工業高校に設備工業科2学級（80名）の設置が決定され，現在開設のための諸準備が進みつつある現状である。関西で始めて，専門に中堅技術者の養成がなされるわけであるが，関係の人々のご努力に対して敬意を表したい。

東京都では昭和23年特殊な事情のもとに，衛生工業科（後に設備工業科）が都立蔵前工業高校に設置され1学級（40名）ながら今日まで，中堅技術者養成のために果している役目は大きく，将来の発展が期待されつつある。

なお，主要な府県でもその重要性を認識され今後設置を計画されると聞いているが，全教育機関が関連を保ちつつ養成のための努力を重ねなければならない。大学にもその気運が高く近い将来設備工学科の独立が期待され，関係学科の充実が急がれているようである。

技術者の教育と一口にいうが，当事者の一人として設備工学としての体系の確立，実験設備の内容，とくに養成にあたる技術系教員の確保など，その困難性が目前にあるが，一歩前進してこそ困難が打ち破れるものと信じている。工業高校における優秀な技術系教員の不足は，日々に増大しつつあり高校生急増を目前にして苦慮している状況である。

論ずるまでもなく教育機関は，それを受け入れる地域社会との密接な関係がなくては成立しないのであり教育をうけた初歩技術者が将来社会に貢献でき得るか否かは，両者の協力如何にあると信じている。今後の各界諸賢のご支援を切望して止まない。

設備技術者の教育について（受入側・企業側の立場から）

大阪府管工業協同組合理事長
石田憲二

現代における建築技術の進歩にともなって，建築そのものが芸術的外観を主として考えていた時代ははるか昔のことであって，こんにちの建築は見るだけではなく，建築そのものの使用価値が問題になってきているのである。したがって建築設備への考え方も，また大きく変ってきたといえる。たとえば過去における冷暖房，電気設備のようなものが，ただ暑いから涼しくする，寒いから暖かくする，また暗いから照明をつけるという考え方の域を脱し，われわれの日常の職場，生活環境をいかに快適なコンフォータブルな空気状態に置き，仕事の能率をあげうるような状態に持っていくかに重点が置かれるように変ってきた。

大都市における設備の完備した建築物には，騒音，塵芥による空気汚染などの気象条件以前の大都市なるがために，発生する種々なるトラブルが排除されてこそ，代表的現象建築物といいうるのであるが，残念ながら総てを解決しえた建築物はいまだ皆無といってさしつかえない。どうにかお茶を濁した設備だと極言されてもいたしかたない現状である。建築設備技術の進む道はこれより広範囲に，豊富な科学的知識や種々の経験を生かして進まねばならない未踏の世界といってよく，前途洋々たる技術といいうると思うのである。

すなわち，現在わが国に広く用いられている設備技術は，ほとんどが近代欧米諸国の建築設備をそのまま受けついだものであるが，わが国にはわが国独特の，世界に比類のない建築用式があり，また気象状況も欧米のそれと全く異なる特殊気象にあることを考えただ外国建築設備の踏襲でなく，基礎的技術を完全に消化し，わが国の条件に最適の建築設備を考え出さねばならないのである。

立派な建築設備は必ずや理想建築にマッチしたものであり，建築設計の完備は立派に設備を消化するものであると思う。

1961年ロンドンで開かれた国際暖房換気空気調和会議で発表された「10年後の空気調和」という論文によれば，今後10年間あるいはその後に発展を予想される事項を次のごとく述べていることを最近知った。われわれにとって最も注目されるところである。

すなわち，今後快感の問題が厳密に追求されるものと思われる。エネルギーについては石炭などの天然資源が減少し主として電気が使用される。電子冷凍も研究状態を脱し実用化されよう。各種装置の自働制御は更に発展する電気計算機を利用して建物の熱流の計算が総て不定常と考えられるようになる。設備の老旧化が早まり償却年限の短縮が予想される。電子冷凍の完成によって各種装置が中央式よりユニット式への移行が考えられる，等々これは暖房冷房換気について述べられているのであるが，こんにち新しい考え方として設計したものが，実際に実施され建築物が完成した時には，すでに古いものになってしまっているということを常に留意しなければならない。

最近，空気調和設備関係では冷風温風を別の風管で高速で送る二重ダクト（Dnal duct）方式，エアーソースヒートポンプ（空気熱源ヒートポンプ）方式サーモエレメントを使う電子冷房，太陽熱の利用などがだんだん実用化されようとしている。

また，今後の都市計画のなかには，新しい都市作りには，また団地方面においても地域暖房，地域冷房，すなわち1ケ所に冷熱源のセンターを設け，冷温水を各建物に供給してより安価に設備の完備を期し語られるような計画がペーパープラントとしてできつつあるように仄聞しているのである。まことに望ましい限りであるといいうると思う。

やがてかかる時代がきた時，かかる設備の受入が果して可能なるや否や，現状まことに心細い限りである。

少しでも設備技術者のレベルを引きあげ，技術者数の増大を計り，建築技術者とタイアップできるだけの状態に一日も早くならねば，業界の発展も期し難いと考え，数年前より「空気調和衛生工学会」が中心になり，法的な裏付けは今のところ何もないが，空気調和衛生工業会

において設備士なる資格制度を作り，毎年厳格なる試験を行ない，設備技術者の養成と育成に努力していることはご承知の通りである。

設備士養成の卵に困難性が生じ，なかなか計画通りの進展を見ないのが現状である。

しかし，この設備士なる制度も空気調和衛生工学会なる一学会の私的の存在であって，なんら法的資格を認められない。建築士の場合には建築の設計監理に従事する建築士が建築士法という法律によってその存在を法的に認められている現状に比較して，まことに格段の相違があり，建築士の日本全国における有資格者数18万人に対して，設備士数が僅々1,500人に過ぎない事実は不思議というか，18万人の建築士により消化しきれない建築量が僅々1,500人の設備士にて消化されているのか，思うに恐らく設備士の資格のない多数の未熟な技術者によってどうにかごまかされてお茶を濁されているとしか考えられないのである。かかる現状で果して理想の設備を持った建築物を期待し得られるや寒心に堪えないしだいである。一日も早く立派な設備士の増産が望まれるのである。設備士の量の少ない原因にはいろいろな理由があると思うが，一番大きな理由の一つに，過去において設備なるものが建築の付帯設備の域を脱しなかった，建築物の一部分の仕事であったということであり，戦後になって急速に建築と設備とが車の両輪のごとく，建築物の機能を有効に発揮するものであるという一般認識ができて，始めて設備士なる設備専門技術者の必要が起り認識を高めてきたのであって，歴史が建築士に比し浅く，これから発展し歴史を作っていく段階なのであり，今後の伸長を期する部門である。

以上のごとく，建築物に対する設備というもののPRがようやく起ってきたという状態で，設備工学という学問が一般に未だPRされていないため，技術者の養成もまことに困難であるのが現状である。普通大学工学部で設備工学の講座のある学校も稀である。工業高等学校においても同様である。機械工学科の卒業生はほとんど一般に衆知された産業界に就職してしまうのが通例になっているが，われわれの業界に進んで就職希望する者の皆無なことからみても，いまだわれわれ業界の重要性のPRができていないことを痛感する。もっとも設備工業という企業のあり方が大企業になりえない点も技術者獲得の困難性の一原因とも考えられる。まず中小企業の域を脱しえない産業なることも否めない事実かと思う。

ここにおいて，われわれ設備工業を営む者は設備技術者の卵を如何にして獲得養成するかを根本的に考えねばならぬ時がきて，業界あげて腐心し，熱望した結果がまづ大阪地区において工業高等学校に設備工学科の新設を計画してもらうことであった。幾度か大阪府教育委員会に陳情を重ね，公聴会にも出席し設備工学の必要性をPRした結果，幸い教育委員会のご理解あるご判断により，昭和38年度に開設される府立工業高校に設備工学科を新設して頂くことに決定したのである。ここにおいて，設備技術者の養成の一歩が大きく踏み出されたので設備業界にとっては一大エポックともいえる喜ばしい誕生である。設備業界にとって昭和38年度は，まことに意義ある年となると考えられる。

目下設備工学科の新設に当り，大阪府教育委員会においては各先生方が教科内容，実験設備などにつき最適な資料の準備にいろいろ研究を重ねて頂いているようであり，実験設備にいたってはまことに理想的なプランにより考慮を払って頂いている様子を承知し，われわれ業界においてもできうる限りのご協力を致したいと決心している次第である。

これらの設備工学を専攻した学生が卒業して，設備に関する仕事を担当し社会人として活動する時がくれば，業界にとっては大きな勢力となり，わが国設備業界に対する貢献は計り知れない物があると推定できると思う。まことに喜ばしい限りであり，これらの設備技術者が立派な設備士となる時，文化国家の建設に必要な諸設備の質を向上せしめ，わが国独自の立派な建築設備の完成の夢近しと期待するものである。

設備技術者の教育について（大学側より）

工博・京大教授
前　田　敏　男

§1　これまでの建築設備技術者の教育

建築設備といっても範囲が広く，大別すると

空調設備
給排水設備
電気設備

となり，これらすべてをこなせる技術者の教育機関は大学にはなかった。都市の上水・下水は土木学科で扱われていたが，建物の給排水設備については，ほとんど講議されていなかったようであり，土木出身者がこの方面の職域に多いわけでもない。電気は電気工学科の領分である。

建築設備の主要部をなす空調設備については，現在活躍している技術者の大部分は各国ともに機械出身者である。

日本の大学にも建築設備技術者の養成を目的とする学科またはコースを持つものがある。北大の衛生工学科は水（従来の上水・下水）と空気（広義の空気調和）とに分かれており，また関東学院大学は設備コースを持ち，早大は旧制大学時代から，建築学科の中に設備専攻コースを持っており，現在活躍している建築出身設備技術者の大部分を占めている。

このような特別のコースを持たない一般の大学の学部で，建築設備関係の講義を持つのは，機械工学科と建築学科である。各大学の講義の名称，内容，時間数はまちまちであるが，おおよその平均値的なものとしては，機械工学科における

空気調和工学
冷凍工学

であり，それぞれ週2時間，半年の講義である。

建築学科では

建築設備

であって，暖房，給排水（消火設備を含む）電気設備などを含み，週2時間，半年の程度である。さらに

建築衛生

の講義があり，気象，熱環境，換気，伝熱，湿気，日照，日射，採光，建築音響，騒音防止などに関連した建築計画の基礎を講義している。建築学会ではこれを計画原論と呼んでいる。週2時間で1年の講義であり，一般にそうとう力を注いでいる。また，前記機械工学科の講義を建築学科の選択科目として聴講せしめている。

このようにみてくると，建築学科の方が建築設備関係の講義科目も時間数も機械工学科よりも多いように思われるが，内容に立ち入るとそうではない。

§2　基礎学の講義

機械工学科では，建築設備関係の講義は前記の二つであり，多くは選択で重要科目とはみなされていない。しかし，空気調和，給排水などの基礎となる熱力学，伝熱学，流体力学，蒸気工学，流体機械などの講義を持ち，多くの時間が当てられている。仮りに冷凍機やヒートポンプなどの講義を受けなくとも，その概略と基礎理論は習得できており，建築設備の仕事に従事した場合に，その吸収，理解は容易であり早い。

これに対して，建築学科では，そのような基礎学は全くないといってよい。強いていえば「建築衛生」での講義がこれに当ると考えられなくもないが，この科目そのものが，流体，熱，光，音などの異質な内容をつめ込んだものであり，各項目に割り当てられる時間数も少く，基礎も応用も講義する時間はない。たとえば伝熱を取っても，これは空調機器の伝熱に応用できるような伝熱工学概論ではない。むしろ，この方面の研究が進むほど伝熱概論を離れて，建物の防暑防寒計画という応用的なものになっていく傾向が強い。最近「建築衛生」（計画原論）関係の論文は，ダクトの抵抗，空気吹き出し口からの室内空気分布，ダクトの騒音防止など，空調設備関係のものが増加しているが，基礎的理解の貧困は覆うべくもない。古い時代は，建築学科の講義程度をもって，暖房，給排水などの設計を建物の設計と同時に行なってきた。しかし現在の発展した設備を対象としては，あまりに不充分であって，結局，建築学科での設備教育は建築家または建築技術者への基礎的な教養としてであって，決して，設備技術者養成への方向は持っていない。

このように考えると，現在の時点では，機械工学科の方が，建築設備技術者の教育という点からは，より適当しているといわざるを得ない。

§3　建築設備技術者の教育について

従来，建築設備技術者の供給源であり，現在もまた最もその教育に適当していると考えられる機械工学科では最近は，建築設備技術者の養成ということは目的のほんの一部に過ぎないか，または全然目的としていないようであり，学生もまたこれになんの魅力も感じていない。そのため卒業生の中から，人材が得られないという状態であり，設備技術者の教育ということも，こういう点から取り上げられている。

これまでの教育が建築設備技術者の養成の方法として適当かどうかという点からは余り問題が取り上げられていない。

極端な場合には，建築設備をやる意志があり，大学の工学部を卒業する程度の頭脳さえ持っていれば，何学科の卒業生でもよいのだという声も聞かれる。興味と熱意を持ってやる意志と，いやいやながらしかたなしにやる意志とでは大いに違いがあるから，いちがいにはいえないが，これでは，建築設備技術者を「はきだめ」と考えていることになる。

やはり，技術とその基礎となる学問に理想像を掲げて魅力あるものにしなければ，この方面に進むものが多くなることは望めない。

従来，建築は意匠，構造の二つの柱で支えられていると考えられていた。その場合の設備は，これに付加されるいわゆる付帯設備で，副次的な重要さしか与えられていなかった。最近は大いに変って，設備を加えて，三本の柱を考えるようになった。人体にたとえて，構造は骨格，意匠は皮膚と筋肉，設備は血管や神経であるともいう。これまで，意匠と構造の対立や協調が論じられてきたが，設備も意匠や構造と対立しつつ有機的な協同が要求される。近代ビルの外壁は，騒音や熱の遮断という機能を通じて，空気調和設備と不可分の関係にある。すなわち，建築計画の一部として設備計画がなされなければならない。この要求を簡単にいえば，建築家が設備を知らねばならないと同様に，設備技術者は，建築を知らねばならない。

建築設備技術者の養成の立場から，これまでの機械工学科での教育を見るとこの点に大きな欠陥がある。すなわち，必要以外の多くを教えている反面，他の必要なものが大きく脱けていると考えられる。

この欠点を埋めた，一つの理想像としては，機械工学科の一部と建築工学科の一部との結合がある。すなわち建築全般について一通りの教育を受け，熱力学，伝熱学，流体力学などについて概論程度の講義を聞き，これを基礎として，「建築衛生」の内容をなす部分を理解し建築設備機器についての知識をもち，これを設備計画学でまとめるという形である。

そのような学科ができれば理想であるが，程度は高くないが広範囲な内容を含み，独立した学科としてはかえって成立しにくい。建築の学部卒業生を大学院で設備専攻コースに進める方法が考えられ，筆者のところでは，その方法によっている。講義について，基礎から応用へという正常な段階を取れない欠点を痛感するが，現状では止むを得ないと考えている。学部の後半程度からコース分けする方法も考えられる。この方法で，教育された技術者は，設備計画，建物に対する設備機器の編集という意味での設備設計に重点がおかれる。

一方，これまでの機械工学科の講義のうち，設備技術者に必要なもののみ取り出し，その代りに，その内容を詳細にするという教育方法を考える人もあろう。これは前者に対し，設備機器に詳しいという特徴が出る。

設備技術者の教育に単一の型を考える必要はあるまい。設備設計，施工，運転管理，さらに設備機器の設計，製造，販売技術者とその職業範囲は多岐にわたり，人の要求も増す一方である。いろいろの方面に特徴を有する技術者が出てよいと思われる。

どんな教育方法を取るにしても，技術とその基盤となる学問，職業的地位などに魅力がなければ学生は集まらない。建築設備が全建築費の50%以上を占めるとか，いくら叫んでみても，建築において二次的な付帯設備という扱いをされ，設備技術者が，建築技術者の下風に立ち，自然科学的な理解の不足した頭の古い建築家の無理をおとなしく聞かされている状態がなくならねば，優秀な学生をこの職業分野に引きつけることは困難である。しかし，幸に，時代の要求は，そういう不合理な状態を過去のものとしつつある。

会員の頁

どしどしお便り下さい。集録していきます
挿入のハガキを利用下さい。

□円いプラン・三角のプラン□

円形住宅，三角形の平面図に対する夢は，ときとして異常なまでに強いものがある。がまたあきのくることも早い。

幼児の絵には，丸と四角との区別がないといわれる。日常，建物内での行動に，プランが矩形であることを，それほどはっきりと意識しているだろうか。

室隅の壁体が何度の角度で交叉しているかを，床面をみないで知ることは，かなり困難である。平面図で矩形と多角形を区別しても，壁面をみる時，「閉ざされた空間」という程度の意識が，主たるものではないだろうか。問題はプランの形にではなくて，大きさとその内容にかかっているだろう。したがってまた，プランの形の自由さは，技術的な制約によるだろう。　（金谷）

★

□工業化の視点□

最近建築の工業化について語られることが多くなってきた。それは新しい思想の展開であり，この限りにおいてきわめて好ましいことと考えられる。しかし，これらの論議の多くが，技術の高度な展開についてのべられた，いわゆる技術中心的な考えであるように見受けられる。そして中には工業化論のブームにあふられて問題のとらえかたが表面的なものが多い。そこで，これらの論議が忘れているところの二，三の重要な点について概念的であるが（紙数の都合上）注意したいと思う。

先づわれわれが問題を自分のものとして考えるとき，みずからが住んでいる資本主義経済の姿を忘れてはいけない，ということである。近時建築の工業化については，一部の先進的な建築家が種々提案をしたものの，多くの実際に仕事をしてきた建築家はほとんどこのことを考えなかったのに，このごろは建築とは関係のなかった企業家によって一見広い範囲にわたって推められだしてきているのは何によるのであるか。建設業界そのものが社会経済全体の中で今までどうような位置を占めていたのか。建築産業の近代化は資本主義の枠内ではむしろ逆行するものではないのか。もしそうでないとするなら，それを可能にならしめるほど経済は変革したか。またはこのことによって建築労働者の地位は安定するような近代化に進みうるか。

こういった条件の中から考えてこそ，始めて工業化の方法論を導きうるであろう。

（NAC 会員　森脇　久嘉）

★

□ひとつの回想□

国鉄天王寺駅（10月号）の写真をみながら，私はひとつの回想をたどっていた。工事中は通りがかりに板塀の奥に何がいま作られつつあるかを覗いてみたりした。これは職業柄からかも知れないが，どんな仕事をいましているのか。また働いている人たちの姿が見たかった。騒音も通行禁止の立札もあまり気にならなかった。そこには何かが進められていたからだ。建築物はいまのところ，人間の労力の集積である。タイル一枚，吹付けられた塗料の光沢，けんらんたる電飾の輝き具合のひとつにしても，それを施行した人間の生命がこもっている。意志がつもっている。涙も喜びもこもっている。だから竣工した上はこよなく美しく見えるのだ。

（国鉄 建築区　久保　和知）

★

□はじめて社会へでた者より□

私は昭年37年の３月卒業して会社に入って何もかもわからない者で建築社会の様子，新作の紹介，現在アルミ，ステンレスの材料を使った建物の紹介や，そのおさまりを少しでもいいから見せていただきたいと思います。また，アメリカや欧州で話題になっていることなども少し書いて下さい。

（奈良県吉野郡　中谷　昌紀）

★

□本店事務所移転□

㈱長谷川工務店では，本店事務所を下記に移転し，併せて電話番号も次のように変更いたしました。

（新事務所）大阪市東区本町１丁目18
長谷川第７ビル　TEL(261)代表 7631

なお，新本店社屋は当社貸室に供する大阪で４番目，東西あわせて第７番目のビルで，SRC 地上９階地下２階延 9,250m² に及ぶ高層ビルで，堺筋より東へ３分，御堂筋から10分と至便のところにあります。

（長谷川工務店企画室主任　樫根　邦夫）

★

□構造設計計算コスト基準□

構造設計・計算部門の進展は急速な進歩に伴って担当技術者の精励恪勤によってますます近代建築の華を咲かせていくが，これに対する報酬の取り決めに遺憾の点が多い。構造技術者の連繋を必要とすることを痛切に感ずる。なぜこの部門の人はおとなしいのであろうか。この辺の論議もしばしば述べられてはきておっても，実行にとりまとめ役がおらないのであるらしい。構造界の先達には，そろそろ「構造設計計算コスト基準」に手を染めて貰わねばならないと思う。一般構造技術者はかわいそうである。

（和歌山・菅井建設事務所長　菅井昌与）

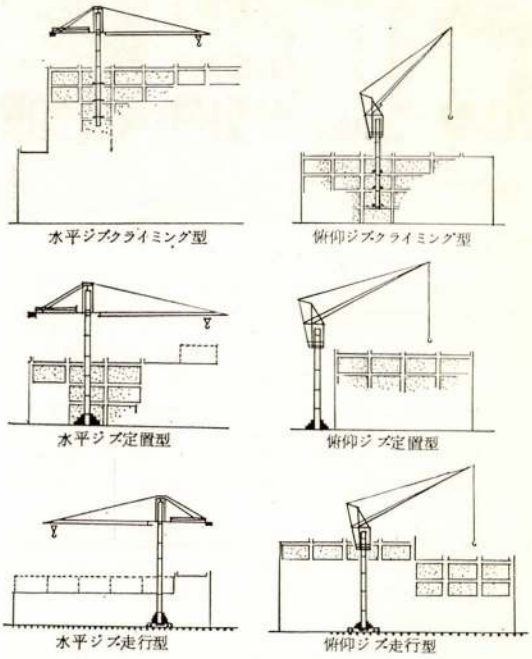
物を吊り上げる機械

大林組本店工務部技術課　篠田駿二

「大阪駅前の阪神ビル工事の造船所のクレーンみたいなもの，あれは何というものですか」というような問をれっきとした建築屋さんから受けたり，一流建築誌のクローラークレーンの写真の説明がトラッククレーンであったりする。また，タイルやボード類などの新建材のように施工機械でも一般名と商品名が区別できなくなったり，建設会社の正式名に商品名や俗名を採用したりして，ますます知識の混乱を招いている。最近地下工法や特殊構造，新材料などの研究開発は日に日に進んでいるのに，建築現場できわめて大切な仕事である「ものを吊り上げる」作業は案外簡単なものに思われて施工屋も研究を怠り勝ち，ましてそれ以外の設計，設備，監督官庁など皆その知識が当を得ていないので，実情に即した処理ができていないことが多い。そこでここでは街を歩いて，あちこちの現場でよく目にふれるものを並べて多少でも大方の役に立てたいと思う。

タワークレーン（Tower crane）

大阪駅に降り立つと先づ目にとびこんでくるのが，写真1の大タワークレーンである。最高80m半径35mにわたって5～10トンの鉄骨，コンクリートその他あらゆる建設資材を吊り上げ，移動，運搬する。この場合の塔体は，このビルの一部となる鉄骨だが，この部分だけ先に組み上げて，その頂上にクレーンを設置した塔上定置式タワークレーンともいうべきものである。タワークレーンは最近狭隘な市街地での建築工事用として脚光を浴びてきたもので，種々の型式のものが純国産，または外国メーカーとの技術提携により作られている（図—1，表—1）。トラ綱（タワーの支持索）がいらず，相当の高所まで（クライミング式なら建物と共に必要な高さまで）荷揚げできる点で，今後建築の高層化と共にますます重用されると思われるが，ただもともと欧米，ソ連な



図—1　タワークレーンの型式のいろいろ

表1　タワークレーン性能諸元表

製造会社名		呉造船所	日立製作所	小川製作所	浦賀重工業
型式		KTK-45W	TF-JH5/2	OT-328	10t 建築用引込クレーン
旋回作業半径最大	m	30.0	22.4	28.0	35.0
〃 最小	m	5.0	4.0	3.6	9.0
最大吊荷重	トン	3.0(30m) 1.5(15m)	5.0(主ブーム) 2.0(子ブーム)	5.0(20m) 3.0(28m)	10.0(18m) 5.0(35m)
標準巻揚高さ	m	50.0	—	—	80.0
全重量	トン	44.0	—	—	50.0
備考		独シユイング社と提携	親子ブーム		写真-1のもの

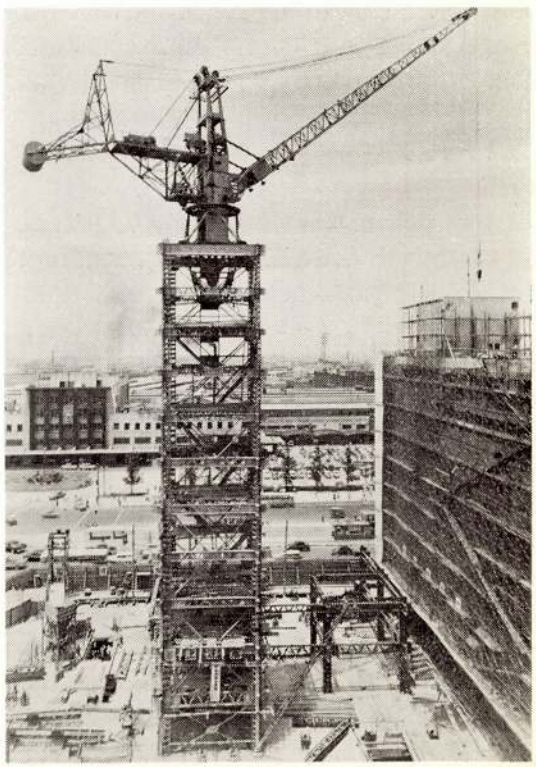


写真1　コアーシステム・タワークレーン

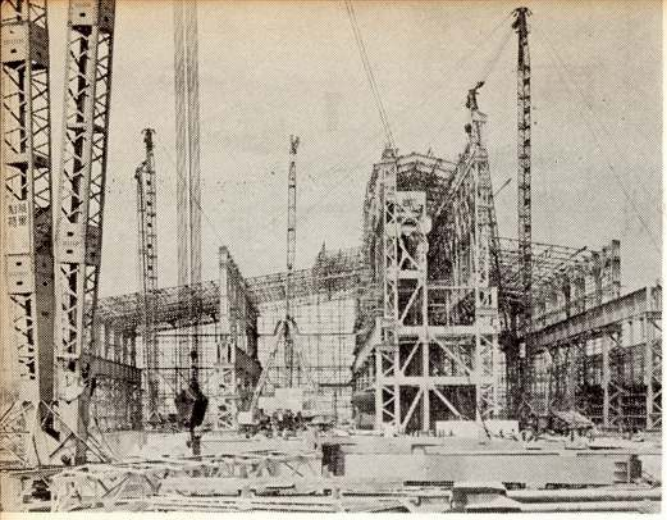


写真2　林立するガイデツク

表2　ガイデリツク主要諸元表

最大吊荷重* トン	ポスト長さ m	ブーム長さ m	自　重 kg	ウインチ馬力 馬力
8	30	26	11,400	30
10	30	27	10,061	40
10	37	30	13,670	40
13	37	30	18,450	40～50
18	37	30	18,750	50
16	46	40	32,000	50
20	63	55	61,500	50～80

* 最大吊荷重はブームが水平と30°の時，従つて各部を検討して安全ならば，30°以上なら更に大きな荷を吊り得る。

どの地震の少い建物の部材の軽小なところを発祥の地としているから，現在のわれわれのように最低5トン程度の吊荷重を確保しなければならぬ場合は，これが足りないのが根本問題として残っている。現在いくつかの建設会社がそれぞれ数台のタワークレーンを試用している。

ガイデリック（Guy-derrick，俗称，ガイデレッキ，ガイ）

ガイ（張り綱，径32mm位の綱索）により主柱を直立させる起重機で使い古された道具であるが，製作費が安く，機構が簡明で故障が少いので，今だに盛んに使用されている（表—2）。6～8本のガイ（トラ綱）を水平と60°以内に張る必要があるため，市街地では昨今だんだん使いにくくなってきている。

また，せり上げ（自分の建てた建骨の上に乗り立って更に上階をたてる）によって超高層ビルでも建てられるが，この作業が危険なのと，工期を損するので，せり上げはなるべくさけ，背の高いもの（50～60m）を使って一挙に最上階まで建て上る方法がよい。また，脚もとを少しづつにじり動かし，トラ綱のアンカーを次々とつけ変えて行なう横移動法によって大工場の鉄骨建方が行なわれる。これも危険を伴うし施工能率も悪く，あまりよい方法ではないが，大きな吊上能力（高さ35mまで最大50トン程度）は他にかけがえがないので，いまなお重工場の建設に用いられる（写真2）。米国でも70トン吊りというようなものを使用している。

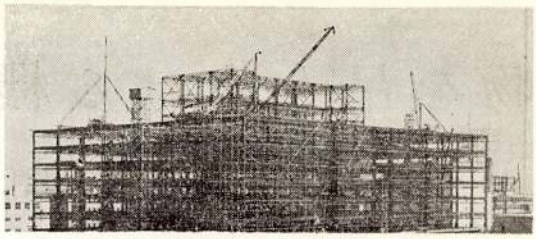


写真3　屋上三脚デリツク

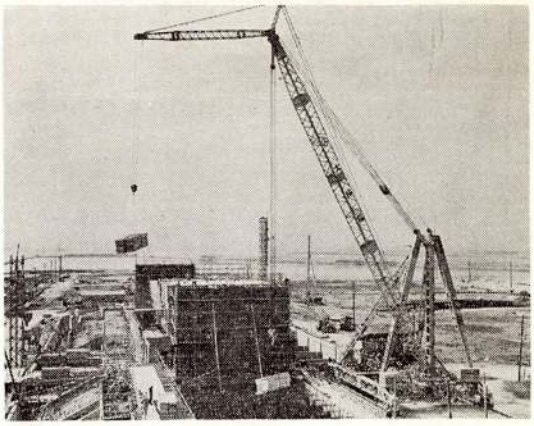


写真4　走行式四脚デリツク

三脚デリック（Stiff-leg-derrick 俗称三脚デレッキ，三脚）

トラ綱の代りに中心の主柱を二方から鋼製部材で支持した起重機で，ガイデリック程重い荷は吊れない（2～10トン）。また，ブームが270度以内しか旋回しないのが欠点であるが，設置する比較的小さな面積さえあれば安定していて，高所などに設置するのに安全であり，かつ安価に使えるので，ビル工事の屋上には大概据えられて，あらゆる荷揚げにはなくてはならぬものになっている（写真3）。

また，100m 以上もある細長い工場などでは，この三脚デリックを台車にのせレール上を走らせて，鉄骨作業に高能率をあげている。最近工場建築も大型化して20トン程度の吊荷重は普通に要求されるので，さらに安定な吊上げ能力の大きい走行式四脚デリックも使われている（写真4）。

また，これらは山型鋼ラチス部材であるが，最近，軽便三脚デリックとも称すべきもので小さなボックス部材を使った2トン吊り程度のクラフトクレーン（商品名）地下鉄工事などで多数見かける四輪付の移動式軽便クレーン（商品名，ユニバーサルクレーンなど，1トン吊り程度）などがある（写真5）。



写真5　移動式軽便クレーンの一種
（ユニバーサルクレーン）

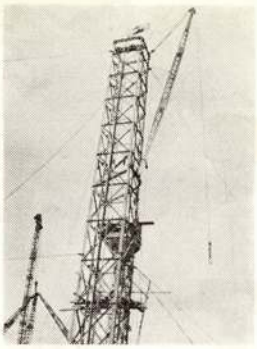


写真6　エレベータタワーブーム

エレベータータワーブーム(Elevator tower boom，俗称ポーズ，デレッキなど)

これも建築現場では必ずといってもよい位，目につくもので雑荷揚作業の主力の一つだが，小さい建物では鉄骨の建方もできる。どの現場でも使うコンクリートエレベーターに15～25m 程度の鉄骨ラチス柱とか，丸太の長尺材をデリック金物を用いて取り付け，15～20馬力のウインチで，0.5～2 トン位のものを吊り上げられる。とくに次々と上階へ転用してゆく型枠材や鉄筋の荷揚げには最適なもの。ただ振り回しがあまり自由にならないのと，大きな重量のものが吊れないのが欠点である。時に既設ビルの側壁や建築中の鉄骨を相手に取り付けるなど工夫によって便利な働きをする（写真6）。

二又

この頃はあまり見られなくなったが，ビル工事の屋上などからぶざまに突き出して交差した二本の丸太で，厭がられながらなお使われている。簡単に設置できるが，倒壊して人命事故を起したりする。かなり大きな重量を吊れるものがあり，岸壁荷揚用の鋼製のものでは 200 トンという大容量のものもある。米国にはパイプを交差しその1本に小さいウインチを取り付けたデリック型のものもあり，これなど安価に造れるものであるから，丸太を縛った危険なものなどはもう止めたいものである（写真7）

ジンポール（Gin pole 俗称坊主丸太，坊主など）

原語は1本柱起重機といった意味で，俗称はポールが訛ったものであろう。現有の吊り上げ機械はすべて原理的にはこれを出発点としている。太い丸太や鉄骨ラチス柱を6～8本のトラ綱で支持し5～10度位傾けて先端から滑車をつるし，ウインチで重量物を捲き上げるもの。大きなものでは揚程 30m10トン吊りといったものもあるが，必要ならガイデリックの主柱なども使えるから 50～60m まで30～50トン吊りというようなものも可能である。最近化学工場の巨大な蒸溜塔の建て起しなどにはこれが二基併立されて使われている（写真8）。

鉄骨工事には移動の能率が悪いし倒壊しやすいのであまり用いられない。

トラッククレーン，クローラークレーン（Truck crane Crawler crane俗称クレンカー，グレンカー，P&Hなど）

共に台車に乗った走行式起重機で，ショベルなどと共通の本体でアタッチメントだけ変えられるのが多いが，クローラー型では，とくにクレーン用としてキャタピラーを長く安定よくしているものもある。LC 型（Long crawler）と称す。クローラーは「這う」の意で，ブルドーザーのようにキャタピラーに乗っているもの。トラッククレーンはもちろん大型トラック台車に乗っているものである。馬鹿らしいようだが，案外誤称されている。また，ホィールクレーン，モービルクレーンというのは小型の台車に乗って吊荷重も小さく，走行もあまり得意でないものを指すようで，機構的にはあまり変らない。現在，最も出回っているのは，神戸製鋼所が米国パウリング・アンド・ハーニッシュフイガー社（Pauling & Harnischfeger corp.）と提携して作る P&H クレーンであるが，これの国内生産されるものの性能諸元を表3に示す。



写真7　簡単なデリック
動力はエアーモーター

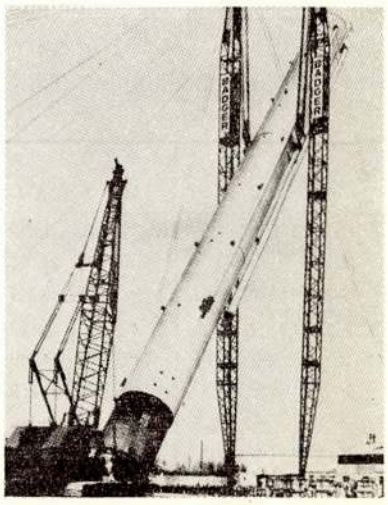


写真8　ジンポール
による塔の建起し

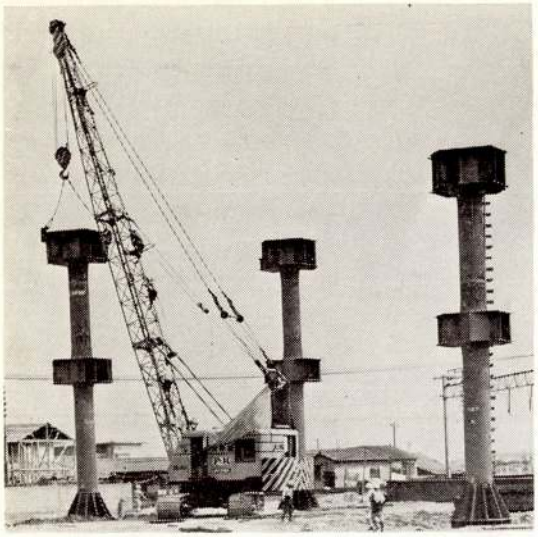


写真9　新幹線大阪駅工事の超大型クローラークレーン

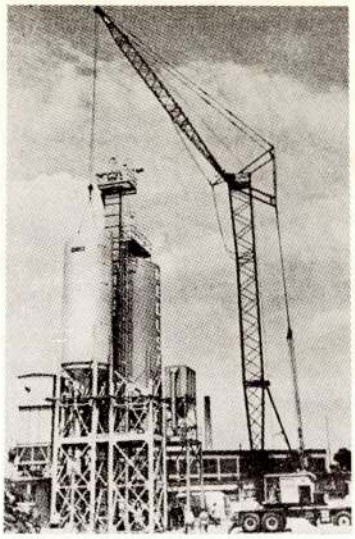


写真10　モービルタワークレーン

なお，すべて吊荷重は最短ブーム装着時に最小半径で作業する時の能力を示すもので，20トンクレーンとか70トンクレーンとかいっても，そのように使えることは少い。米国の P&H ではトラック型80トン級，クローラー型 200 トン級のもの迄造っている。クローラー，トラック塔載共性能はほぼ同じであるが，前者は一般に吊荷重大，価格は比較的低廉たが機動性に乏しく，一々トレーラーで運搬するため運搬費が嵩む。後者は高価だが，機動性に富む。また，タイヤのため接地圧が高いから，キャタピラーの低い接地圧に比べて現場によっては不利となる。各々実情に応じて使用すべきである。74トンの吊上能力を誇るわが国最大のクローラークレーン P&H 955 A-LC型も如何せん運搬時には三つに解体してトレーラーで運ばねばならぬ（写真9）。

ともあれ，この両者は「物を吊る機械」のあらゆる長所を兼備したもので，最近ようやく使用法にも熟達し，機械化の実をあげているところは街頭でしばしば見受けられる。最新鋭の建設機械として米国にモービルタワークレーン（Mobile tower crane）なるものあり。50～80トン級大型トラッククレーンのブームを直立させ，子ブームを旋回させるもので，わが国でもすでにクローラー型のものが試作されている（写真10）。

レッカー（Wrecker）は救難車の意で，ハイウエイで衝突破損した車を引上げたりしていたものか。当初米軍払下げのトラックの先に二又をつけただけのものであったが，最近はハイドロクレーンなる商品名で，油圧でブームが望遠鏡式に伸縮し，吊荷重 5 トンというような便利なものもある。

×　　×　　×

その他，各種エレベーター類，移動式リフト，ケーブルクレーンなど話題になるものはあるが，ここではふれる余裕がない。最後に，わが国では送電線工事などにわずかに使用する位のヘリコプターが，米国ではスカイクレーン（Sky crane）と称し，8 トン程度の吊上荷重をもつクレーンとして高所での重量物設置など，かなり広範囲にわたって使われているようである。

表 3　P&H クレーン性能諸元表

要目	単位	クローラークレーン				トラッククレーン			
		255A-LC	655B-LC	855B-LC	955A-LC	55TC	105TC	105B-TC	355C-TC
最大吊上能力	トン	18.40	27.78	45.36	74.40	7.26	9.00	11.34	22.50
最大ブーム長さ	mm	24,385	30,480	30,480	45,720	15,240	18,290	21,340	30,480
標準ブーム（最短）	〃	9,145	13,715 or 15,240	13,715 or 15,240	15,240	7,620	7,620	7,620	9,145
ジブ(子)ブーム長さ	〃	6,059	6,100	6,100	9,145	4,570	6,100	6,100	9,145
全長	〃	4,910	5,502	6,270	7,190	10,950	10,950	11,200	13,080
全幅	〃	3,005 or 3,155	3,250 or 3,405	3,500	3,875	2,450	2,495	2,495	2,800
全高	〃	3,180	3,770	3,770	3,915	3,400	3,480	3,495	3,750
全重量（作業時）	トン	20	47.5	52.5	72	13.50	16.60	17.75	30.00
接地圧	kg/cm²	0.50 or 0.39	0.70	0.77	0.76 or 0.67	—	—	—	—
相当する他社製品		日立U-106-LC 石川島305-LC		日立U-12					日立 F-105 ノーウエスト22トン

超高層建築について

京都大学防災研究所
助教授　工学博士　金多　潔

わが国では地上4，5階以上の，一般にelevaterを必要とする建物を高層建築という慣わしがあった。ただ，建築基準法が住宅地域以外の都市計画区域内で建築物の高さを31m以下に制限したため，高層建築といってもせいぜい地上9階どまりであった。この程度をかなり上回わる高い建物を名付けて超高層建築という。現在のところ超高層建築がわが国には一つも存在しないので，超高層といってもその言葉から受取るimageは各個人によって異なり，15～20階程度を対象として話を進める人もあれば，地上200階位と解釈する人も少なくない。別にとり立てて定義もないが，私はわが国が建てようとする超高層建築は一応地上25～30階程度，高さにして100m位のものを対象として話を進める。それはこの程度のものであれば現在の構造や施工の水準からみて技術的に可能であり，また経済的にも無理のない限界であると思われるからである。

New York や Chicago で摩天楼がその高さを競ったのは1930年代に遡るが，地上102階，約450mの Empire State Building をもって一応の終止符を打ち，それ以後の米国の都市形態の発展は自動車交通の発達に影響されてむしろ Los Angeles のように上よりも水平に伸び拡がる傾向にあった。しかし Los Angeles の発展も広大な土地を思うままに利用できるという立地条件のもとではじめて可能であって，やはり都市の合理的な形態としては限られた土地を有効に使うという意味からも建築物の高層化は不可欠なものである。Europe における新しい高層建築として Copenhagen の都心にある SAS Terminal Building や London の Thames 河畔に建てられた事務所建築，Stockholm 市内の近代的な建物などにあってもすべて地上25階程度で最新の機械設備と外装を有する建物である。New York でも昨年竣工した Chase Manhattan Bank の建物は Wall Street の付近にあって，地上60階地下5階の偉容を誇っている。New York は別としても，わが国とは比較的国情の似通った Europe 諸国がすべて私のいう超高層建築を新しく建てているという事実は，わが国においても，たとえ少数たりとも，超高層建築が合理的な都市の開発のために必要であることを示唆するものであろう。事実，わが国で超高層建築を建設すること，少なくとも建設しようとする動きはずっと以前からなされていても差支えなかったと思われる。

戦後，海外との知識交流が活発となり，世界地震工学会議も2回を算えるようになってくると，いままでわが国だけが地震国で，このために建物を震度0.2という大きな水平力に耐えるように設計せよと教え込まれていたものが，欧米においてもやはり地震の活動が活発で今も昔と変わることがないのに，もっと小さい水平力に耐えうるだけの設計しかしていなかった建築物が相当強烈な地震に対して十分安全であったという情報が入ってくるにつれて，非常に遅ればせながら超高層建築の実現性が最近になって，やっと論議されるようになってきたのである。

現在の構造計算では設計用地震力の値が小さいほど建物を少ない費用で建設しうるのは常識であるが，この意味から超高層建築物に最低必要な設計用水平力を与えれば構造的には最も経済的になることには論をまたない。そして問題はその建築物に対して最低必要な設計用地震力の大きさを如何にして定めるかということになる。

今日までの耐震工学の重要な研究課題の一つはもっぱらこの問題に対して明確な解答を与えることにあったといってよい。地震時の地面の動きを衝撃的なものと考えても，また米国で採取された強震加速度記録に基づいても，これまでに得られた定性的な結論として，一般に架構の減衰性状が同じならば，地震動が構造物に及ぼす破壊的な影響は架構の固有振動周期のの長いものほど小さく，固有振動周期の短かいものほど大きいということであった。この結論を水平地震力に直して解釈すれば，た

とえば固有振動周期2秒の建物は周期1秒の建物に比べて約半分の設計用水平力で設計してよいということになる。建築物の高さが高くなればその固有振動周期は一般に長くなるから，設計用震度の値そのものは超高層建築については従来の建物に比べてずっと小さく採ってよい耐震工学で得られている結論を逆に低層の建物にあてはめると極端な場合には現行の0.2という値では足りないということも起り得るであろう。事実，そういう例は1906年のSan Francisco地震の際にも報告されたことがある。当時この都市にあった建物はいずれも地震の影響を考慮して設計されたものではなかった。設計用水平力の値は風による影響のみを考慮して定められていたのである。そしてこの地震によって被害を受けた建物の多くは低層の小規模なものであって，当時すでに建てられていた20～30階の高層建築には何ら重大な被害は認められなかった。日本でも木造の五重塔が古来，台風のために倒壊した例はあっても地震によって崩壊した例は一つもないという事実も，超高層建築が地震に対してとくに危険であるとか，また，わが国は地震国であるから超高層建築は建てられないという考え方は根本的に誤まりであることをわれわれに教えるのである。

しかし，耐震安全性と経済的見地から，ある超高層建築に対して最低必要な設計用地震力をどれ位与えればよいかということになると問題は極めて難かしくなる。それは現在でも地震時の地盤や構造材料の力学的性質に不明の点がまだ相当多いからである。また，すでに述べたようにある建物に対して与えるべき震度の値はその建物のもつ固有振動周期によって異なること，いい換えれば震度の値は建物の固有振動周期の関数となることのみを採り上げても，いままで不必要だった建物の周期を算定することが付随して来るし，構造物の弾性性質に加えて塑性の性質をも終局耐力の中に含めて考えることになると，震度――設計用水平力という概念でそのまま構造計算を推し進めていってよいかということも疑問になってくる。現在行なわれているのは弾性計算であるから荷重を与えれば構造物の変形は算出できるはずであって，力と変形との間には1対1の対応が成り立つけれども，仮に100年に1度の頻度をもつ激震時には構造物として持てるだけの耐力を全部だそうということから構造材料の弾性域のみならず塑性域の耐力までもある程度考慮に入れる段階では，力と変形の間には1対1の対応は成立しない。Limit analysisで「応力度を主に考えた材料安全率を採用していては理論的に正しい構造物の弾塑性解析はできない」といわれているのもこれと軌を一にするものであろう。設計荷重の決定の裏には材料ならびに架構のもつ「安全率」を如何に評価すべきかという問題があり，その安全率も力（応力度）を基準にするか，あるいは変形（ひずみ度）を問題とすべきかは荷重の性質など個々の場合で異なることが多い。

ここまで読まれた読者から，「現在ではこのような問題が解決されていないから超高層建築は構造的に不可能で結局実現できないのではないのか」という疑問が当然でてくるものと思われる。この点に関して私はむしろ楽観的であり前進的である。繰返し述べているように構造物を最も経済的に，最も合理的に，設計することは理想ではあっても現実には不明の点が多々あって，しかもそれらが今後数十年間の研究に基づいてもなお十分に解明しうるか否かわからないという性質をもつ以上，われわれは気長に待つことはできない。日本以外の地震国で超高層建築が建てられ，地震に安全に耐えているという事実は，少々の経済性を犠牲にしても，必要以上と思われる耐震安全度をとるならば，以上の不明の点からくる危険さを十分に補うことができ，そしてこの超高層建物でも大局的には十分採算のとれるものとなることには疑いない。

耐震工学の新しい行き方は現行の設計法よりも更に合理的な目標に向って歩んでいることは間違いない。そこに提唱されている動的設計法は構造物がある激震を受ける場合の応答を電子計算機で計算し，振動中の構造物各層の最大相対変位量を求めて，その構造物の部材や節点の設計を行なうことを本筋としたものであって，この結果からは弾性計算を行なう場合の設計用震度の値や分布を逆算することもできよう。動的設計法の重要性はこれだけではなく，建築物各階の質量分布を考え併せて剛性の分布をどのように与えると地震時の建築物全体の変形量が最小に，あるいは均一化されてくるようになるかを知りうることにもある。上層階の剛性が不足しているために建物の上部だけが鞭振りの現象（whipping）を生じたり，あるいは特定の階の剛性が不足するためにその階だけに変形が集中することも，動的設計によってある程度は避けられるのである。もちろん，これは trial and errorの方式によるものであるから，常に最良の結果が容易に得られるということではない。

超高層建築を実現するに当って，構造的に先ず心掛けねばならぬことは，建物の軽量化と靭性のある構造材料や構造法の採用であろう。これに最も適合せるものはflexibleな鉄骨skeleton構造であって，最初に挙げた欧米の建築物もすべてこの形式を採っている。架構の重量軽減は地震時の慣性力の低減に繋がり，また建物基礎の設計を容易ならしめる。このためには鉄筋concreteの重い耐震壁よりも軽い鉄骨bracingが優れている場合もあるであろう。

結論的にいえば，超高層建築は構造的に可能であるがさらにこれの経済性を高めるためには，意匠，計画，設備，防火，材料その他各方面の専門家と共同的な研究を進めることが是非必要であろう。

職人シリーズの企画に当って

「職人」という語彙は，今では複雑な響を持って聞える。それは機械化された現代に対する違和感を含んでいる。「人間国宝」というのがあるが，何か「貴重な」ものというひびきの中にも，一種の「ものがなしさ」が潜んでいて，決してブリリアントな連想を伴うことがない。ニュアンスは異なるが，「職人」にもそういう「ものがなしさ」がつきまとう。おそらくこの感じは永久にふき払うことができぬであろう。世の中の歩みの中に，いづれは消えてゆく運命であるからかも知れない。

かっては一種の誇りをこめて呼ばれた「職人」という言葉も，今では技能者という呼称に変わりつつある。「職人」という言葉が，いう側ではある種の軽視を含んでいるように感ずるのも事実である。「技能者」というのは，その軽視を拭い去ってくれるとでも思っているのであろうか。

産婆を助産婦，飯炊きを栄養士，髪結いを美容士と置き換える類いであろう。そういえば，こうした言葉の置き換えが，内容的変化を表現するとは，必ずしも受けとり難い場合がある。それでも，そういう呼称がより現代的で，人間尊重的な印象を与えるのは，社会が変ったからでこそあろう。

かって職人が「いなせな」存在であった時，それを正当化する社会的背景があったし，現在には現代社会が要求する職人像というものがあるはづである。それ故，職人は変容しなければならないし，変容することが必然というものであろう。しかし何か一抹の蔭がそこに残ることを否定できない。「職人の歴史的使命は終った」などという表現は，実はこうしたニュアンスをもって発せられたに違いない。しかし，その言葉が一義的に示すごとくには職人の使命は終ったと思われない。過渡期というのであろうか。西欧社会では，産業革命以来の機械化の大きな流れの中で，しばしばクラフトマンシップの運動が逆流を惹き起しては消えていった。

その歴史は社会のゲーゼルシャフト化の奔流の中に，さか巻いたゲマインシャフトへの復帰を背景としていた。おそらくは，今後も何回となく，あるいは永久にかような反復―果げられることのない―を繰りかえすにちがいない。「人間疎外」から「人間回復」を試みようとする，人間本能の欲求として，それを理解することができても，それらはやがて歴史の中に埋没されてしまい，決して奔流となることはない。職人の運命もけだし，こうした歴史の法則性の域をでることがないであろう。「うらがなしさ」がここに基因するのであるらしい。その点まだしも工芸界におけるそれは，ほのかな明るさ―やがてかき消されるかも知れぬとはいえ―を留めている。

実直で，幾分粗野で，偏狭な職人気質が，功利的なサラリーマン根性におき変り，印ハンテンが作業服と背広に変った時，「職人」が「技能者」に変ったのである。職人の腕と作品の間には「道具」が介在していた時に，親方と弟子の間，あるいは仲間同志の間に張りつめられていた特殊な倫理感が，「機械」が介在するようになると同時に杜死してしまったのである。腕の「確かさ」を保証する免状であった印ハンテンが今では職の賤しさ―職に貴賤はないとは言条―を物語るものでしかなくなってしまった。ハンテンのもつその社会での権威が消滅し去ったというよりは，職人像の変革と共に，乱れてしまったのであろう。

よく「日本の職人は優秀な手を持っている」といわれてきた。その反面で「手の器用さの故に技術全般の遅れを招くことになってきた」などともいわれた。いわゆる器用貧乏というのであろうか。道具が作品を生み出すための唯一の媒体であった時は，人間と作品とが，非常に直接的な結合関係に位置づけられていた。したがって職人の誠実な，実直な，一途なメンタリティー（精神性）がすぐさま作品に反映した。しかし，これが機械の場合となると事情が一転する。時には機械が単なる媒体であることを止めて，人間の上位に立ち上がろうとさえする。したがってそこには，かっての職人達が座すべき席が，見当らないのも当然というのものであろう。

職人は消えていくのであろうか？変容をとげながら生き永らえるのであろうか？　いずれにしても，職人に対する正しい評価が必要なことはいうまでもない。この考えが，職人シリーズの企画をおこした理由でもある。かって，コルビュゼが煉瓦工であったといわれている。職人と建築家とが連続的につながるものかどうかは知らないが，少くとも明るい将来が待っていることを願ってこのシリーズを送りたい。

（大久保昌一）

第1回・鳶職



山岡組の桜井一雄氏

コハゼ5枚の地下足袋，キャハン，タンクズボン，ハラカケにハンテン——こういう道具立てで鳶職の外装ができあがる。しかし内装の方はおいそれとはゆかない。少くとも5年はかかろう。気性の激しい若者が北海道の蛸壺か鳶かの二者択一の立場に追いやられ，せっぱつまって入ってきたのが鳶の世界である。軍隊を「**えらいところ**」という者がいるが，鳶が軍隊に入ると，ほっとするくらいである。それだけ鳶の世界は厳しい。以前のことなら朝星夜星である。宿舎へ帰っても夜なべと兄弟子のトレーニングが待っている。もちろんそこには徒弟養成のための明確な方式はない。兄弟子との日々の接触によってワザを磨く以外に手はない。毎日が競争である。競争はワザだけではもたない。気性の激げしさがなくては勤まらない。時には競争は斗争めく。鳶にとって「**身の軽さ**」が身上である。誰だって高いところはこわい。高い鉄骨の架構の上でひらりひらりと軽快に動作するハンテン姿は，単にスマートだなぞと片付けてはしまえない魅力にあふれている。西欧のサーカスでのアクロバットが芸術視されていることを思えば，こうした鳶の動作も一種の芸術といいたくなる。下から次第に訓らされて高所に至るのが順序だが，必ずしもこの順序に従ってはいられない。時には人のおじけづくことも買って出なければならない。人のできない危険なことをやってのけて自慢にする同志仲間の気風がなければ，お互いの進歩はない。しかしそれは無冒な勇気とは関係がない。身についた経験と勘，それになによりも仕事に対する意地だ。これらが一体となって危険を克服できる。若いもの同志の集りだから，当然喧嘩もする女も買いに行く。しかし遊びに行った翌朝ほど早出する。「**意地**」が自身を攻めたてるのである。

鳶30年の桜井さんはいう。「親方はこわかったですな。いくつ何十になっても親方はけぶたい。」どういう風にこわくて，けぶたいのか判然としないけれど，とにかく親方はこわいものだということになっているらしい。「それに尊敬していましたなあ」親方に対する「**畏敬の念**」—封



ハンテンをもらつて1人前になつた桜井氏（右）の若いとき（昭和8年頃）

建社会になくてはならない接着剤だ。こいつが主従の関係を支えている。しかし桜井さんにとって，畏敬の念は，親方の頭の働かせ方への感歎でもある。「鳶は建築現場で先端をきって，仕事の先へ先へ行くわけです。そやさかい，ワザだけではでけまへん。だんどりでんな，頭が肝心です。」という。

鳶はヒトサシ（一指）と呼ばれる4，5人のチームに分けられ，ボーシンと呼ばれる小世話役の指導下に入る。朝出しなに親方，または世話役から仕事のだんどりや，作業上の注意を与えられて，現場にのぞむわけである。

「金を持ったら仕事にならん。とよくいわれました。それだけ遊びも派手でしたなあ。」昭和8，9年で1円20銭の賃金，飯代60銭を差引かれて，60銭フトコロに残る勘定である。（当時大工は1円50銭—いずれも初心者）危険を伴なう商売である関係上，いろんなタブーがつきまとう。「朝出しなに足元がないのは不吉である」「ぶっかけ飯はいかん」等々。「はじめての現場は北浜の証券取引所（長谷部竹腰建築事務所設計，1935年竣工）でした。千日前の歌舞伎座もその頃でした。最近では感銘の深いものといわれると，新住友ビルですか。天王寺の五重塔もやりました。」

鳶の世界を30年，一途に歩んできた氏は，最後にぽっつりと「鳶という仕事は何十年やっとっても，新しい仕事でっさかいな。」とためいきをもらす。この言葉の中に，職人稼業のすべてが尽されているのではなかろうか。他人に厳しい前に，まず自分自身に厳しくする。狭屈な外貌がここから生れてくる。「もうこれでええということは，おまへんさかい。」日々が新しく，一挙一動が新しい経験でさえある。このことはまた鳶の養成が不可能に近いことをも物語っている。左官や大工を養成する機関が最近各所にみられるようになった。技術の近代化がそうさせるので当然のことといわねばならない。それなのに鳶の場合はちがう。ほんとうに事情がちがうのであろうか。今ではデスクに向って帳簿をつけ，電話の守りをしている氏は「鳶も変わりましたなあ」というけれど，技術の近代化に対して，はたして適格な対応を示しながら，変貌を遂げているのであろうか。問題が未解決のまま澱んでいるように思えるのは私だけであろうか。（**大久保昌一**記）

辰馬力氏本宅

（兵庫県西宮市）

所在地　兵庫県西宮市浜町三十二番地
建築年代　明治20年ごろと推定
建築主　辰馬喜十郎
施工者　棟梁　山下　某　西宮在
工費　約 10,000円
建物　西洋館　1階　約49.729坪
　　2階　約49.729坪
　　日本館　建坪　約100.00坪
　　（木造2階建）
　　他に付属屋として，浴室，便所棟
　　（木造平家）
　　造酒場として，煉瓦造，数棟あり
構造　木造2階建，寄棟，桟瓦葺
　　ベランダ付，小屋組不明

幕末より明治にかけて設けられた開港場における外国人居留地は，当時の日本における政治，経済，社会などいろいろな分野に，大きな影響を与えていたが，建築についてもその例にもれず，当時の擬洋風といわれる建物は，その範をこれらの地域に求めるものが少なくなかった。この傾向は，幕末，明治初期の段階においてもっとも顕著であったが，二十年代以後においても，そのような考え方は，なお一部に残っていて，大工，棟梁といわれる人々は，西洋館の建築にあたって居留地洋館の様式や工法を盛んにとり入れて地方に伝播している。しかし，かれらがかかる建築様式をいかに理解し再現したかについては，いくつかの問題があり，その影響についても，探さくされるべき内容を多く有している。この建物は，そのような意味においてもきわめて興味ある問題を提起しており，また数少ない遺構のひとつであるということができる。それはこの建物を建築するにあたって，建築主や大工，左官などが，その手本を近在の神戸居留地洋館に求めているからである。

この家の建築主，辰馬喜十郎氏は嘉永元年（1848年）ごろの生まれで，生来きわめて進取の気風強く，ときあたかも明治の変革にさいして，世相のめまぐるしい移り変りに若い情熱をもやすという人であった。

辰馬本家はもともと西宮にあって，古くから（寛文2年約300年まえ）酒の醸造をおこない，名酒白鹿を産する家柄であるが，慶応元年ごろ辰馬本家より分家した喜十郎氏は，本家の南現在の地に一棟の酒蔵をゆずり分け，あたらしい醸造をはじめている。かれの事業家としての手腕は，明治16年恵美酒銀行を西宮に設立し，この資金で日本摂酒株式会社を起し，事業の進展を計った。この建物ができたのも，この頃といわれ，喜十郎氏の発意で，古い酒蔵の町に，当時としてはまったく真新らしい西洋館が出現するのである。

建物の建築に関する文献資料はあきらかでないが，当時西宮にあって大工棟梁として実勢のあったという，山



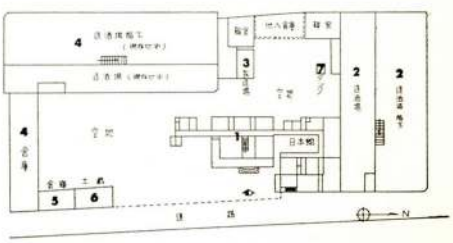
1. 東側正門より西洋館（左），日本館（右）を見る。



2. 南側庭より南面および西面を見る。手前の煙突およびレンガ造は浴室，便所棟で後補のもの。



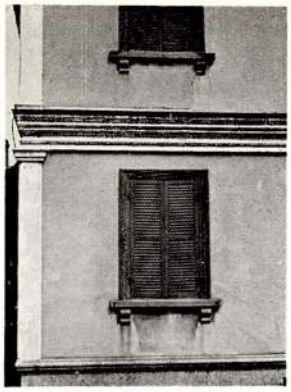
3. 正面を入って西洋館および日本館の玄関をみる。



配置図
1が西洋館である。



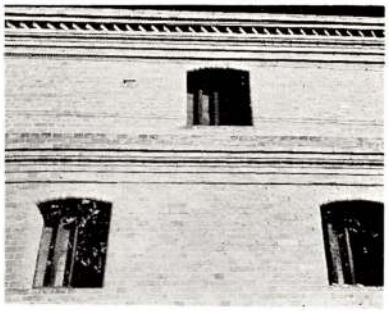
4. 2階西南室暖炉



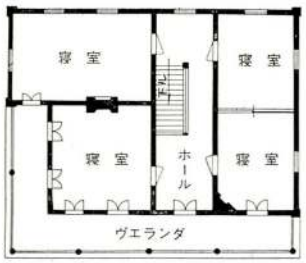
5. 外壁隅部の窓と半柱の扱い



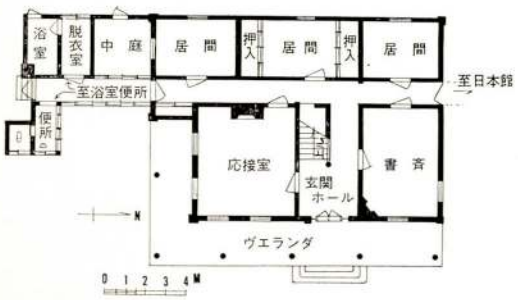
6. 敷地北側レンガ造の造酒場（北面） 明治25年9月29日上棟



7. 造酒場西側窓詳細



西洋館
右：2階
下：1階



下某の手によって建築が行なわれ，建築に際しては神戸居留地にあった英国領事館を模したといわれている（辰馬力氏談）。このため当時神戸の英国領事館は海岸通り九番にあり，三方にベランダをもつ2階建洋館であったが，外観は必ずしもこの建物と同一とはみられがたい。

しかし，内外観とも典型的な初期居留地洋館建築のスタイルを示しており，外部の塗壁仕上の扱いに顕著にうかがうことができる。ただ細部をみると外人建築家の指導力の強かった神戸の洋館のディテールとは少し異なった，日本的な臭いの強いものである。それは，たとえばピラスター(半柱)の漆喰仕上げ，蛇腹の繰型や軒廻りの持送りの手法に，未消化な様式の模写がみられ，内部についても間取りには，玄関ホールをもつ中央廊下の形式をとりながら，これに直角な廊下の配置があり，西側諸室はこの廊下で東側部屋と仕切られ，一般的な外人住居の間取りとやや異っている。また1階東北室の釣り床の扱い，西側中央室の押入，2階北側室の間仕切に用いられた大きな2枚引違襖などに和風の趣きがでている。

しかし，この建物の特色はなんといっても居留地建築のもつ持長をよくとらえ，それに近ずけるために，かなりな努力が払われているとみられる点で，地方にある洋風建築がもつ，トッピな，思いつき的な扱いはない。また1階ベランダの御影石造り出し円柱，同じ2階ベランダ柱や手摺の握による造作などは興味深い手法である。

この建物の正確な建築年代は不明であるが，現在北側にある煉瓦造造酒場が明治25年であり，この蔵は，西洋館が建ってより間もなく北側の古い木造酒蔵が焼け，そのあとに，煉瓦造である現在の造酒場に建てかえられたといわれるから，明治20年頃より22年頃までの建築と考えてよいであろう。

北側の造酒場は現在倉庫として使用されているが，明治25年9月29日上棟の銘があり煉瓦造りのかなり大規模なもので，この種造酒場の煉瓦造りとしては，もっとも早い例といわれている。

この西洋館と造酒場との間に和風入母屋の日本館があるが，これも造酒場と同じ時期に建てられたものとみられる。この建物は内部および外観はほぼ和風であるが，東側道路に沿って煉瓦造り壁体があり，2階窓には額縁や鎧戸が入り，屋根の鬼板にアカンサス風の瓦をおいて変化を与えている。

西洋館内部は，調度品などもそのままのこされており，保存，管理の状態はきわめて良好である。

この建物の存在については，東京大学関野克教授，村松貞次郎助教授のご教示をいただき，調査に当っては辰馬本家酒造株式会社，辰馬力氏はじめ，辰馬家の方々のご協力を賜った。しるして，篤くお礼申し上げたい

（坂本勝比古記）

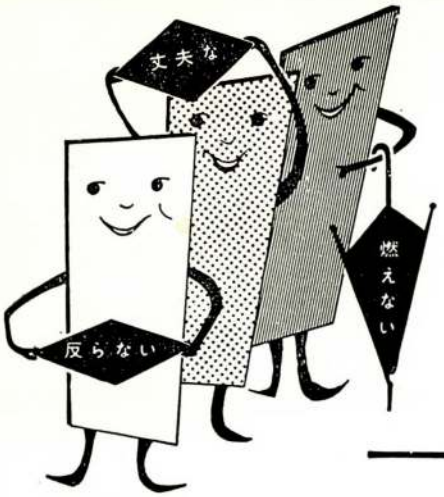


伊奈の
衛生陶器

伊奈製陶株式會社

本社・工場　愛知県常滑市屋面新田　電常滑700(代)
東京事務所　東京都中央区西八丁堀2－8　電(551)6371(代)
大阪事務所　大阪市西区新町南通1－23　電(541)5484(代)

カタログ送呈



最大の規模 最高の品質!!

三菱

石膏ボード
石膏ラスボード
石膏吸音ボード

デラックスボード
ニュースノートーン
カラードボード
エスロンボード

SSS サンエス石膏株式会社
製造元 日東石膏株式会社
日本耐火ボード株式会社
総代理店 三菱商事株式会社
東京都千代田区丸ノ内2—20 TEL (211)代表0211

世界に誇る驚異的建材!
ガスにも熱にもビクともしない!
40年の厂史と最新技術の産物

特許---耐酸・耐アルカリひふく鉄板
オリエンタルメタル

永久建材・超ひふく鉄板
スーパーオリエンタルメタル

新時代にマッチした色つきのひふく鉄板
オリエンタル カラーメタル

美しいアルミ箔ひふく鉄板
オリエンタル アルシート

型錄送呈
責任施工

オリエンタルメタル製造株式会社
本社工場 尼崎市大物北11 電話 大阪(481)4947~9
大阪支店 尼崎市北新町4-41(古川ビル) 電話大阪(401) 9745~6
東京支店並工場 埼玉県蕨市大字塚越1620 電話 蕨 3252~4
支店・出張所 都山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・敦賀・三原・徳島・徳山

防　水
セメント

トイシコルサ

完ペキな
コンクリートをつくる！

純無機質
セメント防水
あく止め材

永久的な効力
低廉な価格

屋上と地下室に
絶対的！

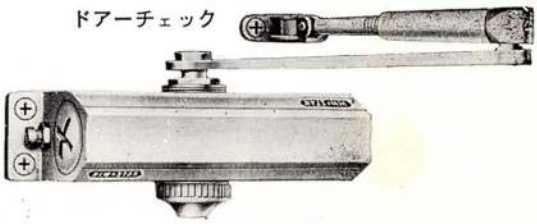
サルコンタイト産業株式会社

本社　大阪市北区曽根崎上1の43番地
電話　(341) 3088番（代表）

NEW★STAR

創業大正八年

ドアーチェック



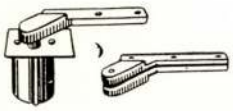
ラバトリーヒンヂ



ピポットヒンヂ



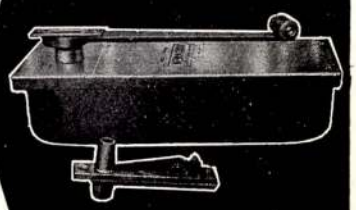
ピポットヒンヂ



ドアーチエック



フロアーヒンヂ



日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場	大阪市生野区巽矢柄町222	電話 大阪（716）2231(代)
東京支店	東京都千代田区神田錦町1丁目23	電話 東京（291）1920・4920
福岡出張所	福岡市船津町1番地	電話 福岡（74）2372・3312
名古屋出張所	名古屋市東区高岳町1丁目11番地	電話 名古屋（94）4627～8

マルエス

永久防水材
ハイダック

特　絶対に裂けない
　　永久に腐らない
長　冷工法で施工出来る

接着剤
ハイダックセメント
No. 1 ジョイント用
ハイダイン　No. 2 貼付用

メルタン
ルーフィング

国内の気温較差の著しい所に於ても能くその苛酷な条件に抗して老化せず　特に寒冷地に於ける技術的困難は殆んど解決されたと云つても過言ではありません

特許
ビニエス
タイル

お部屋のポイントは
床材から

明るい配色……
落ちついたムード

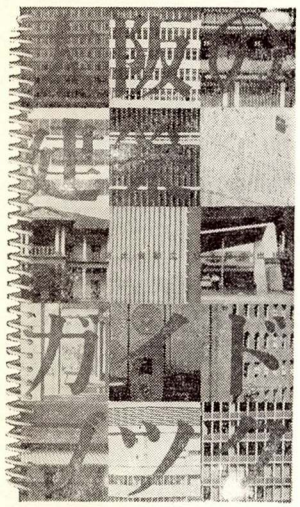
マルエスルーフイング製造元

日新工業株式会社

本　　社　東京都足立区千住東町93　TEL東京(888)2101～9
大阪支店　大阪市西区新町北通1丁目40　TEL大阪(531)5281～3
出張所　名古屋 TEL名古屋(54)9996・広島 TEL中(2)1019
　　九州 TEL福岡(5)0768・札幌 TEL (5)6885

書評：

大阪の建築ガイドブック



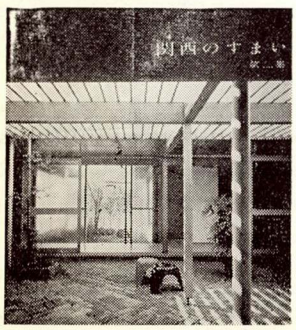
承知のように建築士会ができてから十年になった。昨年は，この十周年を祝して，各地の建築士会が記念式典を行なったと聞くが，とりわけ，東京建築士会とならんで，もっとも活発な発展をとげつつある大阪府建築士会では，去る11月17日に，綿業会館において，その式典を盛大に開催した。その席上で配られたのが，本書である。まことに適切な企画であった。

大阪駅を起点として，約300点の建築をセレクトして集録されているが，この本の特徴は何といってもガイドブック式と設計者・施工者の名とを組み合わせたところにあろうかと思う。町を歩いて，これはいい建築物だと思っても，果して設計者が誰であり，施工者が誰であるかわからないものが多い。大阪の第一線で活躍している建築家であっても，それをすべて知っているわけでもないだろうし，施工や，材料分野，構造分野での技術者，さらに現場に働く建設労働者等々にとっては，なおのことわからないものが多い。まして，地方の建築関係者，一般の人には，このことはほとんどわからない。この設計者，施工者の名を明確にしたこと——当りまえのことだといえば当り前のことだけれど，その当り前が建築界の社会的地位の向上と結びつくのだから，大切だといえる——が，この本の便利さ（ガイドブックらしさ）を引上げている。施工年度などの概要，さらに簡単ではあるが，特徴までついているのも建築関係者にとっては参考になる。

はじめこの本をパラパラとめくってみていくうちに大いに気になるものがあった。それは，あとでいうが．しかしその不快は以上あげた特徴に半減されたし，最後に，建築物の位置をプロットした地図の折込があったのが，そのガイドさを引上げさせている。

気になったことは，広告に建物がくわれてしまっていることである。出版費用を広告にたよって少しでもカバーしようというのはわかるが，その挿入位置やレイアウトは，この際失敗だといいたい。広告頁の横巾を3分の2頁大にして内側に入れたら，よかったのではないか。パラパラとめくったとき，変な目ざわりから救われたのではなかったか。

最後に注文をひとつ。それは，大阪の建築のふんいきを伝えるものがほしいことである。ガイドブック「大阪の建築」と銘うって，価値のある建物約300点が17部門別に紹介されている形　これでよいと思うが，ふんいきを伝えるストリートの写真がないことである。欧米では，人の名前のついた街路と町が多い。それほど人間性はないにしても，大阪のように「橋」とか「草」「花」などの自然にちなんだ名前の街路とが多い町ところのふんいきは，こういうガイドブックにいかに表現されるべきか。適切な方法ではないが，各扉に適当なストリートの写真を挿入するか，あるいはまとめて配置さすか…等々の一考があったらなおよかったにちがいない。　(M)



関西のすまい第二集

関西建築家協会関西支部会員による住宅の写真集である。木造住宅18点，RC住宅9点，計27点が紹介されている。関西のすまい第一集も好評だったように聞いているが，第一集，第二集とも関西の風土に咲くすまいの花の紹介である。もちろん，関西の風土に咲くすまいの花という意味では，この建築家協会会員以外の建築家の作品にもよいものがあるが，とにかくレイアウトも行き届いていて見て楽しいものになっている。この作品は去る11月下旬阪急百貨店での「住宅設計アイデア展」で展示された由。　(M)

会　　報（11月分）

定時評議員会

21日　12時半——1時　於会館集会室
出席者　評議員　神谷，益尾正副議長外
13評議員　委任状出席53名　計68名
理　事　管理事外2理事
議　事（1）昭和38年度評議員選出数決定の件

理　事　会

14日　3時半——5時半　於会館会議室
出席者　東畑，塚本両副会長外7理事
井手京都支部長
議　事（1）定時評議員会開催の件
（2）南海電気鉄道KK住宅設計懸賞募集後援の件
（3）大和栄衛氏の嘱託措置に関し再議の件
（4）忘年懇親会開催の件
（5）新年交礼会共催の件
（6）法規委員交代の件
（7）大阪府が本会にプレハブ住宅に関する調査，並に，プレハブ標準案の作成を委嘱する案に関する件
（8）入退会者承認の件
（9）報告事項
記念出版「ふるさとのすまい」が毎日出版文化賞を受賞の件その他

運営審議会

14日　6時——8時　於会館会議室
出席者　塚本委員長外8委員
議　事（1）前回議事に関する報告
（2）会員カードの様式決定
（3）理事会，評議員会，部会，各委員会の構成，運営並に活動状況の説明

住宅委員会

8日　3時——5時　於会館会議室
出席者　海上委員長外8委員
議　事（1）南海電気鉄道KK主催の住宅設計懸賞募集の審査員並に応募要項の決定
（2）千里山組立住宅と日本プレスコンクリート和歌山工場見学の件
（3）竹内委員作成の西ベルリンのハンサの住宅スライド観賞の件

建材委員会

9日　3時半——5時半　於会館集会室
出席者　建材委員　竹内委員長外6委員
製造会社　伊奈製陶伊奈氏外5氏
管工事業者　大阪暖房本田氏外3氏
前回に引き続き第2回の衛生陶器に関する検討を行った。

事業委員会

12日　5時半——7時　於会館集会室
出席者　岩崎委員長外10委員
議　事（1）忘年懇親会企画の件
（2）千里丘ニュータウン見学会の件
（3）各種説明会企画の件
（4）昭和38年新年交礼会の件

近代建築調査委員会

20日　3時——4時　於会館集会室
出席者　滝沢委員長外4委員
議　事（1）報告事項
（イ）長崎の建物調査に関する件

特許吹付タイル・内装・外装用化粧材
セラスキン
CERAMIC　SKIN
建造物の外壁面に〃陶器の壁紙
セラクロス
吹1　CERAMIC CLOTH
山本窯業化工株式会社
大阪市東淀川区西淡路町3－176　TEL(371)4851～3
関東地区取扱店・小林窯業株式会社
東京都太田区新井宿2－1500TEL (771) 6347

（ロ）毛馬閘門 O.P. の件
（ハ）泉布観の発掘調査見学会の件
（2）2月号発表建物の件

編集委員会

幹事会
22日　正午――2時　於会館会議室
出席者　大久保幹事外3幹事
3月「緑と建築特集」号の企画について協議

委員会
26日　4時――6時　於会館会議室
出席者　白砂委員
8名出席予定の処用務のため急に欠席者が増加し，出席1名となったため下記の経過報告並に打合せを行った。
（1）経過報告
（イ）12月「社会福祉施設特集」号
（ロ）正月「建築教育特集」号
（ハ）2月「消防火特集」号
（2）3月「緑と建築特集」号企画
（3）4月号の企画
（4）公共建築特集企画の提案

出版委員会

小委員会（基準法と関係法令索引）
26日　2時半――4時半　於会館会議室
出席者　三品，原両委員
ゲラ刷り校正

講習会

第七回現場実務講習会（後半の分）
1．と　き
11月7日――9日　午前8時半――午後5時
11月10日　午前8時半――午前10時半
1．ところ　大阪建設会館6階集会室
1．科目並に講師
11月7日　地下工法　竹中工務店　北山二十三氏
7日　土工事，基礎工事，排水工事　間組支店　渡辺　勇氏
7日 8日　鉄筋コンクリート工事，鉄骨工事　清水建設支店　安井　猛氏
8日　木工事，屋根工事，金属工事，雑工事　鹿島建設支店　岩下　久哉氏
8日 9日　石工事，タイル工事，ブロック工事　藤木工務店　矢野　豊作氏
9日　防水工事，左官工事，塗装工事　銭高組　武藤　繭吉氏
9日　設備工事の内空気調和外管工事　竹中工務店　玉田　健氏
10日　設備工事の内電気工事　竹中工務店　鈴木　俊男氏
6日　現場見学　北浜2丁目　三井信託ビル

鋼管構造デザインマニュアル講習会
1．と　き　11月12日　午後1時――4時半
1．ところ　新朝日ビル　フェスティバルホール
1．科目並に講師
鋼管構造について　大阪大学　鷲尾　教授
鋼管構造の設計について　東京工大　藤本　教授
鋼管構造のデザインマニュアルについて　東京大学　加藤　助教授
鋼管構造の施工について　川崎重工　深田　課長
鋼管構造の図面について　八幡鋼管　清山　卓郎氏
鋼管構造の状況説明　川崎重工　吉田　部長
1．スライド
鋼管構造の建物実施例
1．共　催　本会　大阪府建築士会
1．後　援　日本建築学会近畿支部



天井・間仕切には軽量鉄骨を
日進軽量鉄骨を御採用下さい
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社 奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北(44)四一三一～四

1．協　賛　八幡製鉄 KK　　八幡鋼管 KK
　　八幡エコンスチール KK
　　八幡熔接棒 KK　　川崎重工業 KK
1．聴　衆　　約2,000名

若い会員の集い

21日　6時――8時半　於会館集会室
ゲスト　電通大阪支社開発局
　　マーケティング部長　朝倉　利景氏

テーマ「現代の広告産業，最近のマーケティングについて」のお話を聞き，質疑応答を行った。
出席者22名

工高生デザインコンクール入選者表彰式

2日　2時――3時　於会館集会室
出席者　杉本主査，吉岡審査員，
　　一の会代表海上氏　入選者11名

入選者の中には，東京，横浜，新潟からの出席者があり，式後新住友ビル並に新歌舞伎座を見学。

建築写真コンクール

審　査　会
6日　3時――6時　於会館集会室
出席者　審査員弥屋氏外5審査員，白井委員

応募作品81点を審査して1，2，3等各1点入選7点計10点を決定。

表　彰　式
20日　1時――2時　於会館会議室
出席者　井上主査　入選者2名

入選者に対し賞状，賞金，副賞などを交付

見　学　会

「大阪屋証券ビルと平和ビル見学会」
大阪屋証券本社ビル
設計施工　野村建設工業 KK
平和ビル
設計施工　清水建設 KK 大阪支店
10日　1時半――4時
大阪府建築士会と共催。参加者 100名

「三井託ビル見学会」
設計監理　三井信託銀行総務部
施　　工　竹中工務店
13日　3時半――5時
大阪府建築士会と共催　参加者 100名

「日本板硝子舞鶴工場見学会」
17日　8時――9時半　参加者50名

貸切バスで往復。会費300円を交通費の一部に充当したが，中食，夕食など日本板硝子 KK 殿よりご厚配を戴いた。なお同工場施工の銭高組殿からも一同お土産を頂戴した。多謝。

「秋の嵯峨野の古建築を訪ねる会」
24日　1時半――5時　参加者30名

岡田孝男氏のご案内によって，時雨亭，祇王寺，落柿舎，常寂光寺などを訪ね，逝く秋を偲んだ。

後援または協賛した会

「住みよい住居と新らしい自動車ショウ」
1．主　催　岸和田市　岸和田商工会議所
1．と　き　11月1日――25日
1．ところ　岸和田市沼町
1．本会後援

「鉄筋コンクリート構造基準講習会」
1．主　催　日本建築学会
1．と　き　11月30日，12月1日
1．ところ　大阪府職員会館
1．本会後援

「関西デザイン会議」
1．主　催　関西デザイン会議運営会
1．と　き　11月8日
1．ところ　コクサイホテル7階
1．テーマ　「貿易の自由化とデザイン」
1．本会協賛

第五回「現代建築シンポジウム」
1．主　催　朝日新聞大阪本社
1．と　き　11月29日――12月1日
1．ところ　新朝日ビル　朝日文化ホール
1．本会協賛

編　集　後　記

あけまして，おめでとうございます。会誌も第44集を迎えました。こともがんばつていきたいと存じます。

本号は「建築教育特集」として，中原茂，相川浩，篠原太郎，乾亮三，相沢喜久太郎，谷口尚武，大辻真喜夫の各氏に，企画についてのご協力をえました。誌して感謝いたします。企画のうち，企業内（職場）での技術者教育のテーマが依頼先の都合で駄目になつたことと，その他アンケートも期待どおりでなかつたことは残念であるが，こんにちの建築教育のありかたを，社会の立場と学校の立場の両方からさぐつたものとして読んでいただければ幸いである。

今年より「技術の頁」，「職人シリーズ」，「会員の頁」のシリーズものを加えた。「近代建築調査委員会報告」，「建築の眼」と並んで読んでいただければ幸いです。表紙デザイン担当は，先年と同じく，山本純孝，佐久間宏，小島将志の三氏とSMデザイングループである。

屋根浪板
谷樋には 大島化学のひふくてっぱんを
固定式通風器 連続式換気装置にも
耐酸スタンダードメタル
カラースタンダードメタル
PATENT Standard
大島応用化学工業株式会社
本社 大阪市城東区野江東之町4の104 (931) 7071—3
支店 新居浜・名古屋・四日市・広島

田中式 スカイライト・ベンチレーター
スチールサッシュ・ドアー
スチールシャッター・オペレーター
TNK 田中工業株式会社大阪出張所
大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2—89
TEL 大阪 (400) 6341 (代表)・(400) 6342
本社 東京第一工場 東京都墨田区錦糸町1—25 TEL 東京(623)代表0106～0108・(622)0799
東京第二工場 東京都墨田区吾嬬町東4—122 TEL 東京(611)2118—9
小倉工場 福岡県小倉市赤坂上の宿37 TEL 小倉(52) 2833・2834
川崎工場 神奈川県川崎市東渡田3—43 TEL 川崎 (2) 7594～5
札幌出張所 北海道札幌市北大通東4丁目4 TEL 札幌 (3) 6762・0515
盛岡代理店 岩手県盛岡市本伏49・東北建設(株) TEL 盛岡 7642
名古屋代理店 愛知県名古屋市西区西菊井町2—12・岡田建材KK TEL 名古屋(53)0121・2057
米子代理店 鳥取県米子市祇園町2—93・吉田工務店 TEL 米子 (2) 4683

信用ある技術と伝統の
アスファルト工事
専業大店
株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(341)207～8・4836～7

賀正

建設業者有志

株式会社 淺沼組

取締役社長　淺沼猪之吉

本　社・大阪市天王寺区石ケ辻町・電話代表（762）0251～9番
支　店・東京都新宿区荒木町五番地・電話（351）4141～4番
　　名古屋市中村区太閤通リ一丁目・電話(54)4020・4021
営業所・鳥取・広島・金沢・郡山・奈良・京都・神戸・仙台
　　札幌・静岡・津・岐阜

株式会社 新工務所（アタラシ）

取締役社長　新順一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三・電話代表大阪（341）9151番
支　店・東京都千代田区神田猿楽町二丁目七・電話 代表（291）3741
営業所・神戸

安藤建設株式会社大阪支店

常務取締役
支店長　瀬川博

大阪市西区江戸堀北通一丁目七番地
電話大阪（441）3788（代表）（441）2602番（451）393番
本社・東京都中央区八重洲四丁目七番地
支店・出張所・名古屋・仙台・静岡・福岡・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・沼津

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

本　店・大阪市東区京橋三丁目七五番地
　　電　話　大代表（941）861番
支　店・東京・札幌・仙台・横浜・名古屋・岡山・広島・福岡・高松
出張所・神戸

株式会社 **奥村組**

取締役社長 奥村太平

本店・奈良県北葛城郡香芝町逢坂 電話奈良県下田局 477
本店営業所・大阪市阿倍野区松崎町一丁目五一 電話 大阪㈹ 0336 代表
支店・東京・名古屋・広島・高松・八幡
営業所・奈良・堺・西宮・光・福岡

鹿島建設株式会社

会長 鹿島守之助

本社 東京都中央区八重洲五の三
大阪支店 大阪市東区瓦町五の七一（瓦町ビル）
電話 大阪（202）代 7461・8166

株式会社 **神崎組大阪支店**

常務取締役支店長 大西繁市

大阪市北区曽根崎新地1丁目21
電話 (341) 7837～8番
本店・姫路市北条口86—3 電話代表姫路(23)2021—3

株式会社 **熊谷組大阪支店**

大阪市東区備後町一丁目十三番地（電話 大阪（271）代3291）
本社 福井市豊島上町一番地（市外専用12・②4800～2）
営業所 東京都新宿区築土八幡町二二番地（電話大代（332）5111番）
支店 東京・名古屋・広島・福岡・札幌
出張所 旭川・山形・仙台・新潟・青海・前橋・横浜・長野
静岡・佐久間・福井・北山川・神戸・岡山・福山
下関・徳山・高松・高知・八幡・諫早・宮崎

株式会社 鴻池組

本店 大阪市此花区伝法町北3—67
電話 代表（461）2631番
支店 東京・名古屋・福岡・広島

佐藤工業株式会社 大阪支店

取締役社長　佐藤欣治・大阪支店長　勇内英次

大阪市東区北浜一ノ二五　電話大阪（231）6731～3，7293

本　　社・富山市総曲輪二三〇
東京支店・東京都中央区日本橋本町一ノ二
福岡支店・福岡市大名町柳原二二三
名古屋支店・名古屋市中区仲ノ町一ノ一
札幌支店・札幌市南七条西十一丁目
本社分室・　同　　左
富山工場・富山市稲荷元町九六

清水建設株式会社

社　長　清水　康雄
本　社・東京都中央区宝町二ノ一
常務取締役支店長　城戸　七太郎
大阪支店・大阪市西区土佐堀通リ二ノ二
電話（441）1531（10）夜間専用（441）1531―32

住友建設株式会社

社　長　斎藤　武幸
副社長　柴田　光三郎
副社長　上野　正夫
支店長　大久保重明
本　社　東京都新宿区荒木町13
大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22

株式会社 錢高組

取締役社長　錢高輝之

本　　店　大阪市西区阿波座上通三丁目二番地　電話大阪㊿6431番大代表
支　　店　東京・名古屋・福岡
出 張 所　札幌・盛岡・仙台・前橋・新潟・千葉・神奈川・静岡・京都
神戸・岡山・広島・徳島・松山・小倉・熊本・長崎・沖縄

大成建設株式会社

取締役支店長　稲田芳郎

大阪支店　大阪市東区南本町4丁目20番地

大日本土木株式会社大阪支店

取締役支店長　桜井　徹良

大阪市北区堂島北町九番地　電話㊶代表5931
本　社・岐阜市長住町二丁目三番地　電話岐阜②代表6141～6145番
支　店・東京・名古屋
営業所・神戸・和歌山・奈良

株式会社竹中工務店

本　店・大阪市北区堂島中2丁目30番地
電　話　大代表大阪（312）1251番
営業所・札幌・仙台・東京・横浜・静岡・名古屋
京都・神戸・広島・高松・岡山・福岡・八幡

鉄道建設興業株式会社大阪支店

取締役支店長　花房三郎

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地　（天六阪急ビル七階）
電　話（351）883・2427・6680
本　社　東京都千代田区神田三崎町二丁目六番地
電　話　東京（301）3411

株式会社戸田組大阪支店

専務取締役（関西駐在）　石丸正名
常務取締役支店長　芝地光

大阪市北区真砂町三二番地・電話㊱5951－8番
本　社・東京都中央区京橋一丁目二番地
大阪支店営業所・京都・神戸・福井・金沢・富山

飛島土木株式会社大阪支店

常務取締役支店長　藤村脩

大阪市北区堂島浜通1丁目21番地　電話㊶0394・7141番　㉜2595番
本　社　東京都千代田区九段二丁目三番地

日産建設株式会社大阪支店

取締役支店長　武藤幸一

大阪市北区堂島北町28－1
電話　大阪 ㊱ 2191～3
本社　東京都港区赤坂青山南町1－1
電話　東京(408)代表4161番

西松建設株式会社関西支店

取締役支店長　蛯原逸雄

本　社　東京都港区芝西久保桜川町13番地
支　店　大阪市東区釣鐘町2丁目41番地
電話 大阪 代表(941)8431番

株式会社間組大阪支店

取締役支店長　遠藤巖

大阪市東区横堀町二丁目七〇番地（電話 ㉓ 代表5035）
本　店・東京都港区赤坂青山南町一丁目一番地（電話東京(408)代表2171）
支　店・仙台・名古屋・大阪・福岡

株式会社藤木工務店

本　店・大阪市東区両替町一丁目一三　電話 ㊶ 451～4番
支　店・東京都新宿区三栄町二三番地
岡山県倉敷市旭町六六〇
香川県高松市丸ノ内十一番地ノ十二
出張所・京都・名古屋・津・岡山・新居浜・徳島

株式会社藤田組大阪支店

常務取締役
支店長　村島良雄

大阪市北区堂島中二丁目三八番地　電話(代表)㊶0757㊱5379
本　社・東京都中央区八重洲四の五
支　店・横浜・名古屋・大阪・広島・九州・札幌

前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　島田光富

支店　大阪市東区石町2丁目7番地　電話大阪㊾局9356～9358番
本社　東京都千代田区富士見町2丁目3番地　電話東京㉝局5511番(代表)

真柄建設株式会社大阪支店

取締役
支店長　漆村重一

大阪市天王寺区生玉寺町六番地の七　電話㉗1272・1273・1274番
本社　金沢市弓ノ町二五番地　電話金沢代表③1266番
支店　東京・大阪・名古屋
営業所　金沢・富山・福井・大津・京都・岡崎・神戸・和歌山

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄吉

本社・大阪市東区京橋二丁目二八番地　電話代表大阪㊾3171
支店・東京・札幌・名古屋・広島・福岡
営業所・水戸・京都・福知山・岡山・呉・高松・八幡・大分・沖縄

三井建設株式会社大阪支店

取締役
支店長　岡田清治

大阪市西区江戸堀一丁目一九番地　電話大阪(441)代表8951
本社　東京都中央区日本橋室町二ノ一(三井ビル)　電話東京(241)代表3261
支店所在地　札幌・名古屋・広島・福岡・大阪
大阪支店管轄営業所　京都・神戸・和歌山・奈良・岡山

村上建設株式会社大阪支店

取締役副社長
大阪支店長　原新次

大阪支店　大阪市北区富田町三五番地　電話大阪(312)0871～6
本社　東京都千代田区九段四丁目六番地　電話東京(331)0511～9

株式会社 **井上組**

代表取締役 井上福蔵

本社 大阪市都島区東野田町二丁目一五番地 電話㊾0530・2823・4038・4782
出張所 神戸市生田区加納町三丁目一番地 電話葦合㉒0914

株式会社 **今西組**

取締役社長 佐藤音松

本社 大阪市天王寺区上本町七丁目二番地ノ一 電話㊼8231～3
支店 東京都新宿区内藤町一番地 電話(341)4476
出張所 神戸市生田区下山手通四丁目四番地ノ一 電話③6060
営業所 芦屋市山手町一二〇番地 電話芦屋2226

株式会社 **岡組**

取締役社長 岡三郎

本店 大阪市北区堂山町八九番地 電話(312)0776(代表)～0779・0770番
支店 東京都中央区日本橋茅場町二の一(植松ビル) 電話(661)8272番

栗本建設工業株式会社

取締役社長 村上勇

本社 大阪市西区北堀江通一丁目三一番地 電話㊶代表5801
東京出張所 東京都中央区日本橋江戸橋栗本鉄工所内 電話(271)代表6371
和歌山出張所 和歌山市関戸高松二五六番地 電話②8777

株式会社 **小坂井組**

代表取締役 川崎盛治

本店 大阪市北区太融寺町五六番地 電話㊿9331～4・4664
出張所 兵庫県西宮市産所町八五番地 電話西宮②5248

大洋建設工業株式会社

取締役社長　木戸口信義

本　店　大阪市天王寺区北河堀町五四番地　電話大阪㈹代表2672・3880
支　店　和歌山市南材木町三丁目二番地　電話和歌山②3225
営業所　京都市下京区揚梅通烏丸西入　電話京都㉟0479
出張所　泉大津市我孫子六九番地　電話泉大津1675

株式会社 大末組

取締役社長　山本末男

本　社　大阪府松原市丹南町635　電話松原525・黒山135・61
大阪事務所　大阪市南区大和町1　電話㉑代0555・代6343
東京支店　東京都豊島区池袋東1の43　電話(971)3658・3958
出張所　名古屋・神戸・奈良・堺

株式会社 西田工務店

取締役社長　西田義郎

本　社　岸和田市加守町六二六の一番地　電話岸和田貝塚②代表7221
大阪営業所　大阪市浪速区元町四丁目二二七の一番地　電話㊾代表5661
和歌山出張所　和歌山市新堀北の丁三丁目一七番地　電話②9404

総合建設　株式会社 長谷川工務店　ビル経営

取締役社長　長谷川武彦

本　店　大阪市東区本町1の18　TEL(261)代表7631
東京支店　東京都千代田区神田美土代町2　TEL(231)代表1591
名古屋出張所　名古屋市中村区泥江町1の24(中経ビル)TEL(57)代表3662

建設工業技術研究補助金受領　コンポザー工法

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

本　社　大阪市南区鰻谷仲之町五七番地　電話㉗代表4771～7
東京支店　東京都中央区銀座東八丁目四番地(燃料会館内)　電話(541)5642～6
名古屋支店　名古屋市中区南大津通り五丁目一一番地　電話㉔代表5141・直通9997
営業所　神戸市・八幡市・札幌市　出張所　堺市

長谷川組株式会社

取締役社長　長谷川為一

本　社　大阪市天王寺区大道町四丁目七九
電　話　(771) 4148・7322・9929
工作場　大阪市天王寺区大道二丁目三
電　話　(771) 9044番

水野建設株式会社大阪支店

取締役副社長　水野久市
取締役支店長　水野正三
大阪市北区太融寺町120　電話大阪(341)(代) 3931～3933
工作場　同北区鶴野町71　電話大阪(371)1921
本　店　京都市下京区西七条市部町17　電話(37) 8052・8277・5360
営業所　横浜市・平塚市

望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区堂島上一ノ一八　電話㊿614～5・801—2・3805・7913
工作所　豊中市庄内東町2丁目37　電話㊴1166番

株式会社八木工務店

取締役社長　八木一郎
本　社　大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目25番地
電　話　㊼1626・5772・9256・8990
倉庫・工作場　大阪市東住吉区爪破東之町
大阪市住吉区北加賀屋町3—5
電　話　㊾0120

矢島建設株式会社

取締役社長　矢島浩三
本　社　東京都中央区銀座七丁目五番地　電話東京(572)代1436
大阪支店　大阪市南区北炭屋町八番地　電話大阪(271)代5837
取締役副社長　仁平信也
支店長
支店・営業所　仙台・名古屋・福岡・蒲郡・和歌山

株式会社 **青山工務店**

代表取締役　湯原来

大阪市北区茶屋町37番地
電話　大阪(371)1314・1315・1381番

株式会社 **金山工務店**
金山建設機械工業株式会社

代表取締役社長　金山伊三次郎

本社	大阪市東区内淡路町1—2	TEL(941)5466～8・5763～4
東京支店	東京都中央区日本橋堀留町1—2	TEL (661) 3833
堺支店	堺市中瓦町3—86（博愛ビル4階）	TEL 堺 (2) 2751

大幸建設株式会社

取締役社長　大沢幸平

本社　大阪市東区今橋5丁目2番地　TEL大阪代表(203)0065～9
営業所　東京・名古屋・松江・広島・富山
出張所　伊予三島市・静岡・近江八幡市・大垣市・岡山

野村建設工業株式会社

取締役社長　鎌田楢次郎

本社　大阪市東区高麗橋二丁目九番地　電話(202)代表4791
東京支店　東京都千代田区大手町二丁目二番地　電話(241)代表4171

株式会社 **ミラノ工務店**

社長　小崎修

本社　京都市中京区夷川通河原町東入　電話（代表）㉓0177番
営業所　大阪・大津

白石基礎工事株式会社関西営業所

所　長　岸　恒治

大阪市東区淡路町四ノ二五（埼玉ビル三階）　電話大阪(202)代表4038番
本　社　東京都千代田区丸ノ内2ノ2丸ビル426区
名古屋営業所　名古屋市中区東田町1の23

アスファルト防水工事
床アスタイル張工事

日新工材株式会社

代表取締役　井場　績

大阪市西区新町北通1—17　電話（641）3785～6・2721

謹賀新年

昭和38年元旦

社団法人 **日本建材協会**

大阪市西区京町堀1丁目170番地
電話 ㊶ 5590・5092番

常設展示場

大阪市西区京町堀1丁目170	電話（441）5092
大阪市東区北浜3丁目 近畿建築会館	
広島市鉄砲町108	電話（4）5469
高松市中野町881の1	電話（3）5339
福岡市住吉松月町493	電話（3）1259

謹賀新年

昔からの建材店ゆるがぬ信用　　建材信和会　（いろは順）

岩元式スカイライト
岩元式通風装置（ベンチレーター）
その他建築材料

岩元工業株式会社

社長 岩元熊雄

大阪市東成区東今里町四丁目40
電話 (981) 0616 代

Ⓢ印ルーフイング・フエルト
Ⓢ印砂付ルーフイング
Ⓢ印石綿ウエルドルーフイング
陸屋根・地下室防水及耐酸工事　責任施工

日新工材株式会社

社長 井場績

大阪市西区新町北通一丁目17
電話 (541) 3785 代

暖冷房・給排水・換気・衛生
汚水浄化装置・大正便所
設計・施工

株式会社 大阪城口研究所

社長 城口庸平

大阪市北区高垣町1
電話 (371) 7575 代

ガス圧接
建築金物

株式会社 小野弥商店

社長 小野甚蔵

大阪市西区立売堀北通一丁目24
(541) 6721 代
電話 (531) 1212・1667

日進式軽量鉄骨
日進式リブラス
日進式メタルラス
日進式クリップ

株式会社 奥村重兵衛商店

社長 奥村重兵衛

大阪市北区木幡町56
電話 (341) 4131 代

室内装飾設計施工
窓掛・リノリューム・アスタイル
オリエンタルクロス・ニッポンクロス
カラークロス　製造発売元

河津装飾株式会社

社長 河津喜之助

大阪市北区堂島上一丁目24
電話 (341) 1351～4

プラスチック防水耐酸工事
各種レヂンライニング
ペプコグリップデック
ダウラテックス560

耐酸化学工業株式会社

社長 松井邦彦

大阪市北区高垣町80
(341) 4957 代
電話 (361) 0178代・4161

石灰・セメント・壁材料
大阪窯業セメント(株)　代理店
大阪生コンクリート(株)
コガネライト（蛭石）　製造販売

玉置産業株式会社

社長 玉置孝太郎

大阪市南区鰻谷仲之町25
電話 (271) 5674 代

一般塗装工事
請負業

竹林塗装工業株式会社

社長 竹林昭二

大阪市北区茶屋町78
電話 (341) 6431 代

各種ベニヤ板丸徳製品
ヤマハボード・ハードボード
ホモゲンホルツ
オーツカクロース総代理店

浪速合板株式会社

社長 村石秋吉

大阪市浪速区幸町通三丁目20
電話 (561) 2201 代

フローリング（ブナ・ナラ・サクラ）
吸音板，ボード，販売並施工
内装材各種

株式会社 室谷商店

社長 室谷山水

大阪市北区絹笠町50（堂ビル）
電話 (312) 2031 代

各種板硝子・鏡販売・施工
各務クリスタルKK代理店
ガラスブロック・プリズム
製造・販売・設計・施工

村田硝子株式会社
建材特殊硝子部

社長 村田経政

大阪市南区北炭屋町7
電話 (271) 4580・3367

艶出ケントク（白木・家具・塗物用）
液体ケントク（フローリング・アスタイル・リノリューム用）
フロアオイルケントク
床清掃請負・掃除器具販売

株式会社 ケントク

社長 鈴木清市

大阪市東淀川区新高南通一丁目14
電話 (391)0864代・1416・1658

建築金物・建具金物
サッシ金物
製造販売

株式会社 日垣本社

社長 日垣太市郎

大阪市南区安堂寺橋通二丁目3
電話 (261) 5091 代

タイル工事一式

株式会社 平田タイル

社長 平田伊三郎

大阪市西区阿波座中一丁目5
電話 (531) 1003 代
(541) 8731 代

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

代表取締役　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪㉗7575(代表)
京都市東山区大和大路正面上ル電話京都㊱4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話 神戸 ④ 5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 大阪電気商会
会社 大阪暖房商会

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀一丁目60番地
電話 大阪 ㊹ 大代表8231番
支店　東京・名古屋・福岡
出張所　京都・神戸・岡山・高松・広島・熊本
札幌・仙台・新潟・富山・金沢・福井

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話大阪 ㊹4145 ㊽2687・2887番
本店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話(281)局6505～8番

金沢営業所	金沢市高岡町三五	電話金沢 ② 2074
福井出張所	福井市城之橋下町一〇ノ	電話福井 ② 2436
高松出張所	高松市二番丁九	電話高松 ② 5195
岡山出張所	岡山市大供松ノ木三八〇ノ一	電話岡山 ③ 7047

創業　暖冷房・換気・空気調和
大正二年　病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京駅前丸ビル6階676区
電話 東京(201) 3761・3762・3763・3764
大阪店　大阪市西区土佐堀通 大同ビル714号
電話 大阪 ㊹ 1568・1569・2594
札幌店　札幌市北四条西16丁目1番地 高田屋ビル二階
電話 札幌 ② 0010・0956・③ 4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号
電話 中局 ㉔ 1766

建築設備・金属製建具
荷役運搬機械・環境衛生施設
化学・鉱山機械

三機工業大阪支店

取締役社長　山田熊男
取締役支店長　池田英太郎

大阪市東区北浜2—22(三井信託ビル) 電話大阪(202)代表3071

本店	東京都千代田区有楽町1丁目10番地
支店・出張所	名古屋・福岡・札幌・広島・仙台・富山・金沢・静岡
工場	鶴見・六郷・中山・高槻

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備
設計 施工

大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話 441—5171
支店——東京・名古屋・京都・神戸・福岡

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式會社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目44　電話大阪 ㊽3531番

空気調和装置・熱風乾燥装置
設計施工

株式会社 建材社
大阪支店

大阪市北区中ノ島二丁目 (新朝日ビル5階)
電話大阪㉑6041・㉗7046(代)
本社及東京支店　東京都中央区八重洲三丁目七
営業所　名古屋市中区菅原町2丁目 (センタービル)
連絡所　広島市基町一 (朝日ビル)

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社	大阪市西区京町堀1丁目62	電話(441)代表2613・代表9431
出張所	東京都北区上十条1丁目10	電話 (911) 3941
	名古屋市中村区牧野町1の6	電話 (54) 0966
	神戸市生田区北長狭通7丁目1の1	電話(4)1778・4386
	広島市中町2番地の4	電話 (2)7575・7588

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社	大阪市北区富田町16	代表(341)7031
支店	東京都千代田区小川町2丁目1 桧ビル	(201)7751-3
	福岡市養巴町22	(74)1158
出張所	名古屋市中区新栄町2丁目1	(97)1820
	福井市宝永上町105	(2)1596
	松江市東本町4丁目147	5098
	広島市紙屋町8	(2)4537

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設計施工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区梅田8番地（新阪急ビル8階）
電話 大阪（312）4521（代表）
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電話大阪㊵局8356（代表）
本社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 東京都足立区下沼田町360番地

暖冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 栄興商会

取締役社長 中山敏正

本店 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話大阪㊺3391～5番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話（351）2177～8番
神戸出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三 電話元町④3035番
仙台出張所 仙台市東四番丁四五 電話②5136番

暖房・冷房・水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工

株式会社 朝日工業社

大阪市北区中之島4—39 電㊶6671～5
東京支社 東京都港区芝浜松町2—7 電(431)7341～5
支店 北海道・仙台・名古屋・広島・福岡

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30 電話大阪㊵ {(代表)0977 /0978～9・0970
本社 東京都千代田区丸ノ内2—10
電話（281）2631—5
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話 73 32
名古屋出張所 名古屋市東区東門前町3—6
電話 ⑨2893

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役 市川繁雄

本社 京都市中京区両替町通リ姉小路上ル
電話㉒（代表）7975・（夜間専用）5532
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1-37(天満橋北詰)
電話㊱8829
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話7503・3665
津営業所 津市栄町2—111 電話3610

暖冷房・空気調和・環境衛生工事一切
設計施工

日本熱学工業株式会社

社長 牛田正郎

大阪市北区万才町50 北大阪ビル
電話 大阪㉜8671
東京支店 東京都千代田区神田和泉町1
電話（866）5156～8・2594・0408
名古屋支店 名古屋市中区城代町7
電話㉓4690・3520
営業所・出張所 下関・金沢・藤沢・新潟・八幡・京都

暖房・冷房・温湿度調整・衛生設備
設計施工

大嘉熱工業株式会社

取締役社長 嘉幡政四郎

大阪 大阪市北区万才町四三浪速ビル六階
電話大阪㊱直通2085・5725
（代）9851～9・9951～9
東京 東京都千代田区西神田町一ノ八
電話東京（291）8002～3
出張所 愛媛県川之江市・九州福岡市

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区天満橋筋4—71
電話㊱2808・2809・2800・2134
本社 東京都文京区元町2丁目17番地
電話（811）（代表）6294
支店出張所 名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

冷暖房・温湿度調整装置・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪営業所 大阪市北区宗是町1（大ビル）
電大阪代(441)8621番
本社・工場 東京都北区神谷3の10の3
電東京代(901)3191番
本社・分室 東京都港区芝佐久間町1の46（大同ビル）
電東京代(501)3156番
営業所 名古屋・仙台 連絡所 福岡

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

大阪市北区野崎町六九
電話・大阪㊱2891—5番
東京支店 東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(551)8・3330・8303
営業所 名古屋・神戸・岡山・広島・福岡

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長 浅海正雄
本社 大阪市東区北浜二丁目六九
電話大阪㉓5273—5・5451—2
東京支社 東京都港区赤坂溜池町1
電話(481)8621～4・3573
営業所 名古屋・札幌・旭川・福岡

電気工事設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗原信英
大阪市北区永楽町8番地 (日産生命館)
電話 大阪㊶代表 1234～9
支社 東京・名古屋
出張所 舞鶴・広島・八幡・福岡・富山

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長 今村騰
本社 大阪市北区梅ケ枝町二五番地
電話 大阪代表㊶8131～7
東京支店 東京都港区金杉町二丁目十三番地
営業所 名古屋・新宮・御坊

電動機自動操作用配電盤・分電盤・受電盤
自動遠方操作盤・電動機単逆相運転防止装置
温湿度自動装置監視盤・遠方監視自動装置
各種フロントスイッチ・スペースヒーター及び
ウォータヒーター・其の他特殊電気機器設計製作

森井電業株式会社

東京本社 東京都港区芝三田綱町一番地
電話 東京(451)9611～5番
工場 東京都港区麻布新広尾町一丁目一三四番地
電話 東京(451)0535番
大阪支店 大阪市北区常安町十六番地
電話大阪(441)9516～8番夜間専用(441)502番
名古屋出張所 名古屋市中村区長戸井町三丁目四十一番地
電話 笹島(54)6865・9495番
福岡出張所 福岡市東職人町二七番地
電話(4)7813番(5)3516番
広島出張所 広島市三川町二六番地電話(4)2449番

各種電気工事設計施工

株式会社 ヤマト電気商会

取締役社長 山本龍太郎
本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(341)代3056
東京営業所 東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室 電話東京(541)7464
出張所 大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

電気工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉納伝三
本社 大阪市北区絹笠町五〇 (堂ビル三階)
電話 (312) 1471 (代)
支店 東京都中央区西八丁堀四丁目十 (後関ビル三階)
電話 (551) 5590～2
営業所 名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話 (98) 236～7
〃 小松市符津町才四四ノ三
電話 (粟津) 237
〃 堺市三宝町七丁目三六九

電気工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

取締役社長 山本博三
本社 大阪市北区中之島三丁目三 朝日ビル6階
電話大阪局㉙9531 (大代表)
営業所 大阪市西区土佐堀通り四丁目八番地
電話大阪局㊵5201番(代表)～3
出張所 京都市右京区西院今田町六番地
電話 京都局㊽3481番

電気工事設計施工

江東電気株式会社

取締役社長 猪飼幸次郎
本社 大阪市生野区勝山通9丁目72
電話 (716)4035(代)～8
支社 東京都新宿区淀橋533
電話 東京(371)6203
出張所 金沢・名古屋・高知・広島

電気工事・設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長 中本正明
本社 大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
機器工場 大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫 電話(931)2193

電気工事設計施工

株式会社 三興社

取締役社長 坪井 大

本社 大阪市北区絹笠町50（堂ビル7階）
電話 ㊱ 2138（代）～9
支店 東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話 ㊻ 1478（代）～9
出張所 堺・下関

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長 姉川 正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地
電話 大阪（202）0325～9番

佛

社寺数寄屋用瓦…大佛瓦
耐風雨緩勾配用瓦…大和瓦
美術建築内外装用タイル…大佛タイル

大佛組

本店 京都市東山区今熊野池田町（6）3555
大阪営業所 大阪市東区内淡路町1～13（941）0975
名古屋営業所 名古屋市瑞穂区堀田通1丁目（88）2703

電気工事設計施工
並架線金具製作販売
（日本工業規格表示工場）

八千代電設工業株式会社

取締役社長 梶本秀尾

大阪市東区森之宮東之町
電話大阪 ㊾ 6531（代）～5
支店 名古屋
出張所 東京・岡山・門司

株式会社 矢橋大理石商店

大阪出張所

大阪市東区高麗橋二丁目九 野村ビル五階
電話大阪 ㉓ 4257－8番

平安瓦・大安瓦

各種瓦葺工事請負業

合資会社 佐村木商店

大阪市東住吉区西長居町811
電話（691）3368（代表）・6002

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店 大阪市西区南堀江上通一丁目三一
電話大阪 ㊸ 3426～7

コペンハーゲンリブ

商月報無料送呈

井田ベント
井田商事株式会社

大阪市浪速区西円手町一〇一七番地 湊町駅貨物八号門前
電話 （562）0800，0808～9

特約販売・工事店

東洋キヤリア工業株式会社
東洋ゴム工業株式会社
(株)大阪パッキング製造所
大洋産業株式会社

販売 工事

各種保温保冷材料 冷暖房工事
各種冷暖房機器 防熱防音工事
冷凍機・石綿製品 各種配管工事
各種樹脂加工品 設計施工

日本冷熱工産株式会社

取締役社長 石川良興

本社及大阪営業所 大阪市西区土佐堀通1の16（石川ビル）
電話大阪（441）2295・4167・4846・1761
九州支社及長崎営業所 長崎市茂里町13番地 電話（4）0092・0308
営業所及出張所 広島・福岡・小倉・大分・徳島・舞鶴・東京

アルミニウム

ステンレス　　カーテンウオール

ブロンズ

東京カーテンオール工業株式会社

（旧社名東京鋼板工業株式会社）

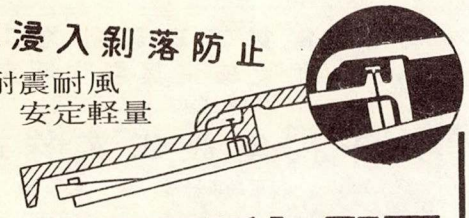
本社及工場　東京都荒川区尾久町５ノ１０００
電話（891）８１３１～８
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地（聚噂ビル3階）
電話㊿９１５４～７
名古屋支店　名古屋市東区久屋町5の9（住商ビル）④ 2578～9
福岡出張所　福岡市橋口町15番地の1（サンビル3階）　㊹8825

雨水浸入剝落防止

ナニワ瓦株式会社

大阪市浪速区元町一丁目㊿一電話㊶㊿㊿番

耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

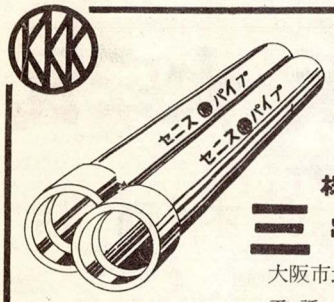
3寸緩勾配最適軽量水止付（空葺）瓦

特許　**白蟻**

松平式白蟻殺滅予防所

奈良市南城戸南方町28　電話奈良4098

（近日移転先）
奈良市登大路二番町（博物館前）電話 奈良4098
出張所　奈良市春日町尾田組内　電話6011・6012
本部　高知県宿毛市宿毛町２６３９



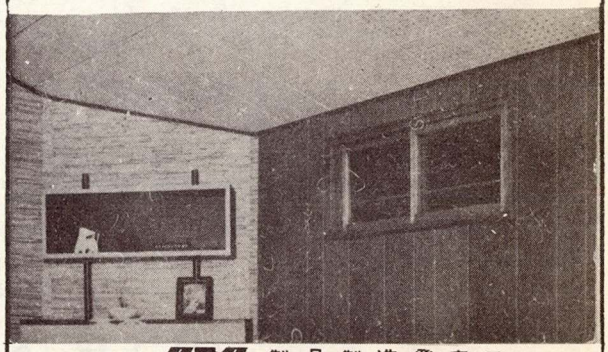
陶管・練瓦・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會

大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話　大阪 ㊵ 3145

クトーの新建材

プリント合板
ビニオン
九徳天井板
美装パネル
リズムウッド
スーパーショイナー



クトー製品製造発売元

浪速合板株式会社

大阪市浪速区幸町通の３の20
ＴＥＬ（561）２２０１（代）

工業用及建築用各種石灰製造販売
セメント
小野田 レミコン 特約販売店
ブロック
セントラル硝子特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目十四番地
（桜橋電停曽根崎新地西入）　電話大阪㊵1274～6
支店・東京・神戸・姫路・徳島・高松

PAINTING CONTRACTOR

塗装工事請負

株式会社 **林塗装店**

TEL. 大阪 ㉕ 1756—7・東京 ㉙ 1335

鈴木式防火シヤタア

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町33　電話㉗0098・5837・8729・6810

北陸営業所　金沢市長田町119　電話②2287

奉仕感謝の店

タイル 衛生陶器

㊊ 株式会社 **川岸窯業商店**

大阪市西区靱本町2丁目98　市電靱南通り電停前

電話大阪・㊱ 8467～9番

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売

建築陶器の百貨店



株式会社 **吉田芳雄商店**

大阪市北区南森町交叉点

電話 大阪(341)2403・3904

特許植物性　型枠離剝塗料

サンヒット

メタルフォーム用特号

関西代理店　株式会社 **金剛商会**

大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道　野里電停前

製造元　東京サンヒット商会　電 大阪㊼0417・4091

タイル

衛生陶器

エスロンタイル

サンウェーブ

流し台・調理台

株式会社 **平田タイル**

大阪市西区阿波座中通1

電話 (531)1003～5　(541)8731～3

Acoustic Tex

吸音テックス



株式会社 **室谷商店**

本　社　神戸市生田区長狭通四ノ一英和ビル
TEL神戸 ③ 0881～3
支　店　大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階
TEL大阪(312) 2031～4
出張所　岡山市内田京町158
TEL　岡山 ② 5189

つねなりすたじお

建築写真

大阪市東区北浜・電㉛0141


神戸市庁舎　アルミルーバー施工

日軽建築賞受賞

"特種プレスフォームアルミルーバー"

納入先　神戸市庁舎

設計　日建設計工務ＫＫ

施工　（株）竹中工務店

製作品種　アルミ・サッシ
スチール・サッシ
ルーバー
ド　ア
カーテンウオール
其他特種設計、製作一式

OKK

大阪機工株式會社

大　阪　大阪市大淀区豊崎西通1の4　電話大阪(371)664・665

工　場　兵庫県伊丹市北村猪名川製造所　電話伊丹（大代）5121

TIGER BRAND

■待望の世界の建材

ニュータイガーボード

■新時代の壁材

ＹＮプラスター

■60年の歴史・最大の生産

吉野の耐火ボード

燃えない建築資材！

■準不燃材料・難燃材料

■特性

長手の方向を表面の厚紙でヘリ折り被覆した強靱で美麗な新しい耐火ボード

カタログ進呈

石膏ラスボードを下地にすれば和洋壁が３－７日で出来る

石膏ラスボード
タイガートーン
アートボード
秋田杉耐火ボード

吉野石膏株式会社大阪支店

大阪市西区土佐堀１の１大同ビル
電話　441　8　9　1　2　4

本　社　東京都千代田区丸ノ内２の６

営業所　東京・名古屋・福岡・仙台・札幌・広島

工　場　東京・福岡・四日市
菱化吉野石膏　秋田・高砂

何よりも安心できる　**年限仕様**

Ⓐ アスタイト防水

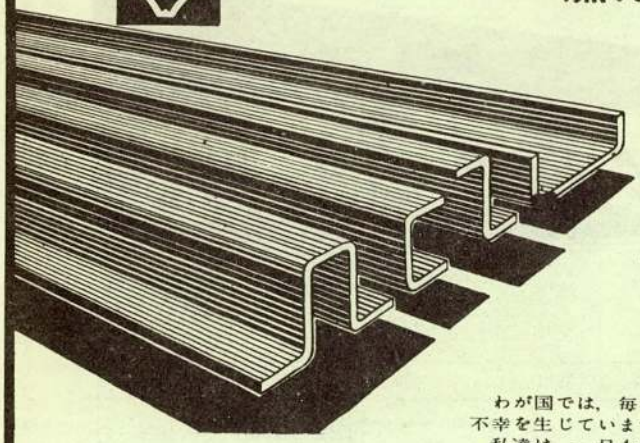
地区	組合員名	住所	電話
近畿（順不同）	(株) 久保商店	大阪市北区真砂町5	大阪(341)0207～8・4836～7
	(株) 木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5ノ35	大阪 (441)5408・5486
	(株) 井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1ノ7	大阪 (441)8531～5
	(株) 大和商会	大阪市南区高津町4番丁73	大阪 (631)6221～4
	(株) 石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通り1ノ31	大阪 (301)3340・3505
	内外工業株式会社	大阪市阿倍野区旭町1ノ51	大阪 (631)3434～6
	旭化建工業株式会社	大阪市北区茶屋町38	大阪 (371)6555～7
	日本瀝青工業(株)大阪支店	大阪市北区富田町40	大阪 (341)1804
	石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	神戸 ⑤2140・2697
	(株) 中出商会	神戸市兵庫区上沢通6ノ9	神戸 ⑤4630
	タテバヤシ商店	京都市下京区四条大宮南入学校前	京都 ㊶0871～2
	田島応用化工(株)大阪出張所	大阪市西区京町堀1ノ74	大阪 (441)5951代表
東海	岡田建材株式会社	名古屋市西区桜木町3ノ8	名古屋 ㊲7461～3
	(株) 名建商会	名古屋市中区宮出町41ノ2	名古屋㉔1329・2817・2106
	高橋建材店	名古屋市中区材木町1ノ12	名古屋㉓3295
北陸	北川工業株式会社	金沢市西側町8	金沢②4552～3
	北川工業(株)富山出張所	富山市奥田新町23	富山②2218 ③1014
	北川工業(株)福井出張所	福井市大和中町70	福井②4532
	(株) 小島工務店	高岡市大坪旭町2丁目32ノ1	高岡③2463
	(株) 小島工務店富山営業所	富山市神通町3区1003	富山②8221
中国・四国	青盛建材株式会社	広島市鉄砲町108	中②2281～4
	青盛建材(株)岡山営業所	岡山市東田町3	岡山②7911・8169
	(有) 小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	岡山②4272
	(株) 浜原豊商店	尾道市吉和町新浜	尾道 2760
	(株) 浜原豊商店防府支店	防府市大林寺	防府②3611～2
	古市断熱工業株式会社	高松市宮脇町960	高松③5034
	正和商事株式会社	松山市1番町21	松山②8161～5
九州	青盛建材(株)福岡営業所	福岡市万行寺前町14	東③1225～6
	高稲工業株式会社	長崎市大橋町138	長崎④1726
	高稲工業(株)小倉営業所	小倉市西本町2	小倉㊺6177

建設省阪建22号認可　　出資金600万円

三星　**西日本アスファルト事業協同組合**

大阪市西区京町堀1--74　　TEL ㊶ 代表 5951
東京連絡所　東京都千代田区神田岩本町13（田島応用内）　　TEL(866)代表 6101
北陸・東海・近畿・中国・四国・九州

燃えない家を造りましょう

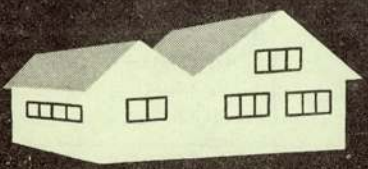




わが国では，毎年火災のために400億円に近い莫大な損失と，大きな不幸を生じています。
私達は，一日も早くこのようなことから解放されなければなりません そのためには燃えない建築材料が必要です。
当社では，この要望に応えるために，最適の建築材料として，すでに欧米で大量に使用されている「軽量形鋼」を，当社川崎製鋼所の新鋭設備で生産しております。
この「軽量形鋼」は，軽くて丈夫な「薄鋼板」を冷間成型して，各種の形鋼を大量に生産するもので価格も低廉です。

富士製鐵の輕量形鋼

住友の 押出し型材使用
アルミサッシ・ドア



アルミサッシ使用率 米国 70% 西独 26% 日本 6.5%

雨の多い日本には……
雨仕舞の良い気密な窓を
錆びない・軽るい・精度が高い



製造 取付
アルケン工業株式会社
大阪市西区新町通4－39 電話（541）0865 2905

電気工事 ✣ 設計★施工

適正配線の
御相談と御用命は
当社へ

近畿電氣工事株式會社

取締役会長　佐藤　太
取締役社長　大森　久司
本　店　大阪市北区南扇町11　電話(大代表)大阪 312—1281
支店*支社　大阪北・大阪南・京都・神戸・姫路・奈良
和歌山・滋賀*名古屋・広島・東京

イワキセメント

イワキセメント
イイワキ生コン
イイワキスレート
イイワキパイル
イイワキポール

磐城セメント株式會社

取締役社長　斎藤次郎

本　社	栃木県安蘇郡葛生町	電話葛生450～5
東京支社	東京都台東区北稲荷町13	電話浅草(841) 8121～9
大阪営業所	大阪市東区大川町一番地(勧銀ビル)	電話北浜(202) 0171～7
出張所	青森・仙台・金沢・名古屋・小倉	

アサノ セメント

日本セメント株式会社

関西事務所　大阪市北区梅田町47番地　新阪神ビル6階　電話大阪（36）3351～6

本　　社　東京都千代田区大手町1丁目4番地
事 務 所　北海道・東京・名古屋・関西・九州
出 張 所　仙　台・広　島・高　松
包 装 所　釧路・函館・青森・下板橋・横浜・新潟・名古屋・大阪・小倉

ヨーギヨーセメント

大阪窯業セメント株式会社

本　　社　大阪市北区堂島浜通1丁目25 新大ビル内
東京支店　東京都千代田区丸の内 郵船ビル内
名古屋支店　名古屋市中村区 住友銀行 名古屋駅前支店 ビル内
工　　場　大　阪・伊　吹・高　知・横　浜



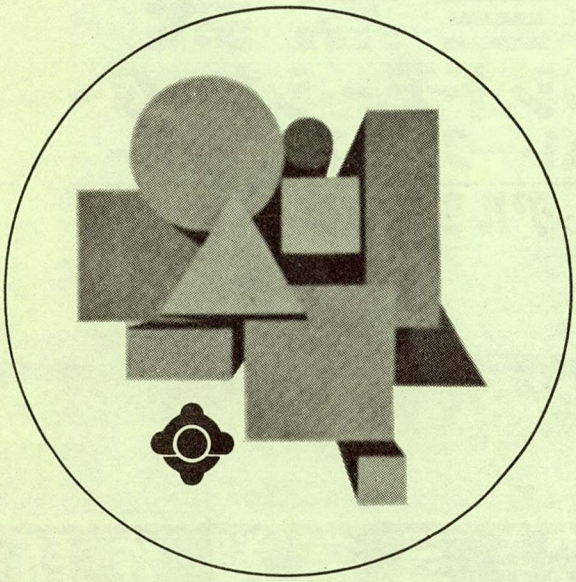
小野田　普通　ポルトランドセメント
小野田　早強　ポルトランドセメント
小野田　ダム用(中庸熱)　ポルトランドセメント
小野田　シリカセメント
小野田　高炉セメント
小野田　フライアッシュセメント
小野田　白色　ポルトランドセメント
小野田　カラーセメント

小野田セメント

社長　安藤豊禄

東京本部　丸ノ内・鉄鋼ビル
大阪支店　梅田・第一生命ビル

宇部セメント



宇部普通セメント
宇部超高級セメント
宇部中庸熱セメント

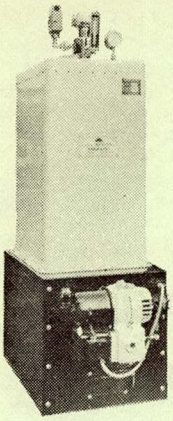
(混合セメント) 宇部ポゾランセメント
(セメント混和材　Fly Ash) 宇部ポゾラン
(軽量骨材) 宇部パーライト

セメント／化学製品／機械／石炭

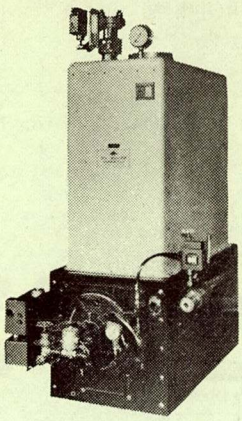
宇部興産

東京・大阪・名古屋・広島・福岡・高松・新潟

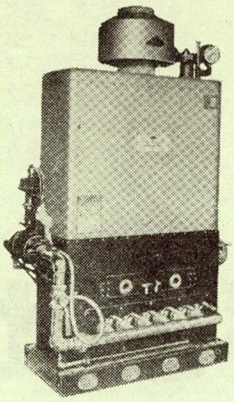
笠松式水管瓦斯重油温水ボイラ



軽油全自動ボイラ



重油全自動ボイラ



瓦斯ボイラ
NO.K200型

本邦最初
（84Sモリブデン
ステンレス製）
最高性能・経済的・安全な
（暖房・給湯）

営業品目

オイルバーナー
瓦斯熱風暖房機
軽油ボイラ（銅水管製）
重油全自動ボイラ
（水管モリブデンステンレス製）
都市プロパン瓦斯ボイラ
（銅水管製）
（型録贈呈）

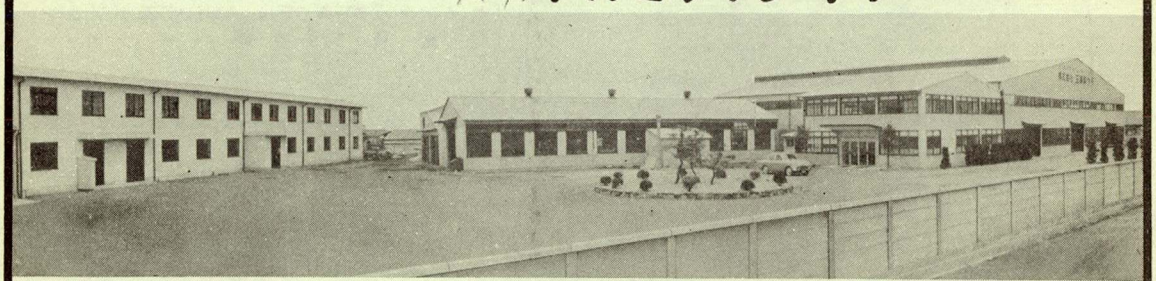
笠松工業株式会社

取締役社長　笠松正治
本社工場　大阪市生野区大友町1－18　電話(716) 8183

オートメーションでボンデー並びに完全焼付塗装に依る

錆びない＝三高式

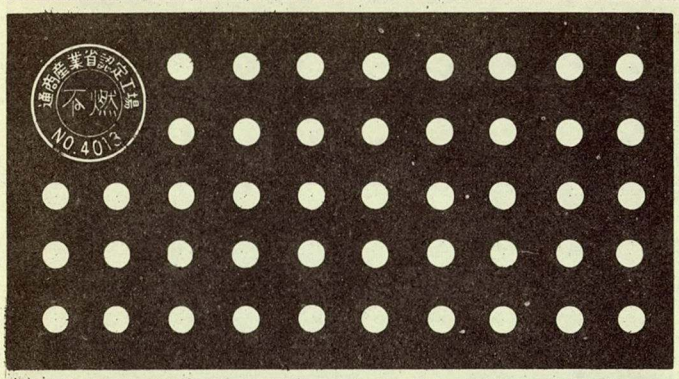
スチールサッシ・ドアー・シャッター
オペレーター・ドアーハンガー
ステンアルミサッシ・ドアー

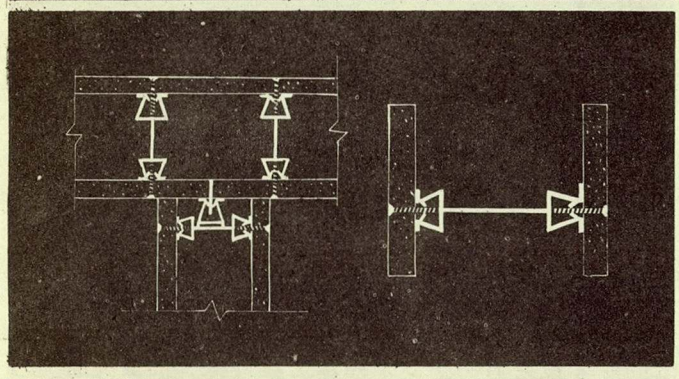


TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所

本社工場　尼ヶ崎市神崎五反田280　電話 大阪(401)6158・6159





（法定不燃材・軽量石綿耐火板）

アスベストラックス

ファイヤボードは今般英国
ケープアスベスト社との技
術提携によりアスベストラ
ックスと改称致しました。
完全耐火性・軽量・吸音・断熱性・
永久不変性・木材と同様の加工性

トムレックス

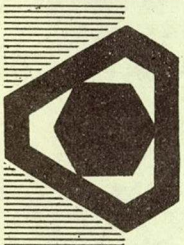
（吹付石綿・責任施工）
吸音・断熱・結露防止
耐火・耐振動・腐食防止

N.A.K.

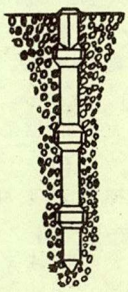
日本アスベスト株式会社

本　　社　東京都中央区銀座西６の３　電(572)0321・0331(代)
大阪支店　大阪市南区塩町通４の２５　電船場(251)５４９１～８
名古屋支店　名古屋市中区下前津町 117　電　南(32)６５９１～５
九州支店　福岡市薬院大通り２の８１　電福岡(74) 1747・2827
札幌出張所　札幌市北四条西２丁目　電　(２)6472(３)0520

特許 日信三角杭

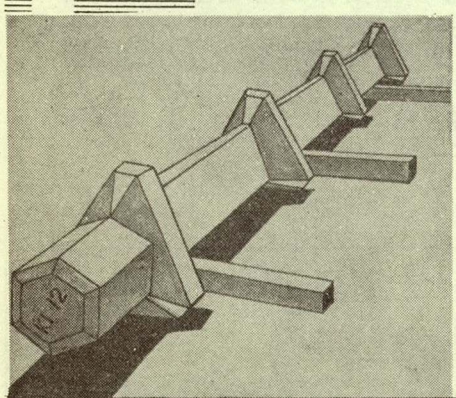


鉄筋コンクリート節杭



特　　徴

1．松丸太杭より遥かに堅固で安い
——工費節減——
2．運搬・打込とも簡単で工事迅速
——施工容易——
3．理想的なフリクション・パイル
——性能優秀——
4．充填物に依る地盤の更正



株式会社 **武智工務所**
取締役社長　福留並喜
大阪市東区瓦町３－11(井池筋)旭洋ビル３階
電　話・大　阪　(202) 3233・3234・3928番

株式会社 **坂本組**
取締役社長　坂本清五郎
横浜市鶴見区朝日町２－71
電話　鶴見(50) 3506・3195・4735・4171
（型録贈呈）

サッシ・ドアの設計・施工は
伝統と信用のある下記協会員へ

西日本規格サツシ（株）
大阪市北区神山町26(富国信用ビル)（361）6501

朝日建材工業（株）
高松市木太町洲端2169 高松（3）3181

旭サッシ工業（株）
大阪市城東区野江西之町1ノ44（931）3561

尼鉄建材（株）
尼崎市西向島町270（401）6301

（株）石居工業所大阪営業所
大阪市北区老松町3—23(新老松ビル)（361)5965

（株）岩住鉄工所
尼崎市守部字下河原15（401）6751

栄進鋼業（株）
大阪市城東区野江西之町2—2（931）8261

（株）栄進社大阪営業所
大阪市大正区南恩加島1（551）1718

大阪機工（株）
大阪市大淀区豊崎西通1ノ4（371）0664

大阪建材工業（株）
堺市松屋町1ノ6（0722）（3）5241

（株）大阪鉄工所
大阪市西区本田町1ノ44（531）1254

大阪理研工業（株）
豊中市大字洲到止359（391）0661

加地シヤツター工業（株）
大阪市生野区中川町3ノ15（731）1020

川鉄建材工業（株）
神戸市東灘区魚崎町魚崎 神戸（85）4343

（株）関西鋼業製作所
大阪市城東区野江中之町2ノ5（931）6045

（株）建鋼社
広島市中広町1002 広島（3）7293

三機工業（株）大阪支店
大阪市東区北浜2の22(三井信託ビル)（202)3071

昭和鋼機（株）大阪支店
大阪市西淀川区佃町3—155（471）6051

田中工業株式会社大阪出張所
尼ケ崎市南竹谷町2～89（401）6341

（株）高橋サツシュ製作所
新居浜市中村字西松木223 新居浜 5111

大建サッシ工業（株）
大阪市城東区野江東1—12（931）3351

谷山鋼機（株）
大阪市城東区茨田横堤町230（931）7191

中国理研サツシユ（株）
広島市舟入幸町612ノ1 広島（3）2081

東京カーテンオール工業（株）大阪支店
大阪市北区絹笠町18（聚嘻ビル）（361）9154

（株）中本鉄工所
大阪市福島区海老江下2ノ74（451）6573

浪速建材工業（株）
大阪市城東区茨田横堤町41（931）1171

日本建業（株）
大阪市北区木幡町33（木幡ビル）（361）4941

日本建鉄（株）大阪営業所
大阪市北区堂島上2ノ36(毎日産業ビル)(361)6758

日本スピンドル製造（株）
大阪市東区備後町3（綿業会館）~~(231)~~ 7958

（株）汎建製作所
大阪市此花区西島町3—15（461）2903

不二サツシ工業（株）大阪支店
大阪市西淀川区御幣島中3ノ4（471）7651

不動サッシ工業株式会社広島出張所
広島市雑魚場町298の1 広島④7212

（株）三高製作所
尼ケ崎市神崎五反田280（401）6158

理研鋼機（株）大阪営業所
大阪市北区宗是町1（大阪ビル）（441）8621

六甲工業（株）
大阪市西成区旭北通2—2（632）2921

社団法人 **日本サッシ協会 関西支部**

支部長 福田好雄

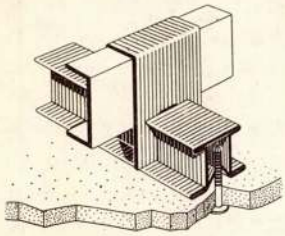
大阪市北区神山町26（富国信用ビル）（361）6501

広告目次 (50音順)

ア アサヒカラコン……35
朝日石綿工業kk……表 4
アスファルト同業会……37
アルケン工業kk……22
浅海電気kk……16
kk 朝日工業社……15
伊奈製陶kk……中挟
井田商事kk……15
岩元工業kk……32
磐城セメント……23
宇部興産……25
宇部スレート工業 kk……本文
kk 栄興商会……15
オリエンタルメタル製造KK……中挟
小野田セメント……25
小俣製作所……本文
大阪機工kk……20
大阪建材工業kk……40
大阪コンベス建材社……35
kk 大阪城口研究所……14
大阪石綿スレート同業会……31
kk 大阪電気暖房商会……14
大阪耐酸工業所……34
大阪防水建設社……本文
大阪窯業セメント……24
大島応用化工業kk……1
kk 奥村重兵衛商店……本文
奥山化工業kk……39
織本建築事務所……35
カ 笠松工業kk……26
樫野石灰工業kk……18
kk 川岸窯業……19
桂商会……前付
川口ゴム工業kk……前付
亀井kk……36
関西暖房工業kk……33
関西三星タイル会……表 4
関西生コンクリート……38
木村工機……33
近畿電気工事kk……23
工藤電気kk……16
kk 久保商店……1
クマガイ工業kk……前付
栗原工業kk……16
黒川金物……32
黒川化学工業所……36
kk 建材社……14
江東電気kk……16
合同特許建材工業kk……本文
kk 金剛商会……19
サ サルコンタイト産業kk……中挟
佐村木商店……17
斎久工業kk……14
kk 斎藤省三商店……14
三栄建材工業kk……33
三機工業kk……14
kk 三幸商会……18
kk 三晃商会……15
kk 三興社……17
三宝電機kk……16
三和シヤッターkk……前付
敷島金物kk……前付
昭和鋼機kk……36
新鋼建設工業kk……本文
kk 新興建材工業所……31
須賀工業kk……14
鈴木シヤタア商会……19
住江織物……34
住友金属工業kk……前付
タ 田島応用化工kk……表2
田中工業kk……1
kk 田中風呂製作所……36
田辺工業kk……本文
谷山製作所……本文
第一企業kk……15
第一工業kk……15
大嘉熱工業kk……15
大元工業kk……本文
大日本硝子工業kk……32
大仏組……17
高砂熱学工業kk……14
kk 武智工務所……本文・27
中央電気工業kk……16
朝陽電気kk……16
つねなり・すたじお……7
寺西金庫……40
東光電気……17
東京カーテンオール工業kk…18
東洋キヤリア工業kk……14
東洋陶器kk……前付
東洋リノリュームkk……前付
東洋シャッターkk……12
ナ ナニワ瓦kk……18
内外工業kk……35
内外建材kk……34
中本電気kk……16
浪速合板……18
浪速建材工業kk……39
日新工業kk……中挟
日東紡……前付
日本アスベスト……27
日本アスファルト防水工業会関西事務所……前付
日本エレベータ工業kk……34
日本管工業kk……15
kk 日本金具製作所……前付
日本建鉄……表3
日本サッシ協会関西支部……28
kk 日本シヤッター製作所…表3
日本セメント……24
日本スピンドル……前付
日本セメントkk……24
日本セメント防水剤製造所…表3
日本ドライブイット……30
日本トアーチエツク製造KK……中挟
日本綜合防水kk……前付
日本熱学工業kk……3
日本冷熱工産kk……17
日瀝化学工業kk……前付
西日本アスファルト事業協同組合……21
kk 西原衛生工業所……14
ハ kk 林塗装店……18
kk 平川鉄工所……前付
平田タイル……19
広瀬ハウス工業kk……前付
フタバ黒板……36
二葉屋装備工業kk……32
福屋工業kk……17
富士製鉄……22
平和工業kk……36
マ 松平式白蟻殺滅予防所……18
満点製作所……30
kk 三高製作所……26
三菱商事kk……前付
三菱電機……前付
三菱レイヨン……前付
美素工業所……本文
水谷ペイントkk……本文
水島商店……前付
kk 室谷商店……19
森井電業kk……16
ヤ 八千代電設工業kk……17
八幡製鉄……前付
kk ヤマト電気商会……16
矢橋大理石商店……17
山田工業kk……15
山本窯業kk……本文
kk 山本建材社……前付
kk 油脂化工社……表3
kk 吉田芳雄商店……19
吉野石膏kk……20
kk 寄木商会……33
ラ 理研鋼機kk……15

◎恒例の**新年広告**（5日会・10日会その他）は紙面の都合上，目次は省略させていただきます。ただし普通紙広告の2頁から13頁まで記載してあります。

マンテンの　SK式軽量鉄骨天井下地



燃えない
狂わない
取りつけ易い



MAN TEN

発売元 住友商事株式会社
製造元 株式会社 満点製作所
大阪市南区日本橋筋３丁目２番地　電話 大阪（641）1156～８

東京出張所　東京都江東区亀戸町2丁目114（新協和ビル内）電話東京（681）8425

DON'T DRILL IT DRIVE-IT JAPAN DRIVE-IT CO.

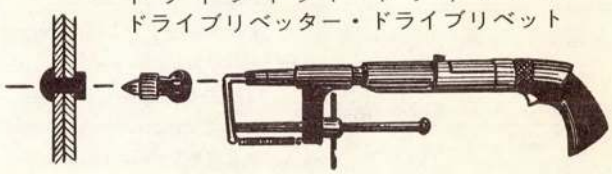
建設用鋲打銃ドライブイットが軽量鉄骨業界に贈る新工法！

ドライブリベット工法

（PATENT．PEND）

御手持ちのドライブイット（三三〇型及四四〇型）にドライブリベット用アタッチメントを取付けるだけで電気も、ドリルも、コンプレッサーも使はずに薄鋼板金属板に、瞬間に、強固に経済的にリベット打ちが出来る特殊リベット法が完成致しました。

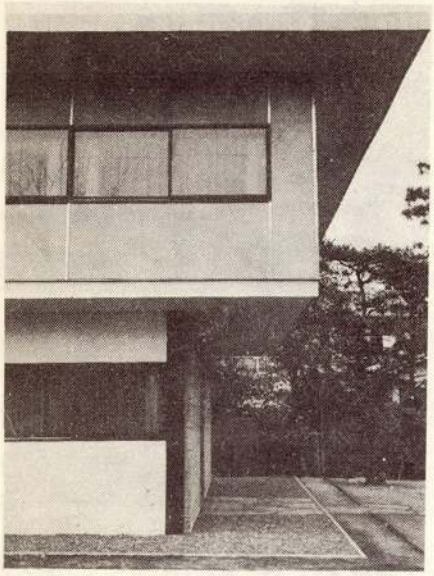
ドライブイット・ドライブピン
ドライブリベッター・ドライブリベット



製造元
日本ドライブイット株式会社
東京・大阪・名古屋
大阪市北区絹笠町11　TEL 341－6444 361－8709

燃えない家で明るい暮し！

通商産業省認定工場 不燃 No.



建築基準法定不燃材料

石綿スレート

フレシキブル板
平　板・軟質板
パーライト板
孔　あ　き　板
サンドイッチパネル
小波板・大波板
（着色・化粧板他 各種加工品あり）

美しいカタログお送りします

石綿セメントボード協会
波形石綿スレート協会

東京都中央区銀座7—3朝日石綿ビル
電話（571）1359・6914

・優美な繊維の京壁材 →
日本壁

新日本壁 ←・繊維の床砂材……

・塗りつける織物壁材 →
パビロン壁

錦上壁 ←・パルプの日本座敷壁材

・近代的な趣味の壁材 →
いすゞかべ

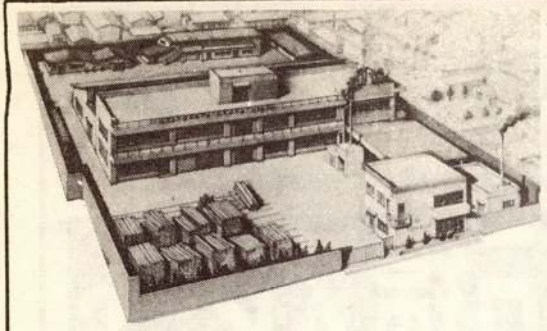
新いすゞかべ ←・吹付のできる京砂壁材

・繊維の色土…… →
大和壁

SK 近代的上塗壁材 繊維塗料製品

製造発売元　株式会社 新興建材工業所　■全国有名建材店にございます

本　社　大阪市西局区内四ツ橋　電話大阪(541)5756～9
営業所　明石市西王子町1丁目39　電話　明石　5852
営業所　福岡市西唐人町1番地　電話 福岡㊻7373



FUTABAYA DECORATORS, LTD.

建築物船舶等造作工事
家具建具・室内装飾工事 設計施工
内外装飾織物・敷物類一式

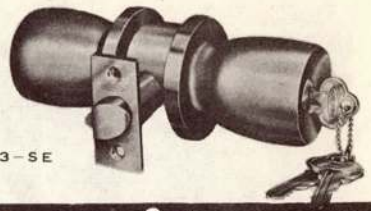
（創業大正7年）

二葉屋装備工業 株式会社

取締役社長　若　林　繁　吉
大阪市大淀区本庄川崎町２の６
（天六電停西北２丁）
電話・大阪 (371) 3321～3・3630

KUROKAWA

円筒形トビラ錠の決定版!!



D-A543-SE

エポロック

デラックス　（カタログ贈呈・ご御氏名御職業御記入）
1品種　住宅玄関・事務所用、間仕切用、廊下通路用、連接せる間仕切用、倉庫用、学校・病院用、出口専用、ビル玄関通路用、浴室・トイレット用
2材質　ステンレス、鋳金、
3形状　広角型、円垂型、

スタンダード
1品種　住宅玄関・事務所用、間仕切用、廊下通路用
2材質　硬質アルミニューム
3形状　広角型

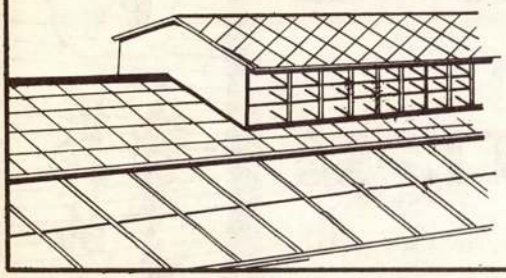
高級扉錠・専門製作

黒川金物株式会社

本社　大阪市南区高津町１０番丁１９番地　TEL代表(771)7483～4・8050
営業所　東京都江東区深川清澄町2丁目9番地　TEL (641) 7250
工場　奈良県北葛城郡香芝町別所1054番地　TEL (下田) 109

岩元式

スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター



サッシュ、ドアー、シャッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工
カタログ進呈



岩元工業株式会社
本社　大阪市東成区東今里町４の40
電話(981)0616～0618

網入光り波型ガラス（スレート小波 / スレート大波）　長サ 965㍉ 1818㍉

ダイニチ・アーモライト　波板・平板

（硝子繊維強化ポリエステル板）各種波，寸法（長尺物有）

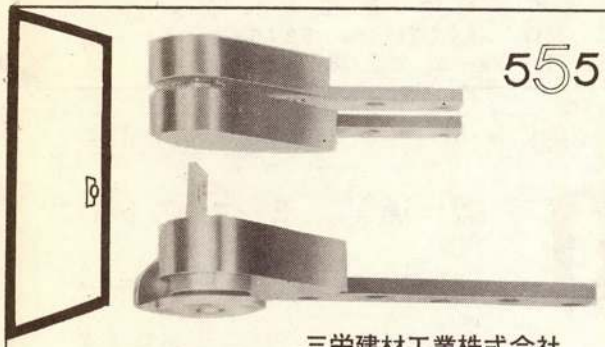
製造販売　大日本硝子工業株式会社

大阪支店　大阪市北区玉江町２ノ４（三菱倉庫ビル）電(441)1389・3389
本　社　神奈川県相模原市小山字久保224　電(7)3101～4

KKKプレートフイン　チユーブ
暖冷房用放熱器各種専門製作

木村工機株式会社

本　　社　大阪市東区上本町1丁目13番地　電話（761）代表 6921
東京出張所　東京都千代田区和泉町1番地の1（直江ビル）
電話（851）4619・4629
八尾工場　大阪府八尾市久宝寺1981番地の1　電話八尾(0729)②7041～4



555　ナイロンベアリングで扉の開閉が軽快!!

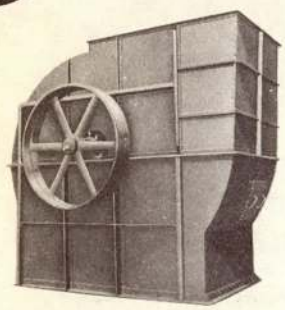
ピボットヒンヂ
フロアーヒンヂ
ネコ印ダストシュート

三栄建材工業株式会社
大阪市生野区巽矢柄町一五一番地
大阪(741) 4655 (716) 0188・0189

特徴
◆ボンデライジングに依る完全防錆加工品
◆回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品

KANDAN

煖冷房温湿度調整
設計　施工



各種送排風機
設計　製作

関西煖房工業株式会社
本　社　大阪市住吉区万代東6丁目3番地
電話大阪 671—6751 (代表)～4 ·1570·1590
堺工場　堺市浜寺石津町中2丁目200番地
電　話　堺　③7301（代表）～2
出張所　名古屋・福岡・徳島

寄木貼床板
フローリング　施工請負
ブロック
ベニヤフラッシュドアー　造作取付
グラインダー床削

株式会社　寄木商会

営業所　大阪市東区横堀6—49
電話(251)3731・3960
工　場　大阪市浪速区勘助町1

運　搬　機　械

エレベータ・コンベヤー
ホイスト・リフト・クレーン・エスカレータ

設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K.K.

本　社　大阪市大淀区天神橋筋6丁目　天六阪急ビル
電話大阪(351)4927(代)・7071(ビル)
東京営業所　東京都台東区長者町2－7　豊富ビル内
電話(831)7949(直)・(866)5276(代)
工　場　大阪市東淀川区小松中通5丁目6番地ノ2　電話(381)0363・4588

最古の歴史・最高の品質

カーペット、タフトン　緞通、モケット
椅子張地、カーテン地　別珍、紡毛糸

住江織物株式会社

本　社　大阪市南区安堂寺橋通4（御堂筋）（電）大阪（251）代表81番
東京支店　東京都港区芝田村町4番地　（電）東京（431）代4166番

建築基準法にフリーパスのガラス屋根

内外式電動ベンチレーター

電気扇付　屋上強制換気装置

内外建材株式会社
旧名（株）内外土木建材社

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）TEL（441)3983
工場　大阪市城東区天王田町1の141　TEL（981)1149

内外式スカイライト
工場・プラットホーム・
体育館・アーケードに最適

内外式
コンチニアスベンチレーター
筒型各種ベンチレーター
設計　施工

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　電話大阪(371)1333番

減らず・滑らず・美しい
モルタル打と同時仕上る 美装床材

カラコン
フエロコン

超硬骨材に顔料、薬品等を配合した粉末剤でその儘水練り、金鏝仕上げの為特に技術を要せず、色ムラ、ノロ汚れ等の缺点がない耐磨耗性特に強大、表面滑らかで美しく清潔、耐水性に富み価格低廉であります。（坪当り材料代¥ 950）仕上り厚さ約2㎜程度学校、工場、病院、事務所、商店、ガレーヂ、ガソリンスタンド、住宅の玄関、流し、浴室、プール等に最適であります。

（カタログ進呈）

製造発売元

アサヒカラコン株式会社

大阪市此花区四貫島旭町1−3　TEL（461）3594
工場　大阪市此花区四貫島旭町1

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

N.G.C式

N.G.インシュライト工事責任施工
メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ．コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社

脇山静夫

本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話（641）3434〜6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

N．G．インシュライト断熱材製造発売元

経験と技術

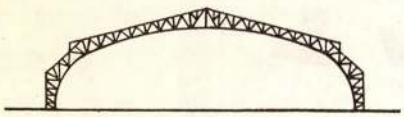
Y.C.コンベス（リグノイド）

ゴムタイル
プラスチックラブ
スポンヂシート
アスファルトタイル

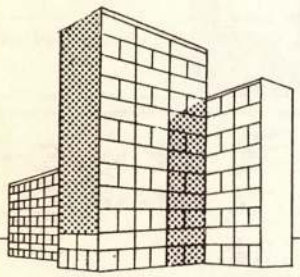
大阪コンベス建材社

大阪市北区浪花町三五　電話豊崎㈹6760・7063

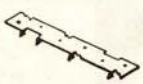
綜合建築設計への道

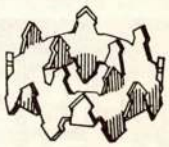


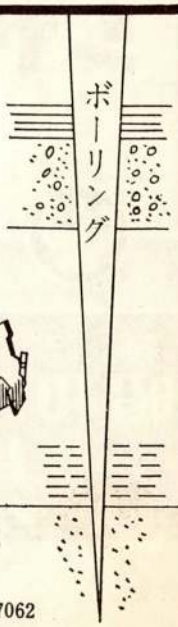
設計部　1．各種鉄骨・鉄筋コンクリート造建築の設計監理
2．ダイヤモンドトラス・ジグザグトラス・平行トラス等
各種大張間鉄骨造の設計監理



金物部　1．耐震耐風木材接合金具の製造販売
PAT．O式（織本式）ヂベル及クランプ
2．鉄筋の接手及末端定着金具
PAT．バコ及バスト



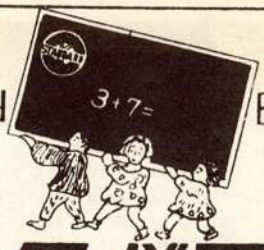




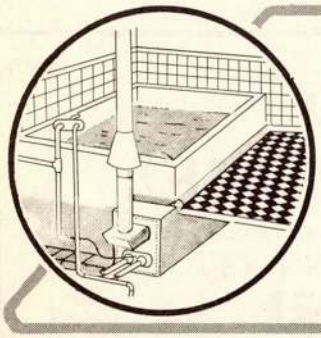
地質部　ボーリング・建築物基礎工事の為の土質調査

株式会社　**織本建築事務所**　所長織本道三郎
（旧織本建築設計々算事務所・織本特殊構造研究所・合体）
東京都中央区日本橋かきがら町3の2　電話（671）6443・7007・7062

標準セメント防水材・特許ニッポン
特許ニッポン防水液・急結液一号（噴水急止）
二号（湧水防止）・姉妹品粉末ニッポン
施工指導並ニ責任模範施工
黒川化学工業所
（国立大阪工業試験所創製）セメント防水材特許権実施工場
（大阪営業所）北区芝田町六八　電話大阪㈱7916
（本社・工場）神戸市灘区住吉町反高林1876・
神戸⑧2723


Standard Board & Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地電話 大阪 (741)4692番

窓掛、緞帳、日際、壁紙 室内装飾 絨毯、舗床材一般
東洋リノリユームの 東リカーペット 発売元
亀井株式会社
大阪市東区南久宝寺町四丁目（心斎橋筋）
電話 大阪（251）1353（代）～6


田中のガス風呂
ミリオンポリバス浴槽
清
各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂・温水鑵
大阪ガス会社指定
田中風呂製作所
大阪市浪速区元町1丁目742　但シ賑橋電停前　(641)5313・8128

シヤッター
重量シヤッター
電動シヤッター
軽量シヤッター
レディメイド
サッシ
アルミサッシ
スチールサッシ
ドアー
HEIWA KOGYO
平和工業株式会社
ナンバスケート場前
施工迅速
親切丁寧
在庫豊富
信用を誇る
（乞御照会）
TEL(641)5750・8836

特許
昭和A-15型
片引窓
突出装置付完全エアータイト
アルミサッシ
ステンレスサッシ
完璧の防錆
デュラボン加工デュラボン3S加工
スチールサッシ
昭和鋼機株式会社
工場・営業部　東京都板橋区志村前野町1105　電(961)6141－5
大阪支店・工場　大阪市西淀川区佃町3－155　電(471)6051－4

アスファルト防水の材料と工事は

（アイウエオ順）

◀製造業社

協和建材工業k.k.	大阪市東淀川区田川通5丁目91	(301) 6437・6438
k.k.工英社	大阪市西成区橘通9丁目24	(661) 8861～2
k.k.工盛社	大阪市城東区西鴫野6丁目43	(971) 4460・8288
田島応用化工k.k. 大阪出張所	大阪市西区京町堀1丁目74	(441) 5951
大恵工業k.k.	大阪市西淀川区姫島町1690	(471) 3131～2
東亜工業k.k.	八尾市字太子堂629	八尾（2）2308・3039
日瀝化学工業k.k. 大阪営業所	大阪市東淀川区堀上通3丁目39	(391) 0924～5・2045
日新工業k.k. 大阪支店	大阪市西区新町北通1丁目18	(531) 5281～3

◀販売業社

東京通商k.k. 大阪支店	大阪市東区大川町1（勧銀ビル）	(202) 2291代
池田商事k.k.	大阪市福島区鷺洲本通1丁目48ノ3	(451) 7601～5
内田商会	大阪市北区万才町47	(312) 0871～8
梅本石油k.k.	大阪市東淀川区新高南通1丁目28	(391) 2080・2207・0238
枝松商事k.k.	大阪市北区道本町41	(361) 5858・5850
朝日瀝青k.k.	大阪市西区南堀江一番町14	(531) 4520・8401
三友アスファルトk.k.	大阪市東住吉区矢田住道町913	(791) 4427
川崎物産k.k. 大阪営業所	大阪市北区絹笠町50（堂ビル二階）	(361) 0774
中西瀝青k.k. 大阪営業所	大阪市北区老松町2丁目7	(341) 4305
k.k.長野商店	大阪市西区京町堀上通3丁目40	(441) 5195～6
日本建設興業k.k.	大阪市東区北浜4丁目19	(231) 2771～2
前田商店	大阪市西区江戸堀北通5丁目36	(441) 5223～4
村井工業所	大阪市生野区生野田島町94	(731) 2514
山文商事k.k.	大阪市西区土佐堀通1丁目13	(441) 0255代・5392代

◀工事業社

旭化建工業k.k.	大阪市北区茶屋町38	(371) 6301・8024
k.k.井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1丁目7	(441) 8531
k.k.石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通1丁目31	(301) 3505
大阪耐酸工業所	大阪市北区浮田町82	(371) 1333
大島応用化学工業k.k.	大阪市城東区野江東之町4丁目104	(931) 7071～3
k.k.カナヱ商会	大阪市北区空心町1丁目30	(351) 2922
共栄瀝青工業k.k.	大阪市東区船越町2丁目34	(941) 5561～2
k.k.木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5丁目35	(441) 5408・5486
k.k.久保商店	大阪市北区真砂町5	(341) 0207～8・4836～7
坂口興業k.k.	大阪市北区木幡町18	(341) 1105・8640
清水興業k.k.	大阪市北区鶴野町34	(371) 0251～3
k.k.新光商店	大阪市南区塩町2丁目13	(261) 7195代
関本建材k.k.	高槻市大字高槻146	高槻（5）1646～7
k.k.大和商会	大阪市南区高津四番丁73	(631) 6221～4
谷中建材工業k.k.	京都市下京区西七条比輪田町28	京都（5）9954
友田工業株式会社	大阪市都島区都島中通6丁目41	(921) 0971・0531
内外工業k.k.	大阪市阿倍野区旭町1丁目51	(641) 3434・0810・7390
日新工材k.k.	大阪市西区新町北通1丁目52	(541) 3785～6
日本瀝青工業k.k. 大阪支店	大阪市北区富田町40	(361) 5496
フタバ興業k.k.	大阪市福島区上福島北4丁目24	(451) 6089
k.k.双葉商会	大阪市東淀川区木川西ノ町2丁目6	(301) 3855
松本瀝青工業k.k. 大阪支店	大阪市城東区茨田町横堤917	(931) 2397
マルヱス工業k.k.	大阪市福島区上福島南通1丁目152	(451) 2360・2030
丸藤商店	大阪市北区天神橋筋2－1	(351) 2150・6595
石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	神戸（5）2697
k.k.中出商会	神戸市兵庫区上沢通6丁目9	神戸（5）4630
三信工業所	神戸市兵庫区神田町439	神戸（4）6930
中村瀝青工業株式会社	神戸市生田区北長狭通6神鐵共栄ビル	神戸（4）5884
日建瀝青工業k.k.	神戸市兵庫区水木町8丁目5	神戸（6）0505
有限会社小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	岡山（2）4272
k.k.浜原豊商店	尾道市吉和町新浜	尾道 2760
青盛建材k.k.	広島市鉄砲町108	広島（2）2881～2
古市断熱工業k.k.	高松市宮脇町960	高松（3）5034
正和商事k.k.	松山市一番町	松山 0525・1159・2159
k.k.山本商会	松山市萱町2丁目95	松山 2717

◀賛助会員

丸善石油k.k.	大阪市南区長堀橋筋3丁目	(271) 1251(代)

生コンクリート

磐城セメント株式会社大阪営業所

電話（202）0171～7番

工場所在地（春日出・堺・西宮・神足）

大阪生コンクリート株式会社

電話（361）代表1231番

工場所在地（佃・千島・向日町）

大阪アサノコンクリート株式会社

電話（312） 0182, 1401, 4091

工場所在地（津守・淀川・魚崎）

小野田レミコン株式会社大阪支店

電話（361）代表1261番

工場所在地（尻無川・京都）

大阪宇部コンクリート工業株式会社

電話（271）6051～7番

工場所在地（大阪・吹田）

三菱セメント株式会社大阪支店

電話（361）代表1261番

工場所在地（尼崎・大阪）

ツルガ生コンクリート工業株式会社

電話（361）6235～7番

工場所在地（春日出）

豊国生コンクリート株式会社

電話（312）代表3637番

工場所在地（尼崎）

ノザワコンクリート株式会社

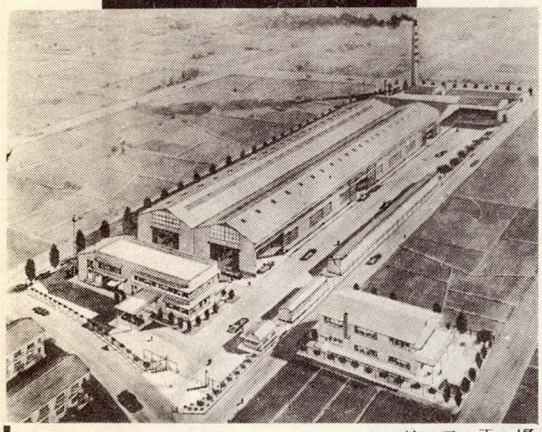
電話（441）3295～7番

工場所在地（茨木）

八幡高炉コンクリート株式会社

電話 堺（3）2323～5番

工場所在地（堺）



第二工場

浪速建枝工業株式会社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地電話大阪(931)1171～3番
第二工場・大阪市城東区茨田横堤町四一番地電話大阪(931)6153・6824番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目本挽館ビル六号館 607号室 電話 東京(541)4611番
福岡営業所・福岡市天神町三番地(サンビル内)電話 福岡 ④ 8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地 電話 大分 1366番

浪建式

アルミサッシュ・ドアー
スチールサッシュ・ドアー
シャッター・オペレーター
パーカライジングの処理工場完成
— 製造販売 —

NANIWA
大正十四年
創業

日満ゴムタイル
全国總代理店
責任施工

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE MARK

陸屋根防水には

特許 絶縁工法を

カッパー防水帯

コーパータイト

特許 奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8の3 TEL㊲2703～4・2370・4064・0264
名古屋出張所 名古屋市南区若草町33 TEL ㊽ 3660

●御申越次第カタログ進呈



古い信用と
新しい技術

各種金庫扉
各種鋼製家具

寺西金庫工業所

大阪市北区北森町30番地 ℡電話(231) 5888・4938・(361)6484



近代建築に 大建のアルミサッシ ▶ 住友軽金属工業ＫＫ提携

営業品目
カーテンウォール
ステンレスサッシ／ドア
スチールサッシ／ドア
スチールシャッター

写真は京都証券ビル

大阪建材工業株式会社

本　　社　堺市松屋町１－６　TEL(3)5241～9
名古屋営業所　名古屋市東区東新道町２－７　TEL(97)７２６４
東京事務所　東京都千代田区平河町１－２　TEL(301)１２４８
金沢営業所　金沢市下新町１３　TEL(3)3427～8

日本建鉄の

PS型レデイメードサッシ

アルミサッシドア

日本建鉄株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町2～8　TEL東京（201）0341（代）
大阪営業所　大阪市北区堂島上2～39　TEL大阪（361）6758（代）

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28－1　電話　宝　塚（6）2153
大阪事務所　大阪市東区船越町2－31（船越ビル）　電話（941）2626（直通）
出張所電話　東　京（431）0874・名古屋㉜1331
仙台③0721・札　幌⑤7171
福　岡③5765
広　島④3567

ウォータイト式防水工事
代行店電話　大三工業 高松②8697 安藤工事
豊永建材

仕様書型録贈呈

紫綬褒章に輝く

JIS合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

取締役社長　矢中龍次郎

本　社　東京都品川区二葉町1－441　電話東京（781）1715
大阪営業所　大阪市東成区西今里町2－48　電話（971）4765・0063

防火シヤッター

甲種
乙種

☆電動式
☆手動式
☆バランス
☆パイプ

株式會社 日本シヤッター製作所

本社工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地
電話（大阪）（301）代3656～9番
工場　東京　福岡　支店営業所　名古屋　高松　岡山　高知
代行販売店　全国主要都市ニアリ

第44輯　建築と社会　第1号

昭和二十四年三月十九日
第三種郵便物認可　昭和三十八年一月二十日印刷
昭和三十八年一月廿五日　（毎月廿五日発行）

総てのビルに住宅に法定不燃建材を

朝日フレキシブルボード
姉妹品　朝日カラーボード

朝日スレート
大浪7.5山・小浪

吹付石綿 **朝日プロベスト**

不燃 通産省認定H番 NO. 3012

ASK

朝日石綿工業株式会社
大阪営業所　大阪市北区神山町四六　電話大阪(341) 7236 代表～9 2095 夜間専用
本　社　東京銀座七
営業所　東京、横浜、名古屋、岡山、新居浜、門司、札幌
工　場　東京、横浜、山梨、名古屋、大阪、岡山、門司、宮城

三星の床材
ソフトンタイル

株式会社　木下謹三商店
大阪市西区江戸堀南通5ノ35
電話(441) 5408・5486

株式会社　久保商店
大阪市北区真砂町5
電話(341) 0207～8・4836～7

友工業株式会社大阪支店
大阪市西区南堀江大通1の19　電話(541) 6161～4

合名会社　利倉幸商店
大阪市南区長堀橋筋2ノ20(道頓堀電停前)
電話 (211) 0571　4
京都営業所　京都市中京区河原町夷川下ル　電話 ㉔ 3299

和泉産業株式会社
大阪市南区日本橋筋2ノ36
電話(632) 0121～4

石井建材有限会社
神戸市兵庫区荒田町1
電話 ⑤ 2697・2140

タテバヤシ商店
京都市下京区大宮通四条下ル
電話 ㉔ 4468・㊸ 0871～2

岡田建材株式会社
名古屋市西区桜木町3－8　電話 ㊼ 7461～3

株式会社　名建商会
名古屋市中区宮出町41ノ2
電話 ㉔ 1329・2106・2817

日東物産株式会社
本　社・名古屋市中区東瓦町39　電話 ㉔ 6176～9
岐阜出張所・岐阜市竹屋町27　電話 ③ 2201・2360

青盛建材株式会社
本　社・広島市鉄砲町108　電話 ② 2281～6
岡　山・岡山市東田町3　電話 ② 7911・8169
福　岡・福岡市万行寺前町14　電話 ② 5566～8
③ 1225～6

関西三星タイル会員

売価　一部　金百八十円　（送料共）

ご入会のお申込は……
「建築と社会」発行所・社団法人日本建築協会　大阪市東区北浜3—37　電話大阪(231)9648・9649・9640
振替口座大阪39975番

(12)